

654
23



* 0037431001 *

0037431-001

654-23

労働年鑑

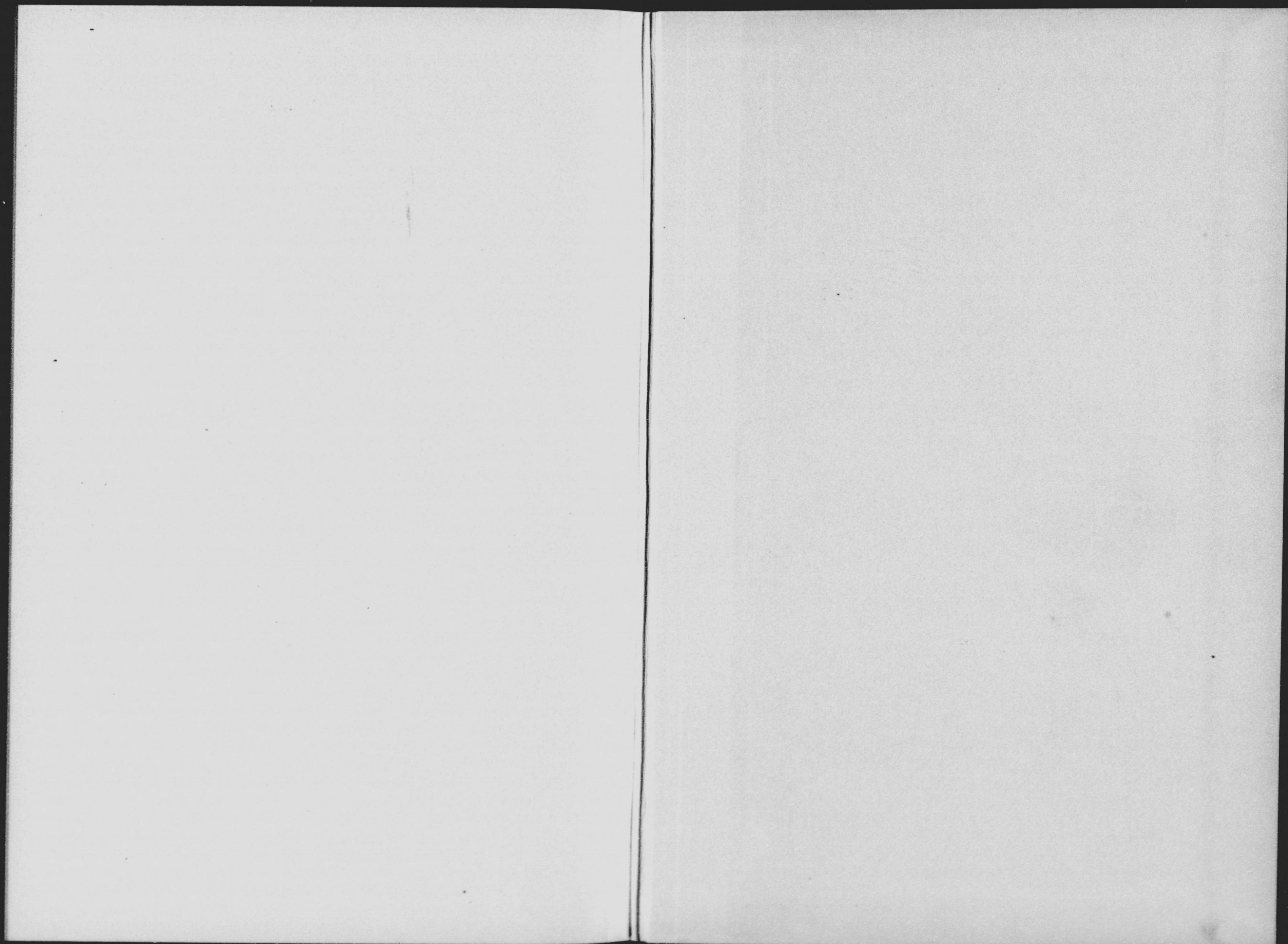
協調会・編

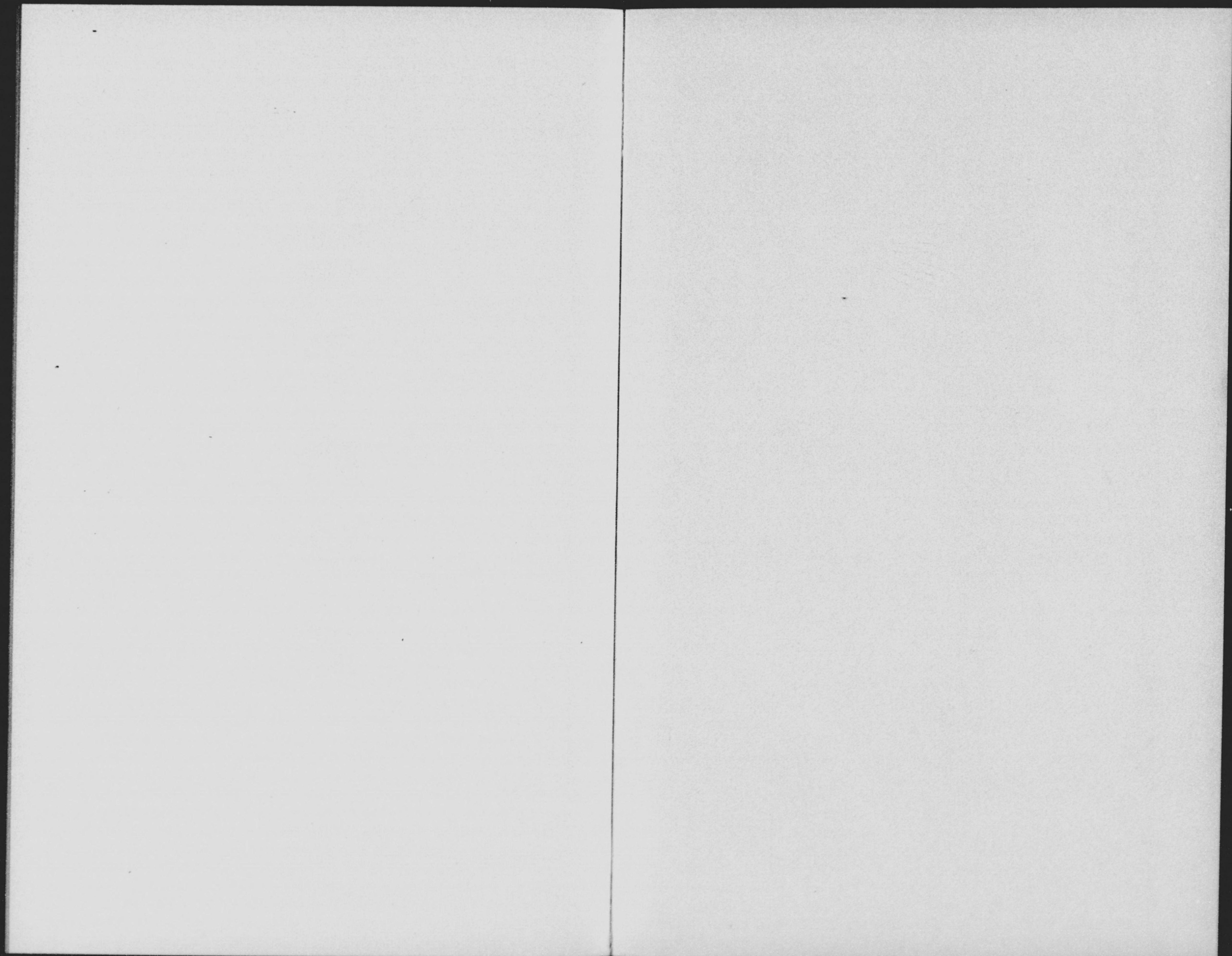
協調会

昭和12, 15-17年版

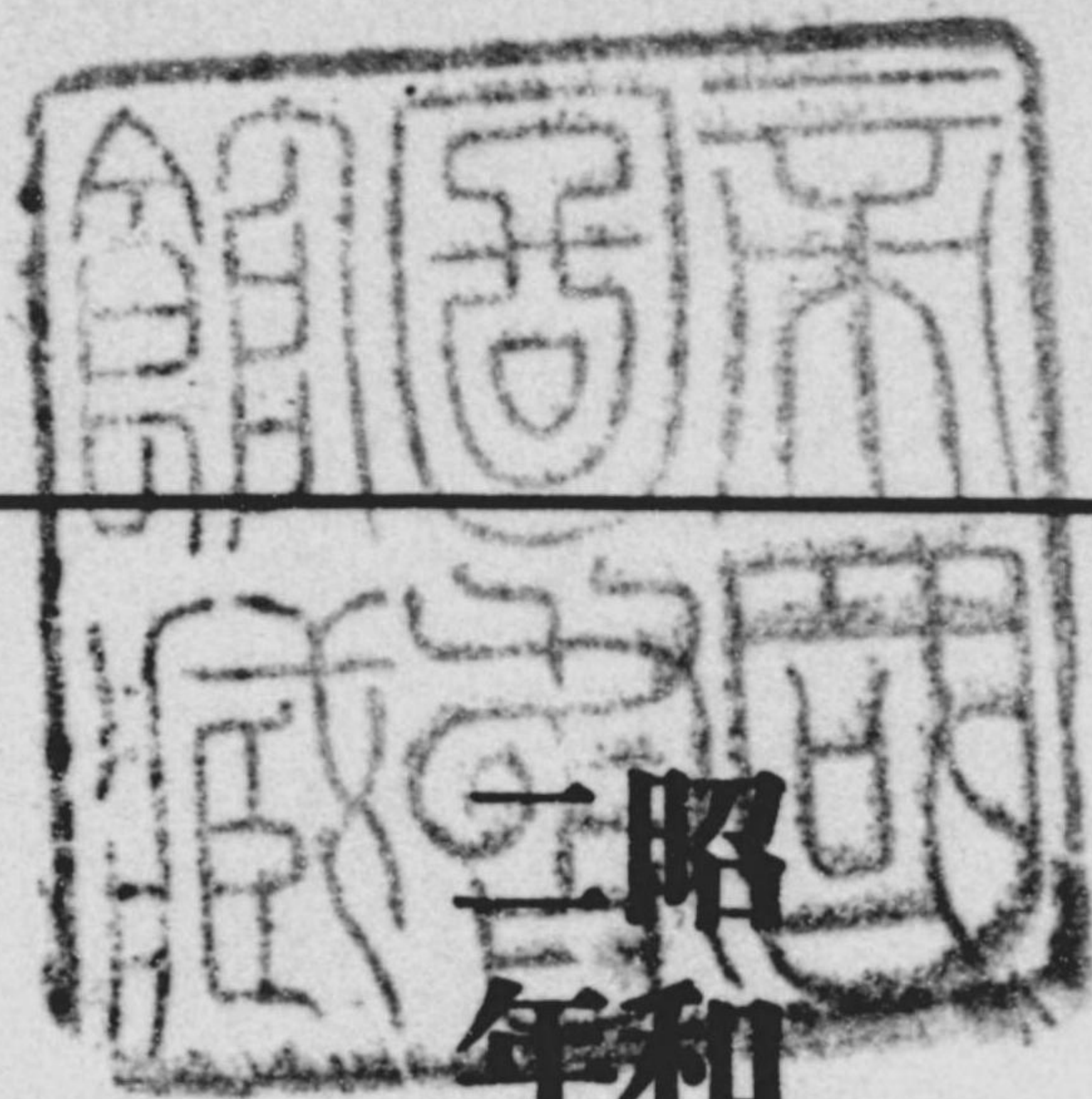
昭和12-17

AGF





214N.27



昭和十一年版

勞働年鑑

財團協調會發行



序

労働年鑑昭和十二年版を江湖に送る。編輯方針は大體に於て前年のそれを踏襲し、昭和十一年に於ける日本並に海外諸國の労働者・農民の諸々の運動を中心に、社會事象を幾多の資料・素材によつて可及的忠實に分析叙説し、一望のもとに内外の動向を知悉しうるやうに試みた。

本年鑑に於て特に内容の改善補修された點は、昭和十一年版に於て新に輯録された内外産業労働統計要覽、労働組合、無産政黨、愛國團體、農民組合、其他無産團體の現勢一覽表、並に内外政治・經濟・労働日誌の外に、更に農政問題、各國協同組合運動の各項目を、又昭和十一年中に制定公布された社會問題關係法規を追加採録した。尙完全とは云ひ得ずとも百尺竿頭一步を進めたかの觀がある。

年鑑の編輯は専ら本會調査部に當り、執筆起草は主として本會職員之に當りたるも、完成を期する上に於て内務省會計課長熊谷憲一氏を始め本會前職員水上鐵次郎氏並に井上謙吉氏、山崎勉治氏、秋川一郎氏等の勞を煩はしたるものあり、茲に之を特記して感謝の意を表する次第である。而して總て執筆者の氏名は、その分擔せる各項目の末尾に銘記して、その業績と責任を明かにした。

本年鑑の編輯のために多くの資料と種々なる便宜を與へられた官廳、公私團體、其他個人各位に對し、深厚なる感謝の意を表すると同時に、尙將來に於ける御援助と御叱正を冀望する次第である。

昭和十二年十二月

協 調 會

目 次

日本	150
社會行政	1
緒言	1
勞働行政	1
はしがき	1
團體勞働行政	3
勞働者保護行政	5
國際勞働總會	17
産業福利協會の合併と日本土木建築勞働者災害扶助會の創立	20
社會保險行政	22
はしがき	22
健康保險事業	33
國民健康保險法案	36
船員保險制度	40
職員健康保險制度	40
土木建築勞働保險制度	40
社會行政	40
はしがき	40
救護行政	42
福利行政	48
職業行政	52
産業勞働界	54
政治情勢	54
經濟情勢	62
勞働事情	62
無產政黨運動	68
緒言	68
總選舉と無產政黨	81
廣田内閣の成立と社會大衆黨	86
第六十九議會と社會大衆黨	91
勞農無產協議會の結成	93
無產政治戰線統一運動	96
陸軍工廠従業員の勞働組合脱退問題と無產政黨	96
日獨防共協定の成立と無產政黨	100
社會大衆黨の大會と其の動向	103

無産政黨と勞農組合との支持關係……………一〇五

勞働組合運動……………一〇六

緒言……………一〇六

計數に表はれた勞働組合の組織狀況……………一〇七

メーデー禁止と勞働團體……………一一〇

陸軍工廠従業員の勞働組合脱退問題と勞働組合……………一一一

日本勞働組合會議とその動向……………一一五

日本勞働組合會議の陣容……………一一六

組合會議系勞働組合の運動……………一二八

全日本勞働總同盟の創立……………一二八

日本港灣従業員組合……………一二九

其の他……………一二九

愛國勞働組合全國懇話會の結成とその動向……………一二九

愛國勞働懇話會系組合の運動……………一三三

日本勞働組合總聯合と大日本勞協との合同……………一三三

愛國従業員組合總聯盟の創立……………一三三

日本勞働同盟……………一三三

日本産業勞働俱樂部……………一三四

其他の勞働組合の運動……………一三四

日本勞働組合全國評議會……………一三四

勞働爭議……………一三五

概説……………一三五

勞働爭議の一般的傾向……………一三六

爭議の要求及び解決並に業態別に現はれた特徴……………一三六

爭議の要求……………一三六

爭議の解決……………一三六

爭議の業態別觀察……………一三七

勞働爭議と勞働組合……………一三七

國家主義運動……………一三七

概説……………一三七

愛國團體と總選舉戰……………一三八

戰線統一機運の勃興とその志向……………一四〇

戰線統一の諸運動……………一四一

關西に於ける戰線統一運動……………一四二

青年層に於ける戰線統一運動……………一四五

中央に於ける戰線統一の主要運動……………一五〇

戰線統一を繞る二潮流……………一五五

結語……………一六一

協同組合運動……………一六一

産業組合の現勢……………一六二

産業組合法による市街地購買組合の概況……………一六四

階級的消費組合運動の概況……………一六七

單獨組合……………一七〇

勞働組合を組織單位とする消費組合……………一七〇

地域的勞働者消費組合……………一七六

聯合機關……………一七七

農村協同組合運動……………一七九

醫療組合……………一八一

農業界……………一八三

生産價額の好轉……………一八三

農家の專業化……………一八五

小作料と勞賃の騰貴……………一八六

缺狀價格差の再現……………一八八

農政問題……………一九〇

轉換期の農政……………一九〇

重要法案の成立……………一九二

農政の新生面……………一九四

所謂統制の強化……………一九六

農民運動及小作爭議……………二〇一

農民運動……………二〇一

緒言……………二〇一

總選舉と農民の政治的躍進……………二〇二

二・二六事變と農民組合の態度……………二〇三

農村議員の議會活動……………二〇五

議會に對する態度……………二〇五

議案に對する態度……………二〇五

農民戰線上に現れたる諸動向……………二〇七

小作組合の漸減的傾向……………二〇八

農民組合戰線の統一運動……………二〇八

主要農民組合の主張とその運動……………二一一

全國農民組合……………二一一

日本農民組合總同盟……………二二二

日本農民組合……………二二四

皇國農民同盟……………二二六

主要農民組合大會概況……………二二七

全國農民組合第十五回大會……………二二七

全國農民組合創立十五周年記念大會……………二二七

日本農民組合總同盟全國大會……………二二二

皇國農民同盟全國代表者會議……………二二四

小作爭議……………二二七

緒言……………二二七

爭議の一般概勢……………二二七

爭議件數……………二二七

爭議分布狀況……………二二八

爭議の規模……………二二九

爭議發生原因……………二二九

地主の依然たる窮乏と土地移動による引上爭議の増加……………二二九

中小地主の自作農化……………二二九

地價の騰貴と土地處分の増加……………二二〇
 小作人の窮乏化と地主の攻勢……………二二〇
 風水旱病蟲害等自然的不作によるもの……………二二〇
 小作慣行の改廢……………二二二
 小作料高率によるもの……………二二二
 小作料増額……………二二二
 小作人の要求事項並に爭議手段……………二二三
 爭議の結末……………二三四
 特殊小作爭議事例……………二三五
 労働者教育……………二三七
 労働組合、協同組合、無産政黨の教育……………二三七
 労働組合……………二三七
 協同組合……………二二九
 無産政黨……………二四一
 官廳及私團體の教育……………二四二
 文部省……………二四二
 勤勞者教育中央會……………二四八
 各種の労働者教育團體……………二五〇
 工場鑛山の教育……………二五一
 寄宿工の教育……………二五一
 成人通勤工の教育……………二五二
 見習工養成及技術教育……………二五三

職長教育……………二五四
 産業部落の教育……………二五四
 新聞雜誌の刊行其他……………二五五

海外

歐米労働運動の概観……………二五七
 人民戦線と國民戦線の對立……………二五七
 労働組合運動の發展……………二五九
 無産政黨の選舉戰……………二六三
 戦線の世界的混亂……………二六七
 各國協同組合運動……………二六八
 イギリス……………二六八
 消費組合……………二六八
 農村協同組合……………二七四
 アメリカ合衆國……………二七六
 ドイツ……………二八〇
 消費組合……………二八〇
 手工業者協同組合……………二八一
 農村協同組合……………二八一
 フランス……………二八四
 消費組合……………二八四
 農村協同組合……………二八五
 農業相互信用銀行……………二八五
 協同組合生産並加工……………二八五

ソウェーデン聯邦……………二八七
 消費組合……………二八七
 スペイン……………二八九
 オーストリア……………二九二
 スウェーデン……………二九四
 消費組合……………二九四
 協同組合保險……………二九六
 生産者的協同組合……………二九六
 農村協同組合……………二九七
 スカンヂナヴィア協同卸賣組合……………二九九
 デンマルク……………二九九
 國際協同組合聯盟と國際協同卸賣組合……………三〇〇
 イギリス及イギリス領諸國……………三〇三
 イギリス……………三〇三
 一般情勢……………三〇三
 労働運動……………三〇三
 失業問題……………三〇四
 イギリス労働組合評議會……………三〇六
 イギリス労働黨……………三〇六
 スコットランド……………三〇八
 労働運動……………三〇八
 スコットランド労働組合評議會……………三〇八

アイルランド……………三〇〇
 労働運動……………三〇〇
 アイランド労働組合評議會……………三〇〇
 失業問題……………三〇一
 インド……………三〇三
 労働運動……………三〇三
 オーストラリア……………三〇三
 労働運動及び失業問題……………三〇三
 労働組合と四十時間週問題……………三〇四
 オーストラリア労働組合評議會……………三〇五
 ニュージーランド……………三〇六
 労働運動及び失業問題……………三〇六
 カナダ……………三〇七
 労働運動……………三〇七
 カナダ産業労働評議會……………三〇七
 アメリカ合衆國……………三〇九
 労働争議……………三〇九
 労働組合……………三〇九
 労働総同盟……………三〇九
 社会黨……………三〇九
 ドイツ……………三四三
 緒言……………三四三

現政府下の社会経済情勢一斑……………三四四
 現政権の勤労階級対策と勤労階級の状態……………三四〇
 フランス……………三九八
 左翼の「人民戦線」大勝とブリューム内閣の成立……………三九八
 歴史的大罷業とマチニオン協定……………四〇一
 ブリューム内閣治下の主要労働立法の制定……………四〇三
 法貨切下げ問題……………四〇九
 一般経済情勢……………四一〇
 ソウェート聯邦……………四一四
 概説……………四一四
 新憲法制定さる……………四一六
 スタハノフ運動のその後……………四二一
 一九三六年—第二次五ヶ年計畫、第四年の実績……………四二七
 労働事情……………四三一
 南歐諸國……………四四四
 概説……………四四四
 スイス……………四四五
 社会民主党……………四四六
 労働組合……………四四八
 新原則運動……………四四九
 中歐及バルカン諸國……………四五二

概説……………四三三
 チェコスロヴァキア……………四三三
 社会民主党大會……………四三三
 ポーランド……………四三六
 社会黨大會……………四三七
 オーストリア及ハンガリア……………四三九
 社会民主党大會……………四六〇
 ブルガリア……………四六〇
 ルーマニア……………四六一
 其他……………四六二
 北歐諸國……………四六四
 概説……………四六四
 スウェーデン……………四六五
 社会黨大會……………四六六
 労働組合……………四六八
 ノールウェイ……………四六九
 労働組合……………四七一
 デンマルク……………四七一
 労働組合……………四七四
 フィンランド……………四七五
 總選舉……………四七五
 労働組合……………四七七

バルト諸國……………四七七
 オランダ及ベルギー……………四七九
 オランダ……………四七九
 新綱領作製特別大會……………四七九
 黨大會……………四八三
 ベルギー……………四八七
 労働黨……………四八八
 總選舉……………四九〇
 黨大會……………四九一
 労働組合……………四九四
 中華民國……………四九八
 労働争議……………四九八
 失業者統計……………五〇一
 概説……………五〇三
 國際……………五〇三
 國際労働局……………五〇三
 第二十回國際労働總會……………五〇四
 社会主義労働インターナショナル……………五〇七
 國際労働組合總同盟……………五二二
 第三インターナショナル……………五二七
 その他の國際運動……………五三二

附 録

日本各種團體一覽	五七
主要労働組合一覽	五七
無産政黨其他	五八
労働組合と政黨との支持關係	五八
主要農民組合表	五八
愛國團體一覽	五九

昭和十一年中に制定公布された社會問題關係法規	五七
法律	五七
令	五八
規	五八
内外政治・經濟・労働日誌	六八
日本	六八
海外	六九
内外産業労働統計要覽	一
日本	二
海外	六

日

本



社 會 行 政

緒 言

廣田内閣はその成立と同時に三月十三日政綱を發表し庶政を一新し難局の打開に當らんとする確固たる決意を表明し「近時社會の各方面に直り宿弊漸を追ふて繁く、國民生活に對する重歴愈々加はらんとし、各般の利害隨所に對立しつゝあるは、我が道義立國の大精神に背戻し國家の憂患之より大なるはなし、此の故に政府は國民生活のあらゆる分野に於て、其の安定向上を目的として施設經營の徹底を圖り遍く陛下の赤子として其の培に安んぜしめんことを期す」と聲明して國民生活の安定向上が廣田内閣の最も重要な政策の一つである事を明らかにした。斯くの如く現下の非常時局を背景とする社會情勢は政府當局をして奮起せしめ、その努力に拍車をかけたと同時に從來社會立法に反對を續け、來た民間團體も社會情勢の下に於て多少方向轉換をなしたかの感があつた。斯くて從來爲さるべくして成立し得なかつた諸社會立法に制定上の大きな可能性を與へることゝなつた。

1 政 行 會 社

かくて五月四日召集せられた第六十九議會に於ては、時局前

最後の瞬間迄全産聯によつて頑強に反對せられた退職積立金及退職手当法案の如き劃期的社會立法の成立を見るに至つたのであつた。

更にその後にはける非常時社會情勢は益々國民生活の安定向上を不可缺のものたらしめ、之が實現を期する上に於ける各種の社會行政、社會立法に對する要望の聲は誠に切なるものとなつた。

本議會に提出せられる豫定の法案は左の諸法案である。

國民健康保險法案

母子保護法案

軍事救護法中改正法律案

救護法中改正法律案

北海道舊土人保護法中改正法律案

尙右の諸法律案の外本議會提出の豫定を以て審議中のものに商店法及學齡兒童の就業時間に關する法律案がある。

勞 働 行 政

は し が き

昭和十一年の労働界は経済的には依然たる軍需景気の跛行現象を以て、政治的には總選挙の結果無産黨の活潑なる運動を以て、更に思想的には前年度より引續きたる團體明徴運動の餘波を受けたる愛國無産者運動の一進一退の中に其の情勢を展開した。而して二・二六事件の突發も此の基本的情勢を結果に於て根本的には何等變更し得なかつたのである。庶政一新の波に乗つた退職積立金及退職手當法の議會通過に依り一面に於ては本法の通過の爲に努力せる社會大衆黨及組合會議等の運動を有利に展開せしむると同時に、愛國労働運動界に於ては年末に時局協議會の成立ありて僅かに發展の足跡を残せるのみにして期待外れの結果を示した。

労働行政の重要な対象たるべき労働賃金の状況を見るに、昭和十一年は實收賃金に於て一月以降多少の高低はあるが平均に於ては殆んど前年と保合の傾向を示し、軍需工業方面に於て多少増收の勢を示して居るに過ぎない。實收賃金が斯くの如き状況にあるといふことは最近に於ける生産指数、株指数、貿易指数、會社利益指数の全面的向上に比較するときは憂慮すべき現象である。之に對して十一年一月より十一月迄の労働争議總件數一、七九三件中所謂積極的争議は六〇五件を算し、その大部分(五〇八件)は賃金増額要求である。

二・二六事件といふ政治的影響と右の如き労働界の情勢を地盤として労働運動は次の如き動向を示した。

るも、労働組合の本質的機能自體としては矢張り賃金増額要求等の運動が特に中部地方の組合に於て活潑に行はれた。即ち「メーデー」の排撃、日本労働祭の舉行、團體明徴の徹底運動、日本郵船會社所屬船の國旗不掲揚の糾弾、人民戦線運動の排撃及び産業協力運動を主體とし全國産業労働會議の設置要請、退職積立金及退職手當法、健康保險法、工場法労働者災害扶助法、臨時雇傭制度等の改廢、電力國營の促進の運動をなすと共に政治的進出を策して政黨結成に積極的活動をなした。

加藤勘十氏を實質的指導者とする左翼組合に於ては全評、東交を中心に労働提携、反フツシ、戦線結成に執拗なる運動をなし社會主義的立法獲得の爲努力をなした。「メーデー」禁止反對、官勞斷歴反對に於ては社大組合會議に共同闘争を申込んだが容れられず獨自の立場に於て闘争を繼續した。

以上の如き労働界の情勢に對して、労働行政は團體労働行政に於ては官勞問題を繞り若干の注目すべき足跡を残し、他方労働者保護行政に於ては、退職積立金及退職手當法の制定、災害扶助の擴張等を見るべき成果を残した。左に項を別ちてその内容を一瞥しよう。

團體労働行政

労働者團體に對する國家の行政は労働者資本家との關係を如何に調整し或は組織するかの問題と、労働者の團體自身を如何にするかの問題及び勞資間に起つた紛議の處理を如何にするか

昭和九年に於て労働組合數は九六五、十年は九九三にして十一年六月末現在で九五〇を算した。組合員は九年に於て三八七、九六四人、十年は四〇八、六六二人にして十一年六月末現在に於て四〇七、九二八人である。組合數、組合員數共に毎年後半期に於て比較的增加を示す例より見る時は、十一年末は九年十年に比し相當數の増加を示して居ることは確實に推定さるゝ所である。此の組合員數を組合の系統別に見るときは社會大衆黨を支持する所謂組合會議系(或は社會民主主義系)のものは二一九、五六九人(十一年六月現在)總人數の半數以上を示して居る。之に對し日本主義系労働組合員は約四萬四千人を算し、合法左翼の組合員は約一萬五千五百人を算へる。

昭和十一年中に於ける是等三派の運動を見るに、組合主義系の組合は相携へて「メーデー」禁止反對、官勞斷歴(次項参照)反對、團結權の擁護、労働戦線統一、國際労働會議代表選出、並に「アジャ」労働會議開催對策の外、社會立法獲得の運動として退職積立金及退職手當法制定促進並に實施運動、協約法、船員保險法、國民健康保險法、商店法等、諸社會労働立法の制定の要求、其の他臨時工制度の廢止闘争、労働省創設並に産業労働の統制の要請及び大衆課税反對、賃銀俸給増額要求等の運動をなし、産業協力運動の徹底化に努力した。

日本主義系労働組合は日本労働組合會議系と思想的對立を續け、従つて思想的運動に於ては組合主義系と反對の運動をなせ

に別つことが出来る。此のうち前者は所謂労働組合問題、労働協約の問題、即ち一括して勞資關係の調整に關する問題を含み、後者は労働争議の調停解決を意味する。

労働組合問題(之は他團體交渉の問題として協約或は工場委員會等を伴ふ)に對しては、當局は昭和六年労働組合法が議會不通過に終つて以來所謂自由放任の立場をとつて來た。その意味は労働組合は資本主義的經濟機構内に於ける労働者が自己の利益擁護の爲に執れる自衛的手段であるから現經濟組織をそのまゝに放任する以上労働組合のみ斷歴すべき理由がない。勿論労働組合が此の經濟的意義を超越して政治的思想的闘争に進出し産業人として自覺を忘れたる過激なる行動をとる場合に於ては國家治安及び國家産業の立場より之を容認すべからざるものであるが、その穩健なる經濟行動は現状に於ては何等之を斷歴すべきでないといふのである。此の從來の方針は昭和十一年もそのまゝ保持された。そして労働者が産業人としての自覺の上に行動せしむる様全國の労働行政官に向つて強調されたる點も從來と變りなかつたが、特に本年に於ては勞資一體、産業協力が労働者側から叫ばれても、若し事業主にして無理解なる限りその効果は期待し得ざるに依り特に事業主側の自覺を喚起するの要ありとして、此の旨労働行政官の會議にも亦諸々に行はれたる勞資懇談會に於ても主張されたことが注目し値した。

十一年六月警察部長會議に於ける内務大臣の訓示中

「勞資ノ協力親和ハ産業發展ノ基調ニシテ又勞働者ノ福祉ヲ増進スル所以ナリ。而シテ勞資ノ協和ハ相互ノ深キ理解ト信頼トニ依リ始メテ其ノ目的ヲ達成スルコトヲ得ベシ。…産業協力社會偕和ノ實ヲ舉ゲシメントスルモノナリ」

とありて、社會諸立法皆此の根本方針より出づる旨を明かにした。而して更に同會議の指示中「産業ト勞働ノ調整ニ關スル件」として次の如き意味を指示し、事業主の自覺喚起を促進せしむる様注意を喚起したのである。

「近時我邦ノ勞働運動ハ穩健ナル方向ヲ辿リ漸次其ノ本來ノ使命ニ立チ歸リツ、アリ、然レドモ斯ル傾向ヲ維持シ之ヲ助長スルニハ單ニ勞働者ノ自覺ノミニ俟ツコトナク事業主ヲシテ亦其ノ分ヲ盡サシムルコトニ依リテ始メテ之ヲ期シ得ベシ。各位ハ勞働問題ノ處理ニ當リ深ク想ヲ此處ニ致シ適切ナル方策ヲ講ジ産業ト勞働トノ合理的ナル調整ヲ圖リ以テ眞ノ産業平和ノ實ヲ舉グルニ一段ノ努力ヲ拂ハレタシ」

之と略々同様なる意味の内容を有する社會局長官の訓示及指示が九月の特高課長會議に於ても強調された。即ち

「我邦勞働運動ノ實情ヲ見マスルニ…一般ニ其ノ思想行動共ニ穩健化シ從來ノ階級闘争方針ヲ著シク緩和シテ或ハ産業協力、産業報國ヲ叫ビ、或ハ勞働争議ノ最少化ヲ唱フル等、勞働者ガ國家産業人トシテノ自覺ノ下ニ著實ナル運動ヲ進メントスル風ガアリマス。コトハ國家ノ爲ニ慶賀スベキ現象デアリマス。然シ乍ラ斯ル機運ノ維持乃至助長ハ單ニ之ヲ勞働者ニノミ期待スベキモノデハナク事業主モ亦

其ノ責務極メテ重大ナルヲ感ジ其ノ分ヲ盡スコトニ依リテ始メテ之ヲ期シ得ラル、ノデアリマシテ、此等ノ點ニ關シ猶各位ノ多大ナル努力ヲ希望シナケレバナライノデアリマス」

と述べ事業主の啓蒙を強調したことは注目すべき事である。

十一月開催の工場監督官、調停官合同の會議に於ても訓示中並に指示中に於て、略々同様のことが強調せられた。

十一年に於ける地方廳主催の勞資懇談會は群馬縣に於て二回警視廳に於て三回に及び、此のうち警視廳に於ては事業主側のみの會合を催して事業主の意見を識ると共に當局の責のある所を強調して、その自覺に資する所が尠くなかつた。

又關東地方調停事務打合會議、近畿地方調停事務打合會議が行はれ、此處に於ても事業主側の自覺喚起の必要が力説せられた。

十一年度に於て團體勞働行政に關し最も注目すべき事は陸軍當局が九月十日管下工廠の從業勞働者に官業勞働總同盟からの脱退を勧告し之に依り約八千の工廠從業勞働者の脱退を見たることである。陸軍當局の言に依れば此の舉に出でたるは健軍の本旨上内部に横斷的組合の存在を許さずといふ理由に依るものである。之に對して一般勞働行政官廳たる社會局當局が如何なる態度に出づるかといふことは世人の重大なる關心の的となつたのであるが、當局としては從來の方針につき何等變更を必要とする理由を見出さず、從來通りの態度を保持したのである。

資本家側の態度は全産聯は自重的沈黙を守つたが事業主に於ては軍の態度を模倣して紛糾を惹起したるもの若干あつた。之に對し勞働組合の側は組合主義系の組合や社會大衆黨は勿論、日本主義系組合、合法左翼組合も起つて軍の態度を攻撃し、總て此の運動は勞働組合法獲得運動となつて現はれた。社大及組合會議が左翼組合よりの共同闘争の提唱を拒否し獨自の立場より全國的に勞働組合法獲得運動を展開するに至つたのである。組合法に就ては十一年の第六十九特別議會に於て社大代議士に依り提案せられたるも、審議に至らずして閉會に至つたのであるが、官勞問題を契機として組合法獲得の爲の運動は對議會策として請願運動となり、當局に對しては陳情として現れた。

「勞働組合法制定に關する要請」は社會大衆黨、日本勞働組合會議、全國農民組合、日本農民組合總同盟の四者聯名を以つて内務大臣に提出された。その要點は左の如くである。

「勞働組合法ハ内務省案、農商務省案ノ立案以來數回ニ亘ツテ各政黨ヨリ議會ニ提出セラレ、昭和六年濱口内閣當時政府カラ提案セラレタ所ヨリ世人一般ガ其ノ必要ヲ痛感シテ居ル。

近來ノ賃銀低下、勞働強化、勞働災害ノ激増、勞働者ノ健康悪化ガ甚シイガ此ノ不合理ヲ是正スル爲ニハ勞働組合法ヲ制定スル必要ガアル。又税制改革案ニ依ル大衆ノ負擔ヲ輕減シ、高物價ノ弊害ヲ除去スル爲ニモ組合法ヲ必要トスル。ソシテ國家産業ノ健全ナル發達ノ爲ニハ組織アル勞働階級ノ産業協力ニ俟タネバナラヌカラ全産業

ニ組合ヲ法認セネバナラス。

今回ノ陸軍當局ノ處置ヲ事業主モ做ハントスル風潮ガ強イカラ第七十議會ニ勞働組合法ヲ提案セラレタイ」

と云ふ意味である。同様の意味をもつ請願が議會に提出さるゝ様準備して居る。

日本主義勞働組合も組合法の獲得運動に積極的になり出しては居ないが、當局としては從來の方針と變らざる旨適當なる機會に於て發表せられたる以外には、是等勞働運動界の情勢に對應して何等積極的なる行動に出ることなくして昭和十一年は暮たのである。

勞働者保護行政

一 退職積立金及退職手當法

退職積立金及退職手當法は十一年五月の特別議會の協賛を経て法律第四十二號として六月三日の官報を以て公布せられた。次で之が施行令及び施行規則も法律施行の期日に關する勅令と共に十一月三十日に公布せられたので、茲に愈々十二年一月一日より實施せられる事となつた。

抑々本法律は退職積立金法案要綱として昭和十年七月失業對策委員會に附議せられた同會小委員會案に依つて、始めて其の輪廓が公にせられたのであるが、爾來法案要綱を廻つて朝野の間に賛否度々盛んな論議が行はれ、我國社會立法の分野に於て近年稀な賑ひを呈したことは人々の記憶に新たな處である。而して失業對策委員會は世論に聞き、考究を重ね、小委員會提案

の原案に修正を加へ、同年十二月二十四日之を可決の上「退職手当制度ヲ法制化スルコトハ現下ノ狀況ニ鑑ミ緊要ナル施設ナリ」として、急速にその實現方を内務大臣に建議するに至つた。依つて政府は之に基いて法律案を作成し、第六十九議會に提案したのであつたが、俄然院の内外に是非の論議を惹起し民間各種事業主團體の猛烈な修正要求は、勢の赴く所法案否決の運動なるかの外觀さへも呈した。斯くて幾多の迂余曲折を経、議會に於て四箇條につき修正が行はれ且貴衆兩院に於ける夫々の附帯決議を伴つて法律として漸く世に出るに至つた。

爾後政府は右附帯決議の趣旨に則り、社會局に「退職積立金及退職手当法施行準備調査會」を設け、朝野の人士三十名を集めて本法施行に關する重要事項につき、内務大臣の諮問に應じて慎重審議せしむる處があつた。同調査會は約二箇月の日子を費し、九月中旬に至り其の意見を決定して答申したので之を骨子として、施行令及び施行規則は制定せられ、愈々本法の實施を見るに至つた。

1 本法制定の理由

從來我國に於ける相當規模の工場鑛山に於ては重要な福利施設として退職手当制度が夙に發達して居り、從て是等に使用せらるる労働者は本法の制定の有無に拘らず退職手当を受けることを得るのである、にも拘らず之を法制化した理由は、當初單に事業主の善意によつて發達した醇風美俗、我國独自の慣行と云はるる此の制度も今

や重要な労働條件たるの性質を具するに至つたので、労働者の保護、生活安定及事業の健全なる經營の爲めに、其の長を取り短を捨て、之が合理化を計り以て廣く普及することに國家の力を致すべき必要に迫られたからである。

從來の慣行たる退職手当制度には次の如き種々改善すべき點があつた。即ち

- (イ)退職手当規定の内容が不明確にして、事業主の自由裁量が廣範圍に亘つて留保せられ、労働者側に於て多大の不安を免れざること。
 - (ロ)一定の勤続年數に對する支給額の規程あるのみにして之が支拂を確保する爲の積立金制度の事例に乏しきこと。
 - (ハ)積立金は從來税法上の取扱に於て利益の留保として課税せられる外、又事業の經營が困難となる、解退職者多くして眞に積立金を必要とする際には既に積立金は一般の會社債權者により差押へられ居る等と云ふ種々なる點に於て積立金に對する保護が缺けてゐたこと。
 - (ニ)労働者五十人以上を使用する工場鑛山に於て見るも、退職手当規程を有するものは工場鑛山數に於て二割五分、労働者數に於て五割三分に過ぎず未だ一般に普及せられず、本法の施行に依て新に普及せらるべき分野の相當殘されて居ること。
- 右の如く本法は事業主の労働者に支給すべき退職手当制度を確立するの外、労働者自身も賃銀の百分の二を積立て自ら自己の退職時に對する用意を爲さしめ、以て勞資協力偕和の精神を進め延いては産業發達の基、國運進展の礎たらしめんとして居る點は時に今後の勞

働行政の動向を下するものとし 注目せらるべき所であらねばならぬ。

2 本法の適用を受くる事業と労働者

本法は工場法の適用を受くる工場、鑛業法の適用を受くる事業として、常時五十人以上の労働者（職工又は鑛夫）を使用するものに適用せられる（第一條第一項）。五十人以上でも本法の規定する負擔に堪へ難い事業があれば内務大臣は事業の種類及び規模を限つて適用を除外することが出来る（第一條第二項）、之に反して五十人未満の事業でも自發的に本法に依つて退職手当を支給することを希望する場合には、その退職手当や退職積立金の金額が本法に規定する所より低い場合でも、本法の適用を受け各種の保護を受けることが出来る、この場合行政官廳の許可を必要とする（第三條）。

政府の事業は民間の事業と異り營利を目的とせず、且その經營が豫算によつて遂行せられるので、支拂確保の爲に積立金を強制する必要なく、又現に相當程度の手当を支給して居るので本法の適用より除外せられて居る（第十條第一項）。道府縣、市町村の事業に就ても大體政府の事業と類似の事情あるを以て本法の適用には勅令を以て別段の規定を定め得ることとなつて居る（第十條第二項）。

次に本法の適用を受くる労働者は、本法の適用を受くる事業に使用せらるる労働者（工場法の職工、鑛業法の鑛夫）であつて、職員その他の給料被備者を含まない。又必ずしも雇傭契約の有無を必要としない。單に事業主との間に事實上の使用關係があれば足りる。所謂臨時工は引續き六箇月以上使用せらるる場合には、その時から常備工と同じく本法の適用を受ける、從來所謂臨時工問題が重大なる

3 退職積立金

退職積立金と稱するのは、事業主が労働者の賃銀より其の百分の二を控除して、之を労働者の名義で郵便局、貯蓄銀行、普通銀行或は信託會社へ預入れて置くものである（第十一條第一項）、その方法の詳細に就ては勅令を以て定めらるる事となつて居る。

労働者が災害を蒙り其の他已むを得ざる事由ある時は、事業主は行政官廳の許可を受、其の労働者の退職積立金の積立義務を免れることを得る（第十一條第二項）。

退職積立金たる貯金は元來労働者の財産である、故に労働者は如何なる事由によつて退職する場合でも金額の支拂を受けるのである。併し労働者は退職前には絕對に支拂を受けることが出来ない（第十二條）、若し之を認めることとすれば、唯さへ日常生活に困窮して居る労働者は退職前にその大半の拂戻を受け、結局本法の根本目的を達成し得なくなるであらう。

退職積立金の支拂を受くる権利は之を譲渡し又は差押ふることを得ない（第十五條）。退職積立金は、退職時迄嚴重なる保護を加へその時必ず労働者の手に渡さるる様にと云ふ法の趣旨に基くのである。退職積立金を郵便貯金や銀行預金として管理する代りに、事業主は

行政官廳の許可を受けて自ら運用することが出来る(第十三條)。

此の趣旨は事業主に事業資金を與へんが爲ではない。從來工場鑛山の福利施設として労働者に貯金を爲さしめ事業主が自ら管理し、一種の奨励金の意味で高率の利息を附して居る例も少なくないのである。此の種の優良施設が本法の爲に消滅することを避けんが爲めである。故に事業主が之を運用するに當つては各労働者の同意を要する外、その返還を擔保する爲の國債の供託一定の利子を附することが必要である(第十三條及第十四條)。

4 退職手當

事業主は後に述ぶる様に労働者の退職時に支給すべき退職手當の爲に平時より自己の負擔に於て積立金の積立をせねばならぬ、此の積立金に退職手當積立金制度と準備積立金制度とがあり、事業主は原則として前者により行政官廳の許可を受けたる場合に後者により得るのである。

退職手當積立金制度と稱するのは事業主が賃金の百分の二(一年に付賃金七分位)に相當する金額を最少限度の義務として積立て(第十六條)、更に事業に相當の利益あり且つ負擔能力ある場合に賃金の百分の三以内にて行政官廳の認可を受けたる金額を積立て(第十七條)之を退職手當積立金として管理し、此の積立金中より労働者退職の場合を支給する制度を謂ふのである。退職手當積立金は郵便貯金、銀行預金、金銭信託又は登録國債の方法により之を積立て管理するのである(第二十條)が之より生じた利子其他國債の價上り等による餘剰も元金に繰り込まねばならぬ。又銀行破産、國債の價下り等による缺損は事業主に於て填補せねばならぬ(第十九條及第

二十八條)。

右の積立金は一定の計算期毎に其の期間中の賃金に比例して労働者別に帳簿上計算を分別して置かねばならぬ。但し事業主の勞務管理上の需要を充す爲、労働者の勤務年限、勤務状態等を見て異なる率を以て分別することが出来る様にしてある。此の場合には行政官廳の許可を要する(第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項)。労働者は退職に際して原則として自己の計算に屬する金額を退職手當として支給せらるるのであるが、自己の都合に依る退職とか、背信行爲に依る懲戒解雇等の場合にはその一部又は全部の支給を受けないことがある(第二十四條第一項但書)。事業主は此の労働者の計算に屬する金額にして而も彼が退職に際して支給せざりし金額は誰の計算にも屬しなくなるので之を特別手當積立金として帳簿上労働者別計算のものと別に管理することを要する(第二十五條)。特別手當積立金は後に述ぶる特別手當の支給に充てられる。

退職手當積立金は事業の必要なる經費と看做し、他の一般の積立金又は準備金、例へば職員退職貯蓄準備金、株式會社の配當準備積立金)と異り各種免稅の恩典を受け(第二十二條)又讓渡差押を禁止し(第二十三條)て會社債權より保護を加へて居る。

準備積立金制度(第三十條)と稱するのは、事業主が行政官廳の許可を受け、豫め勤続一年に付退職手當何日分を支給するかの規程を定め、その手當支給額の支拂を確保する爲に準備金を積立つる制度であつて、之に依り事業主は右に述べた退職手當積立金の積立義務を免ることが出来るのである。

此の準備積立金制度は支給手當の準備金であるから必ずしも手當額

の金額たるを要しない。従て手當積立金制度の如く労働者別の計算の必要もなければ、又特別手當積立金なる帳簿上の特殊なる口座を設くるの必要もなく事業主にとつて甚だ手當簡便である。勿論免稅、讓渡、差押等の取扱に付ては手當積立金と同じである。事業主の積立金も労働者の積立金即ち退職積立金と同様に事業主に於て運用することが出来る。之は法律上は事業主の財産であるから労働者の同意は不要であるが、其の他の點に關しては全く退職積立金と同様である(第二十二條及第三十條第四項)。

本法の規定に依れば退職手當は同一工場鑛山に於ては労働者の勤続年數に比例して(之に更に利子が加つて)増加するを原則として居るのであるが、又労働者の退職事由に依て支給すべき退職手當の額に差別を設けて居る。之は從來の退職手當制度の慣行が、各工場鑛山に於て勞務管理上重要な意義を持つて發達して來た實情を顧慮したものであり、以て事業經營の實際に適合せしめんとする趣旨である。

退職事由による退職手當額の差別の詳細は命令に委任せられて居るのであるが、大體次の四種類に區別することが出来る。

(イ) 事業の都合に依る解雇の場合(第二十六條)。

事業の都合に依る解雇と云ふのは、労働者の意に反して事業主の側より雇傭契約を解除する場合の總稱である。併し労働者に背信行爲又は特に不都合なる行爲ありたるに依る解雇に就ては手當額に關しては(ハ)及(ニ)に於て取扱はれ、茲に一應除外せられねばならぬ。故に此項目に該當する場合は主として、事業の整理縮小等による大量解雇の如きを想像して大過ない譯である。

此の場合に於ては事業主は普通の退職手當(退職手當積立金制度による場合は各労働者の計算に屬する金額及最後の積立期後の賃金の百分の二に相當する金額)——(第二十四條第一項 準備積立金制度に依る場合であるが、此場合には少くとも勤続一年に付標準賃金十二日分以上を支給することを要する)——(第三十條第三項)及特別手當積立金の存する限度に止められる)退職手當として支給するのであつて、本法の規定上最高額を支給する場合である。(ロ) 疾病、老年、女子労働者の結婚等已むを得ざる事由による退職及労働者死亡の如き當然の退職の場合(第二十四條第一項)。

此の場合には普通の退職手當の全額を支給する。

(ハ) 自己の都合に依る退職及労働者に特に不都合なる行爲ありたるに依る解雇の場合(第二十四條第一項但書)。

此の場合には勤続三年以上の者に對しては普通の退職手當を二分の一減額して支給することが出来る、三年未満のものには全額を支給せざる事を得、但し不都合な行爲に依つて解雇せらるる場合は勤続十年以上であれば普通手當の全額を支給せねばならない。

(ニ) 背信行爲に依る懲戒解雇の場合(第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書)。

此の場合には勤続年限の長短に拘らず全く手當の支給を無くする事が出来る。

背信行爲の解釋に就いては決して從來の工場鑛山に於ける懲戒解雇と同範圍でなく、嚴格に解釋せられる。

尚右の退職手當の額に就いて注意すべき事はその計算の基準となる賃金及標準賃金の意味についてである。其の詳細は命令に委任せら

れて居るが(第六條)貸金とは實收貸金の意味であつて定額貸金の意ではない。兩者の差異は工場鑛山によつて同一でないが、處によつて實收の方が定額の二倍に達する事がある。標準貸金とは實收貸金は實收貸金を基礎として健康保險法で定められた標準報酬日額を利用する。

5 経過規程

本法適用前既に存する退職手當に關する規程は本法の適用によつて廢止又は變更せられる事がない。此の場合、從來の規程による手當額が本法によるものより多額なる時は本法による手當と其の差額を支給すればたりる(第四十三條)。

又本法は原則として本法施行後の勤務に對する退職手當の支給を確立したもので本法施行前の勤務に對しては直接關係がない。併し事業主が任意に本法施行前の勤務に對する退職手當規程を定め準備積立金をなす場合には本法に依る積立金として同様の保護が與へられる(第二十四條)。

事業主及勞働者の共同の出捐にかゝる共済組合の退職組合規程は、その實質に於て本法と異ならないものがある、故に事業主は行政官廳の許可を得てこれを以つて本法に代行せしむる事が出来る(第四十一條)。

6 退職金審査會

退職積立金の支拂、退職手當金の支給に關し民事訴訟を提起せんとする者は、其の前提要件として先づ退職金審査會といふ特設の機關の審査を受けねばならない(第三十一條及第三十二條)。此のことは此の種の訴訟事件を出來得べくんば民事訴訟によらずして簡單に解

決せんとする趣旨と、此の種の事件に關し特に其の實狀に即した判定を下さしめようとする趣旨とに外ならぬのである。従つて退職金審査會は此の趣旨に合するやうに組織せられるのであつて、之は各府縣毎に地方長官を其の會長とし、内務大臣の命ずる官吏又は學識經驗ある者、事業主側、勞働者側各二人又は三人より成る委員六人又は九人を以て組織せられる。此の審査會の審査の法律的效果は民事訴訟を起し得る事件がその審査を経ることによつて始めて訴訟提起の要件を具有するに至るといふこと、審査の請求が時效中斷の效力があること、の二つに過ぎないが、其の設置の趣旨によつても見得るが如く實際上多大の效果をもたらすであらうと想像せられ且期待せられるであらう。

二 勞働者災害扶助法規の改正

十一年十二月二十一日工場法施行令、勞働者災害扶助法施行令、鑛夫勞役扶助規則、及び傭人扶助令等の勞働者の災害扶助に關する法規が改正せられ、昭和十年工場法中改正法律、勞働者災害扶助法中改正法律及び鑛業法中改正法律と共に、十二年一月一日より施行せられた。

是等の法令の規定に依る扶助の内容は、法施行の實績に徴し又最近に於ける災害の狀況に鑑み、勞働者及び其の遺族の救済に充分でない憾があつたのみならず、合理的でない認められる點が尠からずあつたのである。従つて、扶助の内容を充實改善すると共に之を整備し合理的ならしめて、勞働者の保護を厚くし、扶助關係の合理化及び其の迅速なる解決を期する必要があつたのである。依つて今回、工場法施行令及び同施行規則、

勞働者災害扶助法施行令及び同施行規則、傭人扶助令、並に鑛夫勞役扶助規則を改正したのである。

その改正の要旨を挙げれば次の如くである。

1 遺族扶助料及び障害扶助料を増額したこと。

遺族扶助料は勞働者が業務上の災害に因つて死亡した場合に於て、障害扶助料は負傷又は傷病が治癒しても尙身體に種々の障害を残した場合に於て、夫々支給せられるものであるが、從來其の額は、遺族扶助料貸金三百六十日分以上、障害扶助料最高貸金五百四十日分以上であつた。然しながら扶助の實際に於ては、法令の規定に依る最高限度を支給するに過ぎない場合が甚だ多く、勞働者及び其の遺族の保護救済に充分でなく、法制定の趣旨にも反する様な状態であつた。従つて可及的に遺族扶助料及び障害扶助料の額を明確ならしめ、且之を増額する必要があつたのであるが、一方産業負擔の加重を考慮しなければならなかつた。依つて今回遺族扶助料を貸金四百日分とし、障害扶助料は最高を貸金六百日分とし以下順次各等級の障害扶助料を夫々増額することとしたのである。

2 障害扶助料、遺族扶助料及び打切扶助料に付各々最低金額を定めたこと。

現行法令の規定に依る扶助の種類は、療養の給付、休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料、葬祭料打切扶助料及び歸郷旅費である。此の内、療養の扶助及び歸郷旅費は、實物給付又は實費支給であるが、休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料、葬祭料及び打切扶助料は、勞働者の賃金を標準として其の何日分と定められて居る。蓋し是等

の扶助は、勞働者の生活の補助、勞働能力又は所得能力の減少に對する補償であるから、其の額も定めるに當つては一定金額主義によらずして勞働者の賃金を標準として其の何日分としたのである。然し乍ら、勞働者の賃金を標準として扶助料の額を定めることとする結果、勞働者の賃金の極めて低い場合に於ては、扶助料の額も亦僅少となるのである。從來の實績に徴しても、遺族扶助料僅かに百圓にも足らぬと云ふ様な場合もあつた。斯くの如く、扶助料が低額に過ぎれば、扶助の目的を達することが出來ないのである。

依つて今回、障害扶助料、遺族扶助料及び打切扶助料に付各一日男子八十錢女子五十錢の程度を以て、最低金額を定めたのである。最低金額を定めるに際し、一日に付男子八十錢、女子五十錢を以て標準としたのは、現在勞働者災害扶助責任保險法適用の土木建築工事に使用せられる勞働者の扶助料算定の基礎である標準賃金は、男子一圓、女子六十錢であるので、工場勞働者の實情を考慮して、其の約二割を減じたのである。

3 工場鑛山に於て各扶助料に附せられたる「以上」を削除したこと。

從來工場法施行令及び鑛夫勞役扶助規則に於ては、休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料、葬祭料及び打切扶助料の額を、夫々「賃金何日分以上」又は「賃金百分の何十以上」と規定して居たのであるが、個々の具體の場合に於て勞働者の個人的事情を斟酌して扶助料の額を決定すべしとするには(昭和七年に遺族扶助料に就て個々の場合に於て賃金三百六十日分以上にて諸般の事情を斟酌して扶助

料を定むべしとの大審院判例が出たのである。事務の敏捷なる解決及び前途の見透しに依る計畫の樹立を必要とする事業經營の實際に適合しない結果を生ずるのみならず、爲に事業主と労働者との間に紛議を生じ、迅速明確なる解決を必要とする扶助の本旨に反し又勞資關係に悪影響を及ぼす虞がある。依つて今回、各扶助料に附せられたる「以上」を削除したのである。

4 事業主及び労働者の共同出捐する共済組合に扶助の代行を認める規定を設けること。

事業主及び労働者が共同に出捐して法令に基く扶助と同、性質の給付其の他各種の給付を支給する爲に共済組合を組織する事がある。斯る事業主及び労働者の共同出捐にかゝる共済組合に於て、事業主の負擔部分が多額にして扶助と同一性質の給付が實質上事業主の負擔部分より支給せられるものと認められるときは、其の共済組合の給付は、實質上事業主の扶助と異なる所がないのである。従つて労働者災害扶助法施行令、備人扶助令及び日本製鐵株式會社の扶助の特例に關する件（勅令）に於ては、一定條件の下に事業主及び労働者の共同出捐する共済組合の爲したる給付の限度に於て事業主が扶助責任を免れることとしたのである。工場法施行令及び鑛夫勞役扶助規則に於ては、從來斯る規定がなかつたので、今回新に同様の規定を設けたのである（工場法施行令第十四條ノ二、鑛夫勞役扶助規則第二十七條ノ二）。

事業主は、共済組合の爲したる給付の限度に於て扶助責任を免れるのみならず、昭和十年工場法中改正法律第十五條ノ二、鑛夫勞役扶

助規則第八十條ノ二の規定に依つて、更に民法に依る損害賠償責任をも免れることとなるのである。

5 規定の整備統一を行つたこと。

イ 休業扶助料

休業扶助料は、業務上の災害を蒙つた労働者が休業した場合に於て生活の補助として支給されるものであつて、從來工場法、鑛業法に於ては其の額は、賃金の六割、但し支給百八十日を超えたときは賃金の四割に減額と云ふことになつて居たのである。然しながら休業扶助料は、其の性質上支給期間の如何に依つて差別を附すべきものではなくして、寧ろ労働者の収入に依り生計を維持する者の有無に依つて差別を附すべきものである。依つて今回、休業扶助料は、支給期間の如何に拘らず賃金の六割とすると共に、労働者を病院に收容した場合に於て本人の収入に依り生計を維持する者のないときは賃金の二割に減額することとしたのである（工場法施行令第六條、鑛夫勞役扶助規則第十九條、備人扶助令別表）。労働者災害扶助法に於ては、從來より之と同様の規定がある（労働者災害扶助法施行令第五條）。

ロ 障害扶助料

(a) 障害等級及び障害扶助料の改正

工場法及び鑛業法に於ては、從來障害等級を抽象的に四級に分ち、各級の障害扶助料を夫々賃金何日分以上とし、其の間に相當の間隔を認めて居たのであるが、個々の場合に於ける障害扶助料の額の決定に際し、事業主と労働者の間に意見の相違を來し、屢々紛議を生じたのである。然るに先年より施行せられた

る労働者災害扶助法に於ては、障害等級を具體的に十四級に細分し障害の程度に應じ夫々扶助料額を明確にしたのであるが、施行後の實績に徴し極めて圓滑に施行せられて居る。依つて今回工場法、鑛業法に於ても、労働者災害扶助法の例に依り、障害等級を具體的に十四級に細分することとし、同時に障害扶助料を増額しその最高を賃金六百日分としたのである（工場法施行令別表、鑛夫勞役扶助規則別表）。

尙労働者災害扶助法に於ても、障害等級に適當なる改正を加へ障害扶助料の額を夫々増額し最高を賃金六百日分とした。備人扶助令に付ては、障害扶助料に付改正を行はず従前通り四級に分つこととした。

(b) 工場法及鑛業法に於て、障害等級の改正に伴ひ労働者災害扶助法の例に依り二以上の障害存する場合、障害加重の場合の規定を新に設けたること（工場法施行令第七條、鑛夫勞役扶助規則第二十條）。

(c) 労働者の承諾あるときは雇傭期間中障害扶助料の支給を延期し得ることとしたこと。

障害扶助料は、労働能力所得能力の喪失に對する補償であるから、労働者の負傷又は疾病の治癒後遲滞なく支給すべきものである（工場法施行令第十三條第二項本文、鑛夫勞役扶助規則第二十六條第二項本文、労働者災害扶助法施行令第十條第二項本文）。

然し乍ら労働者が障害扶助料の支給を受けて解雇せられるよりも、引續き雇傭せられることを希望する場合がある。

斯る場合に於て障害扶助料の即時支給を強制することは、却つて解

雇を促進する結果を來す虞があるので、特に例外を認めて、事業主が労働者を引續き雇傭すること及び労働者の障害扶助料支給延期の承諾を條件として、雇傭期間中障害扶助料の支給を延期し得ることとしたのである（工場法施行令第十三條第二項但書、鑛夫勞役扶助規則第二十六條第二項但書）。

昭和十年年度事業概況

昭 和 十 年 度 事 業 概 況	
保險料收入	十年年度収入済保險料 一、九〇〇、九〇二・七六
	前年度より越支拂備金 五八八、九八二・六四
	前年度より越未經過保險料 四四九、五三六・三四

保險命支拂	療養費	七四三、四七〇・七三
	休業扶助料	三八〇、〇七五・八二
	障害扶助料	二〇〇、六二二・〇〇
	遺族扶助料	二三〇、八六八・〇〇
	打切扶助料	一九、二二四・〇〇
計		一、五七四、二六〇・五五
翌年度へ越未經過保險料		六〇八、九一五・五八
同	支拂備金	五二七、六八七・一六
十年度中發生事故件數		三二、六七五件
保險工事數		八、〇〇〇件
保險工事使用労働者延人員	男	五八、五八五、四九一人
	女	三、六九九、三九二人

事業の概況は右の如くであるが、本法の強制適用を受ける土木建築に就ては財団法人日本土木建築労働者災害扶助會が設立せられ、本法の保護を受けたる後に於ける負傷労働者の善後處置を講ずることとなつた。

尙十一年十二月二十四日附を以て保險料率が改正せられ、十二年一月一日より施行せられた。改正の要旨は水力發電建設土木建築工事に於ける災害累年表

年次別	使用労働者數(十月一日)	死傷數			計	死傷率(千人當)			計
		死亡	重傷	輕傷		死亡	重傷	輕傷	
昭和七年	一四三、七九	四四	五、九六	四、四五三	二〇、七九三	二、九七	四、四三三	三、二七	七五、五八
八年	四一〇、三六	五九	一、九四三	九、五九〇	二、三九二	一、四五五	三、九一〇	三、八八	五三、四三

木工事、鐵骨鐵筋又は鐵筋混凝土造家屋建築工事の如き危険率高き工事の保險料率を高め道路舗裝工事、一般建築工事の保險料率を低めるに在る。

四 土木建築工場の安全及衛生に關する件 労働者災害扶助法第一條第一項第二號の適用ある土木建築工場に於ける災害は極めて著しく、而も逐年遞増の傾向を示し昭和十年中に於ては死亡者約七百八十人、負傷者二萬七千人の多きを算してゐる(左表)。斯る實情に鑑み今日何等危害豫防に關する保護規定なきは災害防止上且又労働者保護上遺憾とする所であつて、之に對しては曩に昭和九年七月右の事業主に對し地方長官を通じて土木建築工場に於ける安全及び衛生に關する注意書を通じて、從來等閑に附され勝ちであつた危害防止上必要なる設備又は處置に付事業主の注意を喚起すると共に、爾來其の趣旨の實現に就き不斷の努力を拂ひたる結果、事業主に於ても著々其の準備を爲しつゝあるを以て、近く土木建築工場の安全及衛生に關する省令立案の豫定であるが、右事業の監督に關する經費として豫算を計上し本議會に提出することとなつたのである。

五 義務教育延長と學齡兒童の就業時間に關する問題 文部省の義務教育法案は尋常小學校を卒へた兒童に對し更に二箇年義務教育の年限を延長するものであるが、青年學校に依る代用を認め、一年二十時間以上の授業を適當の時期を選んで爲すものであるから、此の場合兒童は就業時間以外に自由の時間を相當に有する事になるので、此時間を労働に従事するも妨げない。従つて工業労働者最低年齢法(參照一)は義務教育に於て現在の如き青年學校を代用する限り改正の必要はないのであるが、義務教育年限の延長が兒童の身體の健全なる發達を圖り國民として必要なる基礎教育を施さんとするものであるから、工業に従事し乍ら義務教育を受ける兒童に對しては労働の時間と就學の時間とを合せて兒童の精神的及び身體的の負擔を過重ならしめない様に適當に制限を爲す必要があるのである。工場法適用工場又は鑛業法の適用を受ける鑛山に就ては現行法令(參照二)で就業時間の制限があるから、就學と就勞とを通算して現在の制限の範圍に止め、學校で授業を受ける時間だけ就業時間を制限するものである。

の事情ある場合には行政官廳の許可を受けて適用工場鑛山の就業時間以上に就業時間を延長することを認め、急激なる變化を避け漸次實情に應じて工場鑛山の就業時間に接近せしむる方針である。法律案要綱左の如し。

- 學齡兒童ノ就業時間ニ關スル法律案要綱
- 一、工場鑛山ニ關シテハ就業時間ト就業時間トヲ通算シタル時間ヲ現ニ法令ニ依リ制限セラルル就業時間ト同一ノ時間(原則トシテ十一時間)ニ制限スルコト
 - 二、工業労働者最低年齢法ノ適用ヲ受タル事業(同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業ヲ除ク)ニシテ現ニ就業時間ノ制限ナキ事業ニ關シテハ原則トシテ右ニ準ズルコトトシ特別ノ事情アル場合ハ例外ヲ認ムルコト
 - 三、本法施行ノ期日ハ義務教育法施行ノ期日ト同一トスルコト

參照(一) 工業労働者最低年齢法(大正十二年三月二十九日法律第三十四號)

- 第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲タル事業ヲ謂フ
 - 一、鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
 - 二、物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業(造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム)
 - 三、土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、

右の適用工場鑛山以外の工場鑛山及び工業労働者最低年齢法第一條列舉の工業に於ては現在就業時間の制限がないから、原則として工場鑛山の時間制限に準じて就業時間を制限し、特別

解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事
四、道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送
但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五、船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二
歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此
ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政
官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業
ニ之ヲ適用セス

參照(一) 工場法(明治四十四年三月二十八日)
法律 第四十六號

第三條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ
超エテ就業セシムルコトヲ得ス

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就
業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ
之ヲ通算ス

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休
日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十
分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間
中ニ於テ設ケヘシ、前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行
政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス夏季ニ於テ一時間

ヲ超ユル休憩時間ヲ設ケル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可
ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ
延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

參照(二) 鑛夫勞務扶助規則(大正五年八月三日)
農商務省令第二十一號

第六條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間
ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

第九條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ
六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分十時間ヲ超ユルトキハ少ク
トモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設ケヘシ

六 商店營業 我が國に於ける商店の營業時間は冗長不規律で
あつて、終業時刻は午後十時を過ぎ十一時又は十二時を超える
ものも尠くない。又休日制の如きも未だ一般に普及してゐない。
斯くの如きは従業員の保健衛生の見地より見るも遺憾とする所
であつて、商店の營業時間を制限し、休日の制を設けることは
商店従業員の保護上極めて必要とする所である。固より現在の
慣習を急激に改めることは困難であるから地方別、業務別に實
際に適合した規律を設け漸を追ふて進む事が必要である。本法
案の要綱に就ては既に昭和十年七月各地の商工會議所、商業組
合等に諮問せられ賛成多く大した反對もない様である。商工省
に於ても百貨店法案の成案を得本議會に提出することを決定し
たのであるから、商店法案も本議會に提出すべく目下準備中で

ある。

國際勞働總會

昭和十年には國際勞働總會が二回開催せられた。即ち通常總
會と海上勞働問題の爲の海事特別總會とが行はれた。

一 第二十回國際勞働總會 第二十回國際勞働總會は昭和十年

六月四日より六月二十四日に亘り瑞西國ジュネーブに於て開催
せられたが、其の概況は次の通りである。

1 會議事項

- (一) 或る特殊の勞働者募集制度の規律に關する件(最終討議)
- (二) 有給休日に関する件(最終討議)
- (三) 政府に依り實行せられ又は補助せらるる公共事業に於ける勞働
時間の短縮に關する件(最終討議)
- (四) 土木建築業に於ける勞働時間の短縮に關する件(最終討議)
- (五) 鐵鋼業に於ける勞働時間の短縮に關する件(最終討議)
- (六) 炭坑業に於ける勞働時間の短縮に關する件(最終討議)
- (七) 織維工業に於ける勞働時間の短縮に關する件(第一回討議)
- (八) 建築工事に使用せらるる勞働者の爲の足場及揚重機に關聯せる
安全規則に關する件(第一回討議)

2 本邦代表委員

本邦政府は平和條約第三八九條の規定に従つて左の代表委員
を任命又は指名して總會に參列せしめた。

政府側代表委員

國際勞働機關帝國事務所長

吉 阪 俊 藏

北 岡 壽 逸

社會局書記官

使用者側代表委員

滋 澤 正 雄

日本鐵株式會社取締役

勞働者側代表委員

河 野 密

全日本勞働總同盟會會長

3 會議の概況

總會の參加した國は六十二の締盟國五十國に比して伊太利が
一日參加の通知を爲したるも後に至り總て出席せざる旨の通知
を爲し來たり、埃及は從來の如く「オブザーヴァー」を派遣したが
會議の途中で總會からの國際勞働機關加盟招請に基き國際勞働
機關に參加して右「オブザーヴァー」を正式政府代表に任命し、又
「ソウェイト・ロシア」は政府代表の外中途より勞働代表を派遣
したのが人目を惹いた。總會の議長には了抹政府代表「ブラム
スネス」氏が選ばれた。左に會議の結果を簡單に掲げる。

第一議題に關しては國際勞働事務局に於て作成した「或る特殊ノ勞
働者募集制度ノ規律ニ關スル條約案」に多少の修正を加へ(百二十三
票對零(本邦に就ては政府、使用者及勞働者の各代表共賛成)を以
て採擇し又「募集ノ漸設的排除ニ關スル勸告」をも採擇した。
第二議題も前年度から引續いて討議せるもので「年次有給休日ニ關
スル條約案」は九十九票對十五票(本邦に就ては政府代表は棄權、
使用者代表は反對又勞働者代表は賛成)を以て又勸告は九十八票對
十五票(本邦に就ては右に同じ)を以て採擇せられた。

第三議題 公共事業に於ける労働時間の短縮條約案は七十九票對三十八票（本邦に就ては政府代表は棄權、使用者代表は反對、労働者代表は賛成）を以て採擇せられた。この條約案は中央官廳によつて融資又は補助せらるゝ土木建築業に直接備使せらるゝ者の爲めに一週四十時間制を規定したものである。

第四議題 土木建築業に於ける一週四十時間制に關する條約案は終結投票に於て賛成七十一票、反對四十二票となり、三分の二の多數を制するに至らなかつた。

第五議題 製鐵所及製鋼所に於ける労働時間を一週四十時間に定める條約案は終結投票に於て三分の二の多數を得ることに失敗したが總會にての問題について三部制技術會議を招集する件を考慮すべきことを理事會に要請せる決議を可決した。

第六議題 炭坑の労働時間を一週三十八時四十五分に定める條約案は終結投票に於て三分の二多數を得ることに失敗したが、矢張り三部制技術會議を招集する件を考慮すべきことを理事會に要請する決議を可決した。

第七議題 織維工業に於ける労働時間短縮問題の能否は別として本邦が主要産業國にして且生産品が世界の市場を風靡せる關係上日本の態度は各國の注意的となつてゐたが果して日本の綿業の競争力について英國及印度の諸代表から非難の矢が發せられた。

この議題に就て單一討議制をとり今次の總會にて終結的決定に達するため總會議事規則を停止することは取止められ、通常の二重討議制が五十四票對四十一票にて適用されて總會は第二次討議のためこの問題を明年の會議の議題に上程すること及びこの問題について三

部制技術會議の開催を提唱する決議が可決せられた。
第八議題 建築労働者の爲の安全施設はこの問題を一九三七年の總會の議題に上せて第二次討議を行ふことにして諸國政府に諮問すべき事項を決定した。

右の内議題の織維工業に於ける労働時間の問題は米國代表ワイナント及びミューラー兩氏の提唱に依り、米國に於て十二年四月上旬織維工業國十四箇國を招待して準備會議を開催せらるゝ事が決定せられた。此の會議に於ては織維工業に於ける労働時間、賃銀その他一般の労働條件を討議するのみならず一般國際經濟通商問題にも言及すべきものであつて、本邦の斯業に關する實情に鑑み本邦に於ける労働條件に關する各國の誤解を解き、更に各國に對し通商障礙、關稅障壁の撤廢を要求するに就ては凡ゆる機會を利用する必要があるので、我國としては進んで之に参加すべきものである。

二 第二十一、二回海事總會議 海上労働問題の特異性に鑑み別に海事労働總會開催の例あることは前に述べたが、十一年は第二十一回及び第二十二回の労働總會がこれにあてられる。

1 會議事項

第二十一回海事總會議

一、(イ) 船上に於ける労働時間の規律問題

(ロ) 船上に於ける労働時間の關聯せる乗組員問題

(これは一切海洋航行船舶の普通海員の労働時間を一日八時間

一週五十六時間に定め且海上に於ける生命の安全及時間制の適用を可能ならしむるに必要な最少定員を定めむとするものである)

二、疾病の場合に於ける海員の保護（船上に於て負傷したる海員の治療を含む）問題即ち

(イ) 疾病に罹り又負傷したる海員に對する船主の個人的責任問題。

(ロ) 海員の爲の疾病保險問題

(イ)の方は船舶所有者は海員の雇入契約の開始より終了までに發生する疾病及傷害及之に基因する死亡に付救済の費用を負擔し、若は又海員に適用する強制疾病保險強制災害補償制度を有する國に於ては當該國は法令を以て船主の責任期間を一致せしむることを定めむとするものであり、

(ロ)の方は疾病の爲め労働不能となりたる被保險者には最少限度二十六週間の現金給付をなすべく強制保險制度を設けしめんとするものである。

三、港に於ける海員の福利増進問題

(これは勸告にして海員は長期に亘り家庭生活の利益を奪はれる結果入港中特別の危険と困難に曝さるるを以て、其の健康の保持者と餘暇利用等の施設を爲さんとするのであつて、花柳病の豫防とか誘惑機關から遠ざかる方法を講せしめんとするにある)。

四、商船内に於ける船長並に當直に任ずべき運轉士及機關士に就ては職業的資格の最低要件設定問題。

五、海員の爲の有給休日問題

(本問題は船長、士官乗組員全部に一箇年六月乃至十二月の有給年次休暇を與へんことを定めるものである)。

第二十二回海事總會議

海上に使用し得る兒童の最低年齢を定むる條約案の改正問題

(本問題は現在の條約の最低年齢十四歳を十五歳に引上げんとするものである)。

因に第二十一回及第二十二回と會議を二回に分離した事は各國に對する議題提案通知期日の關係から特に分離したにすぎない

2 本邦代表委員

海事労働總會代表委員は從來の手續に従ひ左の如く任命又は指名せられた。

政府代表委員

社會局書記官 北岡 壽 逸

逓信省燈臺局長 長岡 信 捷

使用者側代表委員

三井物産船舶部長 古川 虎 三 郎

日本海員組合組合長 堀 内 長 榮

右に代る代表及び顧問の選任方法は前回同様にして日本労働組合會議及び東京瓦斯工組合より推薦せられた堀内氏が代表委員に指名せられ、又右諸團體から推薦せられた。海員協會若松出張所長土田保一氏、日本海員組合教育出版部長西巻敏雄の兩氏が顧問に指名せられた。

3 會議の概況

第二十一回總會は十月六日より壽府で開催され参加した國は三十一箇國にして、諸威の前大臣高等法院長政府代表パール・ベルグ氏を議長として前述の議題を審議した。又第二十二回總會は二十二日から開催して何れも二十六日閉會した。

4 會議の主要經過

時間制度及び定員制條約案は六十二票對十七票にて採擇され左の如く決定した(本邦政府及使用者代表反對、勞働代表賛成)。

- 一、船舶適用範圍は甲板部二千噸以上、機關部事務部七百噸以上。
- 二、勞働時間は甲板、機關兩部士官屬員國に航海中は一日八時間一週五十六時間、碇泊中は一週四十八時間にして、入出港等に於ける超過時間は國內法又は團體協約に譲る。
- 三、定員は船長外七百噸以上の船舶に就ては免狀受有運轉手二名二千噸以上に付ては同じく三名、七百噸又は八百馬力以上に就ては免狀受有機關士三名とし、増員の設備をなし得ざる船舶に就ては四年を一期とする猶豫期間がある。
- 四、本條約案は百萬噸以上の海洋航行商船を有する締盟國中五箇國の批准登録があつた時から效力を發生する。
- 五、本條約案の趣旨を適用前の船舶の勞働時間及定員にも擴張する様との勸告を採擇され、他の條約案も總て大した修正なく採擇された。

斯くして六個の條約案と二個の勸告が作成されたが、過去に於ける海事總會が我國の海上勞働問題に幾多の寄與貢獻したことを思へば、今回の國際的の解決は又我國の國內的の措置にも

相當重大の影響を與へること、思はれる。

産業福利協會の合併と日本土木建築勞働者災害扶助會の創立

1 財團法人産業福利協會 は大正十四年秋設立せられ産業災害の豫防、勞働衛生の改善其他福利施設の指導獎勵を爲し、一方勞働立法の圓滿なる施行を援助すると共に地方の工場懇話會等の諸團體との中央機關と共に活躍し相當の成績を擧げて來たのである。然るに協調會が從來の事業に加へ更に産業福利運動に努力を集合することとなつたので、産業福利運動を猶一層進展擴充する爲には協調會と産業福利協會とを合併することの適切なることが考慮せられ、昭和十年三月三十一日を以て遂に合併が行はれ、産業福利協會は解散して協調會の産業福利部となり、産業平和、産業協力の促進運動に努力することとなつたのである。産業福利部に於ける主なる事業左の如し。

- 1、運動及宣傳(安全運動、工場鑛山緑化運動)
- 2、展覽會
- 3、講習會
- 4、講演會
- 5、研究會
- 6、懇談會
- 7、各種指導
- 8、産業福利博物館
- 9、安全診断

10、ポスター

11、出版

12、映畫作製及貸與等である。

日本土木建築勞働者災害扶助會 土木建築事業に従事する勞働者にして、業務の爲め傷害を被り遂に不具となる者、勞働者災害扶助法に依る治療を受くるも尙一定の豫後の療養を缺くときは終生不具の因をなすもの、或は傷害に依り不具者となり新たに職業を修得するにあらざれば糊口の途なきもの等年々相當の人数に達して居る。是等の犠牲者とも謂ふべき者に對して義肢を給與し或は傷害後療の途を講じ、職業再教育の法を樹て、其他危険防止、病疫の豫防等必要な施設に努むるの必要なることは云ふ迄もない。而して勞働者災害扶助責任保險に於ける保險料の剩餘返還金は之を各保險契約者に分割するときは僅少の額に過ぎざるも、之を一括して右の如き施設の資となすに於ては其效果甚大にして、災害扶助法制の目的にも合致し最も機宜の策と認めらる。右の趣旨に依り日本土木建築請負業聯合會の理事者に於て専ら設立準備を進め、遂に昭和十一年六月十二日、財團法人日本土木建築勞働者災害扶助會なるものが設立せられ、先づ昭和六、七、八年の保險料返還金の大部分六萬七千圓餘を各事業主より寄附を受け基本財産としたのである。事業の内容は左の如くである。

一、義肢の給與

二、後療

三、職業再教育

四、療養機關の設置

五、危険者は疾病の豫防

六、其他必要と認めたる事項

社會保險行政

はしがき

社會保險は制度としての發達極めて近年のことに屬するに拘らず、殆どあらゆる文明國に於て採用せられ、僅々數十年の間に實に驚くべき發達を遂げたのである。

我國に於ける社會保險制度としては大正十一年第四十五議會の協賛を經、同年四月法律第七十號を以て制定せられた健康保險制度がある。然し乍ら本法による被保險者の範圍は最近迄は工場法適用工場及び鑛業法適用鑛山に限られ、其の數大約二百萬人に過ぎなかつたのである。昭和九年の法律改正に依つて工場法、鑛業法非適用の工場、鑛山(當時五人以上使用の)及び交通勞働者の一部等にも擴張されることになつたが、その數四、五十萬人を超えない。されば我國に於ける社會保險の將來としては健康保險の適用範圍の擴張と言ふことは必ず考へられねばならない問題である。

然し乍ら更に進んで我國の現状を観るならば、國民の大半を

占むる所の農民及び中小工業者の経済的疲弊と言ふ問題は看過せらるべからざる重大なる問題である。是等は所謂被傭者階級の觀念には入らぬ者が多いのであるが、其の現在生活不安に陥つて居ることに於ては被傭者階級に劣らぬのである。

斯くて是等庶民階級を對象とする社會保險制度の制定は社會局多年の懸案であり、その實現によつて傷病の危険を保險し療養の機會を與へ経済的負擔を軽減し生活の安定を圖ると共に、其の健康の保持増進に資することは現下の社會情勢に鑑み喫緊の要務である。仍て之が必要に應ぜんが爲茲に國民健康保險制度の制定が立案せられてゐるのである。

健康保險事業

現行健康保險法は、大正十一年第四十五帝國議會の協賛を得たものであるが、大正十二年の關東地方大震災の爲にその施行が延期されて、漸く昭和二年一月一日からその事業を開始したのであるが、既に昭和十二年は將に十週年に相當する。

昭和四年六月には法の一部改正の施行があり、更に昭和十年四月から法改正の結果に依る強制適用の範圍が擴張されて、今日に至つたものである。

本法實施當初に於ては、各種の論議、反對運動等行はれたるも、日時の経過と共に之が理解も進み、今日に於ては、反對論の如きは全くその跡を斷ち、専ら本事業の改善擴張等に關する意見を聽くのみとなつた。

する。尙組合の執行機關として理事を置く。理事の定数は四人以上の偶數で其の半數は事業主の選定した議員に於て他の半數は被保險者である組合員の互選した議員に於て之を互選する。前者の理事の中一人を理事長とし組合の代表機關とする。

昭和十一年九月末現在に於ける健康保險組合數は三百七十五である。之等の健康保險組合に於ける事業の實施成績を觀るに準備金積立額も既に法定額を超過する組合が相當あり、其の他結核療養所等の施設を始めとして各當事者の努力により着々健全なる發達を遂げつゝある状態である。

併し乍ら之等の組合が更に一致團結して統一されたる組織の下に共同して健康保險事業の改善、發達に盡力することとなればその結果は大に期して待つべきものがあることは言ふを俟たない。從來此の目的達成の爲或は日本健康保險組合聯合會の組織を見、或は若干の地域的又は業態別の聯合會が組織せられて各事業の改善發達の爲努力しつゝあつたのであるが、何れも全國の組合を網羅した統一的組織の下にと云ふ理想からは大分距りがあつたのである。

こゝに於て健康保險に關する調査研究を行ひ組合相互並に監督官廳との聯絡を密にし、更に保健施設の共同施行に付援助する等以て健康保險組合の發達に資せんが爲、全國の組合の盡くを其の會員とする健康保險組合聯合會の設立が提唱せられ、時恰も法施行以來十週年を前にして昭和十一年十月一日その設立を見るに至つたのである。

一、保險事故

健康保險の保險事故は疾病、負傷、死亡及び分娩であつて、之が業務上の事由に因ると否とを問はないものである。

二、保險者

健康保險の保險者は政府及び健康保險組合の二者であつて、政府は健康保險組合の組合員たらざる被保險者の保險を管掌し健康保險組合は其の組合員である被保險者の保險を管掌する。

(一) 政府

中央機關として社會局に保險部を置き地方機關としては道府縣に健康保險課を置く外健康保險出張所を北海道廳に三箇所、警視廳に四箇所、大阪府に三箇所、愛知縣に一箇所、長野縣に一箇所、合計十二箇所を設置して健康保險の現業的業務に當らしめてゐる。

(二) 健康保險組合

健康保險組合は公法人で事業主及び其の事業に使用されてゐる被保險者を以て之を組織する。

即ち一又は二以上の事業に付被保險者を常時三百人以上使用する事業主が其の被傭者の二分の一以上の同意を得て規約を作り内務大臣の認可を受けて設立する場合と、一事業に付強制被保險者と常時五百人以上使用する事業主が内務大臣から其の設立を命ぜられて組合を設立する場合とがある。組合は其の意思機關として組合會を有す。組合會は組合會議員を以て之を組織する。組合會議員の定数は十二人以上の偶數で其の半數は事業主が選定した議員で他の半數は被保險者である組合員が互選した議員たることを要

三、被保險者

健康保險の被保險者には、(一)強制的に加入せらるゝ強制被保險者の外、(二)強制適用以外の小工場、土木建築工事又は貨物積卸の事業に使用される者が内務大臣の認可を受けて包括的に加入する任意包括被保險者と及び、(三)一旦被保險者であつた者が資格喪失後に本人の申請に依り従來通り被保險者の資格を繼續する任意繼續被保險者とがある。

強制被保險者となる者は工場法及び鑛業法の適用を受くる工場及び事業場の被傭者の外、尙昭和十年四月一日から適用範圍が擴張せられた結果小工場、採掘取事業、電氣の傳導又は動力の發生若は傳導事業、地方鐵道法又は軌道法の適用事業、自動車、荷牛馬車、索道等に依る運送事業にして常時五人以上の労働者を使用する事業の被傭者も被保險者として加入を強制される。但し被傭者中臨時の被傭者及び年報酬千二百圓を超える職員は適用を除外される。被保險者の總數は昭和十一年九月末現在に於て三、二八二、七二九人で之を政府管掌の分と健康保險組合管掌の分とに分てば次の如くである。

種 別	總 數	種類別被保險者數		
		強制被保險者	任意包括被保險者	任意繼續被保險者
總數	三、二八二、七二九人	—	—	—
政府管掌の分	三、二〇〇、四四二、二五六、八四八	—	—	—
組合管掌の分	一、〇三三、二八七	—	—	—

(註) 組合管掌の分の種類別被保險者數は統計未完成の爲不明。

次に被保険者の保険料及び保険給付費の算定の基礎たる標準報酬日額は昭和十一年九月末現在に於て、政府管掌分〇圓九八二厘、組合管掌分一圓四一一厘である。

工場法適用工場	六七、二九八
鑛業法適用事業場及工場	一、四八二
其の他の事業	四九、六九四
計	一一八、四七四
任意包括被保険者の使用せらるゝ事業	五三六
合 計	一二九、〇一〇

四、保険給付

(一) 保険給付の種類

被保険者に負傷、疾病、死亡及び出産等の事故が生じた場合に保険給付として療養の給付、傷病手当金、埋葬料、分娩費、出産手当金等を支給するものである。

最近の統計である昭和九年度中に於ける是等の保険給付の総件数は七、四七七、二六九件であつて、之に要した費用総額は三一、一八五、九九二圓であつた。

(イ) 疾病又は負傷に關する給付

(1) 療養の給付
療養の給付の範圍は、(一)診察、(二)藥劑又は治療材料の支給 (三)處置、手術、其の他の治療、(四)看護、(五)被保險

者の移送であつて、尙保險者が必要ありと認めるときは被保險を病院に收容し又特殊の場合に於ては療養の給付に代へて療養費を支給することも出来る。療養の給付は同一の疾病又は負傷及び之に因つて發した疾病に就ては其の保險給付を始めた日から起算して百八十日を経過したときは之を給付しない。本給付は保險給付の根幹を爲すものであるが昭和九年度中に於ける其の支給件数は六、六〇四、六四〇件、費用額は一九二、六六、五八三圓で、外に療養費として七、七二七件費用額一四六、六五三圓であつた。

(2) 傷病手当金

被保險が疾病に罹り又は負傷した場合に於て療養の爲勞務に服することが出来ないときは其の期間傷病手当金として一日に付報酬日額の百分の六十に相當する金額を支給する。傷病手当金は業務上の事由に因らない傷病の爲に勞務不能となつた場合には勞務不能の初日から起算して第四日から給付を開始する。傷病手当金の支給は同一の疾病又は負傷及び之に因り發した疾病に付其の保險給付を始めた日から起算して百八十日を経過したときは之を給付しない。病院に收容した被保險者に對して支給する傷病手当金は其の家族數に應じて之を減額するのである。昭和九年度中に於ける支給件数は七四七、六四四件、金額は一〇〇、五六、一九二圓であつた。

(ロ) 分娩に關する給付

被保險者の分娩に關しては助産の手當を爲し分娩費及び出産手当金を支給する又保險者に於て必要ありと認められた場合には被保

險者を産院に收容することも出来る。分娩費の額は二十圓とし助産の手當を爲した場合及び産院收容の場合には之を減額して十圓とする。出産手当金は分娩の日前二十八日、分娩の日以後四十二日の間に於て勞務に服しない期間報酬日額の百分の六十に相當する金額を支給する。而して分娩が其の豫定日より遅れたときは保險者は分娩前の支給期間を七日以内延長することが出来る。産院收容の場合には其の家族數に應じて出産手当金を減額する。此の分娩に關する保險給付は分娩前一年内に於て百八十日以上被保險者である者に對してのみ之を支給するを建前としてゐるが、分娩前一年内に於て九十日以上被保險者である者に對しても分娩費又は助産の手當のみは之を支給する。尙被保險者が資格喪失後百八十日以内に分娩したときは分娩に關する保險給付を爲すことになつてゐる。昭和九年度中に於ける支給件数は一〇一、八一四件で費用額は一一〇、五、九五二圓であつた。

(ハ) 死亡に關する給付

死亡に關する保險給付は埋葬料又は埋葬費である。埋葬料は死亡者に依つて生計を維持した者であつて、埋葬を行ふ者に對して支給するもので、其の支給額は報酬日額の三十日相當分であり其の額が三十圓未満であるときは之を三十圓とする。埋葬費は埋葬料の支給を受くべき者がない場合に於て埋葬を行つた者に對し埋葬料の金額の範圍内で埋葬に要した實費を支給するものである。昭和九年度中に於ける此の兩者の支給件数は一五、四五四件、費用額は六一〇、六一二圓であつた。

五、醫療組織

(一) 政府の管掌する保險の醫療組織

政府の管掌する被保險者の一般醫療に就いては日本醫師會と被保險者一人當年額七圓四十四錢四厘六毛の割合で所謂人頭式請負の方法に依つて契約を結び、特に危険の多い炭礦被保險者に就いては一人當年二圓の割合で診療報酬を増額して支拂つてゐる。尙官公立病院にも所謂定額式勤勞報酬の方法で診療を委嘱してゐる。又齒科醫療に就いては被保險者一人當年額八十四錢の割合で人頭式請負の方法に依り契約を締結し、處方箋に依る藥劑の支給に付いては日本藥劑師會と所謂定額式勤勞報酬の方法に依つて契約を取結んでゐる。

昭和十一年九月末現在の保險醫、保險藥劑師及び保險產婆の数は次の如くである。

種 別	人 員
保 險 醫	四三、四五七
醫師たる保險醫	三一、二六一
齒科醫師たる保險醫	一一、一九六
保 險 藥 劑 師	七、一〇八
保 險 產 婆	三二、〇四二

(二) 健康保險組合の管掌する保險の醫療組織
健康保險組合の醫療組織は様々である、即ち組合又は組合の設立ある工場又は事業場附屬の診療機關に依るものがあり、又其の有する診療機關の外に診療師會又は齒科醫師會と醫療契約を締結し

てみるものもあり、又独自の診療機関を全然有せずして醫師會又は齒科醫師會と契約を締結し或は若干の囑託醫を指定して之に依つて醫療給付を爲してゐるものもある。最近の統計である昭和九年度末に於ける其の内譯は次の如くである。

種別	一般醫療	齒科醫療
主として囑託醫に依るもの	四五	六八
主として事業主經營の診療機關に依るもの	一九二	七四
主として組合經營の診療機關に依るもの	二四	一一
醫師會又は齒科醫師會と契約せるもの	三三四	二六六
計	七六六	三五一
一人一頭計	一六四	三五
式式式式式式	一九二	一一
式式式式式式	二二	一一

注意 右記の時價式とは診療報酬が政府の管掌する醫療費一點單價に依るものであつて、又割引式とは通常報酬額を割引したものである。

本表の組合數と年度末現在の組合數と符合せないので一組合にして二以上の診療機關と契約あるものは組合數を二以上として計算したからである。

六、保健施設

保險者は被保險者の健康を保持する爲(一)健康に關する宣傳、(二)疾病の豫防に關する施設、(三)健康診断に關する施設、(四)保養に關する施設、(五)其の他保險者に於て必要ありと認むる施設を爲すことが出来る。

B 照射を希望し來りたる者にして囑託醫に於て適應者と認めたるもの

- 照射は囑託醫監督の下に其の照射處方箋に基き看護婦をして之を行はしむること。
- 人工太陽燈照射事務の執務時間は被保險者の利便を考慮して之を定むること。
- 血液、喀痰、尿、血壓等の検査
- 看護指導
- 健康保險に關する一般的相談に應じ若し諸手續に關する指導又は代行

七、費用

本事業に要する費用は國庫負擔金及び被保險者、事業主の負擔する保險料其の他積立金、借入金、雜收入等を以て之を支辨する。

- 國庫負擔金 政府管掌の分に對する國庫負擔金は毎年度豫算の定むる所に依り又健康保險組合の管掌する保險に對しては其の保險給付に要した費用の十分の一を負擔する。但し國庫負擔金の總額が政府及び健康保險組合の管掌する保險の各々に付被保險者一人年額二圓を超えたときは之を二圓に止む。昭和十一年度内に受入れた國庫負擔金總額は二、九六二、八五九圓であつて其の内政府管掌に屬する分が一、六九六、六七〇圓、健康保險組合管掌に屬する分が一、九五四、一〇六圓である。
- 保險料 保險の費用として被保險者及び事業主から保險料を徴収する。強制被保險者及び任意包括被保險者は保險料を事

從來保健施設としては保健衛生に關する講演會、活動寫眞の映寫、衛生展覽會、運動會、競技會、健康診断、印刷物の配布、寄生蟲の驅除等被保險者の健康保持上最も有効適切と認むる各種施設の實施に努めて來たのであるが、昭和九年度に於ては新に北海道及警視廳管下外一府五縣に通じて十二箇所の健康保險相談所を設置し被保險者の健康相談、人工太陽燈の照射、血液、喀痰、尿、血壓等の検査、健康保險に關する一般相談所並諸手續に關する指導又は代行に當らしめたのであるが、其の成績見るべきものあるに鑑み昭和十年度に於ては警視廳管下外二府六縣を通じて十箇所(合せて二十二箇所)の健康保險相談所を設置し更に昭和十一年度に於ては全國未設の地方三十六縣及び北海道三箇所計三十九箇所の相談所を増設し全國に健康保險相談所網を張つたのである。

(一) 健康相談

- 相談所に來訪者の健康相談に應ずること
- 工場又は礦山に出張して健康相談を爲すこと
- 書面に依る健康相談に應ずること
- 健康相談の結果疾病の程度に至らざるも將來發病の懼ある者に對しては被保險者の希望に依り處方箋を交付することを得ること(此の場合に於ては健康保險の療養の給付として取扱はざること勿論なること)

(二) 人工太陽燈の照射

- 左に該當する者に就き照射を爲すこと。
 - 健康相談の結果發見せる照射適應者

業主と折半して負擔する。尤も健康保險組合では其の規約を以て事業主の負擔部分を増加することが出来、又業務の性質上事故の多い事業に使用される被保險者及び少額の報酬を受くる被保險者の保險料に付ても之亦事業主の負擔割合を増加することが出来る。被保險者の負擔する保險料の額は一日に付報酬日額の百分の三を超えることは出来ない。

此の限度を超えて保險料を徴収する場合は其の超過部分は之を事業主の負擔とする。現在に於ける政府管掌健康保險の保險料率は石炭山被保險者に關しては報酬日額一圓に付八錢であつて内事業主が五錢、被保險者は三錢の割合で之を負擔し、其の他の被保險者に關しては報酬日額一圓に付四錢の割合で事業主及び被保險者折半して之を負擔する。健康保險組合の管掌する保險の保險料率及び保險料の負擔割合は次の如くである。

保險料率報酬日	總數	三錢	四錢	五錢	六錢	七錢	八錢	九錢
額一圓に付	總數	以下	以下	以下	以下	以下	以下	以下
總數	二分の一	一九七	元	一四五	三	二	一	一
二分の一を超ゆるもの	總數	一五	二	五	元	二	三	五

保險料の収入成績は本事業の執行に至大の影響を持つものであつて、昭和十年四月よりの健康保險の範圍擴張に伴ひ、被保險者數が著しく増加した爲保險料の調定額も甚しく増加を來したのであつたが、時局關係事業の影響と一般經濟界の好轉によ

り徴収成績は頗る良好にて収入額は従來に比し多大の増加を來したのである。

他方保險給付費の支出も亦被保險者數の激増に伴ひ、多額の増加を來したのであるが、大體に於て、前年度と大差ない程度の剩餘を得て決算を終了する見込である。

國民健康保險法案

郵便貯金の利子引下に伴つて生ずべき預金部増収の内三百餘萬圓を財源として、第七十議會に提案せらるゝこととなつた國民健康保險制度が社會局に於て立案に着手せられたのは決して最近のことではなく、それは既に數年前のことである。

當時農漁山村の疲弊が叫ばれ其の對策樹立を急務とするの聲が喧しかつたのであつた。之が爲め諸種の應急對策及び恒久的對策が順次立案せられ、次第に實行に移さるゝ機運となつた。其の時に於て社會局が考へた各種の對策——殊に恒久的對策——の一つとして國民健康保險制度があつた。農村——山村漁村を含めて——に於ける醫療費の支出の現状より見て之が農村生活に重大なる壓迫を爲して居る事實に着眼し、保險制度の形式に於て一時の失費を長期に分ち其の重壓を緩和せんことを企圖したのが此の國民健康保險制度であつた。

國民健康保險制度立案の動機は以上の如くであつたが、更に再考すれば、この醫療費の問題は單に農漁山村に限らず、程度の差こそあれ、國民全般の問題であるから、之が解決の施設は

その對象を農漁山村の住民のみに限るべきではなく、都鄙を通じて一般庶民階級全體に及ぶべきものであると思料される。故に社會局に於て立案した制度は國民健康保險制度と銘を打つて都市にも田邑にも適用され得る如きものとなつたのである。

(註、社會政策時報第八十五號、清水玄「國民健康保險制度案に就て」)

即ち昭和十年末に至つて國民健康保險制度案要綱の作成を見るに至り、内務大臣より之を社會保險調查會に諮問することとなつた。右調査會は社會保險及び社會政策に關する學者、専門家、實際家及び各方面關係者並に關係各官廳當事者等を網羅したものであつて同調査會に於ても、右要綱案を長期間に亘り慎重審議した結果、現下の社會情勢に照らし必要なる施設として滿場一致を以て可決せらるゝに至つた。尙昭和十一年六月内務大臣より、農村の現状に鑑み農村社會事業の振興を計る爲其の根本方策に關し、社會事業調査會の意見を求めた處、其の答申中に於ても、「國民健康保險制度に關しては速に之が法制を確立すると共に、特に農村に就ては其の實情に應じ適切なる計畫に依り國民健康保險組合の普及發達を圖ること」を緊要と認め、其の速かなる實現を希望する所があつた。

國民健康保險制度の立案の動機は右の如く農村の醫療問題の對策にあつた。従つて先づ其の立案の背景を爲すものは地方農村に於ける醫療問題である。以下この點に就て検討して見よう。自然に恵まれ本來健康であるべき農山村等郡部に於ける死

亡率は左表に示す如く、市部に比較して高位に在るのみならず、衛生局の行つた農村保險衛生實地調査に依れば、農村居住民には寄生蟲病、トラホーム、呼吸器系統疾患(殊に結核病)を有する者が甚だ多く、其の健康状態は寔に憂慮すべきものがある。農村居住民が我國人口の約六割の多數を占め、且我國民の日々

市部郡部死亡率比較表 (人口千ニ付)

種別	大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	平均
市部	一八・九〇	一七・六六	一八・〇三	一七・六〇	一七・六六	一六・四六	一七・四六	一三・六六	一五・九六	一六・〇〇	一六・九四	
郡部	二〇・六四	一九・六〇	二〇・三三	二〇・六二	二〇・九六	一八・七二	一九・四八	一九・四〇	一八・六三	一九・〇七	一九・七三	

斯の如く我國農山村住民の健康状態は都市のそれに比して不良なのであるが、兩者を通じて我が國民の健康状態を見る時は近時稍々改善せられつゝありとは言へ、遺憾ながら諸外國に比較して良好であると謂ふことは出来ない。例へば先づ第一に死亡率に就いて之を調べて見ると、昭和八年度に於ける我國の死亡率は千人に付一七・八人であるに對し、佛蘭西は一五・八人、

伊太利は一三・五人、英吉利は一二・三人、獨逸は一・二一人、和蘭の如きは僅か八・八人であつて、我國の死亡率は諸外國に比し著しく高率を示してゐる。而も一般諸國に於ては著しく低下の傾向があるにも拘らず、我國に於ては多少減少の傾向を示すに止り、さしたる改善の跡を見ることを得ない。

又次に平均壽命即ち各歳の年齢者が今後生存し得べき豫定年

の生活資料を生産すべき重要な地位にある者なることを考ふる時は、其の健康状態が斯の如き状態に在ると謂ふ事は、正に國家として深甚な考慮を要すべき問題であると謂はなければならぬ。

數の平均を見ると、我が國民の零歳の場合の平均壽命は男四四・八二歳、女四四・五四歳であつて、英獨佛等の諸外國に比し著しく短命である。

更に徴兵検査の成績を徴するに、身長體重共に累年増加の傾向にあるとはいへ體重の増加は身長増加に伴はず、又丙種及び丁種該當者は累年増加の傾向に在り、昭和十年に於ては約四割に達するに至つた。

我が國民の健康状態が以上述べた如く良好でないことに就いては、固より多くの原因を擧げることが出来るであらう。國民の健康を保持増進する爲には、是等の原因を究明して夫々國家として適切な對策を講ずる必要あることは勿論であるが、是等の原因の中就中注目しなければならぬのは、現在疾病に罹り

又は負傷をした場合に、醫療機關の普及が不完全である爲に、又醫療費の支拂に耐へない爲に、必要な醫療も受けることが出来ない者が少くない、即ち醫療が社會的に偏在してゐると謂ふ事實である。

近時我國に於ける醫學の進歩發達は先進諸國を凌駕し、眞に驚嘆に値するものがある。然るに一方に於て斯かる事實の存在することは、寔に遺憾な事であつて、國家としては、速に是等罹傷病者に對し、必要な醫療を受けしめ、以て其の健康の恢復を速かならしむる様、必要な施設を講じなければならぬ。而して此の點に關し問題の中心を爲すものは、前述せる如く醫療機關の分布の問題と醫療費負擔の問題とである。

現在我國に於ける人口と醫師との割合は、醫師一人當人口約千四百人であつて、諸外國のそれに比較して、醫師の数は必ずしも少くない。併し乍ら之を仔細に觀察して見ると、地方に依り、殊に市部と郡部とに於て、其の分布状態が甚だ均衡を失して居る事を發見するのである。最近の社會局調査(昭和九年四月一日現在)に依れば都市に於ては人口一萬人に付醫師一〇・一人であるに對し、町村に於ては四・五人に過ぎず、都市の半數にも達しない状態である。又醫師の存在しない町村は、約三千四百町村に達し、全國一萬二千に近い市町村中約三割に相當してゐる。更に又町村に於て醫療機關の質に於ても甚だ恵まれてゐない實情に在る。

にとつて、現實の問題として寔に耐へ難い負擔となつてゐる。静岡縣醫師會が昭和五年十月一日現在で行つた病勢調査に依れば、調査した患者約三萬人の中、醫療費の支拂に差支ない者約五六％、辛うじて支拂ひ得る者約三四％、支拂に耐へざる者約八九％であつて、醫師に付醫療を受け乍ら、其の醫療費の負擔支拂に關し、何等かの保護手段を講ずる必要あるものは總數の約四四％即ち約半數を占めてゐるのである。更に醫療費の支拂に窮し、全然醫療を受け得ない者も亦相當あるべきことを併せ考へるならば、その數は更に一層高率となる。殊に農山漁村等に於ては多年の不況の爲苦境に呻吟しつゝあつた處へ、加へて地方によつては近年の打續く災害により、窮乏甚だしいものがあり、更に醫療機關に恵まれない等の關係からその醫療費は都市に比して高額となり、一層その支拂に窮して必要な醫療をも受けることが出来ない者が少くない状況にある。元來醫療は貧富に關係なく凡ての人に對し、其の利用を均霑せしむべきことを本來の性質とすべきものであるに拘らず、醫療費の支拂に窮して、病みて醫療を受けること能はず、速に治療し得べき傷病も治癒せず、永く病床に呻吟し、遂には生命をも失ふ者ありとするならば、人生の悲惨事であるのみならず、國民保險上より見て看過し得ざる重大問題であり、國家として速にその解決を講ずる要あるものと言はなければならぬ。

更に又醫療費負擔問題の解決は、醫療費が個人の經濟上の一

斯くの如く醫師は農村を離れて都市に集中し又其の傾向は年増大しつゝあることを發見するのである。此の原因としては、農村は交通不便なること、人口散在して稀薄なること等種々擧げることが出来るであらうが、究極する所經濟的原因即ち現在農村に於ては多額な醫療費の現實の支拂に耐へ得ない者が少なくないと云ふ事に歸着するものと考へられる。

従つて是等無醫町村に對する對策としては種々の方法に依り醫療機關の普及を圖ることは、勿論緊急の要務であり是非爲さねばならぬ施設であるが、醫療費の負擔を容易ならしむる方法が講ぜられざる限り、醫療機關普及の事業も充分其の目的を達し、効果を擧ぐることを得ないものと考へられる。茲に於て醫療機關分布の問題の根本的解決は醫療費負擔問題の解決に其の核心が在ると謂はざるを得ない。

疾病に罹り又は負傷した場合には、其の苦痛は肉體的にも精神的にも大きいものであることは勿論であるが、更に又病臥の爲収入の途を斷たれると共に、治療に要する費用に少からざる支出を要し、其の損害は二重にも三重にもなつて、非常な苦痛を受けなければならぬ。

現在農家一戸當の醫療費は大體平均一箇年二十五圓前後の様であるが、問題の大事な點は其の平均額よりも寧ろ一時に多額の失費を特定の個人が自ら負擔しなければならぬ點に存するのであり、現在醫療費の負擔は國民の大多數を占むる一般庶民

大脅威を爲してゐる點から見て、國民生活の安定と社會平和の確保とを期するが爲には、放置することの出来ない問題である。醫療費と個人の生計費との關係を調べて見ると、醫療費は其の主要な部分を占めるのみならず、一時に多額の失費となると云ふ點から、個人經濟上の大きな脅威となり、其の生活の安定を阻害する一大原因を爲してゐる。醫療費の支拂に窮した爲に返濟の當もない高利の借金を爲し、長く之に苦しみ、或は祖先傳來の田畑を賣拂ひ、或は一家離散する等悲しむべき事例は屢屢耳にする所である。又各地に於て行はれた貧困原因調査を見ても、疾病、負傷又は癱疾等身體的事故に因り極貧層に陥つた者の多いのに至つては六五％が、身體的事故に依り極貧層に陥つて居る事實を見るのである。従つて醫療費の問題を解決せずしては、國民生活の安定と社會平和の確保とは、到底之を期待することを得ないと考へられるのである。

さて、以上述べた様に、醫療費負擔問題の解決は、醫療問題解決の根本であり、國民保險及び國民生活安定の見地から、最も肝要な事であるが、然らば、如何なる方法に依つて、此の問題の解決を期することが最も有効適切であつて、且最も根本的なものであらうか。

先づ一應考へられるのは、貯蓄に依る自力の救濟であらう。併し乍ら、人として平素より將來に對する備へとして貯蓄を爲すことは勿論必要なことであるが、國民の大多數を占むる少額

所得階級の生活の現状に鑑み、又醫療費が不時に非常な多額な失費として計上される點から見て、個人の力を以て、問題を解決せんとする事は到底不可能である。

次に考へられるのは慈善事業其の他の救済施設に依る無料診療事業即ち何等の負擔を伴はない救済事業に依る問題の解決である。然し乍ら、此の救済事業に要する費用は其の活動を充分ならしめる爲には恐らく非常な巨額に達することゝなるべく、國又は公共團體が此の巨額の費用の負擔に堪へ得るや否やは、今日の財政状態に於ては、到底之を期待することは出来ないと共に、單なる補助救済は其の實行を誤るに於ては、被救済者の依頼心を助長し、國民の氣力を減退せしめ、却つて國家的に重大なる害悪を流すことがある。故に此の救済事業に依り一般庶民の醫療問題解決を期する事は不適當と謂はなければならぬ。

次に擧げられるのは、醫療利用組合、實費診療所等に依る經費診療事業である。此の事業は文字の示す通り醫療費の軽減を目的とするものであり、醫療費負擔の軽減に相當効果のあることは認めらるゝ所であるが、軽減は畢竟軽減に止り、其の醫療費は結局個人自らの負擔として支拂はねばならぬ。

其の爲の現實の醫療費支拂の苦痛は依然として未解決の儘殘されて居るのである。即ち醫療費の問題を解決するに就ては、醫療費を合理的に軽減する方法を講ずることも勿論必要であるが、其の根本的の解決は、醫療費の現實の支拂を容易ならしめ

る方法を講ずるにあるのである。

茲に於てか、一般庶民の健康増進に資し、國民生活の安定を期する爲に、其の醫療費の經濟的重壓を除去する方策として、最後に殘された途は唯一つである。即ち共同の力と平素の用意換言すれば、保險組織に依る外はないのである。

傷病は何時發生するか判らないと共に、又何人と雖も之を免れることは出来ない。従つて其の時になつてから慌てぬ様に、平素から充分用意して置く必要がある。而も一度傷病に際すれば、其の醫療費は一時に多額の失費となるので、之に對して平素から十分の用意を爲すことは、個人々々の力を以てしては到底不可能である。そこで多數の人が協力して、各人が分に應じて平素から一定の釀出即ち掛金を出し、傷病の場合には、其の準備された共同の資金に依つて、各人の不時の失費又は負擔を救ふべき組織が必要となる、之が即ち社會保險制度である。

國民健康保險制度は此の社會保險の方法に依つて、一定多數人の間に傷病に基づく危険を分散し、個人では不可能な醫療費負擔問題の解決を團體的に醫療費を負擔することによつて即ち相互扶助の精神を基調として解決せんとするのである。斯くて立案せられた國民健康保險制度案の概要は次の如くである。

本制度は一般庶民の健康保險を目的としてゐる。即ち一般庶民の疾病及負傷に際し、必要な診察及治療を與へることを以て

主眼としてゐるのであるが、分娩及死亡に際し、之に關し給付を爲すことを認められてゐる。

國民健康保險組合

本保險の經營者即ち保險者は自治的團體たる國民健康保險組合である。國民健康保險組合には、普通國民健康保險組合と特別國民健康保險組合との二種がある。普通國民健康保險組合は、原則として市町村の區域に依り、其の區域内の世帯主を以て組織し、特別國民健康保險組合は、同種の業務に従事する者、同一の事業に使用せらるる者其の他之に類する共同の利害關係に在る者を以て組織する。従つて前者は郡部に於て、後者は市部に於て、主として、其の設立が豫想せられてゐる。

組合の設立に就ては、先づ發起人が規約を作り、組合員たらんとする者の同意を得て、監督官廳の認可を受けることを要するのであるが、兩種の組合共其の設立は任意であり、加入も亦任意である。但し普通國民健康保險組合に就ては、監督官廳が必要ありと認められた場合には、加入の強制を命じ得る建前を取つてゐる。

以上の如く本制度に於て自治的組合をして保險の事務に當らしむることとしたのは、本制度の對象は有らゆる階級、職業の者一切を網羅し、地方に依り其の生活状態、衛生状態、又は經濟力等に著しい差異があるので、國民生活の實際に即せしめ本制度の効果を充分に擧げる爲には、地方的に自治的組合を組織し地方の實情に應じ適切な事業の經營を爲さしめることが最も肝要であるからである。普通國民健康保險組合の區域を市町村の區域と爲すことは、其區域

が危険を分散する上から見て狭過ぎはしないかと謂ふ點に關しては危険分散の範圍は健康保險に就ては此の程度で充分であることは、現在の工場鑛山に於ける健康保險組合の實績から推知することが出来る。又流行病其の他災害等の爲組合は財政的に破綻するの虞か無いかと謂ふ點に關しては、常時準備金を積立てさせて斯の如き非常時に備へ、又國庫其の他の補助金に於て適當に考慮する等の途がある。尙又組合が相當數發達した場合に於ては再保險の制度に就ても考究し度いと考へてゐる。

次に經濟力の乏しい農村等に組合設立の可能性があるであらうかと謂ふ點に就ては、從來農村等は郷土的に一致團結し、隣扶相扶の美風を有し、保險の根本精神たる相互扶助の精神は概して受け入れ易く、又本制度に於ては保險給付の内容は之を劃一化せず、地方の實情と組合員の負擔能力とに應じた給付を爲さしめる建前であり、且其の保險料は要するに從來組合員の負擔たりし醫療費等を合理化したものに過ぎざるのみならず、國庫補助金の分配に當つても、貧弱町村に對しては特別の考慮を拂ふ考であるから、之等の方向に於ても、本制度は比較的容易に普及するものと思はれる。現に本制度に類似した疾病共濟組合は既に各所に於ても其の設立を見、更に同様の組合の設立を希望してゐる町村も少くない状況である。

被保險者

本制度に於ては組合員と被保險者とを區別し、組合を構成し、組合に對し掛金の支拂其の他の義務を負ふ者を組合員とし、傷病等の場合に組合から所定の給付を受ける者を被保險者と稱してゐる。

被保険者となる者は組合員及其の世帯に属する者である。但し組合員の世帯に属する者に關しては、之を被保険者とするか否かは、組合の實情に應じて、各組合をして規約を以て自治的に決定せしめることとしてゐる。尙當局として組合の指導を爲すに當つては、其の保護の遺憾なきを期す爲成るべく市町村居住民の凡てを加せしめ度い考へであるが、現行健康保険の被保険者其の他特別の事由ある者は之は被保険者としてない。

保 險 給 付

本制度に於ては被保険者の疾病及負傷に關しては療養の給付、分娩に關しては助産の給付、死亡に關しては葬祭の給付を爲すのであるが、特別の場合には現金給付としてそれに要する費用を支給することもある。尙分娩又は死亡に就ては、特別の事情ある組合は必ずしも保険給付を爲さなくとも好いことになつてゐる。保険給付の種類、範圍、支給期間、支給額等は各組合の實情に應じて規約を以て自治的に決定せられることになつてゐる。組合の醫療組織に就ても亦同様であるが、現在の醫療制度に急激な變化を與へることは成るべく之を避けると共に、被保険者に成るべく廣く醫療機關選擇の自由を認める様に指導監督する方針である。組合は監督官廳の認可を受けて以上述べた以外の給付をも爲すことが出来る。併し乍ら、死亡に伴ふ遺族年金又は發疾、老齡等に關する給付の如きは、時期尙早なるが故に認められてゐない。

醫 療 費 の 一 部 負 擔

組合は療養の給付に要する費用の一部を其の給付を受くる者（給付

を受くる者が組合員でない場合には其の属する世帯の組合員）に負擔せしめることが出来る。本制度に於て一部負擔の制度を採用したのは、之に依つて診療の濫用を防止すると共に、組合員の當時の負擔たる保険料の負擔を減せんが爲である。一部負擔の額及徴收方法は、各組合の實情に應じて適當に決定せられる様、組合の自治に委ねられてゐる。

保 健 施 設

本制度は元來被保険者に傷病等の事故が起つた場合に保険給付を爲すことを目的とするのであるが、一面事故の發生の豫防に努めると共に、更に進んで積極的に被保険者の健康の保持増進を圖ることは極めて肝要である。其の故に本制度に於ては、組合は被保険者の健康を保持増進する爲に必要な各種の保健施設、例へば保健宣傳、豫防注射、寄生虫の驅除、健康診断等を爲すことが出来ることとしてゐるのであつて、以て國民體位向上の爲の基礎組織たらんことを期してゐる。

費 用

組合は以上述べた事等に要する費用に充てる爲に組合員から保険料を徴收する。保険料額及保険料の徴收方法は、各組合の保険給付の内容と地方の實情とに適應する様、組合の自治的決定に委ねられてゐる。従つて組合員の富の程度を參照して保険料に差異を附することとするも、又收穫時期に比較的多額に保険料を徴收することとするも、或は現物を以て保険料を納付せしめることとするも、固より差支ない。此の組合員の負擔能力を參照して保険料に差異を附す

ると謂ふことは、相互扶助の精神及隣保相扶一致團結せる農村等の實情に適合するものと認められ、又各地に設立された國民健康保険類似組合の實情も左様である。

尙一定期間保険給付を受けざる者に對し、組合は規約の定むる所に依り、其の期間拂込んだ保険料の一部を拂戻すことが出来ることとしてゐる。

補 助 金

本制度の趣旨及目的に鑑み、組合の設立及經營を助長獎勵する爲、國家は組合に對し補助金を交付することとし、其の他公共團體も補助金を交付することが出来る。

國民健康保險制度案の概要は以上の如くであるが、曩に社會局に於て本制度案要綱を發表して以來、醫療費の負擔に苦しみつゝあつた各方面に對し少からざる反響を與へたのであるが、就中各地方に於て要綱に準據して新たに國民健康保險組合の類似組合を設立し、又は從來より存する類似施設を利用して本制度と軌を同じうせる事業を經營し以て醫療費負擔の軽減を計らんことを希望するものを生ずるに至つた。而して當局に於ても法の施行に先立ち斯の如き類似組合を設立し以て本制度實施の參考に資することは意義あるものと思料し、特に熱意あり且將來圓滿なる發達を爲す見込あるものにつき設立に關し或る程度の指導並に援助を與へたのである。

其の結果現在類似組合として事業を開始しつゝあるものゝ類

も少なくない。

その内國民健康保險制度類似の典型的なものとして埼玉縣越ヶ谷町順正會がある。之は昭和十年十二月發會式を擧げたのであるが、此の内容を見れば大體國民健康保險が實施された場合の組合が想像される。

この組合は越ヶ谷町納稅組合を基礎として成立し將來は近隣町村の住民をも包含する見込であるといふ。本會は會員及び其の世帯員の傷病につき療養の手續をなし、其の分娩に際し三圓の助産費を支給するものである。會員の加入脱退は任意であるが、既に療養を要する者が加入する場合には、會に對し掛金三箇月分以上に相當する寄附を爲すを要し又脱退は三箇月前に豫告することを要し且脱退に際し既納掛金を返還せず會員は掛金を毎月納付する外療養の手續を受けた場合其の費用の一部を負擔せしめられる。

本會には正副理事長、理事、相談役及び評議員を置き重要事項は評議員會にて決する、其の他正副總裁顧問等をも置き得る。本會の療養の手續の内容は大體左の如きものである。

- (一) 診療(往診の車馬賃は會員自辨)
- (二) 藥劑(處方箋に依る藥劑の場合は一日本劑十錢以上を支給)
- (三) 入院(看護移送、食費を含まず)
- (四) 處置手術之に類するもの

而して療養の手當の期間は給付開始より轉歸の日迄とし本會囑託醫につき手當を受けるものとし、其の間費用の一部負擔として左の如く徴收される。

- 1、藥劑に就ては一日一劑に付大人四錢、小人二錢。
 - 2、普通診療處置手術に就ては費用の二割。
 - 3、入院診療及十圓以上の處置手術に就ては費用五割。
- 會員より徴收する掛金の率は左の如くである。

戶數割額 (半年)	戶數	掛金一戸 當(月)	同(一箇年)	掛金 年收額
五十錢未滿	一〇	三〇	三六〇	三六〇〇
一圓同	四七	四〇	四八〇	二二五・六〇
二圓同	一四〇	五〇	六〇〇	八四〇・〇〇
三圓同	一一七	六〇	七二〇	八四二・四〇
五圓同	九八	八〇	九六〇	九四〇・八〇
七圓同	六五	一〇〇	一三二〇	八五八・〇〇
十圓同	四二	一四〇	一六八〇	七〇五・六〇
十五圓同	三八	一七〇	二〇四〇	七七五・二〇
二十圓同	二〇	二〇〇	一四〇〇	四八〇・〇〇
三十圓同	四九	二五〇	三〇〇〇	五七〇・〇〇
五十圓同	一七	三〇〇	三六〇〇	六一二・〇〇
七十圓同	八	三・五〇	四二・〇〇	三三六・〇〇
百圓同	七	四・〇〇	四八・〇〇	三三六・〇〇
二百圓同	五	四・五〇	五四・〇〇	二七〇・〇〇

二百圓以上 三 五・〇〇 六・〇〇 一八〇・〇〇
計 六三六 八、〇〇七・六〇

尙同會一箇年の豫算は次の如くである。

收入ノ部	支出ノ部
保險料收入 八、〇〇〇・〇〇	療養ノ給付費 一一、六一八・〇〇
療養ノ給付費 三、九二五・〇〇	埋葬料 一四四・〇〇
一部負擔金 三〇〇・〇〇	助産費 一四四・〇〇
村補助金 五〇〇・〇〇	拂戻金 五八六・〇〇
納税組合補助 八〇〇・〇〇	事務費 一、一七七・〇〇
其ノ他ノ補助 一三、五二五・〇〇	積立金 一、一七七・〇〇
計 一三、五二五・〇〇	計 一三、五二五・〇〇

右の中其の他の補助とするは民間團體の補助を豫想したものであるが、國民健康保險制度實施の場合は大體國庫補助に當る額である。

かくの如く國民健康保險組合類似團體は極めて順調なる發展をなしつゝあるのである。之によつて之を見れば國民健康保險制度の前途は將に洋々たるものがあると言ふべきである。

國民健康保險法案要綱

第一總則

一、目的

本保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ國民ノ疾病、負傷、分産又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルコト。

二、保險者

本保險ノ保險者ハ國民健康保險組合トスルコト但シ營利ヲ目的トセザル社團法人ハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得ルコト。

三、補助金

國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトトシ道府縣及市町村モ之ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得ルコト。

第二 國民健康保險組合

一、總則

(一) 組合ハ普通國民健康保險組合及特別國民健康保險組合ノ二種トスルコト。

二、組織

(一) 普通國民健康保險組合ハ其ノ地區内ノ世帯主(被保險者タルベキモノナキ世帯ノ世帯主ヲ除ク)ヲ以テ其ノ組合員トシ其ノ地區ハ原則トシテ市町村ノ區域ニ依ルコト但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザル事ヲ得ルコト。

(二) 普通國民健康保險組合ニシテ其ノ組合員ノ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合監督官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ組合ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ヲ總テ其ノ組合員タラシムルコトヲ得ルコト但シ特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムル者ニ付テハ之ヲ組合員タラシムル者ノ範圍ヨリ除クコトヲ得ルコト。

(三) 特別國民健康保險組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ同一ノ事業

ニ使用セラルル者、同種ノ業務ニ従事スル者又ハ之ニ類スル其同ノ利害關係ニ在ル者ヲ以テ其ノ組合員トスルコト。

三、設立

組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作り組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ監督官廳ノ認可ヲ受タルコト。

四、被保險者

(一) 組合ハ組合員及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ以テ被保險者トスルコト但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラザルコト。

一、健康保險ノ被保險者

二、他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

(二) 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ多額ノ收入アル者其ノ他特別ノ事由アル者及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ被保險者ト爲サザルコトヲ得ルコト。

五、事業

(一) 保險給付

(イ) 組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付、分産ニ關シテハ助産ノ給付、死亡ニ關シテハ葬祭ノ給付ヲ爲スコト但シ特別ノ事情アル組合ニ於テハ助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲サザルコトヲ得ルコト。

(ロ) 特別ノ必要アル組合ハ前項ノ給付ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給シ又ハ前項ノ給付以外ノ給付ヲ爲スコトヲ得ルコト。

(ハ) 療養 助産又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス組合ニ於テ其ノ給付ヲ

爲スコト困難ナル場合其ノ他必要アル場合ハ之ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコト。

(二) 保險給付ノ種類、範圍、支給費其ノ他保險給付ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルコト。

(ホ) 組合ハ保險給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給付ヲ受クル者(給付ヲ受クル者組合員ニ非ザル場合ニ於テハ其ノ屬スル世帯ノ組合員)ニ負擔セシムルコトヲ得ルコト。

(二) 保健施設

組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得ルコト。

(三) 費用

(イ) 組合ハ其ノ費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保險料ヲ徵收スルコト。

(ロ) 保險料ノ額及徵收方法ニ付テハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルコト。

(ハ) 組合ハ特別ノ事情アル者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ依リ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得ルコト。

(ニ) 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給付ヲ受ケザリシ者(組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ被保險者トナス組合員ニ在リテハ保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員)ニ對シ其ノ期間徵收シタル保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得ルコト。

六、管理

(一) 組合ニ組合會ヲ置キ組合ノ重要事項ヲ議決セシムルコト。

(二) 組合ニ理事若干名ヲ置キ組合事務ヲ執行セシムルコト。

三、監督官廳ハ一定ノ場合ニ於テ組合、組合ノ事業ヲ行フ法人及組合聯合會ノ役員ノ職務ヲ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ルコト。

四、監督官廳ハ一定ノ場合ニ於テ組合、組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ解散ヲ命ズルコト(組合ノ事業ヲ行フ法人ニ在リテハ許可ノ取消ヲ得ルコト)。

第五 審査、調停、訴訟及訴訟

一、保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ノ爲ニ審査ヲ行ヒ組合、組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ト醫療機關トノ間ニ起リタル保險給付ニ關スル契約ニ付テノ紛争ニ關シ調停ヲ行フ爲國民健康保險委員會ヲ設置スルコト。

二、組合ノ保險料其ノ他ノ徵收金ノ賦課徵收、滯納處分又ハ組合ノ組合員若ハ被保險者ノ資格ニ關スル決定ニ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲シ得ルコト。

第六 其ノ他

一、保險料其ノ他ノ徵收金ノ滯納ニ付テハ組合ハ滯納者ノ居住セル市町村又ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得ルコト。

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ一定期間内ニ處分ニ着手セズ又ハ之ヲ結了セザルトキハ組合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得ルコト。

二、保險料其ノ他ノ徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅スルコト。

(三) 理事中一人ヲ理事長トシ組合ヲ代表セシムルコト。

(四) 普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事情ナキ限り關係市町村長又ハ其ノ指定シタル者ヲ理事中ニ加ヘ之ヲ以テ理事長ニ充ツルコト。

(五) 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得ルコト。

七、分合解散

(一) 組合ノ分割、合併又ハ解散ハ組合會ノ議決ヲ經テ監督官廳ノ認可ヲ受クルコト。

(二) 組合解散ノ場合ニ於ケル清算方法及財産處分ニ付テハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコト。

第三 國民健康保險組合聯合會

一、組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲國民健康保險組合聯合會ヲ組織スルコトヲ得ルコト。

二、組合聯合會ハ之ヲ法人トスルコト。

三、組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコト。

第四 監督

一、組合、組合ノ事業ヲ行フ法人及組合聯合會ハ内務大臣及地方長官之ヲ監督スルコト。

二、監督官廳ハ組合、組合ノ事業ヲ行フ法人及組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得ルコト。

三、國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セザルコト。

四、保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セザルコト。

五、保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押ヘルコトヲ得ザルコト。

六、組合、組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得ルコト。

船員保險制度

船員保險に就ては健康保險法が大正十一年第四十五回帝國議會の協賛を経たる際、貴族院に於て船員保險制度をも速ニ樹立すべしとの附帶決議をなし、又民間の海員團體からも本制度樹立に關して再三の陳情があつた。政府は昭和三年船員保險法案要綱を作成し、勞働保險調査會に諮問した所昭和四年右要綱に多少の修正を加へ、本制度を實施するを可とする旨の答申を得た。更に社會政策審議會に對し右修正要綱に依る船員保險法制定の可否を諮問した所、是亦實施するを可とする旨の答申を得た。仍て右調査會の修正したる要綱に基いて船員保險法案を作成せんとしたが、保險給付中に脱退手當金を加ふること及び國庫は保險料として費用の十分の二を負擔すべきことに對しては、財源の關係上之が修正を要するものがあり、已むなく脱退手當金を削除し、同時に國庫は事務費として保險給付に要する

費用の十分の一を負担すること、して船員保険法案を第五十九回帝國議會に提出するに至つたのである。右法案は衆議院に於て内務大臣の提案理由の説明及二、三の議員の質問があつた後、其の審議を委員會に附託せられ、委員會は五回の會議を開きたる儘審議未了に終つた。工場、鑛山、運輸其の他陸上に於ける勞働者に對しては既に工場法、鑛業法、勞働者災害扶助法及び健康保險法等に依り其の負傷、疾病其の他に付各々保護施設が設けられてゐるが、海上勞働者たる船員に對しては僅かに商法中に其の服役中の傷病に對する船主の責任に關する若干の規定あるのみであつて、均衡上可及的速に船員保險法を制定し、保護施設を確立することの緊要なるものあるを認め、目下之が調査研究中であるが、近く次の議會には提出の運びに至るものと考へる。

職員健康保險制度

俸給生活者は其の數及び質に於て國民の中堅層にして之が消長は直接に國家の盛衰に反映するのである。然るに是等一般俸給生活者はそれが高級者に非ざる限り自己又は家族の傷病に起因する費用の爲其の生活は常に脅威に曝されてゐるのである。

現行健康保險制度は工場、鑛山等の特定職員を被保險者とするに止り、未だ一般的に俸給生活者の全部を對象とせざるを以て職員健康保險制度を創設し、かくして一般俸給生活者の生活の安定を計ることは喫緊の要事と思惟せられるのである。仍て

目下之に關する各種の資料を蒐集し調査研究中であるから近く成案を得るであらう。

土木建築勞働保險制度

現行健康保險の強制被保險者は主として工場、鑛山、運輸等の事業に使用せられる勞働者であつて、土木建築勞働者に對しては未だ及ばず唯僅かに業務上の傷病に對する事業主の扶助責任に關する勞働者災害扶助法令あるに止るので、是等の者に對しては均衡上可及的速に土木建築勞働保險法を制定し生活の安定を計ることは極めて緊急事である。

社 會 行 政

は し が き

茲に社會行政と言ふのは主として公の費用に依つて一般無産大衆に給與又は便益を與へんとする公益的施設を營む狹義の社會行政のことである。この狹義の社會行政は更に生活能力なき者の救護を目的とする救護行政と、一般庶民大衆の生活上の利便を増進せんとする福利行政と勞働力の需給の調節を圖り、失業の防止と救済を爲さんとする職業行政とに分つ事が出来る。しかしてこゝに所謂狹義の社會行政上昭和十一年度に於て特筆すべき事柄は職業紹介事業に關する行政機構の改善、及び多年の懸案であつた母子保護法案、軍事救護法改正法律案、救護法改正法律案、北海道舊土人保護法改正法律案が第七十議會に提

出せらるゝこととなつたことである。

更に方面委員制度は後述の如く十一年十一月方面委員令の公布に依り法制化せられたが、畏くも 皇太后陛下にはこの方面委員制度が 大正天皇の聖旨を奉體して創始せられ爾來社會行政並に社會事業に貢獻する所多大なるに深く御感あらせられ 大正天皇十年式年祭に際し、表彰の 恩召を以て方面委員中の功勞者に蔭繪視箱を、全日本方面委員聯盟に多額の御内帑金を、又方面事業の功勞者の遺族に對し御菓子等を夫々御下賜になつた當局に於てはこの有難き 恩召に對へ奉るため、直に關係各地方長官に訓令を發して優渥なる 御沙汰を傳へ 諸旨の存する所を奉體し、今後益々本制度の普及徹底に努むべき旨通達した。

尙社會事業調査會は其の設置以來社會事業に關する諸般の事項を調査審議し、社會事業遂行上大いに貢獻する所があつたが、昭和十一年七月特に最近の社會情勢に應じ社會事業の全面的調査振興を期するため、本調査會の委員を増加し、之を廣く朝野有識の士に求め、機能の擴充強化を圖つた。かくて本調査會は大正十五年七月十五日第一回を開催して以來昭和十一年末までに回を重ねる事本會議十二回、特別委員會六十回に及び、政府提出の社會事業體系整備、兒童扶助制度、不良住宅地區改良事

業、感化法改正、融和促進施設、救護法施行勅令案、兒童虐待防止、農村社會事業の振興方策、軍事扶助事業の整備充實及び方面委員制度の法制化に對する諮問案に對し各特別委員會を設け、調査審議を爲し既に諮問ありたる事項に就ては答申を了つた。特に最後の三諮問事項は昭和十一年六月より七月にかけての數十回の會議に於て審議答申され、この答申に基き軍事救護法、救護法の夫々改正案の本議會提出となり、又方面委員制度の法制化は既に十一月に實施された譯である。

救護行政

一 救護法の改正 救護法は昭和四年四月制定、同七年一月より實施されたものであり、貧困の爲生活すること能はざる六十五歳以上の老衰者、十三歳以下の幼者、妊産婦及び不具癱疾、疾病、傷痍其他精神又は身體の障碍に因り勞務を行ひ得ざる者を救護せんとするものである。而して其の費用は原則として市町村が負擔し、道府縣は四分の一、國庫は二分の一以内を夫々補助することになつてゐる。然し昭和九、十兩年度は救護著しく増加したる爲國庫補助率は既定方針の五割を四割四分程度に低下せざるの已むなきに至つてゐる。

次頁に本法實施以來に於ける實績を掲げる。

年次	生活扶助		療助		産業扶助		合計
	人員	費	人員	費	人員	費	
昭和七年	3,169.6	1,511.1	4,303.3	2,032.3	1,334.4	4,077.9	3,607.9
八年	4,548.1	3,311.1	6,084.4	3,032.3	1,408.8	5,000.0	5,176.2
九年	5,055.9	3,407.7	7,386.6	3,407.7	1,111.1	4,077.9	5,810.3
十年	5,547.9	3,407.7	7,386.6	3,407.7	1,111.1	4,077.9	5,810.3
一箇年平均	4,277.8	2,777.8	5,810.3	2,777.8	1,111.1	4,077.9	4,688.8

註 昭和十年度は自四月至九月六箇月分を掲記す。

更に市部、郡部に分ちて要救護人員と被救護人員を比較すれば、左表の通りである。

要救護人員と被救護人員比較調

市部	要救護人員	被救護人員	要救護人員に對する被救護人員割合
市部	1,211,179	466,315	38.2
郡部	2,484,453	704,900	28.4
市部を100とした郡部の割合	205	152	

註 昭和十年五月一日現在調。

元來救護法第二十五條に於ては要救護者の救済は、たゞに地方的利益に關する問題たるのみでなく、弘く國家的利益に至大の關係ある問題たるの理由に基いて、救護費は國家及公共團體の負擔とし、原則として被救護者の居住地市町村をして支出せし

めるのであるが、之に對しては國庫より二分の一、道府縣より四分の一を補助して救護費の實質的負擔を國、道府縣、市町村の間に二・一・一の割合で分つことが國庫及び公共團體の財政上の負擔力に照して均衡を得た制だとし、斯の如き割合を定める趣旨であつたが、同法制定當時に於て主として當時の國庫財政上の理由に基いて此の負擔割合の中府縣の負擔割合である四分の一を確定率としたにも拘らず、國庫に屬する分、即ち國庫補助率は一應之を二分の一以内と定め、豫算の範圍内に於て補助すること、定めたので、その結果は國庫補助率の低下したときほそれだけ公共團體（主として市町村）の負擔を増加することになつたのである。

斯くて昭和六年法律施行以來二百七十五萬五千六百六十四圓の補助豫算を以て昭和八年度迄一〇〇分の五〇を維持したのであつたが、國庫補助率は社會の情勢の推移に伴つて要救護者の

増加し來つた爲に自然公共團體（主として市町村）の救護費支出額を増加し、爲に昭和九年度に於ては四四・三、昭和十年度に於ては四三・五となり、昭和十一年度に於ては補助豫算を増額（七十萬圓）して三百二十七萬五千六百六十四圓としたのであつたが、現在の見込では四五程度の補助を爲し得るに止る様である。此の如き國庫補助率の低下は自然公共團體の負擔割合を増加するので、公共團體は自然救護費支出を手控へるの已むなきに至つた。それが爲に要救護者に對する必要な救護の普及が妨げらるゝ現状になつたのである。

故に本議會に提出せんとする改正法律案に於ては第一には國庫補助の割合を二分の一の確定率とし、將來必要に應じて國庫豫算を補充科目となす事に依り、地方團體をして國庫の補助率に對する從來の不安を一掃し、確實なる信頼の念を與へ、以て救護法運用の普及徹底を期せんとするとともに、第二には從來の實質的負擔割合である二・一・一の割合は都市に於ては、今尙支障なきも、近時農村に於ては經濟的打撃に伴ひ町村財政力を弱くした結果、町村に於ては町村負擔が部分多きに過ぎるに至りたるのみでなく、近時要救護者の増加に伴ひ益々多額の費用を負擔せざるべからざるに至つたので、從來の儘では自然法律運用の障害となりつゝある事實を認めらるゝにより之を改めて七・三・二の割合となすことである。

二 軍事救護法の改正 軍事救護法は大正七年一月より施行昭

和六年三月一部改正せられたものであり、陸海軍下士兵卒にして戦闘又は公務の爲傷痍疾病に罹り之が爲一種以上の兵役を免ぜられたる者及び其遺家族、陸海軍現役兵及び應召中の陸海軍下士兵卒の家族並に戦死若しくは公務傷病に因り死歿したる陸海軍下士兵卒の遺族で生活すること能はざる者を國費を以て救護せんとするものである。

本法による救護は連年に亘る經濟界の不況、今次滿洲事件による影響及び本法の趣旨普及等の結果近年著しく増加し、昭和九年度に於ては被救護者三萬一千九百九十六戸、十萬五千七百七十二人に達し、之が救護費二百八十萬餘圓に及んでゐる。更に昭和十年度は當初豫算二百七十四萬餘圓であつたが、不足を生じた爲め第一豫備金及び國庫剩餘金より八十六萬七千餘圓を支出補充した有様である。

今回法律改正の趣旨は現行法の適用範圍が猶狹小であり又扶助を受ける資格要件が嚴格に過ぎる爲に當然扶助を要すべくして扶助を爲し得ない事例が相當數に達するので、其の適用範圍を擴大し且扶助を受ける資格要件を緩和し、以て現時内外益々多事多端の時に兵役に服する者をして後顧の憂なく其の責務を全くせしめ、軍事扶助の徹底を期せんとするに在るのである。

- 一、法律の名稱は之を軍事扶助法と改むること。
- 二、適用範圍を左の如く擴張すること。

(イ) 故意又は重大なる過失なくして在營中又は應召中に傷痍を受け若は疾病に罹り一種以上の兵役を免除せられたる者及其の家族、遺族をも扶助すること。

(ロ) 下士官兵又は傷病兵に依り扶養を受くべき者にして同一の家在に在らざるも同一の世帯に在る者(直系血族又は兄弟姉妹)は之を扶助すること。

三、下士官兵の家族に對する扶助は下士官兵退營又は召集解除の日より二十日以内之を繼續し得ることとする。

四、現在は扶助を受くべき者は生活すること能はざる者に限れるも之を生活困難なる者をも扶助することに改むること。

三 母子保護法案 自ら生計を維持し且子女を養育する立場にありながら、貧困にしてその責を果し得ぬ母に對し相當の扶助を與へ、安んじて子女の養育に當らしめ、子女の健全な發育を期することは、次代の健全なる國民を得るために喫緊のことである。社会局の調査に依れば昭和十年五月現在に於て以上の如き要保護母子が約九萬五千人も存在する。現在も救護法又は公私團體經營の母子保護施設が存在し、貧困母子の救助に相當の活躍を爲してゐる。即ち救護法に依る母子保護狀況は下表の通りであり、其の他母子保護施設に就いて見れば、母子ホーム、母子寮其の他母子保護施設は全國に約四二も存在してゐる。

救護法に依る母子保護狀況

費ヲ給スルコトヲ得ルコト。

第五 市町村長ハ扶助ヲ受タル母ニ對シ其ノ子ノ養育上必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得ルコト。

第六 道府縣、市町村又ハ私人ハ扶助ヲ受タル母及其ノ子ヲ保護スル爲必要ナル施設ヲ設ケ得ルコト。

第七 費用ノ負擔其ノ他ハ救護法ノ例ニ準ジ左ノ如クスルコト。

(一) 扶助及埋葬ノ費用ハ母ガ同一市町村内ニ引續キ一年以上住居スルトキハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ場合ハ關係道府縣ノ負擔トス。

(二) 方面委員ガ職務ヲ行フ爲必要ナル費用ハ市町村ノ負擔トス

(三) 第六ノ施設ノ費用ハ之ヲ設置スル公共團體又ハ私人ノ負擔トス。

(四) 國庫ハ道府縣、市及ビ私人ノ負擔スル費用ニ對シテハ二分ノ一、町村ノ負擔スル費用ニ對シテハ十二分ノ七ヲ補助ス。

(五) 道府縣ハ市町村、私人ノ負擔スル費用ニ對シテ四分ノ一ヲ補助ス。

四 方面委員制度の法制化 方面委員制度は地方民間の篤志家にして日常要保護者に接し得るやうな人を、府縣知事其の他經營團體の代表機關が、名譽職の委員に依頼し、隣保相扶の精神に基きよく實狀を知つた近隣の貧困者に對し、合理的且組織的な救濟を行はしめ、社会事業の効果を完からしむる趣旨に出たものである。この制度の我國に於ける發端は大正六年岡山縣濟生顧問の創始に在り、爾來社会情勢に促されたこと、及びこの制度の成績の良好であつたことに基因し、各地方にこの制度は

年次	十三歳以下の幼者	幼者哺育の母	總 額
昭和七年度	實人員 金 額	實人員 金 額	實人員 金 額
八年度	六三、二四〇、一三二、三九五	一、三三三、三五、五七二	一、四一、四三六、三、六〇七、九三三
九年度	八四、五六六、一九四、七三三	一、七五八、五八、〇九八	一、九四、四三三、五、一七六、二二四
同 九年度	九二、九四六、二〇五、三六四	九九九、一九、四四五、二〇四、九二一	一、一五、八〇、三、三六

かゝる貧困母子の保護の擴充徹底を期する爲、母子保護法制定の運びとなつた譯で、その法案は愈々第七十回帝國議會へ提出されることになつた。その法案要綱は左記の通りである。

母子保護法案要綱

- 第一 十三歳以下ノ子ヲ擁スル母ニシテ自ら生計ヲ維持スベキモノ貧困ノ爲生活スルコト能ハズ又ハ其ノ子ヲ養育スルコト能ハザルトキハ之ヲ扶助スルコト但シ母ガ性行其ノ他ノ事由ニ因リ子ヲ養育スルニ適セザル場合ハ之ヲ扶助セザルコト。
- 第二 母ニ代リテ十三歳以下ノ孫ヲ擁スル祖母ハ前項ノ母ニ準ジテ之ヲ扶助スルコト。
- 第三 母及其ノ子ノ扶養義務者扶養ヲ爲スコトヲ得ルトキハ急迫ノ事情アル場合ニアラザレバ之ヲ扶助セザルコト。
- 第四 母ノ居住地ノ市町村長ヲ扶助ノ機關トシ方面委員ヲ之ガ補助機關トスルコト。
- 第五 扶助ハ母ノ生活及子ノ養育ニ必要ナル限度ニ於テ其ノ居室ニ於テ之ヲ行フコト。
- 第六 扶助ノ種類ハ生活扶助、養育扶助、生業扶助及醫療トシ扶助ノ程度及ビ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコト。
- 第七 扶助ヲ受タル母又ハ其ノ子死亡シタルトキハ埋葬ヲ爲シ又ハ埋葬

普及し、昭和三年には既に内地諸府縣は勿論臺灣、朝鮮等外地に迄此の制度が布かるゝに至り、殊に昭和六年救護法施行に伴ひ救護事務の保助機關たる委員には方面委員を委嘱するの方針が採られてからは益々之が普及を見るに至つた。

かくて方面委員の總數は昭和十一年初内地のみでも四萬七百に達し之に外地の分を加へると實に四萬二千を超える狀況となつた。この制度の經營主體は多く道府縣であつて、外に若干の市町村及民間團體がある。制度の分布狀況を見るに殆ど全國に普及してゐた。内地に於ては昭和九年末八千二百三十六市町村が之を有し三千二百九十七町村が未だこの設備を有してゐない。

方面委員の使命は貧困の豫防救濟の爲社会事業の活動をより効果的ならしむるに在り、其の職務は社会調査、保護救濟其の他各種社会施設の整備促進等極めて廣範圍に亘つて居り、其の取扱事件數も年々増加し昭和十年度には約六百萬件に上つてゐる。方面委員は豫ねて要保護者を調査し、之を一定のカードに依り記帳して置くのであるが、此カードは昭和九年末に於て四十九萬世帯、其登録人口百九十九萬餘に上り、内地總人口に對する割合は市部に於て約五%、郡部に於て約二・五%に上つてゐる。

以上の如く社会行政乃至社会事業の効果を左右すべき中樞的機能を有する方面委員制度に關しては、之が法制化の要求が、方面委員間に於ては勿論、其他關係各方面から叫ばれた。方面委員制度の法制化の理由は、第一に方面委員制度を法制化し、

之に國法上の基礎を與へることに依り、將來各種の行政に於て圓滑に之を利用することが出来、社會事業方面に於ける行政上の能率を益々高めることが出来る。第二には近來社會事業の職能に關しては單なる物質的施與に止らず、進んで被保護者の人格的向上をも圖るべしとの主張が強く、方面委員の此の方面に於ける使命も愈々重要なものとなつて來た。故に方面委員の信條たる指導精神の確立は制度上最も重視すべきものであり之を法規により明確に宣示する必要がある。而して第三には從來この制度は各地方により任意的に行はれ、組織經營の方法も區々であり、その成績も地方に依り優劣の差が甚しかつたので彼是採長短補以て全國的に綜合發達せしむることを必要とする。以上の如き理由ある要望に接し、當局も亦速に之が法制を整備し積極的な指導監督を爲すことの必要なるを認め、十一年七月社會事業調査會に對し内務大臣より諮問を發し、其の答申を基礎として考究した結果こゝに方面委員令（昭和十一年勅令第三九八〇號）の發布となつた。本令は十一年十一月十四日發布、十二年一月十五日より施行せられるものであるが、其の内容中注意すべきものを挙げれば次の通りである。

- (一) 方面委員の指導精神及宣示したこと（第一條）。
- (二) 委員の職務を明確に規定したこと（第六條）。
- (三) 東京横濱兩市の外は道府縣の經營すべきものと定められたこと（第二條）。

- (四) 方面委員銜委員會を設け委員の人選を慎重にしたこと（第五條）。
 - (五) 方面事業委員會を設け方面事業の指導的役割を持たしめたこと。
 - (六) 方面委員會に市町村長を出席せしめ委員と市町村當局との連絡に留意したこと、第九條。
- 尙参考として方面委員制度の施行狀況を示せば次表の通りである。

方面委員制度施行狀況				
(1) 經營主體別施設數調（昭和十年三月末現在）				
道府縣	市			
四五	六			
町村	團體			
二六	三			
計	八〇			
(2) 方面委員制度設置狀況（昭和十年三月末現在）				
全國町村數	設置町村數	未設置町村數		
一一、三八二	八、〇八五	三、二九七		
(3) 市、町村別方面委員數調（昭和十年三月末現在）				
町村に於ける委員數	市に於ける委員數	委員總數		
二九、五〇二	九、七五二	三九、二五四		
(4) 市、町村別方面委員制度施行地域總世帯及び人口並方面カード登録世帯及び人口調（昭和十年三月末現在）				
種別	總世帯數	第一種	第二種	計
世帯市	四、五七一、七七七	一一四、九二六	一五五、五八三	二七〇、四九九
町村	六、六五五、九三三	五五、六九六	一九九、三九九	三三〇、〇六五
		方面カード登録世帯數並に人口		

人口（市）	
二、九七五、八〇〇	四九、四七〇
（町村）	三五、五九六、〇四九
	一八三、三三三
	六四〇、九〇六
	七〇六、三六七
	一、一〇〇、五七六
	八八九、六九六

五 北海道舊土人保護法の改正 北海道舊土人の保護に關しては明治三十二年に北海道舊土人保護法が制定され、大正八年之が一部改正されたるのみにして今日に至つた。然るに舊土人の状態は本法制定當時に比して進歩を遂げたるのみならず、北海道四圍の情勢も拓殖の進歩と共に著しい變遷を見た。その結果舊土人生活の實情並に四圍の情勢に適應させるに至つたので、之に法律を改正し、或程度の土地の融通を認め實情に適應する救護を爲さんとするものであつて、改正法律案を本議會に提出することゝなつた。

六 罹災救助 我國は氣候風土等の關係から風水害、震災、凶饑、火災等の天變地異比較的多く、従つて之が救済に關する制度は古來相當の發達を遂げたが、明治十三年備荒儲蓄法の制定により略々救済制度の確立を見、亞で明治三十二年現行罹災救助基金法の發布により之が制度の整備充實を見た。其の要旨は府縣の貯蓄すべき最少額は五十萬圓とし、例外として沖繩縣は二十萬圓、北海道百萬圓である。之が救助範圍は府縣の全部又は多數の人民同一の災害に罹りたる場合救助するものである。昭和十一年度初めに於て罹災救助基金現在高は全國を通じて八千九百五十五萬圓餘に達し、北海道、沖繩縣を除けば一府縣平均約百九十八萬圓となつてゐる。救助費の支出は毎年災害の

種類によつて變動あるを免れないが、各年共特に支出の多きものは食料費、小屋掛費、就業費等である。

七 郷倉助成 昭和九年東北地方の冷害に因る大凶作に際して常に自ら凶作に備へ隣保相扶け、以て之が更生に資すべき施設を講ぜしめるの御趣旨を以て同十一月 天皇、皇后兩陛下より多額の資金を御下賜あらせられた。

仍て政府は右御聖旨に副ひ奉る爲慎重考慮の上御下賜金を基礎とし、東北地方に對して郷倉の設置普及並に既設郷倉の獎勵を爲すこととし、昭和九、十兩年度分合計百六十三萬餘圓を關係縣へ夫々配布した。之が爲各縣に於ても鋭意其の設置獎勵に努力した結果、獎勵を爲した既設郷倉一千二十九棟、新設四千九百二十一棟、計六千三百三十棟に及び、工事は昭和十年度を以て概ね完了した。

而して郷倉は主として部落毎に郷倉組合を組織し、組合員たる農家は全體十二月末迄に其の年の貯穀を爲すものとし五箇年位で満量せしめる計畫である。尙貯穀を容易ならしめる爲各郷倉に備荒田畑を設置し、之を組合員が共同耕作し、或は小作に附して之が収益を貯穀するもの相當多數ある。次に之が實績を掲げる。

郷倉御下賜金及獎勵金交付額並に建設棟數

（昭和九、十年度合計）

福利行政の目的とする所は一般庶民階級生活の福利向上を計るにあるが、其の主なるものは次の如くである。

御下賜及獎勵金額	建設棟數	
	新設	既設
宮城 千円 八〇・五	千戸 八元	千戸 二八
福島 千円 九三・一	千戸 三三・六	千戸 八二
岩手 千円 一〇五・六	千戸 三三・七	千戸 一〇七・五
青森 千円 八二・九	千戸 一七・一	千戸 六〇
山形 千円 七六・六	千戸 二六・九	千戸 九七
秋田 千円 六一・五	千戸 二〇・八	千戸 八八
合計 千円 五〇〇・二	千戸 一六六・八	千戸 四九三

昭和十年度郷倉貯穀調	
貯穀石數	貸出石數
宮城 千石 五二・一	千石 五・六
福島 千石 二七・六	千石 〇・三
岩手 千石 四一・八	千石 〇・二
青森 千石 一・八	千石 〇・四
山形 千石 四八・二	千石 〇・一
秋田 千石 二六・五	千石 〇・一
合計 千石 一九八・〇	千石 一・七

昭利行政	
貯穀石數	蓄積現金
宮城 千石 五二・一	千円 二二・〇
福島 千石 二七・六	千円 八〇・一
岩手 千石 四一・八	千円 三三・七
青森 千石 一・八	千円 七二・三
山形 千石 四八・二	千円 七二・三
秋田 千石 二六・五	千円 五二・〇
合計 千石 一九八・〇	千円 二四九・一

一 經濟保障事業の促進 1 公益質屋 質屋は夙に庶民金融機關中最も廣く利用されてゐる所であるが、民間質屋は營利を目的とする爲に貸付利率概して高く、利子の計算其他に於て利用者の不利不益尠くない。之に對して政府は是等庶民階級の經濟的保護施設の一つとして公益質屋制度確立の急務なるを認め、公益質屋法を制定し、昭和二年八月十日から實施することとなつた。

本法に於ては貸付利率、利子計算方法、流質期限、質物處分方法等に關して努めて利用者の便宜を計ると共に、經營者たる市町村又は公益法人に對しては其の設備費の二分の一の國庫補助を爲し、之が設置を獎勵してゐる。他面之の運轉資金及び設備費として低利資金を融通して公益質屋の普及發達を圖つてゐる。其の結果公益質屋は法實施當時僅か七十一箇所を過ぎなかつたが逐年増加し、昭和十一年四月末現在に於て市町村營千六十八、公益法人經營二十三、合計千九十一箇所の設置を見るに至つてゐる。更に農業恐慌以來特に農山漁村に於て金融梗塞甚しきを加へるに及び、政府は時局匡救對策の一方法として昭和七年以降極力是等地方に之が設置獎勵に努力しつゝある。

然るに之を民間質屋數昭和九年末現在一萬二千七百に比較すれば尙及ばざること遠き状態に鑑みて將來一層の普及發達を圖り、之が利用増進を期してゐる。次に本法實施以降に於ける成績を見れば次表の如くである。

年度別	貸付狀況	
	貸付口數	貸付したる金額
昭和二年(昭和二年八月)	三一	一、六六二
同(昭和二年三月)	六〇四	三、二二七
同三年	九五〇	五、一七二
同四年		
同五年		
同六年		
同七年		
同八年		
同九年		
同十年		

年度別	昭和五年度	
	貸付口數	貸付したる金額
昭和五年	一、二二九	六、四八〇
同六年	一、四三三	七、二四二
同七年	一、七三一	八、四七五
同八年	二、二五四	一一、七九七
同九年	二、九〇一	一五、六九〇
同十年	三、四九七	一九、一八九

年度別	職業別利用者數	
	勞働者	生活者
昭和二年(昭和二年八月)	八二	八七・〇
同(昭和二年三月)	一八九	一九七・三
同三年	一九六	二七〇・八
同四年	二六一	三三三・八
同五年	三二四	四三三・八
同六年	五二〇	六五五・〇
同七年	七六五	一、〇七四
同八年	九九九	一、四二八
同九年	一、〇七九	一、八二八
同十年	一、〇七九	二、〇〇〇

職業別	昭和五年度	
	利用者數	金額
勞働者	八二	八七・〇
生活者	一八九	一九七・三
小工業者	一、〇七九	一、八二八
小商人	一、〇七九	二、〇〇〇
農業者	一、〇七九	二、〇〇〇
漁業者	一、〇七九	二、〇〇〇
其他	一、〇七九	二、〇〇〇
計	一、〇七九	二、〇〇〇

即ち貸付口數、貸付金額共累年相當の成績を見せつゝある。更に利用者數別に見れば勞働者最も多く、之に次では小商人、小工業者、農業者、俸給生活者、漁業者の順序を示してゐる。

特に昭和七年以來漁業者、農業者の利用者増加著しい。住宅供給改善 我國の住宅難は大正八、九年、即ち彼の世界大戰の影響に依る好況は人口の急激なる都市集中を招來し、

之が爲に住宅難甚しく、此の傾向は主要都市より漸次小都市に波及し、遂に庶民生活に一大脅威を加へるに至つた。

茲に於て政府は住宅の數的緩和に加へて質的改善をも圖る目的を以て公共團體の住宅經營を奨勵し、之が建設に就ては低利資金を融通する事とした。更に大正十年四月には住宅組合法を發布するに至つたが、其の骨子とする所は互助的組織によつて住宅の所有權を取得せしめんとするに在り、之に對しても低利資金の融通を計り事業を助成せんとするものである。爾來住宅建設資金として政府の融通した低利資金總額は一億三千五百餘圓に達してゐる。昭和四年度からは住宅難も漸次緩和されるに至り、住宅資金の融通減少を見るに至つた。更に昭和八年度からは從來道府縣を経て市町村住宅組合公益法人等に轉貸した融通を市町村に對する分は政府の直接貸とした。低利資金融通による住宅建設數は大正八年以降昭和十年迄に八萬三千餘戸（内木造店舗資金によるもの六千餘戸）、住宅組合數昭和十一年末現在に於て二千八百十三、組合員三萬一千六百二十餘人、之が建築費總額六千九百三十萬餘圓に達してゐる。更に農山漁村の住宅に關しては經濟上或は保健衛生上改良すべき點尠からず、政府として之が方策施設に充分の注意を拂ひつゝある。

右の一般住宅行政の外東京大震災の結果東京府外六縣に亘つて家屋の喪失夥しく異常なる住宅難を招來したの對し、政府は低利資金の融通によつて之が復舊を助成した。更に大正十四

年の丹後但馬地方の震災、昭和二年の奥丹後地方の震災、昭和五年の豆相地方の震災、昭和八年三陸地方地震嘯災及び昭和九年關西地方風水害其他の天災に因る住宅の復舊に對しても其の都度資金の融通を行つて之が復舊に努力しつゝある。右の外震災義捐金の内一千萬圓を以て設立された財団法人同潤會をして東京府及神奈川縣下に普通住宅「アパートメントハウス」等を建設して住宅難緩和に資しつゝある。

ハ 不良住宅地區改善 現在大都會には殆んど住居と認め難き程度の不良住宅多數に存在し、衛生風紀並に保安上甚だ憂ふべき状態に在る。曩に政府が全國に亘つて不良住宅百戸以上集團した地區に就て調査したのものによると、地區數二百十七、總面積約二百萬九千坪、住宅棟數四萬一千七百七十四棟、七萬二千六百十二世帯、居住者三十萬九千餘人に及んでゐる。茲に於て政府は之が改良事業に關する制度を確立し、先づ六大都市及び其隣接町村中の代表的地區より漸次改良事業を實施するの方策を樹て、昭和二年七月より不良住宅地區改良法を實施した。之が實施に當つては公共團體或は公益法人をして行はしめ、政府は事業費の二分の一を補助することとし、其の額昭和二年より十年迄に三百二十萬圓に達してゐる。昭和十一年度以降も繼續豫算として國庫負擔の契約を爲し事業の遂行を企圖してゐる。

ニ 社會事業の奨勵 晩近社會問題の醸成に伴ひ社會事業も漸次進歩發達し來り、各般の施設も著々整備されつゝある。然

るに之に要する經費の調達に困難しつゝあるもの多き状態に鑑み、大正八年以降社會事業發達を助成促進を計る爲め預金部低利資金を融通する事とした。大正八年以降昭和十年度迄の融通總額住宅關係を除き三千三百餘萬圓に達してゐる。其の主なるものは大正八年より昭和十年迄に於て公益質屋の一千六百萬餘圓を筆頭とし、公益市場、不良住宅地區改良、救療施設、宿泊所、地方改善地區改良事業、職業紹介所、生業資金、共同宿泊所、簡易食堂、共同浴場、託兒所、授産場、隣保事業等である。

二 數化事業の強化 1 國民更生運動 國民更生運動は昭和七年九月以來國民をして自力更生を圖らしめる目的を以て開始され、爾來中央地方相呼應して之が普及徹底に努力しつゝある。之が實行方法としては各省關係者又は民間團體關係者間の協議會を開催、各種計畫樹立、連絡方法等の打合せをなし、各地方に於ても講演會、講習會、座談會等を開いて實效を擧げるに努めてゐる。

□ 隣保事業 勞働者其他の集團居住地には綜合的社會施設即ち隣保事業を經營して之が精神的並に經濟的生活の向上を圖ることが大切である。政府に於ても從來助成交付金等の方法によつて之が經營を奨勵し來たつたが、其の數極めて少く其の普及を見るに至らなかつた。由來隣保事業は主として民間篤志家に經營されるものが多かつたが、是等は概ね資力に乏しき憾みなしとしなかつた。近時漸く公營化の傾向あり従つて現時の状

態では公私營併進を期す要あり、之に對しては低利資金の融通によつて効果を擧げるに努めてゐる。

三 協和事業 内地在朝鮮人の數は大正十三年末十一萬八千餘人に過ぎなかつたが、昭和十年六月末に於ては六十萬八千餘人の多きに達してゐる。而も言語、風俗、習慣、生活様式等の點に於て内地人と異なる所多く、之が爲に種々の問題を生じ遺憾の點尠しとなかつた。之に對して其の生活改善向上に適當なる指導を加へ、指導教化の徹底を圖る爲めに之に要する經費を計上し相當の施設を爲すこととなつた。

職業行政

勞務の需給調節を計る職業行政は職業紹介事業及び失業應急事業を中心とするものであるが、これに關し昭和十一年に於て特に記すべきものとしては、前者に於て職業紹介に關する行政機構の改善、後者に於て失業更生訓練施設の助成等があつた。今是等を中心として昭和十一年の職業行政を概観する。

一 職業紹介事業 1 職業紹介に關する行政機構の改善 顧るに世界大戰以後、社會的情勢は職業紹介の公益性を一般に認識せしめ、之に關する國家的行政機構の確立を要請した。特に一九一八年の第一回國際勞働總會に於て「中央官廳管理下ニ在ル公ノ無料職業紹介制度ヲ設クベシ」と規定した失業に關する條約案が採擇せられた事は、國家管理下にある公營の無料職業紹介制度の新設及び在來の營利職業紹介業者に對する直接嚴重

なる國家監督の必要を促した。かくてこの必要を充たす目的を以て制定せられたものが、職業紹介法（大正十年法律第五號）、船員職業紹介法（大正十一年法律第三十八號）、労働者募集取締令（大正十三年内務省令第三十六號）、營利職業紹介事業取締規則（大正十四年内務省令第三十號）等一群の諸法令である。そして是等諸法令と相前後して職業紹介事務局官制（大正十二年勅令第百七號）が制定せられ、これに依つて職業紹介事業の連絡統一及「職業紹介事業の監督」に關する特別の行政機構が確立せられた。かくて爾來約十五年近くを經過し、其の間公益職業紹介事業は後述の如き發展を遂げ、現在に於ては失業者乃至未就職者に對する消極的授職機關としての活動に止らず、進んで産業に對する所用労働者の供給機關としての積極的機能をも發揮する状況にまで進展した。然しながら法施行後の幾多の經驗に徴し、職業紹介事業の一層の發展を期せんが爲には、現行法に相當の改正を加へる必要を認むるに至り、其の改正法律は第六十九回特別議會を通過し十一月九月より新制度が施行せられた譯である。舊制度の改正眼目は次の三點である。

1 舊法に於ては職業紹介事業の連絡統一並に其の監督は中央及地方（全國七箇所）の職業紹介事務局の管掌する所であつたが（舊法第七條）、今回之が權限を内務大臣及地方長官に移管した（法第七條）。舊制度に於ては職業紹介事務局長は職業紹介事業に關する監督權を有するのみで、紹介所の經營主體たる市町村自體に對する

る一般的監督權を有せぬため、職業紹介の擴充普及を計る上に於て充分な活動を爲し得ぬ憾があつた。又職業紹介事業に密接な關係を有する失業應急事業、授産並に職業輔導事業、營利職業紹介事業取締、労働者募集取締、移民等は地方長官の管掌する所であつたので、職業紹介事業のみを別系統に屬せしめるよりは之を地方長官の下に統一し、職業紹介事業の發達を期すると共に之と密接なる關係を有する前記各種行政の圓滑なる運営をなさしめる必要があつた。そこでこの必要に應ずるため上記の如く職業行政機構の改善が行はれた。

2 從來職業紹介所の經營主體は原則として市町村であつたが（舊法第二條）特別の必要ある場合には道府縣も之を設立し得ることとした（法第二條第二項追加）。職業紹介所の經營主體を原則上市町村とする建前では、町村の財政其の他の事情から見ると紹介所の位置若しは充實の必要上遺憾の點あるに鑑み、將來紹介所の分布の適正を期して行く上の適切な手段と思考せられる。

3 多數の労働者を雇傭せんとする者をして職業紹介上必要なる事項を豫め地方長官に通報せしめることとした（第十二條ノ二）。この規定は全く新しく追加せられたものであつて、職業紹介機關が労働者給の圓滑を計るため、産業界に於ける労働者の需要を豫め知悉せんとする目的に出たものである。右は大體三〇名以上の労働者を雇傭せんとするものに對し、被傭者の性別、職業別、人員等を通報せしめるのである。

要するに以上改正の趣旨は職業紹介と密接なる關聯を有する

各種地方行政と職業紹介事業を統一綜合し以て全國の勞務需給關係を一目瞭然たらしめ、労働市場の整備、事務の簡捷を期するに在る。尙職業紹介事業は勞務需給の全國的整備を使命とするものなるを以て紹介所を國營とせぬ以上今回の如き職業紹介に關する行政機構の改善のみでは不充分なり、速に之を國營とすべしとの聲は職業紹介委員會、紹介所員等を始め各方面に於て主張され、改正法律通過に際し貴族院に於ては是等の要望を容れ希望決議として附加した。今後の問題として之が具體案に對しても相當考究せられるであらう。

かくて以上の如き改正に依り、内務大臣及び地方長官の管掌する夫々の事務を處理するため社會局職業課及び各地方廳に職員が増加があつた。即ち社會局職業課に事務官一名、理事官一名、屬七名、囑託雇員一〇名、各地方廳を通じ、事務官一名、

一般職業紹介及び日備労働紹介取扱成績

年次	一般職業紹介		日備労働紹介	
	求人数	就職者数	求人数	就職者数
大正十二年	八七、四三七	三二、五五〇	一、一五八、一三四	一、〇九一、〇四七
昭和元年	七三、七三〇	二二、五六三	二、五三三、一七七	二、七九三、三六四
同 四年	七〇、五三二	二二、六六九	三、〇一五、一九五	三、四七三、三三七
同 八年	一、四五一、九九八	六三三、三三五	一、六八七、一四三	一、二四、二七三
同 十年	一、九七、九八三	七四一、六四二	二、九八八、七二一	一、四、四六三、七〇〇
同十一年八箇月分	一、三七一、五三一	五三三、七九四	九、五九三、三〇九	一、〇、五〇一、六〇五

屬六二名、囑託雇員七二名の各増加が之である。而して北海道、東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、新潟縣、長野縣、愛知縣、廣島縣及び福岡縣の十一府縣に事務官の配置、職業課の設置となり、其の他の縣には學務部社會課に各職員の配屬あり、昨年九月から新制度は其の活動を開始したのである。

職業紹介取扱状況 職業紹介取扱所数は職業紹介事務局の設置せられた大正十二年末に於ては僅に一三五箇所であつたが、昭和十一年末には實に六九三箇所の多きに達した。そして之が取扱部門も専門化し、日備労働紹介所六二、婦人専門紹介所八、青少年専門紹介所二、知識階級専門紹介所一、朝鮮人専門紹介所四となつてゐる。

次に職業紹介取扱成績を見るに、一般職業紹介（日備労働紹介を除く）に於ては職業紹介事務局開設當初第一年に三十一萬人

餘を就職せしめたが、昭和十年には七十四萬人餘を就職せしめるに至つた。昭和十一年八月末日に既に五十四萬人餘を就職せしめてゐる。日傭労働紹介に於ては、其の紹介員数は最初延百九萬人餘であつたのが、昭和八年には千六百七十七萬人餘に増加し、以後九年、十年と多少の減少を見せたが、尙相當數を算してゐる。一般職業紹介及び日傭労働紹介取扱の累年成績は前頁表の通りである。

尙除隊兵就職斡旋及び少年職業紹介に就いても逐年その成績は良好に發展してゐる。即ち前者に於ては昭和十年の斡旋數約七千六百人で前年に比し約三千人近くの増加を見た。最後に於ては先づ昭和十一年三月小學校卒業兒童に就いて見るに、五月末現在に於て職業紹介就職者數約四萬八千人で前年に比し五千餘人の増加を示してゐる。更に十八歳未満者に於ても逐年増加の傾向に在り、大正十五年の六千三百人から昭和十一年には十五萬八千人に躍進してゐる。

こゝに營利職業紹介事業の状況を一瞥し、その勞力斡旋上の地位を見るに、職業紹介事務局設置當時約一萬人を算してゐたものが、昭和二年營利職業紹介事業取締規則の實施を機として一舉三千三百人に激減し、以後漸減の傾向を辿り昭和十一年九月末に於ては僅か二千八十六人となつた。是等營利業者を利用する求人數は年々百萬人内外を示し、就職者又年々五十萬内外なるも求職者數は略々漸減の傾向に在り、最近三箇年を見れば

昭和八年七十七萬人、昭和九年七十二萬人、昭和十年七十四萬人にして、殊に女子就職者の減少傾向顯著である。
ハ 出稼紹介斡旋 出稼斡旋は地方的季節的經濟事情に基く勞力の不均衡を調整し、社會勞働の徒消を防止すると同時に、出稼者——大部分は地方農民である——の稼得收入に依り生活の堅實を計らしめる使命を持つてゐる。中央職業紹介事務局の調査に依れば全國道府縣外出稼者は年々百萬人内外であり、職業紹介所で斡旋せられるものも最近十五、六萬人に及んでゐる。かゝる出稼勞力の適切迅速な斡旋と之が保護助長に關しては早くより考慮せられた所である。即ち國家としては、一方勞働者募集取締令其の他により出稼の營業的仲介者を取締ると共に、他方職業紹介所をして適切な斡旋保護の任に當らしめ、更に出稼保護組合の助成、就職旅費の貸與等の諸方策を施した。而して特に東北地方の出稼者に關しては格別の考慮を拂ふの必要を認め昭和十一年度(十月以降)より東北六縣に對し専任職員を配置すると共に、左記要綱に依り出稼指導囑託員を設置せしめ、又出稼者保護組合を助成することとなつた。

出稼指導囑託員設置要綱

- (一) 婦女青少年等ノ出稼者多キ町村中必要ト認ムル大字部落ヲ選擇シ之ニ一名ノ囑託員ヲ設置シ關係職業紹介所及其ノ聯絡町村ノ町村長ト密接ナル聯繫ノ下ニ地元民ノ出稼指導、身賣防止ニ關

スル看視、適職斡旋等ノ任ニ當ラシムルコト。

- (一) 右囑託員ハ原則トシテ大字部落ノ區長、方面委員其ノ他篤志家中ヨリ職業紹介所長、聯絡町村ノ町村長ヲシテ適任者ヲ嚴選ノ上推薦セシメ縣知事之ヲ囑託スルコト。

(二) 囑託員ニハ年手當拾圓ヲ縣費(國費全額補助)ヲ以テ支給スルコト。

出稼者保護團體の助成要綱

- (一) 婦女青少年等ノ出稼者相當多數ニ上ル町村ニ於テハ出稼者ノ指導保護等ヲ自助的ニ行ハシムル目的ヲ以テ出稼者保護團體ヲ組織セシムルコト。

(二) 出稼者保護團體ハ出稼者及其ノ父兄家族等ヲ組合員トシ町村長、小學校長及前述ノ職業紹介所囑託員ヲ其ノ會長及役員ノ地位ニ就カシメ一面職業紹介所ノ統制指導下ニ立タシメテ之ガ後援補助機關タラシムルコト。

(三) 出稼者保護團體ハ出稼地職業紹介機關其ノ他ノ公私設機關ト聯絡ヲ執リ出稼思想ノ普及、出稼者ノ旅行中ノ保護指導並ニ共濟、出稼者ト郷里トノ聯絡、出稼者及出稼者家族ニ對スル慰問等ニ當リ出稼者ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルコト。

(四) 出稼者保護團體ノ設立及活動ヲ助成スル爲其ノ事業費ニ對シ一團體五拾圓ヲ標準トシテ縣費(國費全額補助)ヨリ補助金ヲ交付スルコト——其ノ他二項——

ニ 職業適性研究設備 各職業の作業状態を所要能力に基き分析し、各職業の所要能力を明かにして、各職業の適職者選擇に

使用すべき検査標準を定めて置くことは、一方平時に於て職業紹介の適正と迅速を期し、他方戰時に於ける勞働者動員に必須のことである。然るに現在職業分析を施行し標準の確定せるものは僅かに八職種に過ぎず、我國の現状より見れば少くとも約九十種の職種に付標準を確定し、同時に職業紹介所職員に對し検査方法を習熟させる必要がある。かゝる必要に應ずるため社會局に之が専任職員を置き研究並に指導に従事せしめようとする計畫が確定した。

失業狀況

社會局に於ては失業増減の傾向を察知するたため、昭和四年以降毎月一日現在を以て各地方長官をして管下の失業者數を推定報告せしめてゐる。之に依れば昭和五年一月三十四萬五千人であり、以來殆んど毎月失業者は増加し同七年九月五十萬六千人に至つてゐる。然れども七年末には時局匡救諸事業の施行と軍需工業品並に輸出品工業の好轉に因り、失業者數は漸減の傾向に轉じた。即ち七年十二月四十六萬三千人、九年九月三十六萬五千人、十年九月三十四萬六千人、十一年九月三十三萬人と減少してゐる。以上を更に區分して見るに給料生活者、日傭労働者に於ては其の減少著しくなく、其の他の勞働者(工場、鑛山其他一般産業の勞働者等)の減少が顯著である。

次に五十人以上の職工を使用する工場鑛山に於ける職工、鑛夫の解雇備入數を見るも亦以上の傾向と同様であつて、昭和七年後半期以降殆んど毎月雇入超過を示し、昭和十一年七月末日

昭和十一年度失業者更生訓練施設設計書調

團體名	訓練方法	設置箇所	收容人員	經費	國庫補助額	指導員數	開始年月日
東京市	直營	一	六〇	二、五六〇	五、七八〇	三	一一、一一、二六
京都市	直營	一	二〇	四、五七一	二、三八五	二	一一、一〇、一一
大阪府	直營	二	六〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	四	一一、一〇、一一
大阪府	委託	二	六〇	二、〇〇〇	—	—	一一、一〇、一一
大阪府	小計	四	一二〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	四	一一、一〇、一一
大阪市	直營	一	六〇	四、八七九	二、四九九	二	一一、一〇、一一

市	直營	委託	合計	支出額	勞力費	勞働者實際使用人員
神戸市	二	—	二	五、三八三	二、六四一	一一、一〇、一一
神奈川縣	一	—	一	三、六〇〇	一、八〇〇	一一、一〇、一一
横浜市	一	—	一	八、四三七	四、二二八	一一、一〇、一一
名古屋市	一	—	一	三、二〇〇	一、六〇〇	一一、一〇、一一
福岡縣	一	—	一	二、六八七	一、三四三	一一、一〇、一一
合計	六	—	六	二〇、一七〇	七、〇一三	一一、一〇、一一

(熊谷憲一)

現在に於いては、工場労働者百六十一萬人、鑛山労働者二十六萬二千人、官業労働者十六萬一千人にして之を前年同月に比すれば夫々十二萬五千人、三萬一千人、三千餘人を増加してゐる。

三 失業應急事業 我國に於ける失業對策としては、大正十四年冬季に始められた失業救済の爲の土木事業が最も重要なものであるが、其の他昭和十一年度より始められたものに失業者更生訓練施設の助成が在る。

失業救済土木事業は始め六大都市關係の公共團體に施行せしめて以來、施行主體、施行期間等の擴張を爲しつゝ、今日に至つた。又政府は昭和七年以降道路、河川及び港灣等の公共土木事業、開墾及耕地整理等の農業土木事業、軍需品の注文其の他各種の事業を起興して窮迫農民及び都市失業者を使用し、失業の緩和に資することとしたが、是等の諸事業及民間事業を施行しても尙多數の失業者の存する都市に對しては、特に國庫補助、低利資金の融通等の便を與へ、失業應急事業を起興せしめ失業者の收容に努力した。以上は一般失業者に對する應急策であるが、他面知識階級失業者に對しても昭和四年以降六大都市及び關係府縣をして小額給料生活者失業應急事業を施行せしめた。即ち之がため六大都市及び關係府縣をして統計、調査、文書整理其の他の事務を行ひ、之に要救済失業者を使用せしめ、大體之が費用の半額を國庫が負擔する事になつてゐる。下に最近三箇年の失業應急事業の施行狀況を表示するが、前項失業狀況に於て

述べた通り、かゝる失業應急事業は失業の緩和に資する所大なるものがあつた。

自昭和八年度 失業應急事業施行成績(補助事業)

年度	事業種別	事業費	勞力費	勞働者實際使用人員
昭和八年	一般労働者失業應急事業	四、八八二、六四二	一、〇五三、三六	九、一五七、〇四七
	小額給料生活者失業應急事業	一、八〇三、六三五	一、六六二、〇二八	一、三九九、五〇九
	合計	六、六八六、二七七	二、七一五、三九四	一〇、五五六、五五六
昭和九年	一般労働者失業應急事業	三、八九〇、五三二	六、七五〇、六三三	五、一五七、六〇〇
	小額給料生活者失業應急事業	一、五三七、三六七	一、四一七、一九五	一、一五〇、三三三
	合計	五、四二七、九〇九	八、一六七、八二八	六、三〇七、九三三
昭和十年	一般労働者失業應急事業	一、五三七、三六七	四、七〇一、四五	三、四七三、〇三四
	小額給料生活者失業應急事業	一、四九九、一九三	一、五五、九四三	一、一三〇、九三九
	合計	三、〇七七、五六一	六、〇六、八九七	四、六〇三、九七三

更に失業者更生訓練施設の助成に就いて見るに、右は失業者を發奮せしめ更生自立の途を進ましめるやう指導訓練する施設に對し政府が約半額の補助を爲すものである。昭和十一年度より實行せられたものであるが、その施設設計書を示せば左表の通りである。

産業労働界

政治情勢

昭和六年の滿洲事變の勃發と之に引續く金輸出再禁止の斷行があつて後、我國の經濟界は目覺ましい勢で發展をして來た。物價は騰貴し、生産活動は躍進し、輸出は激増した。斯かる經濟部面の活況に拘はらず、目を政治や労働の部面に轉するならば、思想の對立、政治勢力の對立は殊の外激しく、其の間を縫つて流血の慘事は繰返され、不安と混迷は社會の各層を掩つてゐる。

昭和十一年に入つて第六十八議會は、政友會の總括的不信任案提出の決定を機として、一月二十一日の議會開け劈頭に解散された。引續く總選舉に於ては無産政黨の進出意想外に著しく、議會政治に幾分の清氣を與へるかの如き感を與へたが、突如として起つた二・二六事件は政局を再び重壓の雰圍氣に突き入れてしまつた。事件は數日にして一應鎮靜に歸つたが、帝都は七月末迄戒嚴令が布かれた。此の事件に斃れた岡田内閣、代る廣田内閣は肅軍の徹底と庶政一新を使命として生れ出た。肅軍工

作は事件直後四大將の引退と其後の責任者處分並に中央部の人事移動等によつて可成り遂行されて來たが、所謂庶政一新は果して實現されて來たであらうか。

革新的勢力と現状維持的勢力との相剋の下に成立した廣田内閣は政綱を聲明し、今回の事件の由つて來る根本を是正せんとして、斷乎として「庶政一新」の決意を示し、國體明徴の徹底、國防の充實及び自主積極外交の確立、財政經濟の刷新と國民生活の安定、吏道の振肅と行政機構の更新を強調した。

財政經濟の刷新と國民生活の安定に就ては政綱に於て

「國運の進展に適應せしむる爲、税制の改革金融の改善等財政經濟の刷新に努め、産業貿易の伸張に力を盡し、以て國力の基本を培ふは現下喫緊の要務なり。近時社會の各方面に亘り弊漸を追ふて繁く國民生活に對する重壓愈々加はらんとし、各般の利害隨所に對立を惹起しつゝあるは、我が道義立國の大精神に背反し國家の憂患之より大なるはなし。此の故に政府は國民生活のあらゆる分野に於て其の安定向上を前途とし、施設經營の徹底を圖り遍く陛下の赤子をして其の堵に安んぜしめん事を期す。」

と言ふて居る。

二

廣田内閣最初の議會である第六十九議會は五月一日より戒嚴令下に開かれた。短期議會にも不拘多數の議案が提出審議された。結果より云へば政府提出法律案四十六件中審議未了となつたものは總動員秘密保護法案一件のみで四十五件を通過せしめた。

通過した法案の内主なるものは、農村關係に於て米穀自治管理法、産鹵處理統制法、重要肥料業統制法、穀共同貯藏助成法がある。前三者は何れも第六十七議會に提出されたが審議未了となつたものである。農村問題は我國の最も重要な問題の一つであり、革新的運動が常に農村に根強き根柢を有することは數次の不祥事件を見ても明かである。農村振興は國民生活安定のため必要であるのみならず國防の見地よりも極めて大切である。是等の法律が農村の振興に、殊に最も救済さるべき小農、貧農の保護に如何程貢献するかは別問題として、農村問題解決への動向を識る事が出来る。

産業關係に於ては重要産業統制法の改正が行はれた。即ち統制法の有効期間を延長し且アウトサイダーに對する統制強化を行つた。最近に於ける産業統制の傾向を強化したのであつて、資本主義の獨占化の傾向に應ずるばかりでなく、軍事的必要によつても押し進められた。個別的産業統制法としては、重要肥料統制法、自動車事業統制法がある。尙電力民有國營案は議會

後閣議に提案され朝野に大論争を惹起した。電力民有國營の必要に就ては政府の言ふ所によれば、良質の電氣を豊富且低廉に供給し農村振興に供する事と、一旦非常時に際會する時は産業の原動力たる電氣動力の圓滿供給を確保せん爲である。産業統制の動向を窺ふ事が出来る。

日本産業の躍進は諸外國の驚異する所であり、諸外國は種々な輸入制限策を設けて我國貿易の發展を阻止せんとするは最近の貿易現象である。此の情勢に善處するため貿易統制が企てられる、即ち「貿易調節及通商擁護ニ關スル法律」は有効期間を延引され、重要輸出品取締法、輸出絹織物取締法中改正法律、輸出組合法中改正法律では輸出品の検査を強化し輸出の取締を爲さんとして居る。

斯かる統制の強化につれて中小企業の經營困難が加へられる。中小企業の救済については疾に考慮され、同業者の組合的統制による更生を助長する處に、商業組合、工業組合が設立されて居るが、是等の組合に對する金融機關として商工組合中央金庫法が作られた。

東北興業株式會社法、東北振興電力株式會社法は東北振興調查會の答申に基いたもので、前者は東北地方に於ける殖産興業を目的とし、後者は産業振興の基礎要件たる動力を低廉豊富に給する爲に電氣事業を營むを目的とする。東北地方が我國に於て最も災厄の被害を受ける事多く、其の疲弊も甚しく、之が救

濟は切望されたのである。

數年來、勞働立法の貧困時代を閉して來たが今議會に於て退職積立金及退職手當法が提出され審議修正の上可決された。最近に於ける唯一の勞働立法として特筆すべきものである。同法は我國獨特の美風として發達して來た退職手當制度を法制化し其の普及發達を圖り其内容を合理化すると共に平素よりこれが支給準備をなさしめ其の支給を確保せんとするもので、同法が十年七月、内務省の失業對策委員會に於て立案發表されるや、朝野各方面に華々しく論議され、遂に幾多の修正を経て本議會に提出された。議會に於ても最も熱心に論議されたものであり無産團體は適用範圍を従業者十人以上とせんとし、資本家團體は適用範圍を五十人以上とせんとした。殊に同法案を中心として最も論議したのは中小工業者であつた。我々は茲に勞働立法に於て最も摩擦面の多いのは中小工業對大企業の問題である事を認め得た。斯くして原案の適用範圍三十人以上は五十人以上に修正された。本法案が勞働者の退職に當り手當確保を目的として強制積立を一番必要とするものは五十人以下の工場鑛山である。大工場にして本法規定額以上の手當を支給する所にては却つて本法額迄低下を來しはせぬかと恐れるのである。此意味に於て本法は將にその保護すべき範圍を逸した事になり、勞働立法の實力を發揮する事が困難であるかも知れぬ。是等の點は兎も角として本法は將に勞働立法復活時代の第一線を行くもの

として特筆大書すべき値あり、既に十二月に施行令が公布され昭和十二年一月一日より實施されるのである。

勞働立法の他の一つに社會大衆黨より提出された勞働組合法案がある。これは衆議院に於て審議未了に終つた。勞働關係の立法としては此の外に職業紹介法中改正法律がある。これは現在の中央及び地方職業紹介事務局を廢止し、職業紹介所の事業の連絡統一を内務大臣及び地方長官が管掌し職業紹介事業を一層効果あらしめんとするものである。

國民の社會生活保護のための社會立法には不穩文書臨時取締法、思想犯保護觀察法がある。前者は近時所謂怪文書等の横行甚しく、或は人心を惑亂し、或は軍秩を紊亂し、或は財界を擾亂する等治安維持上支障を生ずる事例が尠からずあるので、治安維持上に重大なる支障を生ぜしむるが如き不穩なる出版物を嚴に取締らんとするものである。斯かる法案が運用如何によつては言論壓迫の悪法となる恐れがあるので、衆議院にて根本的大修正が加へられ本法が臨時的立法たる事、本法施行に際しては運用を慎み言論自由、人權尊重の趣旨に悖らぬ事を附帶決議として成立したものである。此種のものに總動員秘密保護法案があつたが審議未了に終つた。又社會大衆黨よりは母子扶助法案が提出されたがこれも審議未了となつた。

以上の如く第六十九議會は多數の重要法案を成立せしめた。然し是等の法案たるや殆んど皆前内閣の方針を踏襲せるもので

あり、而も二・二六事件直後の非常時氣分によつてのみ之だけの法案を消化し得たものである。此の議會に於て國民生活安定の唯一の立法たる退職手當法案も大きな修正の上通過したが、此の法案にしても若しも事件がなかつたならば成立不可能であつたであらうと云はれてゐる。廣田内閣の庶政一新、國民生活安定の政策は此の議會に於ては未だ具體化されず議會後の問題として残された。

三

廣田内閣の庶政一新は十二年度の豫算編成に直面して具體化の必要に迫られ、所謂國策閣議が七月三日より開かれるに至つた。此の前後から所謂國策は各省大臣から、内閣調査局から、或は又軍部から次々に發表せられた。人々は之を國策氾濫と呼ぶ程に多くの國策が提案され、政府は之を取捨選擇に困惑する情勢であつた。此の國策氾濫は滿洲事變以來擡頭した革新運動に刺戟されて企畫せられつゝあつた各種の政策が十一年に入つて二・二六事件に拍車され、更に廣田内閣の庶政一新聲明によつて表面に躍り出たものであつた。

是等國策が革新的と考へられるものであつただけに、國策の發表毎に一般社會と財界に大きな衝動を與へ、或ものは株價の大暴落を演ぜしめ、或ものは取引所の立會を停止せしめる様な事もあつた。そして是等の國策を廻つて朝野には非善惡の大論議を展開せしめ、所謂革新的勢力と現状維持的勢力の衝突が現

出した。國策氾濫の内最も大きな波紋を與へたのは、義務教育年限延長問題、電力民有國營問題、行政機構改革問題、貿易行政機構改革問題、増税問題等であつた。今電力民有國營問題を一つ拾つて見ても時代的特色を窺ふことが出来る。

電力民有國營案は既に三月内閣調査局案として發表されたが七月頃にあつて電力業者が一齊に立つて反對運動を捲起した。當業者の最も反感を招いたのはこの電力統制案の思想的背景であり「未だかつて見ないフラスコの國家統制案である」として恐怖と憎惡の念を以つて對抗した。更に之が「我邦産業全般に關する由々敷問題」として一般産業資本家を立たしむるに至つた。斯の如き國策氾濫と之を廻る抗争も十一年秋になつて馬場藏相によつて發表せられた税制改革案並に昭和十二年度豫算に織り込まれる事によつて或る程度の具體化が窺はれることになつた。廣田内閣の庶政一新が現實にどの程度迄實現せられるかは來るべき第七十議會の問題であり、此議會に於ける現状維持的勢力と革新的勢力との力の關係こそ之が決定的要素であらう。

經濟情勢

一

昭和七年以來のインフレーションが高橋財政の末期に於いて漸く反動期に入つたことは所謂統制インフレーションがその限界に達してゐたことを告知するものに外ならなかつたが、それは同

時に、高橋財政の政策出盡しを語るものとして、公債政策に於ては消極主義、金利政策に於いては拱手主義を餘儀なくせしめたのであつた。二・二六事件について登場した馬場財政はこの行詰りを打開し、低金利の實施税制の改革、公債の増發、増税の斷行によつて積極的方針を遂行しつゝある。經濟界もこの線に沿つて推移しつゝあるのであるが、十一月二十七日の閣議は昭和十二年度豫算を所謂準戰時體制豫算として地方財政調整交附金二億二千萬圓を含め三十億四千萬圓の膨脹豫算を編成したのである。斯くてあらゆる景氣指標も之に支配されて行つたと以下述ぶる通りである。

昭和十一年に於ける金融界は初期地方資金の還流が順調に行はれ、引續き緩漫の情勢を示したため、資金證券化の傾向が再び擡頭し、一時澁滞せし日本銀行手持公債の賣却高も二月には前年同期に倍増するの活況を呈するに至つた。然れども同月末に至るや二・二六事件の不安を反映して日本銀行の貸出は激増し、兌換券發行高の如き昭和二年の金融恐慌以來の高記録を出現したが、幾許もなくして常態に復し、新内閣が低金利促進の爲め四分利公債の發行價格引上げ、日本銀行公定歩合の引下げ、五分利公債の三分半利借換等を發表して金利水準の目標を明示するに及んで、民間も之に追隨して預金利子の大幅引下げを行ひ、茲に空前の低金利時代を現出するに至つた。

之を東京銀行集會所の社員銀行新規貸出利率平均に依ると次

表の如くである。

東京銀行集會所社員銀行金利

(單位日歩錢)

平均	手形貸付		割引手形	
	十一年	十一年	十一年	十一年
一月	一・六二	一・五六	一・四九	一・四四
二月	一・五六	一・五六	一・四八	一・四三
三月	一・五九	一・五六	一・四六	一・四四
四月	一・五九	一・五四	一・四六	一・四三
五月	一・五〇	一・五二	一・四六	一・四一
六月	一・五八	一・五二	一・四七	一・四〇
七月	一・五九	一・四九	一・四七	一・三九
八月	一・五七	一・四七	一・四六	一・三七
九月	一・五九	一・四五	一・四六	一・三六
十月	一・五七	一・四六	一・四七	一・三八
十一月	一・五六	一・四六	一・四七	一・四〇
十二月	一・五六	一・四七	一・四六	一・三八

右表によると銀行貸出利率は、十一年三月以前に於ても幾分づつ低下の傾向にあつたが、四月以後落勢頓に強まり、九月になると手形貸付日歩は三月に比して〇・一％下げ十年九月に比すれば〇・一四％下げとなつた。又割引手形の日歩は三月に比し〇・〇八％下げ前年九月に比して〇・〇一％下げとなつた。

之に反し最短期資金の利率は十一年四月に於て却つて異常な

暴騰を演じ、五月以後幾分下つたもの、尙ほ累月前年同月を上廻つて居た。のみならず十月になると又もや異常な暴騰を演じた。之は四月に於ける緊張は全く日本銀行の公債が思惑的な賣れ過ぎに陥り市中銀行の手許が詰つたこと、十月のそれは新たに發行された十一年度赤字公債が再び日銀から賣出されコール市場を再度引締めたのであつた。コール市場の緊張のため延いて公債市場の反落を招いたことは注目されるべき點である。

東京コール翌日物日歩の平均(單位厘)

	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
一月	六・七〇	七・〇三	七・〇八
二月	六・九〇	七・四二	六・九五
三月	七・〇〇	七・三九	七・八八
四月	六・八〇	六・九三	八・五二
五月	六・八〇	六・七〇	七・二六
六月	六・八〇	六・七四	六・八一
七月	七・一〇	六・七五	六・九七
八月	七・五〇	七・一二	七・三五
九月	七・一〇	七・二四	七・六三
十月	六・九〇	七・四〇	八・三一
十一月	六・九〇	七・五九	七・七八
十二月	七・四〇	七・二九	七・三〇

更に株式界に眼を轉ずるならば二・二六事件後案外早い立直

りを示したが、その後も種々なる悪材料に脅かされ市場の人氣は常に明朗を缺いてゐた。従つて心理的には株價は寧ろ下落を辿つてゐたやうに考へられるのであるが、實際の株價の足取りを見ると強い騰貴を示し、歳末には株式市場の大暴騰を演じ世間ではこの活況の基底に横はる現内閣の財政經濟政策の再批判が行はれ、物價高悪性インフレーション懸念が論ぜらるゝに至つたのである。事件後の株價の特徴は重工業株と平和株の跛行であるが、東洋經濟新報社の調査によれば左表の如くである。

平均	産 業 株		公 益 株		東 株 新
	總平均	重工業株	平和株	公益株	
一月	八五・一	八一・三	八六・五	六七・九	一六一・四
二月	八七・五	八三・八	八八・八	六九・一	一六一・八
三月	八二・九	八〇・四	八三・八	六七・〇	一三〇・一
四月	八二・六	七九・六	八三・六	六七・二	一二七・〇
五月	八三・四	八二・〇	八三・九	六八・六	一三四・〇
六月	八四・六	八四・七	八四・六	六八・七	一三三・〇
七月	八五・三	八六・二	八四・九	六七・九	一二九・三
八月	八六・六	八七・六	八六・二	六七・六	一二三・三
九月	八八・四	八九・三	八八・一	六六・九	一三二・二
十月	八七・八	九〇・七	八六・七	六三・九	一三七・五
十一月	八六・六	八八・五	八五・九	六三・四	一四〇・二
十二月	八五・九	八六・〇	八五・九	六三・二	一三九・七

以上によつて分る如く事件後の産業株の昂騰は全く重工業が原動力をなしてゐる。重工業株は將來の發展性を買はれたのである。之に反し平和産業は概して生産設備は過剰し操業短縮をしてゐる事業多きため發展性乏しく業績も急激に好くなる見込みもない。従つて株價の騰貴も鈍かつた譯である。此の重工業株と平和株の跋行が事件後産業界の特徴を最もよく現してゐる。

次に物價に付き日銀調査によつて檢するならば十一年度の卸賣物價は漸騰を示し十二月に於ては前年度平均に比し一五%の高騰を演じ、昭和四年十二月以來の最高位を示現するに至つた。小賣物價に於いては六月、七月に於ける中緩みはあつたが、以後卸賣物價の影響により騰勢をとり十二月と前年比に於いては七・二%の高騰である。此上の急激な高騰は大衆の購買力を減殺し、又軍事費の擴大(貨幣量)に愈々拍車をかけ不健全な景氣を煽るものとして懸念さるゝに至つた。

以上の如き財界の情勢下に於いて生産、貿易而してその収益はどうであつたか、今東洋經濟社調査により昭和七年來の生産數量指數を見るならば下表の如くであつて七年一四・六%、八年一九・九%、九年二二・一%、十年一五・八%と毎年著しき増加を示し、更に十一年に於てはその増加率は鈍つたが一〇・〇%と言ふ増加を示した。而して之を内容的に見るならば増加は全面的であるが、就中製造品中の鐵及び鋼、工業藥品及び肥料の増加は激烈であつた。十一年度の總生産指數は其の對前年増加率が十

日銀物價指數
卸賣物價指數
小賣物價指數
昭和四年 二二〇
昭和五年 一八一
昭和六年 一五三
昭和七年 一六一
昭和八年 一八〇
昭和九年 一七八
昭和十年 一八六

生産數量指數(昭和三年=100)

昭和六年 一〇七・八
昭和七年 一二三・五
昭和八年 一四八・一
昭和九年 一六六・〇
昭和十年 一九二・三
昭和十一年 二一一・七

年のそれに較べ鈍化するをその特徴とするが、それは礦産品に於てよりも製造品に於て特に顯著であつた。而して更に之を品別に見ると綿絲、生絲、絹紡、面粉、セメント、清酒、小麥粉等輸出及び國內消費品に於ける生産の減少乃至其の増加率の鈍化が顯著なるによる。

次に對外貿易の成績を見るに、昭和十一年度に於ける内地及び外地を合せたるものに於ては輸出入合計五十七萬二千五百八十七萬五千圓、輸出二十七億九千七百八十五萬圓、輸入二十九億二千八百二萬五千圓、差引輸入超過額一億三千十七萬五千圓を示した。

之を内地のみについて見れば輸出二十六億九千二百九十七萬六千圓、輸入二十七億六千三百六十八萬一千圓で、之を昭和七年以降の實績と比較すると下表の如くで、昭和十一年度の貿易尻は僅少なながらも出超なりしに對比し、十一年度には輸出伸力は鈍化し、輸入急増して七千七十七萬五千圓の入超に逆轉してゐるのが注目される。

十年度に於ては下半期以降に於ける輸出の躍進、輸入の減退に依りバランスに於ては出超を示現したのであるが、十一年度の成績は右の如くであつて、かうした輸出入尻の悪化は如何にして齎らされたのであらうか。先づ之を月別の動きに就て尋ねると、下表の如く輸出は年末に於て前年比の増加率三三・二%といふ一時的活況を示した以外不成績であつて就中上半期の状

内地輸出入伸力(△は入超)

昭和七年 一、四〇九、九三三
昭和八年 一、八六、〇四六
昭和九年 二、一七、九三五
昭和十年 二、四九、〇七三
昭和十一年 二、六九、九七六

月別外國貿易額(内地) (單位千圓△は減)

一月 一七四、五四七
二月 一九四、三八九
三月 二一五、四七四
四月 二〇五、二六〇
五月 二一九、八三六
六月 二〇八、四九九
七月 二二二、九一〇
八月 二二九、五二六
九月 二四三、七一九
十月 二四五、二五九
十一月 二三六、八七四
十二月 二九六、八一二

況は特に悪かつた。下半年に幾分立直ほつたとは云ふものゝ、十一月迄は前年比増加率八%を下廻るといふ状態であつた。之に對して輸入は甚だ不規則ながら全年を通じて相當に多く、九月の如き對前年増加率四一・三%の多きを示した。

而して十一年度貿易の特長として注意に値する點は、一、輸出に於いて品別より見れば重要商品が減退したる一面、所謂雜品と稱するものが頗る優勢となつたこと。

二、輸出先國別に見ると前年顯著であつた新市場進出が稍々停頓して中南米方面の如きは寧ろ減額を示し、舊市場即ち歐羅巴や北米向が幾分づつ恢復したこと。

三、輸入に在つては商品別一體に増加したけれども就中棉花、羊毛の二種が格別著しく、當年度入超増の主なる原因をなして居ること。

四、又輸入増の一般的原因としては農産物や原料品の市價が世界的に騰貴した事や重工業原料が著しく需要されたこと等である。

諸事業収益率の推移を三菱經濟研究所の調査によつて見るならば、上半期に於ける會社全體の拂込資本金収益率は一二・六%にして前期の一二・四%及び前々期の一二・三%に對して微増を示せるに過ぎなかつた。製造工業、金融業、取引所及び證券業、商業等は依然として低下の趨勢にあるものと稱すべく、金融業は前期と同率を示したが、取引所及び證券業と商業は顯著なる

低下を示してゐる。運輸及び倉庫業は増勢を辿つてゐるものゝ、其の増加は極めて僅少にして、鑛業と瓦斯及び電氣業のみが引き続き好調であつた。斯かる十一年度上期の情勢は日濠貿易悪化及び米國の生絲輸入の制限等によつて外國貿易が鈍化されてゐたことによるものと推察されるのであるが、下半年に至るや上記惡條件も除外され、一般的に活氣を帯び其の収益率は一三・一%と頗る上昇するに至つたのである。

業種別拂込資本金収益率

業種	九年度		十年度		十一年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
總會社	一〇・二	一一・二	一二・三	一二・四	一二・六	一三・一
金融業	一三・四	一三・二	一三・〇	一二・九	一二・九	一八・七
取引所及證券業	一七・〇	一三・七	一〇・九	一二・七	一〇・九	一〇・八
商業	一三・六	一二・四	一四・二	一三・二	一一・八	一四・九
運輸及倉庫業	六・二	五・八	七・六	七・三	七・四	九・一
製造工業	一四・八	一五・四	一六・三	一六・一	一六・〇	一五・九
鑛業	一三・〇	一三・八	一五・二	一五・〇	一五・六	一八・二
瓦斯及電氣業	四・二	五・九	七・四	八・四	九・一	八・八
其他	五・五	一〇・二	一一・〇	九・九	九・四	一〇・六

(備考) 會社三百五十社(昭和十一年三月より八月に至る半箇年間)に決算期を有するもの

更に工業會社の利益配當の状況を日本勸業銀行調査に依つて檢するに、拂込資本金に對する配當率は上・下期共に八・六%にして前期より〇・二%を増加し、其の騰勢は前數期に比し鈍化し

と見てよい。

農産品物價と農村需要品物價の比較

物價	昭和四年	同六年	同九年	同十年	同十一年
農産品物價	七〇・五	三九・〇	五六・五	五八・四	六五・四
農村需要品物價	七三・八	四六・〇	四六・〇	六四・二	六七・〇

(備考) 大正十四年一〇〇とする指數、十一年は十一月迄の平均指數。

たが、尙引續き收益の増大せることを示してゐる。而して利益金に對する配當金の比率は下期に於て四六・九%と七年前期以來の高率配當を示すに至り、當に工業資本謳歌の兆が見られるのである。

期別	株主資本に對する利益金の比率		拂込資本金に對する配當金の比率		當期利益金に對する配當金の比率	
	昭和九年上期	下期	昭和九年上期	下期	昭和九年上期	下期
同	一一・八	一三・九	六・五	七・三	四一・一	四三・五
同	一四・八	一四・四	七・八	八・四	四二・七	四六・六
同	一四・四	一四・七	八・六	八・六	四六・五	四六・五
同	一四・五	一四・五	八・六	八・六	四六・九	四六・九

翻つて農村の状態を見るに米穀自治管理法、産糶處理統制法、重要肥料業統制法等の價格統制政策の實施に伴ひ、一般財界の好況に影響されてその購買力は増加したと見られる。今農民の購買力を日本經濟年報によつて物價の角度から見ると、大正十四年を一〇〇とする農産品物價と農村需要品物價との指數は昭和六年頃には農産品は非常な不利に置かれてゐたが、昭和十一年十一月平均は農産品物價は六五・四%にして農村需要品物價は六七・〇%で、前者は後者に可なり稍々改善されてゐる。従つてこの點からすれば十一年の農村の購買力は稍々改善された

以上が我が経済界の實態であるが、此の間に起つた諸問題を想起しながら一年を回顧するならば次の如き歩みをなしたものと云へよう。

廣田内閣成立以來、馬場藏相の採つた低金利政策は三分半利借換成功に依つて順調に進められたと言へるが、それは尨大なる公債發行の豫備工作であつたので、公債増發への轉換が尨大豫算の具體化を巡つて漸く確實化するや、インフレを翹望する動きは経済界の全面に擴り、資金需要の増大と一般銀行資金の不足とから金利さへ反撥氣味を加へ、物價は秋以來騰勢の一路を辿り貿易は原料及び軍需關係商品の輸入増に對して輸出の出足は鈍化し入超は昨年度の二千萬圓から一舉にして一億三千萬圓に騰つた。而して最後には長く安定して動かなかつた爲替相場すら一シルニペンスの關門を割らんとするに至り、愈々悪性インフレの到來近きにありと懸念さるゝに至つたのであつた。かゝる懸念ありしに拘らず、株式市場に於いては暮近き十二月二十七日には日濠會商の終結或は日ソ交渉の好轉或は蔣介石の生還等我國を繞る重大國際問題の好展開によつて諸市場を一齊に沸騰せしめたのであつた。

かゝる財界の推移の中にあつて庶政一新の經濟界に於ける投影を見るならば、重要國策としては國防産業にその重點を置いたことは勿論である。今や準戰時體制を採れる國家はその遂行せらるゝや言を俟たぬ。斯くて貿易に於ける鈍化、産業に於ける跋行性、物價騰貴による國民生活の不安等の是正は來年の問題として殘されて行く。

労働事情

我國輸出産業は生産コストの低廉なるに加へて昭和七年度の爲替安を有利に展開して世界市場に進出し、各國必死の防衛強化にも拘はらず、その後も相當の繁榮を持續することが出來た。一方、國際的非常時の近迫は軍事豫算を増大せしめて年と共に軍需關係工業の活況を促進し、所謂軍需インフレ時代の現出は茲數年間はその活況を保證するかに見える。かゝる産業資本家の繁榮と對峙して、然らば労働者の状態はどうなつたであらうか。

廣田内閣は二・二六事件後の、複雑微妙なる國內情勢の裡に成立し、國民生活安定を政綱の一に掲げたが、労働者に關しては退職積立金及退職手當法を實現せしめたのみである。而もその直ぐ後には増稅案である。勤勞大衆の利益を代表すべき無産黨の政治的進出はあつたが、果して之が勤勞階級に對する指導力を強化し、之が擁護と地位向上のため積極的實力を持ち得るか否かは今後の問題に屬する。最近の革新意識の中には勤勞階級をも包攝した國民全體の上に立脚した思想が相當力強く動きつつあることは極めて注意すべきであるが、政治的には未だ活潑

途上に起つた揮發油問題、鉄鐵飢饉、羊毛の不足(日濠通商の惡化に起因す)等の諸矛盾に逢着するや、燃料、鐵鋼、纖維等の新原料再生産の國策確立のため國家支出を新企業へ投することを約束した。而もこの投資こそは財政膨脹の一因をなしつゝあるのである。而して電力統制案を繞る官民の抗争は統制主義と自由主義のそれを具現しつゝデリケートな動きを來議會に持越してゐる。右の原料國策は當然大陸政策或は南進政策となつて積極的態度を執るに至り、之亦國家財政膨脹の素因たるは疑を入るべき餘地もない。斯くして「財政の基礎を鞏固ならしめる」目的を以て起された未曾有の大増稅が、實は公債發行を減額せしめる何等の基礎ともならなかつた事は、公債増發の將來に對する見透しを全く失はしめ、財政を中心として動く國民經濟を危機に導くものと言はなければならぬ。

剩へ稅制改革による砂糖、織物、揮發油その他の消費稅の引上或は賣上稅の創設、關稅の引上げ或は米國財界の好轉や各國軍擴競争による國際的商品の活況等の影響を受け、物價は益々急騰の一路を辿らんとし、原料高による生産費の高騰は産業一殊に中小工業者の壓迫となり、國民大衆は全般的に生活の脅威を受けつゝあるのであつて、廣田内閣の立看板である「國民生活の安定」に背反しつゝある。農村は諸農産物の高騰により稍々平安の如く見ゆるも、卸賣物價の騰勢は小賣物價を吊上ぐること必然であつて、前述せる購買力の増大も忽ちにして破壊

なる體勢を示してはゐない。労働者は果してどうなつて行くか。昭和十一年はどうであつたか。

一

近年、業界の好轉に伴ひ工場労働者數は逐年著しき増加を見せ、社會局の調査に據れば昭和十一年十二月末現在に於て三、〇六七、四一七名、之を十年十二月末現在の二、七九一、九〇二名に比較すれば約二十七萬五千人の激増を示してゐる。いま日銀の調査に従ひ、民營工場の労働人員指數を見るに昭和十一年十二月には遂ひに一〇八・五(大正十五年基準)に上り、最近に於ける最高を示してゐる。然し乍ら、之を増加率から見れば昭和九年(昭和九年の對前年増加率一一・五%)を最高として漸次遞減の趨勢にあり、十年は九年に對し九・四%の増加、十一年は前年に比し五・六%の増加である。

いま、最近に於ける労働人員指數の變移を示せば第一表の如くであつて、非常時景氣來と共に産業部門は毎年相當の労働吸收力を見せつゝあることが窺はれる。之を男女別に見ると、女工の増加率に對して、男工の増加が頗る顯著なることが認められるが、之は男工を主とする事業部門により多くの活況が見られるためである。

然らば、事業別に見た労働人員指數は如何と云ふに、第二表に示す通りである。昭和十一年平均に就て見るに、製絲及び紡

第1表 民営工場労働人員指數(大正15年=100)

	總指數	對前年增減率(%)	男	對前年增減率(%)	女	對前年增減率(%)
昭7年平均	74.7	(+) 0.4	79.0	(-) 2.5	70.6	(+) 3.8
8年平均	81.9	(+) 9.6	97.0	(+) 10.1	76.8	(+) 8.8
9年平均	91.3	(+) 11.5	98.4	(+) 13.1	84.3	(+) 9.8
10年平均	99.9	(+) 9.4	108.6	(+) 10.4	91.4	(+) 8.4
11年平均	105.5	(+) 5.6	117.8	(+) 8.5	93.4	(+) 2.2
11年1月	100.8	(+) 5.2	112.2	(+) 8.0	89.6	(+) 1.8
2月	101.4	(+) 5.1	113.0	(+) 8.0	90.1	(+) 1.6
3月	102.5	(+) 5.1	114.3	(+) 8.2	90.9	(+) 1.5
4月	105.7	(+) 5.0	115.9	(+) 7.9	95.7	(+) 1.7
5月	106.2	(+) 4.9	116.7	(+) 7.9	95.9	(+) 1.7
6月	106.1	(+) 5.0	117.3	(+) 7.9	95.2	(+) 2.7
7月	106.1	(+) 5.2	117.9	(+) 7.9	94.5	(+) 1.9
8月	106.2	(+) 5.6	118.9	(+) 8.3	93.8	(+) 2.4
9月	107.1	(+) 6.0	120.3	(+) 8.3	94.2	(+) 2.8
10月	107.5	(+) 6.5	121.5	(+) 9.4	93.7	(+) 3.0
11月	108.1	(+) 6.8	122.6	(+) 9.9	93.8	(+) 3.2
12月	108.5	(+) 7.3	123.4	(+) 10.2	93.8	(+) 3.8

績を除き、他は何れも前年の指數を凌駕してゐる。
 就中、特に増率の著しいものは船舶製造、機械製造、器具製造、金屬品製造等の重工業部門と、人造肥料、製薬、組物編物等である。

重工業は云はずと知れた軍需インフレに躍る花形産業であり、人造肥料及び製薬は新興の氣を負ふ化学工業であり、組物編物は輸出の増加によるがためである。
 叙上の如く、労働者数は逐年増加しつつあるが、インフレ景氣による産業の急激なる膨脹の結果は、熟練工の大量拂底を招來し、止むなく不熟練工をも多く雇傭せざるべからざる事情にあり、猶ほ景氣反動期に備へて多數の臨時工を包擁してゐることを忘れてはならない。熟練工の不足は國家産業に取つて甚大なる缺陷であり、事業界並に文部當局に於て之が對處に大童の態であるが、短日月の間に之が養成をなし得ないため、未だ産業の需要を幾許も掩ひ得ない状態にある。臨時工の増大は昭和十年頃から社會問題として社會に提示せられ、當局に於ても之が廢止或は改善に努力しつつあるが、未だ多くの餘地が残されてゐる。社會局の調査(昭和九年末)に據れば、臨時工は常時百人以上を使用する工場に於て全職工の一六・七%を占めて居り、五十人以上の工場に於ては昭和九年二月東京府下に於て一二%を占め、十年一月大阪府下に於て工場法適用工場労働者中の約二四%を占めてゐたと云はれる。

就業労働者の増加は反面に於て必然的に失業者を減少せしめる。事實、社會局の調査に據れば、十一年十一月に於ける失業者推定数は三十二萬二千九百四十八人にして、失業率は四・〇七

第2表 重要事業別労働人員指數(大正15年=100)

	昭和8年平均	昭和9年平均	昭和10年平均	昭和11年平均	昭和11年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
製絲業	61.8	60.2	60.3	55.8	41.1	48.7	57.7	61.2	58.4	57.1	59.9	59.6	59.4	59.1	58.7	46.4
紡績業	64.5	69.4	74.1	72.9	70.9	71.1	71.3	75.6	75.6	74.6	78.4	72.5	72.7	72.1	72.3	72.6
織物業	72.0	75.9	79.5	79.9	77.2	77.6	78.2	81.9	82.0	81.6	81.0	80.2	80.4	79.7	79.5	79.4
染色整理業	90.5	104.7	115.8	122.9	116.9	118.6	119.7	121.4	122.2	123.1	124.5	125.6	126.4	125.9	125.8	124.6
組物編物業	81.2	89.0	93.6	103.8	94.2	95.6	98.8	104.7	106.1	106.6	106.3	106.8	107.1	106.4	106.5	105.9
機械製造業	133.6	168.8	197.6	222.0	206.5	208.0	210.6	216.2	218.7	220.6	223.1	225.7	228.7	232.1	235.3	238.1
船舶製造業	80.5	101.9	117.5	143.0	124.6	127.2	131.8	136.3	139.9	141.9	142.9	145.2	148.6	155.2	159.6	162.6
車輻製造業	85.2	104.6	119.4	125.2	123.2	123.5	123.7	124.3	124.3	124.2	124.9	125.4	126.9	127.1	128.0	127.4
器具製造業	107.4	128.6	150.7	171.6	156.7	159.7	162.6	167.0	169.3	171.4	172.5	175.4	179.2	181.0	181.9	182.0
金屬品製造業	100.5	117.2	133.0	145.9	139.0	139.8	142.2	143.7	144.9	145.5	146.2	147.4	148.6	149.8	151.4	152.3
織物業	72.4	80.7	85.9	90.8	88.0	88.7	89.9	90.5	91.0	91.2	91.1	91.5	91.8	92.0	92.1	92.2
製紙業	95.0	80.4	84.5	89.1	87.1	87.4	87.8	88.3	88.7	88.8	89.4	89.8	90.3	90.0	90.7	91.1
製薬業	105.5	124.2	134.5	147.3	140.7	142.6	143.6	144.6	146.4	147.5	147.5	148.6	150.1	150.8	151.9	153.1
人造肥料業	146.7	148.5	147.7	151.0	147.0	148.9	150.6	151.4	149.8	149.9	150.6	151.9	153.5	154.2	153.2	151.4
人造物工業	76.2	83.4	96.9	113.3	104.7	104.6	107.0	109.4	110.9	111.4	115.6	116.5	118.7	120.0	120.4	120.3
印刷業	81.5	84.5	90.1	92.8	91.8	91.8	91.8	92.2	91.3	91.1	92.4	92.3	93.6	94.8	95.4	95.6
家具業	93.3	95.4	97.6	100.8	99.1	99.4	99.4	100.8	100.7	100.5	100.3	100.9	101.9	102.0	102.6	102.0
製材業	74.6	75.9	79.8	82.6	81.3	82.2	88.2	84.1	84.0	83.9	83.1	82.4	82.0	81.5	81.5	81.7

と相當改善の跡を見せてゐる。然し乍ら、社會局の調査には未

就業失業者を含んでゐないから、之を以て失業状態が全面的に

第3表 失業率(百分率)

	昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年
1月	4.64	4.87	5.16	6.17
2	4.61	4.96	5.24	6.06
3	4.58	4.84	5.17	5.84
4	4.40	4.72	5.14	5.70
5	4.51	4.74	5.13	5.91
6	4.42	4.59	5.06	5.89
7	4.29	4.60	4.97	5.81
8	4.24	4.55	4.91	5.65
9	4.18	4.52	4.87	5.45
10	4.14	4.52	4.86	5.36
11	4.07	4.46	4.79	5.19
12	4.08	4.52	4.80	5.11

むことは出来ない。いま、最近に於ける失業率を示せば第三表の通りである。

二

前述の如く、近年の活況は労働量を増大せしめてはゐるが、産業資本家の繁栄は同時にまた労働者層にも均霑してゐるものであらうか。

先づ定額賃銀に就て見るに、此處數年來低下の一路にあつた賃銀は昭和十年後半に於て保合的落着きを見せてゐたが、十一年三月より再び下降を始め六月を最低として八月より稍々回復し、その後は大體保合状態にある。之を日銀の調査により表示すれば第四表の通りである。更に之を事業別に見れば第五表の

第4表 定額賃銀指數
(大正15年基準)

	昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年	昭和7年
1月	81.0	82.2	84.1	86.5	89.5
2	81.1	82.0	83.7	86.3	89.3
3	80.8	81.8	83.5	86.0	89.1
4	80.7	81.4	83.0	85.5	88.6
5	80.6	81.2	82.8	85.2	88.3
6	80.4	81.0	82.7	85.1	88.2
7	80.4	81.0	82.8	85.0	88.0
8	80.6	81.0	82.7	84.9	87.8
9	80.6	81.0	82.6	84.7	87.5
10	80.6	81.0	82.6	84.5	87.3
11	80.6	80.9	82.3	84.0	86.8
12	80.9	81.0	82.2	83.9	86.6
平均	80.7	81.3	82.9	85.1	88.1

如く労働人員指數の上昇著しき重工業部門其他に著しき低下を看取し得るのである。之は主として新しく雇傭せられたる多數の労働者(多くの臨時工を含む)の賃銀が低廉なるため、全體の指數を低下せしめてゐるのである。従つて、我が世の春を謳歌する職工景氣も實は一部熟練工にのみ微笑みかけてゐるものである。一方、労働争議に關する要求條件を見るに、昭和十一年中に於て賃銀増額を要求せるもの五五三件(昭和十年同期四二四件、昭和九年同期五六五件)、賃銀減額反對を要求せるもの一二九件(昭和十年同期一二六件、昭和九年同期六六件)である。之を以て見れば、賃銀増額の積極的大衆要求が増加したと共に、賃下さへ相當行はれつゝあることが窺はれる。

第5表 重要事業別定額賃銀指數 (大正15年=100)

	昭和8年平均	昭和9年平均	昭和10年平均	昭和11年平均	昭和11年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
製糖業	61.3	60.4	61.6	61.7	63.0	62.8	61.6	61.3	61.2	61.1	61.2	61.6	51.4	61.4	61.8	62.3
紡績業	70.1	68.2	67.1	67.3	67.6	67.8	67.4	66.4	66.3	66.8	67.1	67.2	67.6	67.5	67.8	68.5
織物業	71.6	72.1	73.4	74.2	73.4	73.8	74.0	73.6	73.4	73.8	74.0	74.1	74.2	74.4	75.3	75.8
染色業	85.6	83.6	82.8	82.8	82.9	82.8	82.9	82.4	82.6	82.5	82.5	82.4	83.0	83.1	83.0	83.2
組物業	75.3	73.2	74.3	73.2	74.1	74.1	73.9	73.9	73.3	72.9	72.7	72.2	72.9	72.7	72.7	73.1
機械製造業	85.7	81.1	78.0	76.1	77.7	77.3	77.1	76.2	75.9	75.6	75.6	75.5	75.6	75.5	75.7	75.4
船舶製造業	92.0	89.7	88.6	86.9	89.0	88.5	88.6	87.9	87.2	86.3	85.8	85.7	86.2	86.1	85.9	86.1
車輛製造業	86.3	80.8	77.1	76.2	76.0	76.8	76.3	75.7	76.3	75.4	75.6	76.9	76.4	76.3	76.5	76.6
器具製造業	85.3	81.5	78.9	77.1	78.5	78.7	78.2	78.0	77.7	77.1	76.8	76.3	76.4	76.3	76.5	76.5
金屬品製造業	88.1	86.6	83.3	82.2	83.9	83.0	82.7	82.1	81.9	81.7	81.9	82.1	82.1	81.8	81.8	82.1
窯業	86.0	84.4	83.5	83.8	82.9	84.0	84.0	84.0	84.0	83.8	83.9	84.0	83.5	83.7	83.7	83.6
紙業	91.3	88.6	87.3	86.8	86.6	86.4	86.5	87.0	86.7	86.6	86.6	86.6	86.6	87.0	86.8	87.6
製薬業	93.2	89.7	86.9	87.0	87.1	86.9	86.5	87.4	87.2	86.9	86.8	87.0	87.1	86.7	87.1	87.9
人造肥料業	84.3	82.4	81.3	79.0	80.5	79.7	79.8	79.9	79.9	78.9	78.4	78.4	78.4	78.0	77.6	78.3
人造肥料業	99.0	98.8	97.9	97.6	98.3	98.5	98.5	98.1	97.9	98.3	97.5	97.6	97.0	96.6	96.1	96.2
飲食物工業	93.6	91.3	89.2	89.2	89.1	89.3	89.6	89.6	89.7	89.7	89.4	89.3	89.3	88.6	88.6	88.6
印刷業	83.0	81.1	78.8	77.6	78.1	78.4	78.0	77.4	77.7	77.3	77.8	77.8	77.4	77.2	77.2	77.1
製材業	78.1	76.7	77.0	75.9	76.0	76.4	76.2	76.0	76.0	75.3	75.4	75.6	75.8	75.8	75.7	76.0

次に實收賃銀を見るに、金輪再禁止以後定額賃銀が下向を辿

つて來たに拘はらず實收賃銀は總體的に上昇を續けてゐるが、

之を月別に見ると、十一年に於ては四月以降は下降の傾向を示し、九月以降上昇線を辿つてゐる(第六表参照)。之を事業別より見れば第七表の如く船舶製造、車輛製造、金屬品製造等を除き他は全部昭和八年より低下してゐる。而して昭和十二年と前年を比較するに増加せるものは製絲、紡績、製藥、飲食物に過ぎず、而もこの内で増率の大なる製絲、紡績は前述の如く労働人員指数に於て他の増加に對し獨り減少を示せる部門である。軍需工業部門は如何と見るに、金屬品製造、機械製造、器具製造、車輛製造、船舶製造等何れも昭和十年より減少してゐるが、之は主として、生産設備の擴張が一先づ飽和點に到達し、一方では時間外労働所得もその限界に達し、一方では低賃銀採用の労働者

第6表 實收賃銀指數
(大正15年基準)

	昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年
1月	91.3	91.0	87.8	89.5
2	92.3	92.3	92.9	91.0
3	93.5	93.4	94.0	91.6
4	90.7	90.2	90.7	88.5
5	91.0	89.7	90.7	88.1
6	90.6	89.7	89.5	88.4
7	90.2	89.6	90.5	87.4
8	90.0	89.4	89.7	87.0
9	90.8	89.8	90.0	88.6
10	92.2	91.5	91.1	89.2
11	93.0	92.2	92.4	89.5
12	96.2	94.3	95.0	91.6
平均	91.8	91.1	91.2	88.5

が實收賃銀の平均に及ぼすまでに増大したことを示唆するものであらう。
 以上は貨幣としての賃銀を見て來たのであるが、これが生活能力の基本たるためには物價の動きが之に對比して考へられねばならぬ。いま東洋經濟新報社の調査に従ひ、大正三年を基準とする日銀の小賣物價指數(煙草を含む)を大正十五年一〇〇の指數に換算し、之で實收賃銀指數を割つたものを實質賃銀としてその動きを見るに第八表の如くである。即ち、物價の著しき騰貴と實收賃銀の減少により實質賃銀は著しく低下しつゝある。之を生計費に就て見れば第九表の如き動きを示してゐる(朝日新聞社調査)。即ち生計費は昭和十一年を平均して一八五となり、昭和七年の一六四に比較すると約一三%の昂騰である。労働賃銀は減少する、反對に物價は騰貴する。かくて労働者の生活は前途たゞ暗澹たる一路あるのみである。これも將來物價安の見込があればまだしもであるが、今の所益々悲觀すべき情勢にある。既に増稅案を具體化し、煙草は値上を實施されてゐるが、次々に控へてゐる消費稅の増徴は政府當局の否定的聲明にも拘はらず結局大衆課稅たらざるを得ない。増稅の實施は自然一般小賣物價の騰貴を促し、更に物價の騰勢に拍車をかけるものとして赤字公債増發による悪性インフレの危険がある。かく見れば國民生活安定の揚言にも拘はらず、労働者の生活は日に窮乏に迫込まれるであらう。

第7表 重要事業別實收賃銀指數 (大正15年=100)

	昭和8年平均	昭和9年平均	昭和10年平均	昭和11年平均	昭和11年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
製絲業	61.7	61.3	63.3	64.2	66.3	65.9	63.7	62.5	62.7	63.1	64.1	63.0	63.8	64.4	64.8	66.2
紡績業	62.5	61.2	60.5	60.8	61.1	61.3	61.5	60.5	60.0	60.0	59.7	59.9	60.4	60.9	61.8	62.2
織物業	66.5	66.4	65.8	65.5	64.8	65.3	65.9	65.2	64.7	65.3	64.7	65.2	65.2	65.6	66.4	67.2
染色業	83.3	81.4	78.5	76.2	76.5	78.2	77.6	75.7	76.2	75.0	75.2	75.2	76.2	74.5	76.1	77.6
船舶製造業	70.2	67.7	66.5	65.3	65.0	67.3	69.2	65.9	64.4	64.4	63.4	64.4	64.9	64.3	64.1	66.5
機械製造業	100.6	96.6	93.2	91.0	88.8	91.3	93.1	90.3	90.1	90.4	89.6	88.5	89.6	90.2	92.7	97.6
造船製造業	97.1	98.4	98.7	98.4	95.6	99.2	100.4	99.5	98.4	97.5	94.3	95.3	97.3	98.2	100.3	104.5
車輛製造業	89.5	89.5	82.0	80.0	78.5	80.3	83.2	78.9	78.1	77.5	77.4	77.7	79.8	80.6	81.1	86.3
器具製造業	89.3	85.3	82.7	80.6	78.4	82.0	83.7	81.6	80.3	80.1	79.4	78.3	78.2	79.7	80.8	84.7
金屬品製造業	96.3	98.0	98.1	95.3	97.0	97.0	96.1	96.2	94.6	94.3	92.7	92.9	92.8	94.1	97.0	98.5
製紙業	83.6	81.6	82.1	81.8	83.0	81.5	81.6	81.5	81.9	82.0	81.2	81.2	80.7	81.2	82.2	83.7
製藥業	92.4	91.8	90.1	89.5	91.1	88.8	88.5	89.8	89.2	89.4	89.9	89.5	88.9	89.2	89.3	90.7
人造肥料業	86.3	86.2	86.8	85.5	86.3	88.6	85.8	84.7	86.4	83.8	83.1	82.4	82.4	85.9	88.1	88.1
人造肥料業	95.4	94.6	96.1	95.2	98.9	96.7	97.0	95.0	95.8	95.3	94.9	94.2	93.7	93.2	94.3	93.6
飲食物工業	92.5	94.4	91.6	91.7	96.7	91.5	90.5	90.5	91.4	91.1	90.9	92.1	90.5	91.4	91.2	92.2
印刷製本業	90.3	90.3	87.7	86.0	87.0	89.4	88.1	86.8	82.6	83.2	82.6	83.4	84.9	85.4	87.2	90.8
製材家具業	73.2	73.0	73.3	73.3	70.5	70.9	71.9	72.6	73.2	73.1	72.6	73.2	73.8	75.1	75.8	77.2

第11表

	昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年
繊維及染色工業	266.07	266.29	267.28	263.37
機械及器具工業	271.08	270.41	269.47	265.13
化學工業	267.09	267.01	264.14	262.48
飲食物工業	264.55	264.32	262.12	259.25
雜工業	261.52	259.58	257.08	253.05
平均	266.14	265.44	264.10	260.50

次に事業別に見た正味労働延長時間を示せば第十表の如くである。

次に事業別に見た正味労働延長時間を示せば第十一表(各年とも各月を平均)の如き動きを見せてゐる。即ち各事業部門とも昭和九年を契機として一般の増加を示してゐるが、その後繊維及染色工業は次第に減少しつつあるに反し、他部門は何れも増加の傾向にある。この中で特に目立つものは機械及器具工業と化學工業で

労働時間を見るに、逐年増加しつつある。労働時間は大體に於て景氣反映の一断面と見ていゝが、昭和七、八年の目覚ましき活況の後を受けた九年は躍進的に増加してゐるが、十年、十一年の増加は著しくない。之は漸く内外の經濟情勢に阻まれて、景氣上昇も稍々飽和點に達した觀を呈してゐるからであらう。

いま日銀の調査に従ひ、正味就業時間、就業日數及び之を乗じて得たる一箇月正味労働延長時間を示せば第十表の如くである。

第12表

	昭和11年		昭和10年		昭和9年		昭和8年	
	時間	日數	時間	日數	時間	日數	時間	日數
繊維及染色工業	9.49	27.1	9.50	27.1	9.50	27.2	9.48	26.9
機械及器具工業	10.05	26.9	10.06	26.8	10.04	26.8	9.56	26.7
化學工業	9.49	27.2	9.49	27.2	9.45	27.1	9.44	27.0
飲食物工業	9.36	27.6	9.33	27.7	9.30	27.6	9.26	27.5
雜工業	9.44	26.9	9.42	26.8	9.40	26.6	9.30	26.5

日銀の就業時間は實働時間であつて休憩時間を含まないが、昭和十年の平均五七分に對

殊に前者は各年とも他をリ下してゐる。之は云ふ迄もなく軍需關係の部門であるからである。繊維及び染色工業は昭和九年以後減少を見せてはゐるが昭和八年に比較すると相當の増加を示してゐる。

かくの如く、近年労働は全面的に強化せられ、就中軍需工業に著しい。いま事業別に正味就業時間と日數を見れば猶更ら明瞭になる(第十二表)。かくてこの儘に推移するならば、労働者は賃銀は高くならず、労働は強化される。その上物價は騰貴するといふ具合に、益益憂ふべき生活状態に落込むであらう。

第9表 (大正3年7月=100)

	總指數	飲食費	住居費	光熱費	被服費	文化費
昭和7年	164	138	241	160	121	179
8	168	142	236	171	139	180
9	174	152	234	181	147	180
10	181	166	233	178	146	182
11	185	173	233	183	151	183
11年1月	183	171	233	181	148	183
2	184	172	233	185	148	183
3	185	173	233	185	149	183
4	185	175	233	184	149	183
5	185	174	233	181	149	183
6	185	175	233	179	150	183
7	186	175	233	179	150	183
8	186	177	233	180	149	183
9	186	176	233	181	152	184
10	184	170	233	183	155	184
11	185	170	233	186	156	184
12	186	170	233	194	158	184

第8表 實質賃銀指數 (大正15年=100)

	小賣物價	實質賃銀	對前年同期	騰落率(%)
昭和6年平均	68.8	133.1	(+)	5.1
7	68.7	128.2	(-)	3.7
8	73.2	121.8	(-)	5.0
9	74.7	122.1	(+)	0.2
10	76.2	119.5	(-)	2.1
11	79.9	114.7	(-)	4.0
11年1月	78.8	115.9	(-)	3.4
2	79.9	115.5	(-)	5.0
3	80.0	116.3	(-)	6.2
4	80.6	112.5	(-)	6.3
5	80.5	113.0	(-)	5.4
6	79.3	114.2	(-)	5.1
7	79.2	113.9	(-)	4.5
8	79.9	112.6	(-)	3.9
9	80.3	113.1	(-)	2.2
10	79.7	115.7	(-)	2.1
11	79.8	116.5	(-)	1.7
12	81.7	117.7	(-)	2.5

第10表

	昭和11年			昭和10年			昭和9年			昭和8年		
	時間	日數	一箇月延時間	時間	日數	一箇月延時間	時間	日數	一箇月延時間	時間	日數	一箇月延時間
1月	9.42	24.3	235.43	9.45	24.8	241.48	9.39	24.7	238.21	9.41	24.7	239.11
2	9.48	26.6	260.41	9.50	26.0	255.40	9.46	25.8	251.59	9.45	26.0	253.30
3	9.52	27.0	260.38	9.53	26.8	267.42	9.50	26.7	262.33	9.46	26.5	258.49
4	9.52	27.4	270.21	9.53	27.5	271.57	9.51	27.4	269.53	9.46	27.1	264.41
5	9.52	27.2	268.22	9.53	27.3	269.44	9.50	27.4	269.26	9.45	27.1	264.14
6	9.52	27.3	269.22	9.52	27.2	268.22	9.49	27.3	268.00	9.46	26.8	261.45
7	9.49	27.2	267.01	9.50	27.3	268.27	9.49	27.2	267.02	9.43	27.2	264.18
8	9.49	27.5	269.58	9.48	27.2	266.34	9.48	27.4	268.31	9.43	27.4	266.14
9	9.52	27.5	271.20	9.51	27.6	271.52	9.51	27.1	266.56	9.46	27.2	265.39
10	9.53	27.5	271.48	9.51	27.5	270.53	9.52	27.5	271.10	9.47	27.4	268.04
11	9.54	27.6	273.14	9.52	27.6	272.19	9.53	27.6	272.47	9.47	27.5	269.05
12	9.59	27.7	276.32	9.56	27.5	271.30	9.57	27.7	273.37	9.50	27.3	268.27

來の労働者の躍進的增加(多数の不熟練工を含む)にもよるが、労働者数の増加率に比して死傷者の増加率は更に甚大である。即ち昭和十年度の對前年度職工増加率は一二・九%であるに對して、死傷者の増加率は二二・二%に當る。

昭和十年中の死傷者を事業別から見ると、最高率を示すものは特別工場の千人當一二八・九九人、次に機械器具工場の七一・四七人、化學工場三二・八七人、雜工場一九・四一人、染織工場

五・五一人である。而して官營工場の四〇・六七人は注意せられたい。

以上の如き事實は、華々しき産業の活況にも拘はらずその裏に潜む暗い反面である。この痛ましき事實を除去するためには安全思想の徹底は勿論、作業設備の不完全や労働強化等の不健全なる労働事情の改善が基本的な豫件と思はれる。

(池田安夫、廣崎眞八郎、高岡實)

第 13 表

	全事業平均	金屬工業	機械器具製造業	造船業運具製造業
昭和10年1月	0.56	0.52	0.45	0.49
2	0.56	0.52	0.46	0.49
3	0.57	0.52	0.45	0.49
4	0.57	0.52	0.45	0.49
5	0.58	0.52	0.46	0.49
6	0.58	0.51	0.46	0.48
7	0.58	0.51	0.46	0.48
8	0.58	0.51	0.45	0.48
9	0.58	0.51	0.46	0.49
10	0.57	0.51	0.46	0.48
11	0.57	0.51	0.46	0.48
12	0.57	0.51	0.45	0.48
平均	0.57	0.51	0.46	0.49

し軍需工業關係はすべて遙かに平均以下である。即ち第十三表の如し(昭和十一年版労働統計要覽に據る)。

四 絞上の如く労働の強化が行はれる陰に、之と對應して痛ましき工場災害も増加しつゝあることを看過してはならない。

工場災害に關する諸統計は未だ昭和十年までしか發表されてゐないが、その後も逐年の増加が豫測されてゐる。いま社會局發表のものにより、昭和十年中に於ける業務上の死傷者數を見るに、工場法一部適用工場を除き七五、九二六人の多數に上り、

第 14 表

	民營工場	官營を含む總數
大正15年	2.23	2.71
昭和2年	2.66	3.13
3	2.56	2.92
4	2.72	2.99
5	2.62	2.86
6	2.17	2.38
7	2.14	2.31
8	2.41	2.57
9	2.85	2.89
10	3.06	3.13

つゝある昭和十年中の死傷者中女工は四、一四六で約五%に該當するが、之は男工を主體とする事業部門に於て労働がより多く強化せられ、且つ女工は保護職工として作業上に法律的制限が加へられてゐるためである。

第 15 表

	死亡數	重傷數	輕傷數	合計
昭和7年	250	4,058	24,925	34,233
" 8年	404	10,802	37,157	48,363
" 9年	555	15,510	46,052	62,117
" 10年	568	18,970	56,388	75,926

次に災害の程度を見るに第十五表に見る如くであるが、死亡者と重傷者を加へたものを全死傷者數に比較すると昭和七年は二四・二七%のものが昭和十年には二五・七三%と昇り、災害の量が増大したと共にその質も悪化しつゝあることが實證される。死傷者數の増大は、昭和七年以

前年に比し一三八〇九人を増してゐる。これを全職工數に對する割合から見れば第十四表に示す如く昭和八年以來頗る累増し

無産政黨運動

緒言

昭和十一年を回顧すれば、政治的には實に多事多端にして、波瀾に富んだ年であつた。過去數年來の非常時局の政治的雰囲気は、此の昭和十一年に於て、明瞭に國民大衆の前に展開した。又同時に、我日本の政治的動向は一轉機を劃したと言ふことが出来る。

過去一箇年を顧れば、政治上の重要問題として、第六十八議會の解散、肅正總選舉、二・二六事件の勃發、岡田内閣の總辭職と廣田内閣の成立、戒嚴令下の第六十九臨時議會、日獨防共協定の成立、對支對露外交の諸問題、準戰時財政體制に基く増稅案並に三十億の老大豫算案、庶政一新を聲明した廣田内閣の諸國策、義務教育年限延長案、電力國營案、議會制度並に行政機構改革の諸問題等をあげることが出来る。かうした政治上の諸問題を繞つて軍部、官僚、政黨の政治勢力の對峙交錯の間に介在して、無産政黨は戦ふべき多くの機會と問題に當面した。従つて、此の一箇年の無産政黨運動は概言すれば、飛躍的活動と勢力の擴大伸張であつた。

滿洲事變以來、無産階級の政治運動は、非常時の社會情勢とそれに伴ふファシズム的空氣の重壓をうけて、勢ひ頓に不振の狀態に陥り、とかく守勢的活動に終始したのであつたが、昭和十年秋の肅正府縣會選舉戦を一轉機として攻勢に轉じたが、更に十一年二月の總選舉戦には自他共に驚異とするほどの躍進を遂げ、政民二大政黨に對峙して政界に於ける第三黨的地位を獲得するに至つた事は十一年に於ける運動中特筆すべき點である。

無産政黨の陣營に於ては、社會大衆黨が昭和七年社民、大衆二黨の合同によつて結成して以來、唯一の無産政黨として無産階級の政治的中心勢力を形成したが、既に結成後四箇年有餘を経て、黨勢力の集結強化工作成り、十年秋の府縣會選舉戦に於て攻勢に轉じて勝利を獲たが、十一年の總選舉戦には一舉に十八名の當選者を獲得し政界分野に於て第四位を占め、國民大衆の政黨としての地歩を確立し、將來への好望を示した。

従來、社會大衆黨の組織外にあつて、勞農組合自體として或は地方的選舉闘争團體として、別個に政治運動を敢行してゐた無産階級の一勢力群は總選舉並に東京府會選舉戦を機として勞農無産協議會を結成した。此の勞農無産協議會は必然的に社會

民戦線運動は、やうやく論壇の問題となり、ジャーナリズムの上に踊つたが、實踐的運動には特記すべきものはなかつた。

總選舉と無産政黨

一般に豫期された如く、第六十八議會は休會あけの一月二十一日解散となり、岡田内閣が重大使命として、十年夏以來、官民協力の下に國民に呼びかけ、民衆に働きかけた選舉肅正運動が實績を顯はすべき普選第四次總選舉は二月二十日を期して行はれた。

選舉の結果は、無産階級の驚異的躍進を遂げたるに對し、愛國派諸團體の意外なる不振であつた。

現在我國に於ける唯一の無産政黨である社會大衆黨は、昭和三年の普選法による最初の總選舉以來三回に亘る苦き経験と、十年秋の肅正選舉下に於ける府縣會選舉戦の實績に鑑み、岡田内閣の選舉肅正運動を全國的に支持支援するとともに、尙一層の徹底を要請し、更に一段の躍進と勢力の伸張を圖るべく、第六十八議會の解散を要請して、總選舉を待望しつゝあつたが、一月十八日、第四回全國大會を開催して、總選舉政策要綱を中心議題として總選舉對策を決定し、戦備を整へた。而して、愈愈一月二十一日議會解散となるや、十五名の當選を目標として、全國二十八區に亘る選舉區に三十名の候補者を擁立して總選舉に臨んだ。

大衆黨と相對立する情勢に在る關係上、支持或は關係勞働組合間に、勞働組合戦線統一の問題或は反ファシズム政治勢力の擴大強化の問題と關聯して賛否兩論を生み、一時波紋を生じたが、理論的に又實踐的に社會大衆黨との合同問題が擡頭し、合同運動に進んだ。これまた、十一年に於ける新しい運動であつた。

過去數年來、勞働組合、農民組合は政治戦線より退却して専ら經濟的運動に主力を注ぐが如き傾向が觀うけられたが、十一年春の總選舉戦を契機として、再び政治戦線に立歸り、政黨との支持關係を密にし、勞働者農民の生活權擁護運動、社會立法の獲得に全線的に政治的闘争に進出して來たことは注目すべきである。

社會大衆黨と支持關係にある日本勞働總同盟、全國勞働組合同盟の二大組合の合同完成、製陶勞働組合同盟の組合會議加盟、東京瓦斯工組合、大阪地方無産團體協議會等の黨支持聲明、全國農民組合内の舊全會派との統一的傾向の如きは政黨と勞農組合の支持關係の緊密化であると同時に、無産階級の政治戦線の擴大強化である。

従來組織外に放置された中小市民層、俸給生活者層の無産政治戦線への結集工作は又十一年の特色の一つであらう。左翼の共産主義非合法運動の情勢は不明なるも、近年その勢力頓に凋落して全く屏息したるものゝ如き觀がある。此の派の運動と關聯を有するフランス、スペインに於けるが如き所謂人

選挙の結果、戦績は自他共に驚異を感じたほどの好成绩にて十八名の當選者と、當選圏内に肉迫近接せる六名の次點者と、五十一萬八千八百六十七票の得票数を獲得した。而して、是等十八名の當選者の成績を仔細に見れば、最高點當選者十一名、第二位當選者四名、第三位當選者二名、最下位當選者は僅かに一名にしか過ぎない。從來殆んど當選者は東京、大阪、京都、神戸、八幡等の都市に限られた觀ありしに今回は新潟、静岡、秋田、高知の各縣農村地區より選出されたことは特記すべきである。十二名の落選者の得票を加算して候補者一人當り平均得票数を見れば尙一萬七千二百九十五票を算する好成绩を示してゐる。一躍して第四黨の地位を獲得し、政友、民政の二大政黨に接戦せんとする社會大衆黨の當選率、得票数を他黨に比較すれば左の如くである。

黨名	立候補者数	當選者数	得票總数	當選率
民政黨	二九七	二〇五	四、五八〇、八三八	六九
政友會	三三五	一七四	四、〇七五、二九七	五二
昭和會	四八	一九	五二二、八〇七	四〇
社會大衆黨	三〇	一八	五一八、八六七	六〇
國民同盟	三三	一五	四〇四、二五六	四五
中立	一〇六	三〇	七七六、七三八	二八
其他	二七	五	二二九、七六一	一九
計	八七六	四六六	一一、一〇八、五五七	五三

社會大衆黨と支持關係なき労働組合、農民組合、水平社、地方無産黨其他無産團體を中心として立候補せるもの東京、兵庫、千葉、滋賀、長野、岡山、廣島、香川、福岡、鹿児島十府縣十名を算へた。選挙の結果、成績は當選者五名、次點者一名、得票總数十四萬二千二百二十票、候補者一人當り得票一萬四千二百二十票にて、社會大衆黨の一萬七千二百九十五票に比較してや、遜色あるも最高點當選者二名、第二、第三位當選者各一名を有する良成績を示してゐる。而してこのうち所謂合法左翼陣營の立候補者と目せられる日本労働組合全國評議會の加藤勘十、全國農民組合の黒田壽男兩氏の當選は注目し得る。以上を通じて無産階級陣營の立候補者四十名、當選者二十三名、次點者七名、得票總数六十六萬一千八十七票を算へる好成绩を獲得した。今之を前三回の選挙戦に比較すれば左の如く一躍大躍進、大飛躍である。

	昭和三年	昭和五年	昭和七年	昭和十一年
立候補者	六	九	五	四〇
當選者	八	五	五	三三
得票總数	四九、三三	三九、三三	三九、九六	六二、〇七
立候補者一人當り平均得票数	五、五九三	五、四七五	八、〇八三	一八、五三七

叙上の如く社會大衆黨が今次の選挙戦に於て、僅か三名の議員より一躍六倍の十八名を獲得し、政界に於ける第三黨的地位

を確立するに至つた原因を考察すれば、

- 一 肅正選挙
- 二 政治戦線の統一により對立候補の解消
- 三 國民的政黨として黨組織の生長と政策の具體化
- 四 日常闘争を通じての黨組織の擴充
- 五 國民的政策批判力の進歩

等の諸點をあげることが出来るが、肅正選挙のみが躍進の好條件にあらずして、無産政黨創立以來、過去十年間に亘る民衆の生活を中心とした日常闘争と労働組合、農民組合の諸戦線が社會大衆黨の一線に副ひつゝ、統一の傾向に向つたことが看過すべからざる素地であらうと惟はれる。

社會大衆黨はこの選挙の大勝を得た二月二十二日左の如き聲明書を發表して躍進する黨の態度を明かにした。

聲明書

激化する國際對立の危機、非常時局突破の爲めに國民の總意に問ふた今回の第四次普選は、我國政治史上の劃期的政戦であつた。我黨は國民大衆の要望を體して國內改革の斷行、新動勞議會政治の建設を中心政策とし、舊態依然たる既成政黨の偽善政策に對抗して全國に決死的闘争を敢行したのであつた。果せるかな我黨の政界革新、現状打破の旗色は反資本主義反既成政黨の鬱積せる國民的憤懣に點火し、爆發的なる國民的支持を受くるに至つた。

見よ！ 東京、大阪、兵庫、京都、神奈川等々の各地に於ける我黨候補の未曾有なる最高點當選の戦績を！

我等が社會大衆黨は遂ひに勝てり、我等はこの澎湃たる新興勢力を代表し更に勇躍して、來るべき議會に於いて腐肉の如き既成政黨の中央突破を敢行し國民大衆の要望に答へん。

右聲明す。

昭和十一年二月二十二日

社會大衆黨

無産政治戦線と對峙する愛國派諸團體の選挙戦績を一瞥すれば、明倫會、皇道會、立憲養正會等の諸團體は二十九名の立候補者を擁立して、五名の當選者と二名の次點者と、二十萬三千六百十三票、立候補者一人當り平均七、〇〇五票の得票を獲得した。其の結果は概して不振と言はざるを得ない。不振の原因を考察し、之を概言すれば、(一)戦線の不統一 (二)組織の脆弱 (三)歴史の浅きこと等にある。

以上は極めて簡單な概観にしか過ぎないが、社會大衆黨の選挙政策、無産各派並に愛國諸團體の選挙成績を表示すれば左の如くである。

社會大衆黨昭和十一年度總選挙政策

- 一 中心スローガン
- 一 先づ國內改革の斷行
- 一 民衆富んで國防全し

- 一 過去か未來か、既成政黨か大衆黨か
- 一 肅正の一票は大衆黨へ
 - 一 中心政綱
- 一 勤勞議會政治の建設
- 一 大衆的増稅反對
- 一 國民年金制の即時制定
- 一 民衆商工金庫の設置
- 一 重要産業の國營化
- 一 農産損失の國家補償
 - 一 選舉政綱
- 政治政策
 - イ 選舉肅正の徹底
 - A 買収犯の嚴罰
 - B 混同開票制の採用
 - ロ 選舉法の即時改正
 - A 大選舉區(二府縣一選舉區)比例代表制
 - B 有権者年齢を滿二十歳まで低下
 - C 選舉公營の徹底
 - ハ 職能代表による貴族院改革
 - ニ 國民經濟會議の設置(内閣審議會の廢止と内閣調査局の根本的改革)
 - ホ 内閣制度及行政機構の改革
 - 財政政策
 - イ 軍事費の標準化

- ロ 稅制の根本的改革
 - A 大衆課稅の廢止
 - B 綜合財産稅の創設
- ハ 社會的交付金十億圓
- ニ 國債利子支拂納豫
- 産業政策
 - イ 重要産業の國營
 - ロ 配當制限法の制定
 - ハ 農業損害保險の創設
- ニ 中小商工業者及農民の生産資金の無擔保金融
 - A 民衆商工金庫の創設
 - B 國立農業信用銀行の創設
 - C 農家借入金支拂納豫
- ホ 都市農村の均衡化
 - 社會政策
 - イ 國民年金制(養老、寡婦、孤兒年金制の確立)
 - ロ 勞働者保護法の制定
 - A 勞働組合法の制定
 - B 海員法の改正
 - C 勞働者最低賃銀法の制定
 - D 失業保險制の確立
 - E 母子扶助法の制定
 - F 商店員保護法の制定
 - ハ 小作法及小作組合法の制定

- ニ 國民健康保險制の確立
- 外交政策
 - 一 我黨は立憲以來國際平和確立の基調に立ち、急迫する資本主義的戰爭の危機克服、激化する對立國際關係調整の爲めに戦ひ來つた。即ち滿洲事變に對する批判、滿洲國を自主的なる民族獨立國家として成立させる爲め治外法權の撤廢、鐵道附屬地その他滿洲國に於ける權益の讓渡、北鐵買収、更に國際聯盟退反對、日ソ不侵略條約の提唱、日支平和工作の促進、太平洋安全保證條約の設定等を強調した
 - 二 我等は如上の我黨の國際政策を、最近の國際情勢に照應し、展せしめ左の如き外交政策を提唱せんとす
 - イ 自足・孤立・ブロック經濟主義に反對し、市場、資源の解放、貿易の自由
 - ロ 滿洲國の經濟建設に對し
 - 1 資本主義政策への逆轉を阻止し
 - 2 自主的なる民族獨立國家としての發展を助成し、その爲めに滿洲國に於ける一切の權益の讓渡、統一的なる經濟工作の助成
 - ハ 極東被壓迫民族の提携

於ける英米資本主義並に土着資本主義の打倒による東洋被壓迫大衆の提携

ニ 日支國際關係の整調

ホ 日ソ不侵略條約の即時締結

ハ 太平洋安全保證條約の締結

ト 海軍縮小問題に對し建艦競争を廢絶し、平和工作を積極的に發展せしむること

一 黨派別選舉成績一覽

黨派名	候補者數	當選者數	次點者數	落選者數	得票總數	候補者一人當り平均得票數
社會大衆黨	三〇	一八	六	一二	五、一八七	一七、二九五
勞働組合、農民組合、無産者團體無産中立	一〇	五	一	五	一、四二二	一四、二二〇
合計	四〇	二三	七	一七	七、六一〇	一六、五二七
附愛國派諸團體						
明倫會	六	一	〇	五	三、四一四	五、六九九
皇道會	二	一	〇	一	二、〇四五	一〇、五二二
郷軍同志會	二	一	〇	一	一、五八八	七、七四四
立憲養正會	七	〇	一	七	三〇、七八五	四、三九八
其他諸團體	一一	二	一	九	一〇、一六五	八、四七〇
合計	二九	五	二	二二	二四、二〇三	七、〇〇五

二 無產各派當選者一覽表

1 社會大眾黨

府縣別	選舉區	議員定數	當選順位	得票數	當選者氏名	地位職業其他	當選回数其他
東京	第一區	五人	第一位	一四、三八七	河野 密	社會大眾黨勞働委員長、全日本勞働總同盟副會長、辯護士	新
同	第二區	五人	第一位	二〇、三七四	安部 磯雄	社會大眾黨中央執行委員長、全日本勞働總同盟副會長	當選三回
同	第四區	四人	第一位	一三、八〇五	淺沼稻次郎	社會大眾黨組織部長、東京市會議員	新
同	第五區	五人	第二位	五二、二五一	麻生 久	社會大眾黨書記長、辯護士	新
同	第六區	五人	第二位	三八、五四三	鈴木文治	社會大眾黨、日本勞働組合會議、全日本勞働總同盟顧問、アジア勞働組合會議議長	當選二回
京都	第一區	五人	第一位	一八、四四二	水谷長三郎	社會大眾黨中央執行委員長、京都市會議員、辯護士	當選二回
大阪	第一區	三人	第一位	二三、四九八	田萬清臣	社會大眾黨大阪府支部聯合會執行委員長、大阪市會議員、辯護士	新
同	第三區	四人	第三位	一一、八五二	塚本重藏	大阪金屬勞働組合顧問、汽車會社職工、元大阪府會議員	新
同	第四區	四人	第三位	二五、五二一	川村保太郎	官業勞働總同盟主事、大阪市會議員	新
同	第五區	四人	第一位	三三、九〇四	杉山元治郎	全國農民組合中央委員長、社大黨顧問、齒科醫師	當選二回

2 勞働組合、農民組合、其他無產團體(五名)

府縣別	選舉區	議員定數	當選順位	得票數	當選者氏名	地位職業其他	當選回数其他
神奈川	第一區	三人	第一位	二一、五八九	岡崎 憲	社會大眾黨會計監查委員長、辯護士	新
同	第二區	四人	第二位	一九、三八二	片山 哲	社會大眾黨黨務部長、辯護士、內閣調查局專門委員	當選二回
兵庫	第一區	五人	第一位	三六、八八〇	河上丈太郎	社會大眾黨中央執行委員長、全農新潟縣顧問	當選二回
新潟	第三區	五人	第二位	一八、〇二五	三宅 正一	社會大眾黨中央執行委員長、全農新潟縣顧問	新
静岡	第二區	四人	第四位	一一、一七七	山崎 劍二	全農静岡縣聯委員長、社大黨中央執行委員長、沼津市會議員	新
秋田	第二區	三人	第一位	一七、四一七	川俣 清音	全國農民組合中央委員、同秋田縣聯委員長、社大黨中央執行委員長	新
高知	第二區	三人	第一位	一九、九四三	佐竹 晴記	社大黨中央執行委員長、高知縣會議員、市會議員、辯護士	新
福岡	第二區	五人	第一位	三四、一五九	龜井貫一郎	社會大眾黨調查部長	當選三回
東京	第五區	五人	第一位	五四、一一四	加藤 勘十	日本勞働組合全國評議會長、日本勞働組合中央執行委員長	新
長野	第二區	三人	第二位	一一、〇九三	小山 亮	農村更生聯盟顧問	新
岡山	第一區	五人	第五位	一二、四七九	黒田 壽男	全國農民組合中央委員長、同千葉縣聯合會執行委員長、辯護士	新

四年次別選挙成績比較表

昭和三年二月			昭和五年二月		
黨派名	候補者数	當選得票	黨派名	候補者数	當選得票
社会民主党	一九	四二八、七五	社会民主党	三三	二一〇、九八
日本労働黨	一一	一八、九七	日本労働黨	三三	二一六、三三
労働農民黨	四〇	二一九、〇八	労働農民黨	一一	一九、七九
日本農民黨	一一	〇、一八〇	全国大衆黨	四	〇、一九、六五
地方無産黨	三	一、三、三三	地方無産黨	九	〇、六、六七
總計	八八	八四三、三一	總計	九二	五四六、三三

廣田内閣の成立と社会大衆黨

總選挙後幾許もなく、前古未有の事件と目すべき二・二六事件が勃發した。此の事件と當時の時局に對し社会大衆黨に於ては、

「今回の事件が勃發せるに對しては、その原因の遠く且つ深きを思ひ、輕々な批判を抑制するものであるが、少くとも五・一五事件以來齋藤、岡田兩内閣が一時の糊塗を念として革新の熱望を蹂躪し來つたことに大なる原因ありと信ずる。我黨は財閥、官僚、軍部、既成政黨等の如き一部特權階級の合作たる現状維持的學國政權を排し、國民大衆を基礎とせる革新的政權の樹立を要求する。我等は三度かゝる不祥事件の勃發をなからしめんため、國民と共に今回の事件の貴重なる國家的犠牲を活かし、更始一新のために邁進せんことを誓ふものである。」

と書記長談の形式に於て黨の態度を聲明した。該事件後岡田内閣は總辭職を執行し、後繼内閣は時の外務大臣廣田弘毅氏によつて三月九日組織された。この新内閣に對し社会大衆黨に於ては左の如き聲明を發表して、その態度を表明した。

聲明書

我黨は曩きに岡田内閣の總辭職に際し、今日の非常時局に對する黨の態度を闡明し、具體的政策を明示し、眞に革新政權の樹立によつて舊來のブルジョアの偽善政策を廢棄し、積極的に民衆生活打開の爲めに邁進す可きことを提唱した。然るに、組閣工作上正に異例的なる陣痛を経て、漸やく成立せる廣田内閣は、舊態依然たる現状維持的勢力の共同戰線體であり、餘りにも明白なる偽裝學國一致内閣であるが、自らは「政黨、軍部、官僚の別なく積弊を免除し確固不拔の國策を樹立」する革新内閣と

自稱してゐる！
廣田内閣は、その組閣に際し自ら聲明せる『舊來の秕政を一新し國際關係を自主積極的に整調し、非常時局を打開し』『以つて一大革新を斷行せん』に省りみて、即日革新政策を具體化し、來る可き臨時議會に於いて提出さるゝ追加豫算の中に國民生活の安定並に所謂廣義國防の具體的政策を明示し國民大衆に應答す可し。
我黨は唯一の在野黨として、全國民大衆の要望を體し、廣田内閣の行動を嚴重に環視すると共に我黨年來の主張貫徹の爲めに邁進せんを聲明す。
三月九日

第六十九議會と社会大衆黨

第六十九特別議會は五月一日より會期三週間の豫定を以て開催された。過ぐる二月の總選挙に一躍十八名の議員を好成績を以て獲得して、政界に於ける新興勢力として議院内に異彩をはなつべき一團の存在となつた社会大衆黨に於ては、來るべき第六十九臨時議會のため四月二十七日中央執行委員會を開催して提出法案、決議案、建議案、特別議會對策委員會（委員長三輪壽壯氏外十二名）並に代議士會の設置構成等を決定し、更に翌二十八日代議士會を開催して、特別議會に臨む聲明書、議長、副議長、各種委員候補者並に活動方針を決定した。

社会大衆黨の議員團は院内に於ては松本、加藤、黒田、富吉

黨派名	候補者数	當選得票	黨派名	候補者数	當選得票
社会大衆黨	一五	三三三、三六三	社会大衆黨	三	一八、八八七
全国労働黨	三	二一、四七七	労働組合、農民組合、無産團體、無産中立	一〇	五、一、三三〇
日本國民社	三	二一、四七七	無産團體	一	〇、一、八七六
労働組合、農民組合、無産團體	五	〇、一、八七六	總計	五	五、九〇、九七九
總計	二六	三六六、〇七七	總計	四〇	三六六、〇七七

の四無産派議員と共に交渉團體として第一控室を構成し、獨自の立場に於ける左記の如き法律案並に決議案を提出すると同時に本會議、豫算總會、分科會を通じて、全議員總動員の下に、退職積立金法案を始め政府提出諸法案に質問或は修正意見の提出等に活動した。而して其の活動と態度は議會に新鮮味を加へたと言ふことが出来る。代議士會の聲明書、提出法律案、決議案、建議案は左の如くである（何れも審議未了に終つた）。

聲明書

本日第六十九特別議會の召集に當り、我等は全國の勤勞大衆に聲明する。

過ぐる二月の總選挙に於て我が社会大衆黨はその中心政綱として
一、勤勞議會政治の建設 一、大衆的増稅絶對反對 一、國民年金制の制定 一、民衆商工金庫の設置 一、重要産業の國營化
一、農産損失の國家補償
の六項目を掲げ、これが實現のために闘争すべき事を誓ひ我等は大衆の壓倒的支持を受けて議會に選出され來つたのである。偶々二・二六事件の突發に會するや、我國の支配的政治勢力たる軍部、官僚並びに既成政黨憤懣として相結んで廣田現内閣を結成し、庶政革新を掲言して立つたのであるが、固より現内閣は、今日の社會不安が我國資本主義者の内在的矛盾の必然的結果たることを認識せずまた認識することを欲す、革新を名として實は却つてますます民衆の負擔を過重ししかも民衆の切實なる要望を議會に如實に反映せしむるところの方途を取らず、逆に却つて民衆の口を塞がんとする反動的態

度に出でつつある。

ここに我等は政府に對する反對黨たるの立場を改めて明らかにすると共に、民政黨、政友會、昭和會等、政府の與黨であり且つ資本主義の政治的代理人たるところの既成政黨の重圍の中にあることを自覺して、國民大衆に對する責任のいよく重大なることを痛感する。今期議會は會期甚だしく短く、我等の寡勢をもつて果して幾千の戰を爲し得るかは豫測出来ないけれども、ただ勇往邁進我等の公約の實現、就中勤勞議會政治の建設のために闘争し、もつて勤勞大衆の期待に應へんことを期するものである。

昭和十一年五月一日

社會大衆黨代議士會

法律案

- 一、勞働組合法
- 二、小作法
- 三、母子扶助法
- 四、家事調停法案
- 五、衆議院議員選舉法中改正法律案

決議案

一 國民生活安定を目的とする社會立法に關する決議案 決議—政府は組閣當時の聲明を實行し國民生活安定を實現する爲に左の如き社會立法を立案し之を次期帝國議會に提出すべし。一、勞働者の勞働條件の改善を企圖する勞働組合法及勞働協約法を制定すること。二、耕作農民の爲に耕作權を確立する小作法を制定するこ

と。三、臨時海事法令調査會の決議による船員法改正案を提出すること。四、借地借家法を改正して居住權を確立し且つ其の施行地域を全國各都市に及ぶこと。右決議す。

決議案理由書—國民生活安定は現内閣組織に當りて聲明せられたる一重大政綱なるも政府は動もすれば財源に名を藉りて之が實現を回避する傾あるは我等の甚だ遺憾とする所なり。然れども國民大衆自ら起ちて協力扶助することは何等豫算を伴ふものに非ず政府にして誠實なる意思あらば即刻實現し得るものなりと信ず。是れ本案を提出する所以なり。

- 二 農村窮乏打破に關する決議案 決議—政府は速に現下の政治的重要問題たる農村窮乏打破の爲に左の諸政策を立案し次期帝國議會に提出すべし。一、耕作權の確立を内容とする小作法の制定。
- 二、國營農業損害保險法の制定。三、小學校經營費並に同教員俸給の全額及就學兒童學用品費等を含む義務教育費全額の國庫負擔。
- 四、勤勞制度の自主的相互組織を基礎とする國民健康保險法の制定。
- 五、農業負債の徹底的整理の爲の農村負債支拂納豫法の制定。
- 六、農業生産資金の無擔保融資。右決議す。決議案理由書—國民生活の安定及農村救済は現内閣組織の建前なるにも拘らず、今期特別議會の會期短きに藉口し之が具體的方策を明示せざるは吾等の甚だ遺憾とする所なり。政府は國民大衆に對する組閣の當初の公約に即し、農村窮乏打破の具體的政策を速に實施すべき義務ありと信ず。是れ本案を提出する所以なり。
- 三 議會制度及行政機構の改革に關する決議案 決議—政府は此の國際政一新の爲速に議會制度、選舉法、行政機構及地方制度の改

革に關する方策を樹立し、之が法律案を次期帝國議會に提出すべし。右決議す。決議案理由書—一、現在の貴族院は華族制度を以て其の基礎とせるも、今日に於ては華族制度は既に特殊の社會的勢力に非ず。從て之を特殊の政治機關に於て代表せしむる意義を失へるが故に貴族院を職能代表制に則て改革すべし。一、現在の衆議院は國民代表として其の基礎狹隘なるが故に大選舉區（一府縣一選舉區）比例代表制の採用、有權者年齢を滿二十歳迄低下及選舉の完全なる公營を中心原則として選舉法を改正すべし。一、樞密院は御諮詢事項が餘りに廣汎に亘る爲、屢々施政に干與する傾あるは甚だ遺憾なるを以て御諮詢事項を整理縮小すべし。一、現行の各省制度は不統一なるにつき廢合新設を行ふべし。一、今日の地方制度は經濟の實情に即せざるもの甚だ多きが故に、地方計畫及産業立國政策を基礎として行政區劃を改訂し、自治權の伸暢を目的として地方制度を改革し、特に町村自治體を經濟活動の線に沿ひて改組すべし。是れ本案を提出する所以なり。

四 産業及勞働の統制に關する決議案 決議—政府は速に勞働行政の統一、産業の國家的統制勞働法の制定並産業勞働の協力に關する諸政策を樹立し、之が實施の爲に必要な手續を取るべし。右決議す。決議案理由書—現下の國家非常時を打開するの途は健全なる國民經濟を再建し、産業の興隆と國民生活の安定とを圖るを以て急務とす。之が爲には國家の産業及勞働の統制政策を基調とし、産業に適切なる統制を加へ、資本の不當なる搾取を抑制すると共に勞働に統制と規律とを與へ、進んで産業協力の實を擧ぐることを絕對に必要とするに鑑み、一、勞働行政統一の爲に産業勞

働省を新設し、勞働、企業兩者代表を主とする諮問委員會を設置すること。一、重要産業の國營を終局目標とし公益の精神に則りて、之を指導監督すべき産業統制局を設置すること。一、一般中小産業に對しては工業組合を普及せしめ且現行工業組合法を改正強化し其の統制に勞働組合を參與せしむべきこと。一、勞働組合法團體協約法を制定して勞働組合運動に一定の軌範を示すこと。一、勞働爭議最少化の爲に勞働爭議調停法の強制調停規定を必要に應じて一般産業に及ぼし、尙勞働、企業、消費三者の代表を陪審員とする産業勞働裁判所を新設すること。一、主務大臣若は其の任命せる官吏を議長とし、勞働、企業、消費三者同数の委員を以て構成する産業協力委員會を全國的並地方的産業別に設置すること。以上各項の實現を必要とす、是れ本案を提出する所以なり。

建議案

- 一 義務教育費全額國庫負擔に關する建議案
- 二 農業損失國家補償に關する建議案
- 三 兵士家族生活國家補償に關する建議案
- 四 國民健康保險法制定に關する建議案

勞農無産協議會の結成

無産陣營に於ける合法左翼派の政治運動は、昭和四年十一月

結黨を見た労働黨が昭和六年七月、戦線統一の結果全国労働大衆黨へ合流して以来、全国的政黨の結成を見なかつた。而して翌七年七月社民、大衆二黨の合同によつて社会大衆黨が唯一の無産政黨として存在することになつたが、この社会大衆黨の行動に嫌らざる一派は政治戦線より退却して、専ら労働組合、農民組合等の固有の組織に立籠り、必要に際して、地域別に僚友團體と結んで一時的闘争組織として多くの場合労働無産團體協議會の名稱を以て稱へられる共同機關を組織して、社会大衆黨とは別個に政治運動を敢行してゐた。

關東地方に於ては、去る昭和九年十二月東京交通労働組合、日本労働組合全国評議會等關東労働組合會議系の諸團體を以て東北飢饉救援東京無産團體協議會を組織した。目的とする東北飢饉救援事業終了後も労働團體連絡機關とし労働懇話會（懇談會）として存続したが、十一年一月十七日、全国農民組合、東京交通労働組合、東京市従業員組合、東京自動車労働組合、全国評議會、關東工場連絡委員會、江東一般労働組合、關東消費組合等の八組合参加の下に「労働組合法小作法獲得労働大會」を開催し、労働共同闘争に基く議會對策を決定した。然るに總選挙の結果は無産派の議會進出著しく、特別議會に積極的活動と東京府會議員選挙戦に對する有效なる活動遂行を必要とする際戒嚴令下の政治的活動は政治結社にあらざるため種々なる不便ありとの理由にて、五月四日「労働無産協議會」とし、結社

届を爲した。

この労働無産協議會は戒嚴令下に於ける一時的カンパニアとして組織されたもので、恒常的組織の純然たる政治團體ではないが、その將來は社会大衆黨に對峙する無産政黨として發展する危険性あり、かくては労働組合の全的合流、無産政治戦線の統一を阻害し、障碍をなすものとして論難の聲が昂つた。全国農民組合は消極的態度を以て連絡をとるに止め、關東工場連絡委員會、關東消費組合聯盟は脱退を表明し、其の他の組合に於ても賛否兩論ありて一致し難い状態であつた。

かかる情勢に當面した労働無産協議會は、戒嚴令下に於ける集會禁止の解除と府會議員選挙の終了したることに依つて、結成當初の任務を達成し、結社の理由解消した關係上、七月三日常任委員會を開き協議の結果一應解體を議決し左記の如き解體聲明書を發表し、更に協議を進めて新しい「労働無産協議會」を結成した。新團體は東京交通労働組合、全国評議會等の諸組合並に一般市民層の個人加盟に據るものである。

労働協議會の解體聲明書、新たに生れた労働無産協議會の宣言、綱領、役員は左の如くである。

解體聲明書

我労働無産協議會は本年一月東京に開催された労働組合法、小作法、退職手当積立金法、自動車災害保障法其の他の法案獲得を目的とせる労働大會の繼續的カンパ組織として結成されたものである。労働

労働無産協議會

宣言

廣田内閣を通じて上から来る漸進的ファッシの重壓が加はり、しかも下からおこる急進的ファッシはなほ蠢動を止めず官僚軍部及びブルジョア政黨は「庶政一新」の美名にかくれて、官僚の軍事的國家統制を行はんとし、労働大衆の生活は愈々蹂躪され、人民の政治的自由は益々壓迫されんとして居る。労働大衆の生活の安定とファッシ、反對の爲めの闘争は、秒時と雖も停滯をゆるさず、一日と雖も後退を許さざるものがある。

此所に於て取敢ず新綱領に基き血盟を固め、新たな體系と新たな闘争の爲めに労働無産協議會を結成する。

新結成の労働無産協議會は、我國に廣汎なる反ファッシの「人民戦線」結成の爲めの推進力たらんとするもので、從來のカンパニアのもとに結集されたる労働大衆並に労働大衆を再編制して一定の階級的目標に統一し指導すると共に、全國の社大黨より門戸を閉鎖されたる無産團體並に未組織の労働大衆を組織し、動員し、社大黨其他の無産團體との共同闘争により、ファッシの強權と重壓の下にあへぐ労働大衆の生活のために果敢なる闘争を展開せんとするものである。

而して特別議會後、新聞、雑誌の評論家により指摘されたる如く、社大黨本部の一部に明白なるファッシの存在する事實は、一般の批判の如く同黨の階級的闘争の意識を薄め、反ファッシ、闘争を弱め、又無産戦線の統一をさまたぐる痛となつてゐる事があるにもせよ、

大會は實行委員を擧げ大會の決議を以て當時の岡田内閣に迫ると共に、對議會闘争を敢行せしめんとした。然るに第六十八議會は間もなく解散されるに至つた。故に労働大會の決議を忠實に實行せんとすれば勢ひ、總選挙に對して全力的に闘はねばならぬのであつたが、現行選挙法の制縛は吾等の戦ひを不完全なものとした。僅かに労働大會に参加した労働組合、農民組合所屬の各候補者を地方的事情に基いて應援したに過ぎなかつた。總選挙直後に起きた所の二・二六事件は労働大會の決議を繼續的に闘争する上に一大變化を齎した。即ち各團體相互の統一的集中的闘争を全く困難にした。けれども吾々の闘争は一日もゆるがせにすべきでないが故に、此處に戒嚴令下に於ける集中的闘争を合法的に確保する必要に迫られ、實行委員會の臨機的處置として治安警察法の示す所により結社届を提出して、その合法性を獲得したのである。而して吾々はこの故に戒嚴令下に於て反ファッシの基本的態度を明示しつゝ、可能なる限りに於て闘争を繼續して來たのである。今や戒嚴令による諸種の制限は著しく緩和せられ、戒嚴令も近く撤廢を見んとする状況にある。戒嚴令下に於ける各團體間の集中的闘争機關として結成された労働無産協議會は、戒嚴令撤廢と同時に其の特殊事情の下に於ける一應の任務を終つたものと言ふことが出来る。吾々の闘争は資本主義制度の下に愈愈執拗に果敢に遂行されねばならぬことは勿論であるが、我が協議會は其の結成の特殊事情に鑑み茲に一先づ解體するものである。協議會を解體すると雖も、協議會に参加したる各團體間の階級的連帯關係と友誼關係は、協議會結成前と微塵も異なる所がない。

一九三六・七・三

我が労働無産協議會は「人民戦線」の基礎を強化し、社大黨と協力する爲めに、社大黨にして全國の無産團體に閉鎖せる其の門戸を欣然と開放するならば、労働無産協議會はいつにても社大黨と合體融合する誠意と決意の在る事を聲明する。

一九三六・七・三

労働無産協議會

綱領

一、吾等は無産階級の反ファッシ政治戦線の統一のために戦ふ。一、吾等は労働組合、農民組合の擴大強化のために戦ふ。一、吾等は労働無産市民の経済的政治的利益の擁護伸張のために戦ふ。

本部役員

- 委員長 加藤 勘十
- 書記長 鈴木茂三郎
- 會計 牧野松太郎
- 常任委員 中島喜三郎 北田 一郎 阿部安次郎 安平 鹿一
- 高津 正道 中西伊之助 小堀 甚二 三輪 盛吉
- 伊藤 實 實川 清之

無産政治戦線統一運動

社大黨は唯一の無産政黨として、全無産階級の政治的中心勢力を形成する情勢にて、過去數年間政治戦線統一の聲を聞かなかつたが、今春の總選挙に於ける無産派の勝利は無産政治戦線を刺戟して政治的熱意昂まり、今日まで社大黨の組織外に

無産勢力の参加を受諾せられる様切望する次第であります。右申込致します。

昭和十一年八月二十九日

東京交通労働組合

日本労働組合全國評議會

東京自動車労働組合

東京市従業員労働組合

社大黨御中

この申込書を受けた社大黨に於ては九月一日常任中央執行委員會を開催して協議の結果左記の如く受諾の回答をなした

回 答

- 一、我黨は立憲以來門戸を開放し我國無産政治戦線強化の爲、不斷に最善の努力をなしつつあります。
- 一、従つて本常任執行委員會は去る八月二十九日貴四團體の申込書の趣旨を諒承致しました。
- 一、貴團體は我黨立憲の精神、政綱、黨規を承認の上夫々正規機關に於て黨支持の決定をなされたし。

右回答致します。

昭和十一年九月一日

社大黨常任中央委員會

四團體が社大黨への入黨申込をなすや、「吾等は欣然として社大黨に合同を提議するに充分の用意を有するものである」と聲明した労働無産協議會に於ては、交渉の経過を觀て九

在つて一時政治戦線より後退した労働無産團體の政治戦線への進出に伴ひ茲に再び社大黨を中軸として戦線統一運動が擡頭した。即ち労働無産協議會並に地方的無産團體、全國農民組合、労働組合を通じての運動である。

労働無産協議會は宣言或は運動方針大綱の中に、反ファッシ人民戦線の統一を主張し、社大黨の門戸開放を要求すると共に、同黨に對する合同の熱意を有することを示してゐたが、兩黨の關係は嚴然として對立的存在であつた。然して、近年無産陣營内の潮流は労働組合、農民組合と言はず戦線統一、合同の要求強く、労働協と支援關係にある東京交通労働組合、東京市従業員組合、全國評議會等の諸組合の内部情勢は又政治的立場の相異によつて組合内部の紛亂抗争を惹起することを避け、中立的方針をとりつゝ、合同を必要とする情勢にあつた。かゝる情勢の下に戦線統一の實踐的運動は先づ労働協系の労働組合より起つた。

東京交通労働組合、日本労働組合全國評議會、東京市従業員組合、東京自動車労働組合の四團體の代表者佐々木源三氏外七名は八月二十九日社大黨を訪問入黨申込書を提出した。

申込書

八月二十七日左記四組合の戦線統一促進委員が相會して、我が日本に於ける反ファッシ政治戦線の統一は貴黨を中心として一切の無産勢力を結合することによつて、實現されねばならぬと言ふ結論に到着致しました。依つて吾々四團體は茲に貴黨に對し貴黨外一切の

月三日、委員長加藤勘十氏外二名の代表者をして社大黨を訪問の上、左記の如き合同提議書を提出して合同の申込をなした。

合同提議書

我が労働無産協議會は、東京交通労働組合、日本労働組合全國評議會、東京自動車労働組合、東京市従業員組合の四團體から貴黨に對し、貴黨外一切の無産勢力に對して、反ファッシ戦線統一のために門戸開放を要請したるに、貴黨が右四團體の申込の趣旨を諒承され、門戸開放の立前を明確にされたるは、我等の欣びとするところであります。

我等は貴黨の門戸開放の趣旨に基き茲に貴黨に對し、階級的喜びを以て反ファッシ戦線強化のために、お互に無條件を以て合同したいと思ひます。

迫而、我が労働無産協議會は、貴黨からの回答あり次第具體的折衝に入るため合同委員を選出し通告いたします。

昭和十一年九月三日

労働無産協議會

社大黨本部御中

この合同提議を受けた社大黨に於ては協議の結果、九月七日淺沼稻次郎氏外二名の代表者は労働協本部を訪問の上「我黨は四團體に回答せるが如く門戸は開放してゐるが、貴團體は四團體の個人によつて結成されてゐるので四團體の黨に對する態度が決定すれば自ら合同問題は解消する」と旨換言すれば

勞協は合同の對策と認め難しと暗に拒絶的回答をなした。茲に於て勞農無産協議會の社會大衆黨への合同問題は頓挫するに至り、問題は兩黨に關係をもつ水平社の松本代議士、全農の黒田代議士の斡旋に移つた。

地方に於ける社會大衆黨への政治戦線統一運動を一瞥すれば多年對立關係にあつた大阪地方無産團體協議會が七月二十九日社大黨支持を同黨大阪支部聯合會に申込み、八月四日承諾の回答ありて戦線統一の成果を得た。岡山無産團體協議會の社大黨岡山支部への解消、奈良無産團體協議會の社大黨奈良支部への改組の如き、或は全國農民組合内に於ける全會派系對社大黨支持系の政治戦線の統一、大阪市電自助會、東京瓦斯工組合の社大黨支持の如きは又政治戦線の統一運動であり、強化と觀るべきである。

陸軍工廠従業員の勞働組合脱退問題と無産政黨

陸軍に於ては、陸軍工廠従業員の勞働組合加入禁止の方針を建て、九月十日大阪、名古屋、小倉の各工廠長をして従業員全員にその主旨を訓告せしめ、同時に勞働組合に加入せる従業員とは相互諒解の下に組合脱退誓約書に調印をとり、以て一朝にして數千名の勞働者を平靜裡に組合より脱退せしめた。かくして二十年の歴史を有つ官業勞働組合は崩壊するに至つた。此の

問題は全國の勞働者、無産階級に異常な衝撃を與へた。官業勞働總同盟と支持關係にある社會大衆黨に於ては勞働者の團結擁護の立場に於て直ちに別記の如き反對聲明書を發表すると共に、日本勞働組合會議と協力の下に代表委員をして、九月十四日陸軍省、内務省を訪問の上聲明書の主旨の如く不當を抗議し、對策を要望する所があつた。更に九月十七日常任中央執行委員會を開き反對闘争方針を決定し、東京市を始め各工廠所在地に於て「廣義國防批判、團結擁護」演說會を開催する事を決し、九月二十二日最初の演說會を東京市本所公會堂に於て開催した。

官業勞働彈壓に對する聲明

本日各新聞紙に依れば、陸軍當局は我國勞働運動の中堅的團體として最も穩健なる官業勞働總同盟に對し組合會議參加、官業勞働者の橫斷組織の禁止を強制命じた由である。實情は尙ほ調査を要するとするも、官業勞働總同盟は周知の如く官業の意義をよく體し、穩健着實なる多年陸軍當局とよく協力し最も産業協力の實績を挙げ來つた模範的組合であつて、何等彈壓に値すべき理由を持つてゐない。陸軍當局者談によれば、その理由を肅軍に求め、部内外の橫斷的結合を排するにありと稱してゐるが、斯の如きは實に陸軍そのものが外部的勢力に左右せられるものであるかの如き考へ方であつて、自ら不見識を暴露せるものである。陸軍は一方に於て廣義國防を説きつゝ、他方に於て劍を以て勞働者の團結を強壓する、今日の國防はもはや舊式な軍隊の盲從を勞働者並に一般國民に強ひることに依

つて達成せられるものではなく、勞働者並に一般國民大衆の自發的な激刺たる參加協力がなければならぬことは陸軍當局自身が最もよく之を知つてゐる筈である。尤大なる軍事費負擔は今や勤勞大衆をして堪へ難きに至らしめんとしつゝあるに拘はらず勞働者團結の既得權をさへも強奪して、何の廣義國防であるか。かゝる國防こそ正に魂を失へる形骸的國防であり、奴隸的統制であると言はねばならぬ。陸軍の計畫として傳へられる勞務委員會の如きは既に失敗の經驗済みの組織であり、而して全産聯の推稱して止まざる御用組合である。當局の鼓吹する職員と職工との精神的理解といふが如き、工廠従業員の自發的なる組合脱退といふが如き、盡くこれ統制を擬しての強制たるは明白である。のみならず、最近に於ける陸軍工廠は、尤大なる臨時工を使用し、賃銀を引下げ勞働強化を強制し、従つて工場災害の激増、肺結核患者の續出は最悪の資本家的搾取の強行を證明するものである。

陸軍の勞働組合彈壓を最も喜ぶものは資本家である。全産聯である。彼等はこの方面に於いても、直ちに軍部追隨するは必至である。今日長年月の苦闘を経て漸やく健實なる方針を確立し得んとしてゐる我國の勞働運動が軍部並に資本家の斯の如き態度に依つて若し、此處一大轉換をなさざるを得ざるに至るならば、その責任は擧げて陸軍當局が取らねばならぬ。我等は陸軍當局の斯の如き反動的政策に斷乎として反對し、團結擁護の爲めに闘はんとするものである。

昭和十一年七月十一日

社會大衆黨本部

勞農無産協議會に於ては九月十一日直ちに反對聲明書を發表すると共に社會大衆黨並に日本勞働組合會議と共同闘争の敢行を提唱した。

聲明書

今回陸軍當局は肅軍を工廠の勞働者にまで及ぼすとの建前で官業勞働者に對し、勞働組合脱退を強要し且つ將來の加盟をも禁じた。當該勞働者は多年築き上げ來つた組織を將に潰滅せんとしつゝある。今や日本の勞働者は一方賃銀の低下勞働強化を強要され、他面物價の著しき昂騰により、生活は益々窮乏化し、これが打破のため勞働組合の擴大強化が何よりも必要とされてゐる。一、一般軍需工場勞働者が過重勞働であることは中島飛行機工場所在地の立川の徴兵検査の結果に徴しても明かである。二、就中陸海軍工廠の勞働條件が劣悪である事は軍部發表の統計の明示するところである。三、此の強まり行く勞働強化に對し官業勞働者は最早忍堪し得られざる状態に直面してゐる。四、此の時に當つて陸軍當局今回の行動は此の勞働強化と搾取に對する勞働者の正當なる抵抗力を全く奪はんとするもので、官業勞働者の生活に對する殘忍なる抑壓である。五、若し此の暴舉が其の儘に看過されるならば、他の官公業勞働者に對しても擴大され、一般資本家階級も之に倣はんとするに違ひない。六、これこそ日本國家資本主義を強化防衛せんが爲の全無産階級殊に勞働組合に對するファッシ。支配の具體的現れである。七、これは獨り國民生活安定を口にする軍部の自己否定であるのみならず、勞働者の既得權たる團結の自由を奪ふものである。吾が勞農無産協議

會はこの見地に立つて全無産大衆に呼びかけ社會大衆黨並に一切の勞働組合、農民組合と提携してこのファッシの攻勢に對して敢然と闘ふことを聲明す。

一九三六・九・一一

勞農無産協議會

日獨防共協定の成立と無産政黨

十一月二十五日、日獨防共協定が締結を見た。此の日獨防共協定はその國際關係に及ぼす影響と我日本の外交政策の上に於て重要な政治問題である。本問題に關する無産階級の代表的意見、新興政治勢力の意見として社會大衆黨及び勞農無産協議會の聲明書を示せば左の如くである。

社會大衆黨の聲明書

今回廣田内閣は、共産「インターナショナル」及び共産主義の脅威に對し、これが防衛と、而して「萬古不動の國體を擁護し、國家の安全を保護し進んで東亞永遠の平和を維持するため」と稱し、ナチス・ドイツと防共協定を締結した。我が社會大衆黨は、その立憲に際し既に共産主義及び共産黨に對し絶對反對を明確にして、實踐的にこれを闘ひ來つたものであるが、今回の日獨防共協定は、現下國際關係の危機に鑑み、更に防共の具體的方策の觀點よりして斷じて賛成し能はぬものである。

即ち第一、日本及び極東に於ける共産「インターナショナル」の脅威に對し、ドイツと協同することはファッシズムを以てコンムニズム

國際經濟協調に入るべきであり、我が國はこれに指導的立場を取るべきである。然るに日獨協定は此の立場を拋棄したるのみならず、却つてこれを阻害する危険を有するものである。我々は日本國際經濟が其の整調せらるべき時期に於て逆轉し、重大な危機に當面すべきことを指摘する。第六、極東平和の達成は防共の名によつてドイツと協同し、國際的國民戦線とを結成するとに非ずして、寧ろ日英、日米、日獨、日支に對して、汎世界的且つ同時併行的な極東に於ける集團平和機構を確立することにあらねばならない。

要するに日獨防共協定は我が國外交失敗の累積から今日の日支交渉の行詰りを來し、之を打開すべく最悪最後の方法に出でたものと解すべきであるのみならず、協定會商を國民と世界に秘すること數箇月、國民の外交意識を無視し、一方無用の誤解を世界に生み、其の手續を過つて無用の紛議を齎したことは、官僚獨斷外交の弊を露呈せるものである。これを以て何等防共の實績を擧げ得ざるのみならず、却つて國際對立を激化し極東國際關係を紛亂に導くものであつて、本協定の國際政局に投じたる波紋は一部の論者の希望する處に反し、世界平和に貢獻するよりも凡そ正反對の效果を生むべきことを豫斷し、本協定外交を排撃するものである。

十一月二十五日

社會大衆黨

勞農無産協議會の聲明

勞農無産協議會に於ては十一月二十七日、書記長鈴木茂三郎氏談の形式で次の如く聲明をなした。

に對抗せんとするものであつて、徒らに思想的に列國を分派し國際對立の激化を招來し防共の實際的效果を擧げ得ざると共に、我が國を以てファッシズム戦列に立つ處のブラウンインター(褐色インターナショナル)の一構成要素たることを裏附けたものである。赤色インターが我が國體と相容れざるが如く、褐色インターも我が國體と相容れざるもので我が國をして斯くの如き政治的イデオロギーに立つものと解せらるゝ事の外交上の損失は言ふべからざるものがある。第二、「共産主義及び共産「インターナショナル」の脅威より我が國體を擁護し國家の安全を保護するため」ナチス・ドイツの「協力を求める」といふ外務省の聲明は、我が國體に對する正しき認識と信認とを缺如せるものであつて、寧ろ我が國體に對する冒瀆と言はなければならぬ。更にまたそれは我が國現代政治の徹底的無力と廣田内閣の無能とを曝露せるものであつて、我が國政治文化能力の恥辱であり醜態である。第三、共産主義及び共産「インターナショナル」に對抗して其の脅威から脱却する途は、政治、經濟、社會の諸組織を改革し、現下階級分裂の資本主義社會から我が國體に内包せらるゝ無階級的な全體社會の新機構を實現し、我が國國家社會組織の優秀卓絶性を確保する以外にあり得ない。第四、又大陸民衆の間に共産化が進行する所以は、大陸民衆の民族的自主的發展が反資本主義的動向に沿ふの必然的歸結である。されば大陸民衆に對する我が友誼的援助は東洋社會の歴史と事實に即して、反共産主義であると共に反資本主義的なる創造的社會主義の上に行はれざる限り、彼等の共産化は防止し得ないものである。第五、舊時の自由貿易による國家經濟はこれを復活し得ないが、世界は組織的な協定主義による

一、手續上の問題として先づ外交方針の一寸した間違ひ、蹉跌で國民自身が責任を負はねばならぬといふことが切實となつてゐる。最近では、例へて言へば起らなくて、戦争が、税金令をかけて結局國民が負ふといふことは、國民として甚だ迷惑なことである。本協定の如き重大なる問題に對して新聞報道を禁止し、國民に對して何等批評をさせず、突如是を發表したのは、手續上の間違ひではあるが、此やり方は間違ひであると思ふ。二、無論發表された條文其のまゝのものに成立したと思ふが、これだけのものでは實質的にどれだけの效果を狙つたものであるか、孤立してゐるドイツにとつては、相當好い精神的な結果を與へると思ふが、日本は單に極東に於てロシヤ、支那を敵に廻す危険を生じて來る。敵をはつきりさせたといふ點で日本は孤立し、何等協定の實質的效果はない。三、日本政府は從來反ファッシ、反共産主義の建前をとつて來ながら、共産主義ロシヤの不侵略條約を蹴つて居ながら、同じくファッシからの提議を協定したのは、從來の建前を捨てたもので我々には諒解出來ぬ。四、日本の立場といふものはロシヤを孤立させる立場をとらなくて、アメリカ、イギリスのとつてゐる立場をとつて行くのが、日本の一番よい外交方針でないかと思ふ。從來孤立してゐる國際的關係を強めるといふ議論が相當にあつたのは、例へばロシヤ、ドイツとのみ結ぶといふ方向に行くのではなく、英米と結んで世界平和の三つの安定勢力として、英、米、日本が中間的な立場をとつて、それがために英米と協力するといふ點にあつたので現在の如き建前ではなかつたこれは從來の方針に矛盾する。五、協定の結果は今迄の建前たる一國に偏らない外交方針で、國際關係を深めるといふ外交方針を放

擲して、日本政府の中にドイツ、イタリーの如きファシシ的傾向を強める傾向が従来の外交方針を牽制し廣田内閣をして、ファシシと提携せしめる方向を辿らしめた。今回の協定に對して一部では官僚ファシシの陰謀の如く言つてゐるが、寧ろ軍部の勢力が外交を決定したのだと思ふ。六、今回の協定が世界的に受ける印象は、ヨーロッパに於てドイツ、イタリー、東洋に於て日本の三つのファシシが、若くはファシシ的三つの國の……精神的な協定といふ印象を深めたのみで、日本は何等得るところはない。

社會大衆黨の大會と其の動向

社會大衆黨の第五回全國大會は十二月二十日より三日間に亘り東京に於て開催した。中央執行委員長安部磯雄氏議長の下に議事は、(一)農村關係委員會、(二)議會關係委員會、(三)方針書委員會の三部に分れた、分科委員會制度を以て審議を進め、一般運動方針書外三十七議案を議決し、來るべき第七十議會對策及び向ふ一箇年間の根本方針を決定した。

總選舉並に地方選舉に躍進を遂げた社會大衆黨は昔に議員數の増加のみならず、宣傳活動に組織運動に努めたる結果本大會は誠に活氣溢れ緊張と希望に輝いた大會であつた。過去一箇年間に新組織或は再組織を見た支部數は六十二に達し、其の組織網は一道三府四十三縣に亘る情勢である。支持労働關係に於ては新たに東京瓦斯工組合、大阪市電従業員、大阪市電自助會、

全泉労働組合、大阪木材労働組合の正式支持を得、更に中間市民層關係に於て、東京市民團體聯合會、大阪市民商工會議所、大阪俸給生活者協會、名古屋市民クラブ等の組織を獲得し、黨の基礎を堅め、勢力を伸張した。現在の所屬議員數は衆議院議員十八名、府縣會議員五十四名、市會議員五十四名を算する状況である。

數多き議案中社會大衆黨の動向を知るべき資料として左に一般運動方針書中の外交政策、國內政策、議員行動方針書、宣言を示せば左の如くである。

一般運動方針書

(前略)

一 外交政策

イ、外交政策 外交政策の基調は國民外交に置かるべきである。秘密、專斷、暗躍外交は斷乎として排撃せねばならぬ。國民の總意と理解の上に立つて、我外交の全面的にして且つ根本的なる改變調整工作をなす事が、本年度に於ける我黨外交政策の主眼である。一、廣田内閣外交の批判 國交調整を使命とせる廣田内閣の外交政策は失敗の連続である。對支、對露政策の慘憺たる成果は勿論のこと、この失敗を糊塗せんために目論まれたる日獨防共協定、日伊經濟協定は、恰かも我が國がファシシ・インターナショナルに投合するかの印象を與へ、國際的威信を傷けたること多大である。かくの如きは正に失敗の上塗りであつて、畢竟現下の國際情勢に對する正確なる認識の缺如に原因するものと言は

ざるを得ない。今日人民戦線、國民戦線等々の常用語を以て呼ばれる國際情勢は國家對立を合理化せんとするイデオロギーの武裝であつて、その背後に大衆的自覺の踵を接して擡頭しつゝあることを見のがしてはならぬ。この國民大衆の利害と理解に依つて裏付けられざる外交は、やがて没落の運命を擔ふものである。我々は遺憾ながら廣田内閣の外交に於てかかる適例を見出す。

二、我が黨の外交政策 我が黨は最も合理的なるファシシ對策が國際調整の實現にかゝることを認め左の政策を探らんとするものである。

A 對支政策 (一)對支不干涉政策の根本原則に立ち、支那の近代的國家統一に向つて援助的方針を探ること。(二)國民對國民の理解を深め、政治的並に經濟的に相互依存方針を確立すること。アジア労働會議を以つてかかる方針具現のための槓杆たらしむること。(三)對支文化外交を充實し、思想的、文化的連繫を計ること。

B 對露政策 (一)日蘇不侵略條約を樞軸として、日滿支を貫く極東安全保障條約の締結に向つて進むこと。(二)日滿蘇國境劃定會議を開催して、極東に於ける禍根を一掃すること。

C 國際政策 (一)集團的平和機構確立の前提として太平洋完全保障條約を締結すること。(二)對英政策を確立し、ファシシ・インターナショナルの烙印より脱却すること。(三)世界經濟會議の開催を提唱して、行詰れる國際情勢の打開に向つて進出すること。

ロ、國內政策 我黨は、國家革新の斷行、國民生活の安定を中心として、廣汎なる各種國策案を作製した。即ち政治機構の改革、重要産業の國營、税制の改革、教育制度の改革、國民年金制等々の成案を以つて、没落資本主義の補強工作たるファシシ的似非革新政策に對抗して來たのである。更に労働政策、農村政策、市民政策等を以つて、軍需インフレより惹起さるゝであらう悪性インフレと闘ひ、労働者農民及び勤勞市民の生活防衛の爲めに闘ひ來つた。

一、最近の各種國策案 庶政一新をスローガンとせる軍部、官僚の國策案は資本主義補強の爲めの偽善政策にすぎない。それは國家革新と國民生活の安定とは全然反對の立場に立つものである。例へば、電力國營案に於いては、豊富且つ低廉なる電力の供給に依つて産業の開發、國民生活の安定に資するとの名目の下に電力資本家の利益を擁護し、従業員を犠牲とせんとする。税制改革に於いては、大衆課税によつて國民大衆の負擔を過重ならしめ、議會制度の改革に於いては議會の權限を縮少しファシシ的獨裁化を企圖し、選舉法の改正に於いては選舉權を制限し國民大衆の政治的自由を制壓し、教育制度の改革に於いても徒らに大衆の負擔を重からしめんとしてゐる。かかる一聯の國策案は前章に於いて指摘せるが如く國民的犠牲と強力支配による戰時體制への移行を示すものであつて蓋し革新的方向とは逆行するものである。

二、我が黨の政策 我黨はあくまで國家革新と國民生活の安定を期し、それが實行の爲めに政治、經濟、財政、社會の全分野に於

ける改革の断行を要求する。最早今日の日本は我黨政策によつて現状を打破し、社會主義日本を建設する以外に更生發展の道はあり得ない。左に我黨政策を列挙せん。

- 一、政治機構改革 行政、議會、選舉、司法の全政治機構を改革せんとするもの、(國策叢書第三卷參照)
- 二、重要産業の國營、電力、製鐵、軍需工業、砂糖、紡績、肥料等の重要産業を國營し、全國民經濟を社會化計畫化せんとするものである。(國策叢書第二卷「重要産業國營」參照)
- 三、電力國營 我黨國營化の基準に基き電力産業の統制により豊富低廉なる電力を供給せんとするもの、(國策叢書第一卷「電力國營」參照)
- 四、税制改革 大衆負擔を軽減し、國家財政を基本的に立直せんとするもの、(國策叢書第四卷「税制改革」參照)
- 五、教育制度の改革 教育制度の根本に改革を加へ公費勞學制度を確立せんとするもの、(教育制度改革案參照)
- 六、國民年金制 恩給法を改正し全勤勞國民大衆の徹底的給養を計らんとするもの、(國策年金制參照)
- 七、勞働政策 抱括的なる勞働立法を獲得し勞働階級の勢力伸張と利害の防衛をなさんとするもの、(勞働政策參照)
- 八、農民政策 農村の全面的更生を企圖せんとするもの、(農村政策參照)
- 九、市民政策 中間社會層獲得、中小商工業者の更生を目標とせるもの、(市民政策參照)

議員行動方針書

一、我黨選出の議員は、我黨が中央及び地方の議會に派遣したる階

策と妥協することは勿論排撃させねばならないが、役員選出の投票を交換することも出来る限り避けねばならぬ。

宣言

今こそ國內改革断行の秋は來た。外、對支政策の行詰を中心とするファッショ外交の全面的破産、内、軍事費十四億を契機とする資本主義經濟の最後の崩壊は、國民生活安定を基本とする國內改革の断行以外に、日本の行くべき道なきことを明示する。

既に姑息なる現状維持策を一擲すべき秋は來た。現下の資本主義體制を維持することは、單に國家百年の大計を謬ふのみならず當面の難局打開策としても何等の効果なきものである。現に我が對支關係の行詰は、もはや外交手段乃至軍事手段を以て處理し得る限度を遙かに越え、思想的對立をすら伴ひつゝますます深刻化してゐるではないか。對支關係の冷靜なる檢討は國內革新の先行に歸着する。すなはち現段階に於いては國際平和確立の道も亦國民生活安定の道と同様、國內革新の断行に合一するのである。

然らば今良くこの大業を擔當し得るものはたして誰ぞ。口に全體主義を唱へて民衆の團結を蹂躪するところの彼等であるか。口に農村救済を言ふて農民の耕作權を顧りみざる彼等であるか。口に國民生活安定を謳つて大衆課税を爲さんとする彼等であるか。否。斷じて否。それは眞に民衆の中より生れ、民衆の支持に依つて成長し、民衆の聲を聲とする我等社會大衆黨を措て他にないものである。今や多年の辛苦酬いられて我社會大衆黨は躍進に躍進を重ね、次期政權擔當者たるにふさはしき新興勢力の結集體たらんとしてゐる。誠に我黨の躍進こそは、國民生活安定の推進力たると同時に、國際平和確立への楨杆たるものである。日本の將來を憂へ大衆の生活を思

級的戦士である。従つて議員はもはや個人に非ず、その一身に於いて同時に我黨を代表するものであるが故に崇高にして嚴肅なる義務を生ずべきことを銘記しなければならぬ。一、我黨選出の議員は、我黨の精神を體し、綱領規約を遵守することは勿論、黨の統制に對して絶対に服従することを特に誓はねばならぬ。けだし、議員は我黨の選ばれたる黨員であるが故に。一、我黨選出の議員は、革新的氣魂を裏むに道徳的品格をもつてしなければならぬ。如何に才能ある議員であらうとも道徳的疑惑を蒙る如き者は我黨にとつて不要なるのみならず、革新途上における最大の障礙である。一、我黨選出の議員は、日常の行動に細心の注意を拂ひ、敵に繞圍されたる戦士の緊張をもつて、苟しくも政敵の乘ずべき間隙を與へてはならぬ。一、我黨選出の議員は、必ず大衆的日常闘争の最先に立ち、我黨が無産大衆の利害を眞實に代表するものであることを身をもつて説明しなければならぬ。一、我黨選出の議員は、院内に於て独自の議員團を構成し我黨独自の立場を明確ならしめることをもつて原則としなければならぬ。既成政黨所屬の議員と聯合することは絶対に避け、中立議員と聯合しなければならぬ特殊の場合には、必ず黨の責任機關の指示を仰がねばならぬ。一、我黨選出の議員は、院内における我黨の尖兵として、我黨を代表して政策主張の闡明並に實現のために獻身的に闘争しなければならぬ。一、我黨選出の議員は、院内役員の選舉に關して他黨と協定せざることをもつて原則とする例外として我黨の政策の實現を公約せる場合には他黨候補者に投票することが許さるべきも、その場合には必ず黨機關の指示を仰がねばならぬ。院内役員を獲得するため黨の政策を讓歩し或は他黨の政

ふ同志は來り投せよ、而して我黨の國內改革断行の大業に参加せよ。茲に輝ける第五回大會を了して、我等は陣容を新にし、左のスローガンの下に來る可き一年を戦ひ抜かんことを誓ふ。

國內改革の断行！ 團結權、耕作權の確立！
 勤勞議會政治の確立！ 社會施設の擴充！
 國民外交の確立！ 廣田内閣打倒！
 大衆課税反對！ ファッショ排撃！
 右宣言す。

無産政黨と勞農組合との支持關係



労働組合運動

緒言

昭和十一年に於ては、過去數年來の非常時の社會情勢が更に一段と緊迫し、滿洲事變以後の財政インフレに據る軍需工業界の殷盛は、引續き産業界に好景氣を招來した。かうした社會經濟情勢の影響をうけつゝ、或は之に對抗しつゝ、労働運動は新たな足跡を印し、新分野を劃した。

昭和十一年の労働組合運動は、大體に於て、十年來の態勢の移行であり、その延長であると謂ふことが出来るが、尙特異なる點を求むるならば、組合戦線の統合整備、勞農提携による政治戦線への進出、社會立法獲得への積極化等を挙げうるであらう。

非常時局に於ける重大事件とも見るべき二・二六事件の發生は労働運動に多大の影響を與へた。東京市域に施された戒嚴令は、全国的に影響を及ぼし大衆的運動を禁止するに至つた結果多年の慣行となつてゐたメーデー、日本労働祭等も全国的に禁止されて一般的に労働運動は争議と云はず、組織運動と云はず上半期に於ては消極的に終始した。

昭和十年夏以來、全國産業團體聯合會と労働團體との間に、それ／＼の立場に於て賛否兩論の意見對立して、勞資間の抗争を激化して社會的的重大問題となつた退職積立金法案は、戒嚴令下の非常時の緊張裡に開かれた第六十九臨時議會に於て無事通過成立を觀るに至つた。これ等の諸點は非常時局の労働運動の特異性であり、産物と認むべきである。

軍需工業を中心とする産業界の好況は失業労働者數の減少、就業労働者數の増加を示してゐるが、「臨時工の激増」は前年來の労働運動の一大闘争目標にして、「臨時工並に人夫制度の廢止」の要求は又十年に於ける労働組合の重要問題であつた。

労働組合の陣營に於て、先づ思想的動向に就て觀れば、共產主義、無政府主義の運動は凋落して振はず、産業協力を主張する社會主義的思潮の労働組合と、勞資一體或は労働報國を主張する日本主義思想の労働組合が二大勢力を形成し、労働組合運動の主流をなし、やゝ異なる別個の存在として合法的左翼思潮の立場をとる労働組合の一團がある。滿洲事變を契機として擡頭した國家社會主義の労働組合は日本主義の労働組合に融合統一を見るに至つた。

労働組合の戦線統一の傾向は、多年に亘る論議と要望を離れて愈々實踐の域に進み、十一年に於ては各分野と各戦線に多大の成果を収めた。即ち一月の總同盟と全勞の二大組合の合同、四月の東京瓦斯會社關係の數個の組合の合同に依る東京瓦斯工組合の創立、日本主義、國家社會主義系労働組合の全国的協議機關として愛國労働組合全國懇話會の成立、八月の總同盟大阪官業労働組合と官業總同盟上會の合同、十月の製陶労働組合同盟の組合會議加盟、十一月の大日本勞協の總聯合への合同、十二月の三河愛國労働聯盟、中部労働聯盟、忠孝労働、伊勢愛勞等の合同による愛國從業員組合總聯盟の創立等を擧げることが出来る。而して、我國の労働組合の分野は、日本労働組合會議と之と對蹠的立場にある愛國労働組合全國懇話會の二大系統に別れ、戦線統一運動はこの二大系統を根幹として進むが如き傾向に在る。

十一年二月の總選舉を契機として勞農組合提携のもとに政治戦線への進出は極めて活潑となつた。日本労働組合會議系の労働組合は大體に於て社會大衆黨と支持支援關係にあり、社大黨の組織外に置かれた合法左翼派の日本労働組合全國評議會、東京交通労働組合等を中心に新しき政黨として「勞農無産協議會」が結成を見るに至り、茲に亦政治戦線統一の運動が起つた。愛國労働組合懇話會は全国的政黨の樹立を要望しつゝ、あるも未だ新黨樹立に至らず、その傾向も一致するに至らないが、加盟組

合中には時局協議會、大和聯盟、愛國労働農民同志會等に參加して政治戦線に進出を計つた。労働組合の政治的進出と共に労働立法制定促進の運動は又特記すべき點である。

過去數年來や、その進路を阻まれたるが如き情勢にあつたが猶數的增加を示してゐた労働組合運動は、十一年六月末に於ては十年末に比較して組合數に於て四三、組合員數に於て約七百名の減少を示したことは留意すべき點である。

十一年に於ける労働運動に於て特記すべき重大問題は、九月十日の陸軍の各工廠從業員の労働組合加入禁止と強制脱退の方針である。この陸軍のとつた方針所斷は團結權擁護を主張する労働運動界に多大の衝撃を與へた。

計數に表はれた労働組合の組織狀況

我國の労働組合の發展過程を數量的に顧みれば、其の組織は大體に於て逐年増加の一途を辿つてゐたのであつたが、十一年に入つて組合數並に組合員數の減少を見るに至つたことは、稀に觀る現象にして、労働運動の現勢並に將來への傾向を考察する點に於て重視すべきである。

後記の労働組合の統計數に於て明かなるが如く、滿洲事變以後、非常時局の反映をうけ労働運動は産業協力主義、労働報國或は勞資一體主義等指導精神の轉換と共に労働運動は實踐的に轉換過程を辿るに至り、組合の組織情勢は逐年その増加率を遞

減する傾向に在つたが、十一年に入つて、六月末の数字の示すところに依れば、十年末に比較して組合員數に於て七百名の減少であつた。尤も十一年末現在に於ては労働者數の一般的増加のため組合員數も十年より約一萬二千名の増加を示した。

十一年末の労働組合の組織狀況は、労働組合數九七三、組合員數四二〇、五八九名(内女二四、六八五名)にして、同期に於ける労働者總數に對比すれば、その組織率は六・九%である。これを十年末に比較すれば、組合數に於て二〇の減少を示したが、組合員數に於ては却つて一一、九二七名の増加を示してゐる。

斯くの如き現象の原因は深く考察すべき問題であるが、今、原因と看做すべきもの二、三を擧ぐれば

- 一、非常時局の社會情勢の影響をうけ資本家側に團結權否認の傾向強くなり、機會ある毎に組合の解散或は會社組合に改組するもの多きこと。
- 二、基礎のない單獨組合が労働者の福祉増進を中心とする協調的團體に改組するもの多きこと。
- 三、労働組合の戦線統一の結果、組合の合併により組合數の著しい減少を見るに至つた。

以下の示す府縣別、業態別、職業産業別、單一聯合別等の諸表は何れも昭和十一年末に於ける労働組合の組織發展に關する諸統計である(數字は内務省社會局發表に依る)。

最近十年間の労働組合組織に關する統計

年次	労働組合數	労働組合員數	労働者總數	労働組合の組織率
昭和二年	五〇五	三、九四九三	四、七三、七五七	六・五
同三年	五〇一	三、〇八九〇	四、八二四、七〇	六・三
同四年	六三〇	三、〇八九五	四、八七三、〇八一	六・八
同五年	七二二	三、五四、三二二	四、七三、〇三三	七・五
同六年	八八八	三、六八、九七五	四、六七〇、二七五	七・九
同七年	九三三	三、七、六二五	四、八八〇、二七六	七・八
同八年	九四三	三、八四、六一三	五、二六、七一九	七・五
同九年	九六五	三、七、九六四	五、七六四、二七七	六・七
同十年	九九三	四、〇八、六六三	五、九〇六、五九九	六・九
同十一年	九七三	四、二〇、五八九	六、〇九〇、二六	六・九

労働者數並労働組合員數種別表

種別	労働者數	労働組合員數	組織率
工場労働者	三、〇六七、四一七	一、七四、八二	五・七%
礦山労働者	三三〇、四八一	五、九六八	一・九
運輸交通々信労働者	五、六、三六四	一、八六、七三	三・三
日傭労働者其他	二、一三六、九五四	三三、〇〇	一・五
計	六、〇九〇、二六	四、二〇、五八九	六・九

業態別	組合員數 (括弧内女)		業態別	組合員數 (括弧内女)	
	組合數	組合員數		組合數	組合員數
機械器具	九	九五、九元	瓦斯電氣	一六	九、六九三
化學	一〇七	二六、三四六	運輸交通	一三五	一、七九、二四四
染織	四七	一八、三三	通信	三七	七、四八六
飲食物品	五、三六三	(六六)	土木建築	元	六、七四〇
雜工業	二五	(一九、三三〇)	其他	三六〇	(四六、三六〇)
礦業	一六	(五、九四八)	計	九七三	(四二〇、五八九)
職業、産業別	組合員數		組合員數		
職業別	一九九	二五、六三〇	職業別	一九九	二五、六三〇
産業別	四七三	三、三、六九三	産業別	四七三	三、三、六九三
一般労働者	三〇一	四一、二六七	一般労働者	三〇一	四一、二六七
計	九七三	四二〇、五八九	計	九七三	四二〇、五八九
單一聯合別	組合員數		組合員數		
單一組合	五元	二四一、四〇四	單一組合	五元	二四一、四〇四
聯合組合	六六	一、九、一八五	聯合組合	六六	一、九、一八五
聯合加盟組合	三六	四二〇、五八九	聯合加盟組合	三六	四二〇、五八九
計	九七三	四二〇、五八九	計	九七三	四二〇、五八九

府縣別	組合員數 (括弧内女)		府縣別	組合員數 (括弧内女)	
	組合數	組合員數		組合數	組合員數
道府縣	六	八、六六	道府縣	六	八、六六
北海道	三三	(一、四七三)	北海道	三三	(一、四七三)
東京	三三	(二、七四五)	東京	三三	(二、七四五)
京都	三〇	(五、六六三)	京都	三〇	(五、六六三)
大阪	一〇三	(四、八四七)	大阪	一〇三	(四、八四七)
神奈川	四九	(四、六三三)	神奈川	四九	(四、六三三)
兵庫	六七	(一、〇五、四九五)	兵庫	六七	(一、〇五、四九五)
長崎	三	(九、三〇四)	長崎	三	(九、三〇四)
新潟	一	(八二)	新潟	一	(八二)
埼玉	二	(四、八二)	埼玉	二	(四、八二)
群馬	五	(七、八〇)	群馬	五	(七、八〇)
千葉	五	(一、三九)	千葉	五	(一、三九)
茨城	九	(九六)	茨城	九	(九六)
栃木	一八	(三、七三)	栃木	一八	(三、七三)
山形	一	(五、五三四)	山形	一	(五、五三四)
奈良	〇	(一、九六)	奈良	〇	(一、九六)
三重	一六	(一、六七六)	三重	一六	(一、六七六)
愛知	七四	(六、〇一)	愛知	七四	(六、〇一)
静岡	三	(二、四五三)	静岡	三	(二、四五三)
山梨	一	(六、一八)	山梨	一	(六、一八)
滋賀	九	(九)	滋賀	九	(九)
岐阜	三五	(四、八〇)	岐阜	三五	(四、八〇)
長野	三	(三、三六)	長野	三	(三、三六)
宮城	四	(三、七三)	宮城	四	(三、七三)
福島	四	(三、九六六)	福島	四	(三、九六六)
岩手	一	(三、三〇)	岩手	一	(三、三〇)
青森	一	(一、〇八三)	青森	一	(一、〇八三)
山形	一	(一、〇八三)	山形	一	(一、〇八三)

秋田	八	(九七)	香川	四	(六八)
福井	五	(六四)	愛媛	五	(一〇三)
石川	一五	(二四)	高知	三	(二九)
富山	一〇	(二八)	福岡	六	(四二)
鳥取	二	(三三)	大分	六	(一三)
島根	一	(一〇)	佐賀	七	(七四)
岡山	七	(七九)	熊本	二	(四〇)
廣島	三	(三五)	宮崎	一	(三三)
山口	二	(二九)	鹿兒島	七	(九〇)
和歌山	七	(二〇)	沖繩	九	(一七)
徳島	三	(二六)	計	九七	(四〇、五九)
					(二四、六五)

メーデー禁止と勞働團體

大正九年五月二日我國に於ける最初のメーデーを舉行して以來今日まで回を重ねること十六回に及び、毎年五月一日を期して全國各地に於て舉行されて既に勞働運動界多年に亘る慣行となつた觀があり、勞働運動の盛衰、消長を良く反映するものと

して知られてをり、十一年は正に第十七回に相當し、東京を始め全國各地の勞働組合に於ては其の準備を進めてゐたが、二六事件の發生と其の後の社會情勢に鑑み、内務省は治安の保持上一切の屋外集會禁止の方針を樹てた。従つて各地のメーデーは一切禁止することとなつた。茲に於て、勞働組合はメーデー中止の止むなき情勢となつたが、戒嚴令下の東京は止むを得ざるも地方のメーデー禁止は非常時に名を藉りて、徒らに勞働運動抑壓の意圖を有するにあらざるかと疑念と危懼を懐くに至つた。勞働組合は陳情、要請、抗議運動に乗り出した。日本勞働組合會議に於ては、政治委員會を開き協議したる結果、三月三十一日議長松岡駒吉氏等内務省を訪問の上禁止の理由を質すと共に陳情を試み、大阪地方協議會に於ては大阪府知事に要請書を提出した。社會大衆黨に於ては四月十五日内務大臣に陳情書を提出し、更に第六十九議會に於てそれら議員をして抗議的質問を行はしめた。左翼の日本勞働組合全國評議會、東京市従業員組合、日本交通勞働總聯盟、全國農民組合の四團體は四月四日、内務大臣に要請書を提出し、メーデー禁止に對し抗議した。以上の如く第十七回メーデーは禁止となつたが、五月一日のメーデーを記念する座談會、茶話會、懇談會、組合大會、ピクニック等の催しは全國を通じて四十六箇所に開かれ、之に参加したるもの約四千五百名を數へた。メーデーを以て外國模倣の階級闘争主義に立脚する運動なり

として「亡國メーデー撲滅」を叫び、日本勞働祭(或は愛國勤勞祭)の舉行を提唱し、去る昭和九年四月三日第一回日本勞働祭を開催して以來、十一年は正に第三回日本勞働祭に相當するのであるが、メーデー禁止と同様理由のもとに中止となつたが、之に代るべき催しとして、四月三日名古屋市に於て、産業慰靈祭が四月二十九日大阪市に於て、産業祭並に産業犠牲者慰靈祭が各地愛國勞働團體主催のもとに舉行された。

陸軍工廠従業員の勞働組合脱退問題と勞働組合

陸軍工廠に於ける勞働組合の組織は、既に我國の勞働組合運動の勃興期と稱せられてゐる大正八、九年の頃に發生を見たものにして、大勢は官業勞働總同盟の主體勢力を構成し、一部は日本勞働總聯盟(舊名純向上會)の中堅組織として勞働組合分野に重きをなす状態であつた。

官業勞働總同盟に於ては、近時の國家主義的風潮と海軍工廠に於ける海軍勞働組合聯盟の綱領改正に鑑みるところありて、十年十月の中央委員會に於ては、國家觀念を一層明確にし、我國情に即した綱領に改正することを議決し、豫てよりその研究を依頼せる「特別委員會」の「改正綱領起草主旨」を採擇してその動向を明示し、愈々來るべき昭和十一年度大會に於て綱領正文の發表を見ることになつた。多年の間對立してゐた大阪工

廠の向上會と大阪官業勞働組合(舊名純向上會)の間に今春以來合同運動起り、それが次第に進捗して、十一年八月十三日新たに合同に依る「大阪官業勞働組合」を創立して官業勞働總同盟に偉力を加へた觀を示した。官業勞働總同盟並に日本勞働總聯盟は共に日本勞働組合會議に加盟して居り、多年に亘る存在は穩健にして中正なる勞働組合として世に知られてゐた。然るに、十一年九月、陸軍の勞働政策の變革に依つて一朝にして二十年に亘る歴史を有つ組合が消滅するに至つた。

陸軍に於ては、従業員勞働組合に對しては消極的にその存在を默認してゐるが如き態度に看られたが、新たに工廠従業員の勞働組合加入禁止の方針を建て、十一年九月十日大阪、名古屋、小倉の各工廠長をして従業員にその主旨を訓告せしめ、同時に勞働組合に加入せる従業員とは相互諒解の下に組合脱退誓約書に調印をとり、以て數千名の勞働者を平靜裡に組合より脱退せしめた。かくして、永き歴史を有した勞働組合も工廠より影を没するに至つたが、組合解消前に於ける組織勢力は左の如くである。

官業勞働總同盟	陸軍勞働組合	大阪官業勞働組合	六、〇〇〇
七、七〇〇	名古屋向上會	一、三〇〇	
	小倉革新會	四〇〇	
日本勞働總聯盟	名古屋官業勞働組合純向上會	四〇〇	

以上の如き陸軍の労働政策の変更、労働組合加入禁止の方針は如何なる理由に據るものであるか、今、陸軍當局が談話の形式を以て發表されたものは次の如くである。

(陸軍當局談)二二六事件以來特に軍の振肅に邁進してゐる陸軍として、部内に對し所謂横斷的結合といふが如き事は嚴に禁じて、建軍の精神に基く一致團結を強調してゐる。然して、この精神は將校も工廠に働く者も何等變る所なく一貫したものでなくてはならぬ、その意味に於て、各工廠に對してもこの精神の徹底を期してゐる。その爲には或は外部から動かされたり、横斷的結合と見られるが如き事は絶対に慎むべきで、要するに肅軍を工廠の労働者にまで及びしたに過ぎない。(昭和十一年九月十一日東京朝日新聞に據る)

以上の理由の外、陸軍に於ては、家族的團結主義の独自の「労働委員会」を構成し、以て職工職員の意思の疏通、労働者の生活安定向上を計るべき意を有することを發表した。斯の如く、陸軍當局をして労働組合加入禁止を斷行せしめた社會的誘因或は間接的原因となるべき諸點を考察すれば、(一)無産政黨の政治的躍進、(二)海外に於ける人民戦線運動の進展(三)大阪工廠に於ける二組合の合同と勢力の強化、(四)準戦時經濟體制への移行と労働統制の強化の必然性等をあげることが出来るであらう。

突如として、労働組合陣營を襲つたこの陸軍の組合加入禁止の斷行は實に労働組合、農民組合、無産政黨の諸戦線のみならず、

議は全力を擧げて組織再建のために戦ふものであるが、社會大衆黨亦この際その全勢力を動員して、不合理なる彈壓排除のために一大猛運動を展開せられんことを要望す。右決議す。
九月十八日

日本労働組合會議第五回執行委員會

聲明書

我が國に於ては今日尙未だ労働組合法制定されずと雖も、労働者の團結及び其の運動は、敢て欽定憲法の精神を顯現するを待たずとも實際問題として、例へば政府の労働代表選出の取扱方法に見るも又關係各省大臣の議會其他公の機會に於ける聲明に見るも労働者の團結たる労働團體及び其の運動は、社會的事實として公認され居ることはこれを疑ふの餘地はない。此の團結自由の精神は總ての労働者によつて享受されるべきものにして、軍人、軍屬に非ず只偶々官營工場に労働しつゝあるといふ特殊生活形態をとりつゝあるに過ぎざる陸軍工廠従業員にも適用されるべきことこれ亦何等疑ふ餘地はない。而もこれ等の従業員諸君は過去二十年に亘る歴史と傳統を有する官業労働組合を結成し、我が國労働團體中にも最も穩健且つ着實なる運動をなし來りしものにして、常に國憲國法を遵守し、嘗つて肅軍の精神に背反せることなきに徴するも明かである。

然るに今回陸軍當局がこの工廠従業員に對し、其の所屬組合より脱退を強要せることは、明かに憲法により與へられたる結社の自由を蹂躪したるものにして、我等は全日本労働階級の名に於て絶対に反對するものである。陸軍當局は今回のこの處置を説明する口實と

ず、一般社會に多大の衝撃を與へた。之に對して、全無産階級は一齊に反對を聲明し抗議運動を起した。

我國の労働組合陣營に於て、最大の組織勢力を有し、直接的には官業労働總同盟の加盟せる關係に於て、最も利害關係深き日本労働組合會議に於ては、九月十三日政治委員會を開きその對策を協議した結果、翌十四日社會大衆黨代議士と相提携して陸軍省當局並に陸軍大臣を訪問の上抗議するところあり、更に内閣書記官長、内務省社會局長官を歴訪して意見を具陳し善處を要請した。越えて、九月十八日第五回執行委員會を開き更に該問題につき對策を協議して左の如く決定し、再建の決意を有する旨の聲明書を發表した。

- 1 社會大衆黨に對し決議をなし其の積極的活動を要望すること。
 - 2 組合會議の態度を聲明し抗議運動を敢行すること。
 - 3 加盟團體各機關紙に聲明書主旨の如き陸軍當局に對する抗議文を掲載すること。
 - 4 此の問題を積極的に團結權法認の運動に發展せしめ、請願令による労働組合法制定の請願運動を繼續して斷行すること。
- 社會大衆黨に對する決議及び官業労働彈壓に對する態度に關する聲明書は左の如くである。

決議

我等は今回陸軍當局が陸軍工廠内従業員組合に下したる彈壓を以て、輝きある我が國労働運動に對する一大冒瀆なりと斷じ、組合會

して、肅軍精神の擴充なりとか、廣義國防の趣旨徹底のために、その従業員の横斷的結合を遮斷することが必要なりと力説し居るも、右は前述せる趣旨より見て一顧の價値なき獨斷なりと言はざるを得ない。否かゝる獨斷こそは陸軍當局が平素最も處れるところの軍民離間の因をなすものにして、廣義國防の精神を冒瀆せるものと言はざるべからず。しかも斯る陸軍の獨善的行爲は延いて民間企業機構内に於ける労働者の團結の維持、擴大に重大なる悪影響を及すと明白なるを以て、今日我等は一層斯る彈壓に反對せざるを得ない。惟ふに歴史ある労働者の團結は外部よりの強壓、妨害等により、その枝葉的外觀は視野より消滅すると雖も、深く労働者の胸中に潜在するその根幹は永久に枯るゝものに非ず、必ずや再び萌芽を發生することを信じて疑はざるものである。茲に於て日本労働組合會議は凡ゆる手段と方策を傾注して、内に於ては當該團體たる官業労働總同盟を助け、外に於ては社會大衆黨と結び必ず工廠内に於て近く従業員組合を再建せしむる爲に死力を盡すべきを誓ふものである。

日本労働組合會議第五回執行委員會

九月十八日

日本労働組合會議とは別個の立場に在り、政治的には勞農無産協議會と支持關係にある左翼派の東京交通労働組合、東京市従業員組合、日本労働組合全國評議會、東京自動車労働組合の四團體は九月十八日、共同聲明の形式に於て、抗議的反対聲明書を發表してその態度を明かにした。

聲明書

今回陸軍省がなしたる管下工廠の従業員労働組合脱退の強要は憲法にて保護されたる結社の自由と、労働者の生活権保護の唯一の合理的手段を剝奪するものにして、獨り工廠従業員の死活に關する重大問題たるのみならず、ひいては全労働者階級の生活を闇黒化するファッショ支配の現れである。

吾々はこの立場に立つて曩に陸軍省當局に嚴重なる抗議運動の烽火を擧げたのであるが、この闘争は一回の抗議に終るべきものではなく、團結權擁護、労働組合法獲得闘争として來るべき議會を目ざして強力なる大衆運動に展開發展せしめなければならぬ。

今や政治戦線に統一が着々進められつゝある秋、この闘争こそは絶好の共同闘争題目でありこれによつて統一は一層急速に成功的にその成果を納め得るであらう。

故に吾が四團體は今後社會大衆黨、勞農無産協議會、日本労働組合會議と協力しつゝ積極的に大衆の奮起を促し、團結權擁護組合法獲得に一路邁進せんとするものである。

九月十八日

- 東京交通労働組合
- 東京市従業員組合
- 東京自動車労働組合
- 全國評議會

日本労働組合會議とは對蹠的立場にある愛國労働組合全國懇話會に於ては九月十一日に開かれた第三回常任委員會に於て、本問題に對して協議をなし別記の如く陸海軍大臣に對する要請

書を議決してその態度を明かにしたが、更に九月二十七日の第一回大會に於ては、該問題が本部に對する質問の形に於て論議が起り、その民間一般産業労働界に及ぼす影響の甚大なる點に鑑み本部役員の善處並に努力を希望する聲が強く表れた。

要請書

此の度陸軍當局が肅軍と國防強化の完璧を期するために、その國防の原動力たる兵器製造に當る各工廠に於て多年妄動を續け來りし亡國左翼社會民主主義指導精神を基調とせる反國體的團體たる官業労働組合加入の全従業員に對して脱會を命ぜられたるは、祖國日本が直面しつゝあるソ滿國境の深刻化並に北支問題の激化其の他國際的諸情勢の急迫化を凝視する時、寔に當然の處置であり皇國の前途を憂ふる我等の衷心より欣快とする處であるが、眞の軍民一致、國體明徴を念願し純正日本主義精神に立脚して、産業の發展と勤勞大衆の生活防衛運動を續けつゝある愛國労働組合への加入を阻止せんとするが如き結果を招来せんか、それこそ實に愛國労働大衆の熱誠なる愛國的行動をも阻害するの傾向に陥るが故に、陸海軍當局におかれては慎重に考慮され、各工廠は勿論指定全軍需工場に對して愛國労働組合加入を認められるべく善處されんことを要望す。

九月十一日

愛國労働組合全國懇話會第三回常任委員會
陸海軍大臣宛

陸軍の労働組合加入禁止方針の強行によつて直接影響を蒙り組織勢力の根幹を失ふに至り、僅かに煙草労働組合と大阪市従

業員組合の残存することによつて同盟の陣營を守るに過ぎない官業労働總同盟に於ては九月二十三日大阪に於て中央委員會を開き西浦委員長、川村主事外十六名出席して、將來の運動方針につき協議したる結果左の如き聲明書を發表して態度を明示した。

聲明書

陸軍當局の従業員組合に對する不當なる彈壓は自ら稱へ來つた廣義國防の建前を裏切り國民生活安定に對して誠意なきものと斷ぜざるを得ない。殊に許すべからざるは其後に於ても、従業員の私的生活にまで干渉を加へ、例へば部外幹部との私用による面接までも禁止するとか、友人の結婚披露への出席をまで見合はすとか、支部の財産の處置にまで指示する等の事實がある。斯くの如きは國民の當然の權利を蹂躪するものであり、健全合法的行爲を非合法へ追ひやる結果を招来するものと信ずる。我等は飽くまでこの反動的暴舉に反對し、今後も社大黨、組合會議と協力して團結權防衛の爲め闘ふと同時に、官業労働總同盟の旗を死守し労働組合としての職分に於て闘ひ續けるであらうことを聲明する。

九月二十三日

官業労働總同盟中央委員會

日本労働組合會議とその動向

健全なる労働組合主義を標榜し、反資本主義、反共產主義、反ファシズムの所謂三反綱領を掲げ、實踐的には産業協力主義を

主張する日本労働組合會議は、我國の組織労働者の過半數を占めて、労働運動の主流をなし、中心勢力を形成してゐるが、その運動は社會大衆黨と密接なる提携を保ちつゝ、メーデーの全國的禁止並に陸軍の労働組合加入禁止に對する反對闘争の敢行第六十九臨時議會に於ては、労働組合法案、産業労働統制に關する決議案の提出をなし、退職積立金、退職手当法案に對しては労働階級の立場より修正案を提出したる等、一言にして云へば團結權の擁護と社會立法の獲得に主力を注いだ。國際的には國際労働總會には、第二十回労働代表として河野密氏を、第二十一回、第二十二回労働代表として堀内長榮氏を送り、亞細亞労働會議第二回大會を東京に於て開催すべく計畫するところがあつた。

内部組織に於ては、十一年五月神奈川地方協議會を創設し、有力なる加盟團體たる日本労働總同盟と全國労働組合同盟の戦線統一なりて全日本労働總同盟の結成あり、中部地方に於ける有力労働團體たる日本製陶労働組合同盟の新に加盟したる等に依り、陸軍工廠に於ける約八千名に上る官業労働總同盟の中堅を失ひたるも、なほ其の陣營は整備充實を見たるもの、如くである。

組合會議の第五回年度大會は十月十八日横濱市に於て開催されたが、議案の主なるものは左の如く

- (一)労働組合法要綱。(二)労働協約法要綱。(三)船員保險法。(四)

小型船員保護法獲得の件。(五)國民健康保險法制定に關する件。
 (六)商店法。(七)勞働省創設要請に關する決議案。(八)官業勞働組
 合の彈壓に關する決議。

にて、中に於て最も重要視すべきものは「勞働省創設要請に關
 する決議」と「官業勞働組合の彈壓に關する決議」の二點にあ
 った。

大會に於ける重要議案の内容と當時に於ける現勢を示せば左
 の如くである。

勞働省創設要請に關する決議案

決 議

本大會は、政府に對し、速かに勞働省を創設して關係行政事務の
 統一を計ると共に進んで産業並に勞働國策の確立に努力すべきこと
 を要請しこれが實現を期す。

理 由

一 我が日本勞働組合會議は、創立以來、健全なる勞働組合主義の
 確立及び産業協力運動の徹底を以て、その運動の大綱として今日
 に至り、着々その實績を收めつゝある。殊に昭和八年以降今日ま
 で、その具體化のために『産業及勞働の統制に關する建議』を政
 府をはじめ關係各方面に對して續行し、その運動は現下非常時に
 處する勞働國策の大綱として、各方面の共鳴を得つゝある。本大
 會の要請亦この運動の具體化である。

二 前記『産業及勞働の統制に關する建議』に於ても、我等は民間
 に於ける勞働組合の健全なる發展と相俟つて、政府の勞働行政の

機構及び運用の上にも一大改革の必要なるを力説して居る。即ち
 右建議は、その要綱中には『産業勞働省を新設し、關係行政事務
 の統一を計り、更に勞働、企業兩者代表を主とする諮問委員會を
 設け、産業及勞働の統制に基調を置く舉國的協力を實現すべし』
 と強調してあるのである。

三 更に、今日の時局に照して觀るに、今日庶政一新、國民生活の
 安定の要切なるものがあるが、これに必要な勞働國策の見
 べきものがない。また政府行政機構改革問題が提唱せられつゝあ
 るが、現下の産業及勞働の調整のための統一の機構たるべき新省
 の創設に就ては、等閑に附せられ、事務行政に關しては、陸海
 軍部、逓信、鐵道、商工、農林等それ々々勞働行政を分割し、内
 務省社會局の如きは單なる立案諮問の部局に押し込められつゝあ
 る。これが今日の勞働行政の不統一不振の主因たることは均しく
 認められる所である。

従つて、我が日本勞働組合會議はその自主的運動によつて、産
 業及勞働統制の實現を促すと共に、一面緊急の問題として本要請
 の實現を期する次第である。

日本勞働組合會議の陣容

本部及び地方協議會

一 本 部

所 在 地 東京市芝區三田四國町二ノ六日本勞働會館内
 加 盟 國 體 加盟團體九、組合員總數二六三、九一四
 地 方 協 議 會 六

役 員

議長 松岡駒吉。副議長 米窪清亮。
 書記長兼會計 上條愛一
 顧問 鈴木文治

二 地方協議會

九州地方協議會 中部地方協議會
 神戸地方協議會 神奈川地方協議會
 大阪地方協議會 北海道地方協議會

三 加盟團體とその現勢一覽

一 日本海員組合
 組合員數 一〇四、三〇六
 支 部 數 一六
 組 合 長 堀内長榮
 所 在 地 神戸市神戸區海岸通三ノ二六

二 全日本勞働總同盟
 組合員數 九四、九二六
 加 盟 組 合 數 二同盟、一一聯合會、一一八組合
 會 長 松岡駒吉
 所 在 地 東京市芝區三田四國町二ノ六

三 日本港灣從業員組合
 組合員數 一六、四八八
 支 部 數 一三
 組 合 長 岡崎憲
 所 在 地 横濱市中區北仲通六ノ六六

四 海員協會

組合員數 一三、〇八六

出張所數 九

會 長 小泉秀吉

所 在 地 神戸市神戸區下山手通り八丁目

五 日本製鐵從業員組合

組合員數 一二、五〇〇

支 部 數 三六

組 合 長 濱橋文作

所 在 地 福岡縣八幡市西彌生町

六 官業勞働總同盟

組合員數 一〇、五九〇

組 合 長 七組合、三八支部

中央委員長 西浦宇吉

所 在 地 大阪市東區越中町八六〇

七 日本勞働總聯盟

組合員數 六、〇六八

組 合 長 二一組合、四三支部

會 長 八木信一

所 在 地 大阪市北區相生町七三

八 東電從業員組合

組合員數 二、四五〇

支 部 數 一七支部、二支部準備會

執行委員長 岩永榮一

所 在 地 東京市下谷區入谷町二一

九 日本製陶労働組合同盟

組合員数 三、五〇〇
組合数 一三
中央執行委員長 伊藤榮次郎
所在地 瀬戸市石神町二〇四三

組合會議系労働組合の運動

全日本労働總同盟の創立

日本労働總同盟と全國労働組合同盟との合同は十年六月十八日安部、高野、鈴木の三長老の合同斡旋以來幾多の迂餘曲折を経て漸く十一月十七日に至り、合同工作完成して、十一月十五日を期して新たに「全日本労働總同盟」を創立することになった。

一月十四日、日本労働總同盟並に全國労働組合同盟は各々大會を開き、合同問題を議題とし、之を異議なく満場一致可決、多年の歴史ある組合を解體して翌十五日の「全日本労働總同盟」の創立大會に臨んだ。

一月十五日、安部磯雄氏司會のもとに總同盟並に全勞兩組代表松岡駒吉、河野密氏合同を宣誓して合同式を終り、松岡駒吉氏議長にて、新同盟の名稱、綱領、主張、規約、宣言、労働國策に關する決議案の各議案並びに役員を決定して大會を閉じた。

新同盟の綱領並びに主張は左の如くである。

綱領

- 一 我等は労働報公の精神に基き、徳性の涵養、識見の開發、技術の進歩を圖り、以て自己の完成と社會正義の實現を期す。
- 一 我等は強固なる組織と有效なる手段によつて、労働條件の維持改善、共同福利の増進を期す。
- 一 我等は國情に立脚して、資本主義の改革を促進し以て合理的な新社會の建設を期す。

主張

- 一 産業並に労働國策の樹立
- 一 労働組合法、團體協約法の制定
- 一 七時間労働及び一週四十二時間制の實施
- 一 生活賃銀制及び失業保險制度の確立
- 一 國民健康保險、發疾養老保險制度の確立
- 一 國際労働條約の批准、並に勸告案の實施
- 一 暴壓法令の改廢
- 一 工場法、鑛業法、健康保險法、労働者災害扶助法等の現行労働法規の改正
- 一 少年及婦人労働者保護法、商店従業員保護法、交通労働者特別裁判法等の制定
- 一 臨時雇傭制度及び中間搾取の廢絶
- 一 同質量労働に對する同一賃銀の獲得
- 一 職業紹介機關の擴充並に労働組合の參與

愛國労働組合全國懇話會の結成とその動向

- 一 共済組合並に各種協同組合の普及と統一
- 一 公費による労働者教育制度の實現
- 一 メーデーの全國的舉行
- 一 日本労働組合會議並に統一戦線の擴充
- 一 社會大衆黨との協力による労働大衆政治勢力の強化
- 一 アジア労働會議の強化、労働者國際提携の促進

日本港灣従業員組合

昭和八年九月統制力を強化するため聯盟組織より中央集權主義による單一組合に改組し、日本海員組合、海員協會の僚友團體としてその勢力伸張しつゝありたるも近年や不振の状態に陥りたる所、十一年五月岡崎憲氏を組合長に迎へ又八月本部を神戸より横濱に移し陣容の整備に當つた。

其の他

官業労働總同盟は既に述べたる如く陸軍工廠に於ける組織を失ひ、同盟の基根を流失したるが如き状態に在るも、九月二十三日の中央委員會に於ては、殘餘の組合を以て同盟の旗を守り、再建を企圖してゐる。

日本海員組合と新日本海員組合との合同問題は外部關係者に於て冀望してその機を窺ひつゝあるも未だしく、海員協會、東電従業員組合、日本製鐵従業員組合等には特に記すべき消長變化なきもの、如くである。

産業報國或は勞資一體を唱へる日本主義の労働組合、國家社會主義を主張する愛國労働組合の間に擡頭しつゝあつた戦線統一運動は、日本労働組合總聯合が日本主義の旗幟を鮮明に掲げて十年九月組合會議を脱退して以來、その主力を注いで愛國労働戦線統一運動に邁進するに至りたると共にその機運の熟し來りたる結果、十年末には關西、中部、關東の各地方に地域的連絡統一機關が生れ、全國的統一機關の創設に關する準備協議會も開かれるに至つた。十一年一月十九日大阪に開かれた第三回協議會に於ては名稱、要綱等の決定並びに三月十五日東京に於て結成大會を舉行することの決議を見たのであつたが、其の後に於ける二・二六事件の發生、これに續いて戒嚴令の施行の結果止むなく延期となつたが、其の後集會禁止の一部緩和さるゝに至つたので、四月十九日東京市芝公園協同會館に於て、全國十労働團體の代表四十八名出席のもとに、愛國労働組合全國懇話會結成宣誓式を舉行し、宣言、規約、要綱並びに産業労働會議設置に關する件、常任委員等を議決した。

この愛國労働組合全國懇話會は我國の労働組合分野に於て、日本労働組合會議と對蹠的立場を占める運動としてその動向は現下の我國社會情勢の推移と關聯して尠からず注目し値するも

のであるが、創立後約半歳を経た十一年九月二十七日、その第一回全國大會を東京に於て開催した。

第一回大會に於て審議された重要議案は

(一)退職積立金法改正に関する件。(二)港灣労働者保護法制定に関する件。(三)電力國營に関する件。(四)愛國新政黨樹立促進に関する件。(五)人民職線紛争の件。(六)行動方針書。

等であるが、中にも行動方針書は宣言と共に懇話會の動向を識るべき基準として重要なものであつた。

組織陣容は、關東、中部、近畿三地方委員會並びに政治委員會の結成を見るに至り、全國大會當時に於ては加盟十五團體、八萬二百七十八名の組合員を數へる情勢である。而して主たる運動は退職積立金法案に對する意見書の提出、産業労働會議設置の提唱、國體明徴に關する要請等である。

要綱、行動方針書、宣言、役員を掲ぐれば左の如くである。

要綱

- 一 我等は日本精神に則り産業人の結束を促し産業報國の實を擧げ以つて皇國日本の興隆を期す
- 一 我等は産業人たる使命に即し、公正なる生産關係を確立し、以つて労働者の生活上を期す
- 一 我等は合理的方法を以つて資本主義經濟制度を革新し以つて人類文化の發展に貢献せんことを期す

行動方針書

び資本家に要望する。次の一例に見るが如き積極策を提唱する。

イ 國內鐵道の電化。

ロ 自動車の積極國産。

ハ 國內土木事業の完成。

ニ 國防の完壁

ハ 以上の社會政策と労働立法とは現行法を改正し、未だ立法されざるものは我が國情に即する制度を創設する必要を強制し、併せて之が實現のために邁進するものである。

ニ 産業労働會議を日本國內に設置し、産業の國是を制定し、以て勞資の協力に依る産業の發展を期し、且つ勤勞従業員の福利施設の完壁に依つて國民經濟の基石たらしむること。

ホ 吾等は亦、國際的にも産業と労働の運動に協力し、世界の資源の不公平を調整し、併せて國際文化のため貢献せんとするものである。

ヘ 政治問題の新らたなる方向は我國民全體の現下必須の問題である。失業對策と労働立法の改廢及制定。

農村の窮乏打破

中小商工業の問題

國民生活の安定

移民問題

對外貿易の調整

國際環境の變化と國防の充實等々は反國體的既成諸政黨によつては皇國日本の發展と國民生活の安定を招來し得るものでなく我等は熱意を以て清新なる政治勢力の結成に協力する所以である。

愛國労働組合全國懇話會は、我等の要綱及創立宣言に基き、皇國の繁榮につとめ、更に日本主義労働組合の大同團結と組織の擴大をその主要なる任務とするのである。そしてその團結を通じて次の如く行動する。

イ 愛國労働組合の職線統一及び組織の擴大

ロ 失業問題の對策の樹立

ハ 退職積立金法、健康保險法、工場法、労働者災害扶助法、臨時雇傭制度の改廢及國情に即する社會政策、労働立法の促進。

ニ 日本産業労働會議の設置の促進。

ホ 日本産業の伸張と國際問題。

ヘ 政治問題の對策への協力。

以上の諸問題は、我等の出発よりの展望として加盟團體は一致協力して、その解決に努力しなければならぬ。以下その説明を加へよう。

イ 愛國労働組合の統一と組織の擴大は本懇話會の當面の急務である。我等は今や祖國とその産業の強固なる基礎を確立し以て國民生活の安定に備へ且つ一切の反國體的既成労働運動を打破し、日本主義労働運動の上に、全産業の組織を完了し皇國日本の興隆に盡さねばならぬ。

ロ 失業問題の對策の樹立、失業問題はまた我國に於ける重大なる社會問題の一つである。人口過剰産業の機械化、深夜業労働等は多くの失業労働者を出し、農村窮乏化と共に國民生活を脅かすものである。吾等は労働時間の統制、製産品の自給自足その他の對策を政府及

以上を以て愛國労働組合全國懇話會の當面の行動方針とするものである。

宣言

愛國労働組合全國懇話會は去る四月十九日、東京に於て結成式を舉行した。

當時帝都はなほ戒嚴令下にありて、結成宣誓式のみを舉行なりしも參加各團體の熱烈なる支持に依つて次第に發展を遂げて今日に至つた。

爾來各種の行動實踐を通じて我等は「日本主義労働運動」の堅實なる地歩を確保した。

從來、日本に於ける政治、經濟、外交その他一切に亘る分野に於いて歐米追隨主義を生み出し従つて労働運動それ自身も共產主義、社會民主主義の思想的影響を受けて歐米模倣主義に墮して居たことはさきに指摘した通りである。

然るに、これ等の共產主義者、社會民主主義者乃至一部の自由主義者は相提携し、最近人民職線の結成を策し、益々露骨なる反國體思想の宣傳に狂奔しつゝあるのである。

觀よ！ これ等の社會民主主義労働團體は、社會民主主義政黨と共に、最近、陸軍部内に於ける労働組合が社會民主主義陣營より去つた事實を目して、單純なる團結の蹂躪なりと稱し憲法論を振り翳して大衆を煽動し軍民離間を策し、斯くて敗戦主義への拍車を加へて居るのである。

我等は、かくの如き一切の非國家的思想の排撃の上に起つて日本

精神の昇揚につとめて日本全国の労働者を日本主義に再編成をすることが必要である。

又政府は「退職積立金法」を制定したのであるが、なほ幾多の改正を要する項目あり、吾等はその重要な改正を當局に要求するのみならず、更にすんで日本の國體に即する労働立法の制定と併せて日本の産業の公正なる經營を通じその發展伸長のため産業労働會議の設置を要望するものである。

今や、日本内外の情勢は、いよく切迫せる情勢を示して居り、吾等産業労働者の正しき行動は延いて皇國の繁榮に直接關連する所甚大なりと同時に國防の上から缺く可からざる緊急事である。

茲に日本主義労働組合の大團結に厥然として邁進するものである。

吾等は亦政治問題の新らたなる方向が我國現下必須の問題にして從來の反國體的諸政黨に依つては斷じて皇國の發展と國民生活の安定とを招來し得るものにあらざる事を知り、我等は熱意をもつて強力にして清新なる政治の勢力結成に協力するであらう。かくて、愛國労働組合全國懇話會は、共產主義社會民主主義其の他の一切の非國家的行動の絶滅を期して、全日本へ日本主義労働運動の大道を打ち立てなくてはならない。

右宣言す。

昭和十一年九月二十七日

愛國労働組合全國懇話會第一回大會

愛國労働組合全國懇話會

本部所在地 東京市芝區三田四國町十五番地

愛國労働懇話會系組合の運動

日本労働組合總聯合と大日本労働協との合同

愛國労働陣營の戦線統一運動は、愛國労働懇話會の結成前後より實踐的に進展して、大日本労働組合協議會と總聯合の合同となつた。大日本労働組合協議會は、昭和九年十二月二日、大日本國家社會黨の線に添ふて國家社會主義を標榜して生れたものであるが、十年秋以來日本主義、愛國主義運動の間に擡頭した戦線統一運動に参加するに至り、次第に日本主義労働組合と近接關係を生じ、十一年四月には關東地方の諸組合中日本通信同盟大日本映畫人同盟は脱退して日本産業労働俱樂部に加盟した。關東地方の組織を失ひたる「労働協」は本部を大阪に移したが、關西地方を中心に總聯合との合同運動は擡頭し、その合同工作も順調に進展して、十一月十五日總聯合の年度大會の當日合同式を舉行し、完全にその組織を日本労働組合總聯合に合併した。

總聯合昭和十一年度大會に於て特記すべき議案は、「愛國政治戦線統一促進」と「日本主義労働組合擴大強化」「私立青年學校排撃」等の諸件であつた。

愛國従業員組合總聯盟の創立

十年以來中部地方に發展した日本主義労働運動は、十年二月には三河愛國従業員組合聯盟の創立となり、更に十一年秋三重

役員

常任委員

高山 久藏 西山仁三郎
大橋 治房 露久保賢治
矢尾喜三郎 山崎 常吉
矢ヶ崎諒馬 新妻 徳壽

加盟團體一覽(一五團體、組合員數八〇、二七八名)

團體名

日本産業労働俱樂部	組合員數 一八、五五〇
東電 愛國同盟	一、五〇〇
新日本海員組合	九、七五〇
日本労働同盟	四、四〇〇
愛國労働農民同志會	二、六〇〇
生活防衛同盟	一、七八〇
日本労働組合總聯合	二五、二五八
中部港灣労働組合	一、〇九二
愛國労働組合全國懇話會中部地方委員會	四、三〇〇
大日本労働組合協議會	四、七〇〇
三河愛國従業員組合聯盟	一、八〇〇
帝國木材産業正義研究會	八〇〇
日本海上同志會	二、七五〇
愛國木材工同志會	五〇〇
東京花緒生産組合	五〇〇

縣下の交通労働者を中心に三重愛國従業員組合聯盟を結成するに至り、愛國労働運動の偉容を示してゐたが、十一年十二月十二日、名古屋に於て、前記二聯盟の外大日本忠孝労働組合、日本革新労働聯盟、日本主義瀬戸地方協議會等五團體二十三組合を以つて中部地方に於ける日本主義労働團體の一大聯盟として「愛國従業員組合總聯盟」を創立した。組合員總數六千名と稱せられてゐる。

綱領、役員左の如し

綱 領

- 一 我等は建國の本義に基き和衷協同皇道日本の完成を促し以つて國家産業の發展を期す。
- 二 我等は公正なる勞資關係を確立し従業員の上昇榮達を圖り進んで現行經濟制度の改新を期す。
- 三 我等は業に勵み智を磨き徳を樹て自省以て人類文化に貢獻せんことを期す。
- 四 我等は全日本主義労働團體の全的合同中に邁進せんことを期す。

役員 會長 山崎 常吉 副會長 鈴木 高夫
主事 梶田 勝利

日本労働同盟

日本労働同盟に於ては、九月二十六日東京に於て第二回中央委員會を開き、運動方針、宣言、戦線統一に關する件等を議決したが、戦線統一の具體的一步として、「愛國労働農民同志會」

に團體加盟を決議した。
日本産業労働俱樂部

十月二十四日第一回大會を開催、全國産業労働會議設置促進、國防思想普及に關する議案を議決した。産勞自體既に政治結社として、産業政治研究會を組織して独自の政治的立場をとつてゐるが、本大會に於て、「日本精神を基調とする愛國政黨」實現を望むる議案を可決したことは注目すべき點である。現有勢力は加盟團體十八、組合員數一萬八千二百三十名を數へる情勢である。

其他の労働組合の運動

日本労働組合全國評議會

全國評議會は、東都交通労働組合、東京自動車労働組合、東京市従業員組合等所謂合法左翼派の僚友團體と共に全國農民組合と提携して、社會立法獲得運動に乗り出し、反ファシズム政治闘争の中心勢力と看做されてゐる「勞農無産協議會」の主動的地位を形成した。

十一月十五日より二日間に亘つて開かれた第三回大會の運動方針書に於て、労働組合戦線の統一について、「吾々の労働組合の全的統一の運動は反ファシズムの一點に於て、日本労働組合會議を對象としなければならない。日本労働組合會議への参加の問題を僚友諸組合と共に解決しなければならない」とその見

解を表明してゐる。評議會の日常闘争と關聯して、本大會の議案中注目し値したものは、その運動方針書に於て、財政インフレーションに依つて繁榮を稱へられつゝある産業部面に於ける、新しい労働事情の分析考察とに對應する組織活動と、新たに労働者災害と健康のための闘争を重要視した點である。

其の他の組合陣營を觀るに、海軍労働組合聯盟に於ては九年の第十三回大會に於て綱領を改正して以來益々労働報國に志向する状態にあつたが、更に十一年十月の第十四回大會に於ては名稱を「海軍官業労働組合聯盟」と改稱し、労働報國實踐化を決議した。

日本主義労働陣營に於て獨り孤立的状態に在りて、その運動や、不振の傾向にあつた日本産業軍は十一年七月十九日、東京に第二回全國代表者會議を開き、運動方針を確立してその陣容を新たにした。

日本交通労働總聯盟の中心團體である東京交通労働組合においては、火災罹災救援を目的とする「交總相互扶助會」制度を組合の事業として十一年九月より實踐したのは特記すべき點である。

(中川賢一)

労働争議

概説

多少の消長を見ながらも、世界大戰以來累増激發した我國に於ける労働争議は、滿洲事變勃發の昭和六年を頂點として、量的減少と質的變化を帯びつゝ、漸次下向線を進るに至つた。滿洲事變を契機とする我國經濟界の急激なる轉換は、輸出向産業、軍需品工業或は此の恩恵を享くる諸工業を中心として、所謂跛行景氣とは云へ頗る好轉の曙光を見るに至つた。加之事變後の我國内外の非常時局は、國民思想の緊張を喚起して労働者の思想乃至労働組合の指導方針を頗る穩健化せしめた。斯くの如き産業界に於ける好轉の傾向と、労働者の産業協力思想とは、労働争議の上に幾多の制約を與へ、その數次第に激減し、その質漸く積極的内容を持ち、而してその態度に於て着實ならしめたのである。

十一年に於ける労働争議の趨向も、大體に於て如上の線を歩いて來た。公債インフレーションも相變らず擴大され、重工業及び化學工業を中心とする軍需産業は益々膨脹し、紡績、人絹、肥料、洋灰の如き平和産業部面も幾分見直されて來た。對外貿

易の如きも、諸外國に於ける日本品防遏措置が激化され増進の度合著しく鈍つて來たとは云へ、尙増勢を續けて居た。かくして二・二六事件のため一時混沌状態に陥つた經濟界も漸次開放され再び上昇の波に乗つて來たのである。事業活動指數の上に於て、生産増勢率の上に於て、而して商品相場の上に於て、十一年度の産業好調は明かに看取される所があつた。

乍去、斯くの如き順調なる經濟現象を見せたに拘らず、労働争議を觀察する上に就ても、幾多の憂慮すべき經濟的矛盾がその裏面に於て急速に擴大しつゝあつた。基礎薄弱なる赤字インフレは漸く飽和點に達し、圓爲替安の力も既に一巡して我が輸出貿易の伸力は最近著しく停頓して來た。而も異常なる生産力發展のための操短による設備の睡眠と、激しい擴張競争との矛盾は、産業界の悩みとなつた。更に勞賃上騰による事業採算の低下、日獨、日伊協定の成立や、日支、日露外交の失敗等より來る國際不安等々堆積して、我國産業經濟界の實情は、幾多の深刻な不安と危機を深化しつゝあつた。特に馬場財政になる十二年度豫算の未曾有の膨脹は、入超増大、低金利策破綻、悪性インフレの如き危険な結果を招く懸念が相當に大きく、加之軍

事豫算の異常なる増大は、軍需品原料の不足暴騰を急激に招来して、産業統制の強化と準戦時産業體制の編成へと進まざるを得ないであらう。斯くの如き新たな経済界の推移は、滿洲經濟と内地經濟との摩擦激化等と考へ合すれば、上述の如き争議漸減の傾向の如きも、十一年度を機軸として、再び争議内容の上に着しき變化を生ぜしむるかも分らぬ。

事實、十一年度の争議内容を觀ても、退職手当法施行を前にして、中小工業は再編成の必要に迫られ、勞資の對立を激化して争議が頻發し、又軍需景氣の下に臨時工として吸收された勞働人口が、企業統制の強化や經營の編成替等によつて、勞資の紛争を誘發したが、是等の問題が今後益々、勞働賃銀の實質的低下乃至一般大衆課税等と相俟ち、勞働争議の直接的原因となつて其の數を増加せしめゆくのではないかと思はれる。以下十一年中の勞働争議の概観を略述するであらう。

勞働争議の一般的傾向

十一年中に於ける勞働争議の發生狀況は、總件數一、九七五件、参加人員九二、七二四であつた。これを昭和元年以降累年的に比較すれば次頁表の通りである。

此表の示す如く、十一年中の總件數を前年の一、八七二件に比すれば、一〇三件の増加を示して居るが、参加人員に於ては一、二三八人の著しい減少を見せて居る。而して其の一件當

年次別勞働争議、同盟罷業統計表

年次	勞働争議總數			内同盟罷業			總日數			工場閉鎖			閉鎖	
	總件數	参加人員	一件當平均参加人員	件數	参加人員	一件當平均参加人員	延日數	三日以下	四日以上	十一日以上	三十一日以上	自然消滅	未解決	
昭和十五年	一、二六〇	一七、三六七	一〇二	四九五	六七、三三	一三六	六九、〇七二	一四九	一八四	一〇〇	六	二	一	
昭和十四年	一、一〇一	一〇三、三五〇	八六	三八三	四六、六七二	一三三	一、一七、三五三	一四四	一一八	六六	四	三	一	
昭和十三年	一、〇三三	一〇一、八九三	一〇〇	三九七	四六、二五三	一一七	五八、三五五	一五九	一三五	七二	二五	三	一	
昭和十二年	一、四三〇	一七三、一四四	一二〇	五七六	七七、四四四	一三四	五七、八六〇	一六六	一九七	一四六	五	五	一	
昭和十一年	二、二八九	一九一、八〇五	八四	九〇七	八一、三三九	九〇	一、〇八、〇七四	一八六	三二七	二六九	一一〇	一	一	
昭和十年	二、四五六	一五五、五三八	六三	九九八	六四、五三六	六五	九八、〇五四	二七	三〇五	二四四	一四八	一	一	
昭和九年	二、二二七	一三三、三三三	五九	八九三	五四、七三三	六二	六八、六二四	二八七	二六八	一九七	一一八	二	一	
昭和八年	一、八九七	一一六、七三三	六三	六二〇	四九、四三三	八二	三八、四、五六五	二六三	一九七	一〇三	一四	三	一	
昭和七年	一、九一五	一二〇、三〇七	六三	六二六	四九、五三六	七九	四四、一七六	三三六	二〇三	六八	一	一	一	
昭和六年	一、八七三	一〇三、九六三	五六	五九〇	三七、七三四	六四	三〇、一三三	二八〇	一九五	七三	四	一	一	
昭和五年	一、九七五	九三、七三四	四七	五四七	三〇、九〇〇	五六	一六、五九〇	三三六	一七五	四三	一	一	一	

争議の要求事項を通じ、争議の性質及び傾向を觀察して見るに、業態の異なる事に依つて相當の違ひはあるが、近來争議の大勢として、賃銀増額等の積極的要求が絶對的に多い。産業界の不況時にありては、勞働者側の消極的要求に基き、防衛的争議が多く、好況時に於ては、逆に積極的攻勢的性質の要求に基

り平均参加人員を見るに、四七人にして十年同期の五六人にして九人の減少を示した。此の事實は所謂インフレ景氣も極めて跋行的であつて、未だ中小企業に及ばず且つ退職手当法や臨時工問題の重壓を受けて、不況に悩む弱小企業に群小争議の多かつた事が推察される。特に斯くの如き平均参加人員の夥しき減少は、既往に未だ見なかつた所で、争議規模の縮小化は近年の一般的傾向ではあるが、十一年度に於て此の傾向を急激に促進した事は、洵に注目すべき事象と云はねばならぬ。

勞働争議を府縣別に觀れば、大阪府を最高として四〇〇件、参加人員一二、五五七人を算し、全件數の二〇%を占め、第二位は東京府の二九一件、参加人員一〇、九八一人で全數の一五%、次に愛知縣の一九六件、参加人員四、八〇八人、一〇%、兵庫縣の一三二件、四、四九二人、七%、京都府の一〇六件、一、八九五人、六%、それに神奈川縣、北海道、和歌山縣、福岡縣の順位となつて居り、他は悉く二%以内、山形縣の如きは全然勞働争議を見なかつた。如上の順序を見ても、經濟地理的に工業分布の濃度強き地方、殊に工業都市を多く持つ府縣に、必然的に勞働争議の多い事を裏書きして居る。

争議の要求及び解決並に業態別に現はれた特徴

くものが多數を占むるは、蓋し勞働争議の必然的通則である。大正末期より昭和五年迄は、陰惨なる産業不安を反映して賃銀減額反對等の消極的要求による争議が、加速度的に激増したが、昭和六年を轉機としてインフレ進行と軍需工業の好況により反對に積極的要求が遞増し、昭和八、九年に至つて其の地位を全

要求事項別労働争議統計表

年次	増額	減額	定額	支給	休業	給付	復職	確立	労働	公休日	作業	組合	労働	工場	監督	雑	計
昭和六年	二九〇	四九	一〇三	二八二	一五	八〇	五四〇	二七七	三	三	三三	一八	〇	九	四〇	二八	二、四六
昭和七年	五七七	二八九	九八	二八六	八二	五三	四八八	三三七	二〇	三	二七	七	〇	二	二六	二四	二、三二
昭和八年	五七六	二〇〇	一〇三	二〇〇	四九	三三	三九	二五五	二六	四	三	七	〇	一	四	二五	一、八九
昭和九年	六三三	七六	一二三	二〇〇	三七	一七	三〇九	二八八	三三	三	三九	九	〇	一	四	二九	一、九二
昭和十年	四八四	一四三	一一五	一六五	一九	二二	二七三	二五七	二二	六	二九	一	〇	一	四	一〇	一、八七
昭和十一年	五六一	一三二	七〇	一六三	七	一九	三〇九	三九七	二二	七	二七	一	〇	九	四	一三	一、九七
昭和六年	二一八	一七一	四・三	二一・四	四・七	三・三	三三・〇	一五・三	一・三	〇・一	〇・五	〇・七	〇	〇・四	一・六	五・三	一〇〇
昭和七年	一七九	一三〇	四・四	二二・九	三・七	二・四	三三・〇	一四・八	〇・九	〇・一	〇・八	〇・三	〇	〇・五	一・三	五・一	一〇〇
昭和八年	三〇・四	五・八	五・四	一〇・五	二・六	一・七	一六・八	一三・四	一・四	〇・二	一・七	〇・四	〇	〇・七	二・四	六・六	一〇〇
昭和九年	三三・五	四・一	五・九	九・六	一・九	〇・九	一六・一	一五・〇	一・七	〇・二	一・八	〇・五	〇	〇・八	二・三	六・七	一〇〇
昭和十年	二五・九	七・六	六・三	八・八	一・〇	一・一	一四・五	一九・一	一・一	〇・三	一・五	〇・六	〇	〇・七	二・五	九・一	一〇〇
昭和十一年	二八・四	六・六	三・五	八・二	〇・四	一・〇	一五・六	二〇・一	一・一	〇・四	一・三	〇・二	〇	〇・四	二・二	九・八	一〇〇

く顛倒するに至つた。昭和九年の如きは、賃銀増額を要求したものは六二二件約三三%を占め、十年は前年より稍々減つては居るが、四八四件の絶對的多數で二六%を占めて居た。かゝる傾向の下に、昭和十一年中の計數を要求事項別に見れば、

ば凡そ前表の如くなつて居る。即ち争議總件數一、九七五件の中、賃銀増額要求の争議は、五六一件を數へ、十年より七七件を増してその比率もこれに照應し、其の他の要求事項の中で斷然首位を占めて居る。企業利

潤の上昇と、大衆課税物價騰貴より来る生活費増高の傾向顯著なるに拘らず、労働賃銀はこれに相應して騰らず、而も實質賃銀は低下しつゝある現況に鑑みれば、この賃銀増額要求に基く争議の多きは、止むを得ざる當然の產物である。他面賃銀に關する消極的要求たる賃銀減額反對の争議は、十年の一四二件、七・六%に對して十一年は三二一件六・六%で、結局十年より件數の上に一件、比率に於ては一・〇%の減少を見て居る。賃銀減額反對は、一頃からみると勿論激減しては居るが、未だ一三二件もあり相當多數に發生した。思ふにこれは臨時工の増加による既就業者の賃下げ乃至は中小企業者の採算低下に依る賃銀減額等、部分的に賃銀切下げが可なり行はれて居る結果であらう。尙茲に注目すべき事は、休業反對其の他の消極的要求がその率に於て漸次減少しつゝあるに拘らず、解雇問題に起因する争議が、著しく増加した事である。即ち解雇反對又は解雇者の復職を求めて争議を惹起せるもの三〇九件、一五・六%の多きに上り、十年より三七件一・二%の増加を見て居る。此の事は、我が國産業界の、一部好況の反面には、未だ何等景氣活況の氣勢が波及せず、その状態が頗る不健全にして跛行的である事を如實に反映すると同時に、一部事業界に於て非常な經營不振に喘ぐ結果、相當數の解雇者を出しつゝある企業も少からざる事を物語つて居る。賃銀支拂要求に基く争議が、一六二件の多きに達

して居る事も、過般の事情を雄辯に證明するものであらう。而して十一年の争議の中その性質上最も特色のあるものとして解雇退職手當の確立又は増額要求に關する争議を擧げねばならぬ。斯の種の争議は勿論昭和六年の二七七件を始めとして例年共に頗る多かつた。にも拘らず十一年度は、三九七件に達し、十年より一躍四〇件激増して未曾有の數字を示すに至つた。これは特に、解雇退職手當法の施行を繞つて勞資の紛争を誘發した結果と看すべきであつて、此の問題に基く勞資の對立紛争は新しき十一年度の主要な労働問題として提起され、又今後益々その性質を重大化してゆく事と思はれる。殊に此の法律の適用、非適用の線上を彷徨する中小企業は必然的に何等かの形に於て再編成を餘儀なくせしめられると共に、その事に關聯して、労働者の切實な生活問題を誘起し、茲に争議發生の要素を多分に醸成して居るのである。次に賃銀算定支給方法の變更又は反對要求のものが七十件を算し、比較的十年より減少しては居るが、これは請負制度、月給制度又は日給制度、月給制度の變更等に關するものであつて、十一年度の斯の種の争議は主として收入の低下に對する反對要求としての性質を帯びるものである。以上の要求事項を通じて争議の傾向と性質を見る時、賃銀増額の如き主たる積極的要求多きも、其の他のもの割に少く消極的性質を有する諸々の争議が比較的増加して居るが、蓋しこれ

は、我が國の經濟的基礎が次第に薄弱化し、その矛盾を擴大しつゝ、産業界の不合理性が漸次表面化し來つて、複雑微妙な様相を露呈し始めた證左ではなからうか。

勞働争議の結果、勞働者の要求事項が如何に落着したるかを観る事は、その争議の性質や勞資相互の關係を知る上にも、極めて重要な事であるが、一争議の中でも諸多の要求事項あり、それ等の要求事項に就ては或は承認せられたもの、或は不貫徹に終りたるもの、或は妥協に依つて解決せるもの等複雑な内容を持つものがある關係上、凡ての争議に就き要求事項の貫徹妥協、不貫徹を斷定的に判別する事は、相當困難を伴ふものである。併し乍ら各争議の原因動機等より推して、勞働者の主たる目的と認むべき要求事項を抽出して觀察すれば、大體その結果は識別する事が出来る。今十一年九月末に同盟罷業及び工場閉鎖を伴へる争議に就き、その結果を累年の比較して示せば下段表の通りである。

即ち十一年九月末現在に於て、件數四四〇件(参加人員二五、八三七人)の中、要求承認された争議一五五件を算へ、三五%に當り、妥協解決せるもの一六六件、三八%にして、不貫徹に終つたものが一一八件、二八%、其他一旦罷業を打切り就業したが、民事裁判所に繫争中の争議一件がある。昭和元年より同七年迄は要求不貫徹に終つた争議が毎年多く、八年以降十一年に至る

さて、次に争議の解決と調停との關係を見るに、争議が勞資當事者の直接交渉に依る解決困難なる場合は、第三者の仲介調停によつて漸く解決するものが甚だ多い。大正十五年七月勞働争議調停法施行以來、本法に依り調停委員會の開設せられたるものは、昭和五年五月大阪の湯淺伸銅株式会社、同六年一月大阪の日本エナメル株式会社、同七年十月の東京市電氣局(職權調停)同八年五月大阪の中桐鐵工所、八年十二月大阪の日本防水布株式会社、九年九月東京市電氣局(職權調停)、の六件に過ぎないが、同法實施と共に各地方に配置せられた調停官吏、或は警察官吏の努力に依つて、争議の防止に多大の効果を擧げたのみならず、争議發生後に於て所謂事實調停に依り迅速適切なる解決を見た事例が著しく増加してきた。社會局統計によれば大正十四年度の總件數に對する調停件數の割合は一五%に過ぎなかつたものが、昭和八年には三二%に累増し二倍以上に達して居る。

更に、十一年中の勞働争議調停の實狀を見れば、調停委員會は一回も開催さるゝに至らなかつたが、所謂法外に於ける事實調停件數は八一七件に達し、總件數一、九七五件の四一%で、前年の七四六件四〇%に比し、件數比率共に夫々増加して空前の新記録を作つて居る。尙此の調停者の内譯は警察官の調停最も多く五〇五件、六二%の過半数を占め、調停官は一六七件、二一%でこれに次ぎ、警察官、調停官以外の官吏六件、市町長其他の公務員六件、其の他の者一三三件(一六%)になつて居る。

同盟罷業工場閉鎖結果別件數表

年次	結果別				合計
	要求貫徹	妥協	要求不貫徹	自然消滅	
大正15年	139	161	193	2	495
昭和2年	109	119	148	3	389
同3年	97	132	161	2	392
同4年	167	187	211	5	570
同5年	262	297	323	10	992
同6年	224	351	393	7	975
同7年	210	319	341	11	891
同8年	124	267	213	3	607
(9月)	100	209	167	2	478
同9年	163	273	188	2	626
(9月)	121	181	150	1	453
同10年	158	276	158	—	592
(9月)	114	223	130	—	467
同11年(9月)	155	166	118	—	439

迄妥協によつて解決せるものが、絶對數に於て常に多きを占めて居る。併し以上の統計は、主たる要求事項を抽出して調査したる表面上の數字であつて、之を個々の争議に就き、具體的に觀察すれば相當複雑多岐な内容を有する事は勿論である。假令、現經濟機構の下に於ては、勞働争議は避くべからざる一個宿命の産物であるにせよ、争議の結果が物質的に若しくは精神的に、勞資双方に與へる損害或は國家産業の上に及ぼす影響は實に甚大なるものありと云はねばならぬ。今之を一々指示するの煩は避くるも、試みに同盟罷業工場閉鎖に依つて事業を休止するに至つた損失作業延日數をとつて見ても、例年莫大なる日數に上つて居るが、十一年は、九月迄に於て一六二、五九〇日の多きを算して居る。

此の中警察官吏の争議調停は昭和六年の二五%を起點として著しく遞増し、昭和十年には五五%、更に十一年は六二%に上り、警察官の争議關與と云ふ事が、最近に於ける争議調停の主要な特徴として、注目に價する。

業態別勞働争議統計表

年次	件數										計
	機械器具工業	化學工業	染織工業	食物製造業	雜工業	鑛業	瓦斯事業	運輸業	土木建築業	通信業	
昭和六年	53	33	33	67	56	12	24	33	1	280	
同七年	33	31	36	74	38	9	24	33	4	237	
同八年	25	27	24	73	26	16	22	29	6	189	
同九年	23	23	26	68	20	17	21	19	5	189	
同十年	33	29	23	77	17	22	25	17	5	187	
同十一年	43	33	33	77	19	27	27	21	2	197	
昭和六年	208	153	139	274	268	23	100	100	0	1000	
同七年	145	110	105	241	133	25	104	119	0	1000	
同八年	122	118	127	319	138	27	111	130	0	1000	
同九年	147	121	138	361	137	27	120	133	0	1000	
同十年	173	143	155	388	142	27	136	161	0	1000	
同十一年	241	163	163	400	153	34	140	166	0	1000	

争議の業種別観察

如何なる産業に争議が発生し、而して又如何なる業種に最も多く発生したかを見れば、それ等産業の各時代各部門に於ける夫々の政治的経済的變動、乃至は経済上に於ける地位を推斷し得られ、又労働組合の組織率或は労働者の自覚程度如何を判定する事が出来る。我國に於て争議の業種別発生を例年多く繰り返へして居たのは、大體機械器具製造工業、化学工業、染織工業、雑工業等の部門であつて、十一年の業種別の争議発生状況を社会局統計に基き掲ぐれば前頁表の通りになつて居る。

此の計数が示す如く、十一年にあつて最高位を占むるものは機械器具製造工業の四二二件で、總件数の二二・四%に上つて居る。蓋し本部門に於ける労働者の組合組織率が割合に高く、又現下産業界の尖端を躍る主要企業だけに、景氣の好不況を最も鋭敏に感受する事が争議激増の有力な原因であらう。而も前年に比すれば一〇〇件四・一%も激増し、殆んど十一年に於ける争議増加は大部分此の業態に於ける累増による事を推察出来る。これは一面臨時工が此の部門に最も多く吸収され、従つて臨時工制度を繞る勞資の紛争を擴大激化し、争議誘發の有力な素因となつた事も併せ考ふべきであらう。

今十一年中に於ける主要なる此の種争議の事例を擧ぐれば下表の如くである。

會社工場名	府縣名	發生月	要求	參加人員	關係労働團體
日本車輛製造株式會社	愛知	一月	解雇取消	一	全日本労働總同盟
昭和鐵工株式會社	福岡	三月	待遇改善	三〇二	水人社
合名會社戸畑工場	同	同	同	二〇	全總同盟九聯
旭輕合金製作所	東京	五月	賃銀増額	六九	一
神戸薄鐵株式會社	兵庫	六月	待遇改善	六一	全總同盟神戸一
東京瓦斯電気工業株式會社	東京	同	減額反對	二七一	一
日本バルブ製造株式會社	同	同	解雇反對	一	全評關東地方協
三菱重工業名古屋航空機製作所	愛知	七月	解雇反對	一	國潮社總合労働
中島電機製作所	東京	八月	賃銀減額	一九〇	總聯合東京聯合
大藪クローム鍍金工場	兵庫	同	退手制確立	四〇	全評大阪金屬阪神支部
合資會社大竹工場	東京	九月	賃銀増額	六〇	總同盟關東合同
三藤電機工場	大阪	十月	退手制確立	一	總同盟大阪金屬
帝國機械工業株式會社	神奈川	十一月	監督者排斥	一七	大日本生産黨

は第四位にあつたが、十一年は件數に於て七〇件、比率に於て二・八%も増加して居る。

これは近年の紡織業が操短強化、深夜業廢止等に伴ふ労働密度の高度化、或は低生産費實現のための實質賃銀の低下を促し

たのと、更に所謂産業合理化の進行が、大紡績と中小機業の軋轢を激化し、特に中小機業をして分解過程を急調化せしめたのみならず、製絲織物等の中小企業は依然として不振を脱せざる事の必然的現象であらう。染織業争議の主なるものは次の如し。

事例

日出紡績大津工場(滋賀)、津島羊毛染工株式會社(愛知)

東京モスリン紡績株式會社(東京)、青木染工場株式會社(東京)

東洋整毛株式會社(東京)、關西製絨所(愛知)

合資會社日本晒工場(福岡)、大日本紡績株式會社東京工場(東京)

東郊紡績所(大阪)、大日本紡績工場(大阪)

運輸業は第三位であるが、相當の激増を見、二七〇件、一四・〇%である。此の中一番多いのは、陸運業に於ける乗合自動車の争議で、(東都乗合自動車、大島觀光自動車、京水モーターバス、東京環狀乗合自動車、オーバン自動車、東京合同タクシー、中央自動車北九州バス従業員)中でも東都乗合、東京環狀乗合、オーバン自動車の争議等注目すべきものが多かつた。海運業に於ける小運送(隅田川機船株式會社、日之出汽船株式會社、郵船運輸株式會社)、回漕店(松竹回漕店、東京船船組合、高取回漕店)或は陸上の運送店(石川運送店、五十嵐自動車運送店、鶴見合同運送株式會社、中央市場合同運輸株式會社)等の小規模争議も續出して居る。所謂電鐵争議もかなり発生したが、中にも伊勢電氣鐵道株式會社、福博電車株式會社の如きは大規模争議として世人の耳目を惹き、重要

な性質を帯びて居た。尙待遇改善要求運動を繞る新舊海員組合と船主協會との紛争や、郵船社内の人事問題を中心とする新海員組合系のB.C俱樂部の郵船幹部排撃運動等は、海上労働戦線の異状として、特に注目すべき事象であつた。

第四は化学工業の二五九件一三・一%で、化学工業は、護謨硝子等の如く輸出制限のための生産制限や労働條件低下を見たもの少なく、又此の部門は、低賃銀の労働者が比較的に多い事が争議發生の主要原因をなして居る。

事例

平尾養平商店東京工場 日出石綿工業株式會社

高東化学興業所(以上東京) 宇山カーボン工場(神奈川)

信川セルロイド工業所 日本ゴム工業株式會社(以上東京)

ダンロップ護謨株式會社(兵庫) 橋本硝子工業所

小島硝子工場 初見レンズ合名會社(以上東京)

九州製油所 日華製油若松工場

東洋セメント工業小倉工場 豊國セメント門司工場(以上福岡)

東京板紙株式會社(東京)

雑工業に於ける争議は毎年多く、十一年も一九八件を算して居る。此の種の工業は、多く小規模の工場或は家内工業的企业であつて、近年の景氣も未だ浸潤せず、その經營形態の如きも頗る不合理なものが多い。それ等の事情が争議を比較的發生せしむるのである。

事例

共立社印刷所、第二中外印刷株式會社、松本印刷所、鈴木印刷所、カトリック教中央出版部、東京築地活版製造所、三新製材所、淺田製材工場(以上東京)、平野材木店(福岡)

菅原履物問屋、高田塗裝工務店、鈴木金屬玩具工場(以上東京)

産業界の景氣が跛行状態であり、不況に呻吟する事業今尙多くして、休廢、縮小、操短を行ふもの少からず、ために各種工場鑛山の労働者にして自由労働者に投ずる者が多い。土木建築業は是等自由労働者を吸収して労働過剰に陥り、賃銀の低下や不拂を生じ或は不合理な中間搾取の爲に、容易に勞資の衝突を惹起し勝ちである。十一年の争議の如きも一一九件を算して居る。

事例

合資會社一圓商店(東京) 横濱左官工事請負業組合(神奈川)
 東京白石基礎合資會社、三池港岸壁工事場(福岡)
 金井泉助夫人請負業

鑛業部門に於ける争議は毎年少きを例として居たが、十一年は一〇四件、五・二%で前年より三五件、一・〇%の増加を見て居る。その事例としては、木戸炭業木戸炭坑、共同石炭横島炭坑、嘉麻興業愛宕鑛業所、昭和炭坑(以上福岡)、帝國産金興業大仁金山、持越鑛業所持越金山(静岡)、長安鑛山(栃木)等である。飲食物製造業は五一件で前年より減少して居る。之は釀造(神奈川)製菓業等に多く、其の主なるものは、關東釀造株式會社

美館、池袋平和館其他の活動常設館。

労働争議と労働組合

冒頭に述べた如く、滿洲事變以來我が國の社會時相著しく變轉し、國家主義乃至全體主義の勃興を見るに至つた。産業界に於ても労働者全般の思想上の變化、乃至は労働組合指導精神の轉換を促した。特に労働組合は従來の闘争主義を改め、平素文化的建設的施設に力を注ぐと共に、所謂産業協力、或は産業報國の思想の下に、争議激發主義を一擲してその最少化方針を實行するに至つた。此の事實は次の統計に依つて明瞭に看取する事が出来るのである。

年次	組合の割合		組合の割合	
	組合の割合	組合の割合	組合の割合	組合の割合
昭和2年	67.6	32.4	67.6	32.4
3年	58.7	41.3	58.7	41.3
4年	62.8	37.2	62.8	37.2
5年	65.7	34.3	65.7	34.3
6年	71.4	28.0	71.4	28.0
7年	92.9	37.1	92.9	37.1
8年	49.7	50.3	49.7	50.3
9年	39.6	60.4	39.6	60.4
10年	45.6	54.4	45.6	54.4
11年(9月)	43.8	56.2	43.8	56.2

十一年の労働組合の争議關與如何を見るに、同盟罷怠業工場閉鎖を伴ひたる總件數(九月末現在)四四〇件(二五、八三七人)の中その關與せしもの一九三件(一三、〇八三人)にして約四四%に當る。これを昭和の初頭より五六年頃迄に比較すれば隔世の感あり、組合の争議最少化方針の實現を如實に反映して居る。去り

田中鐘詰製造所、美竹製菓商會(東京)等である。

通信業は極めて少く僅かに二件である。特に時事新報社解散を中心とする編輯局員と従業員に依つて起された争議は、統制と戦術の巧妙さに於て社會の注目を惹いた所であつた。

其の他の業務に従ふ者として、病院看護婦雇員、料理人、商業使用人、保険外交員、映畫説明者、樂士、女給、清掃夫等があつて、是等の争議が十一年は二四件、一〇・八%を數へて居る。直接生産に従事せざる者の間にも生活不安の深化と浸潤化が進行しつゝある事が窺知される。

事例

病院従業者 順天堂醫院、東京府代用精神病院保養院(東京)
 商事保險會社使用人 山一證券株式會社、東京海上火災保險株式會社、日本生命保險株式會社東京支店(東京)
 料理人、女給、驛辨仕出石蔵屋(福岡) 第一東洋軒、佐藤飲食店
 カフェー(慶女園(東京)) 東神興業東横會館(神奈川)

清掃夫 井上組清掃夫従業員、相原組衛生部新井宿出張所、大森區清掃組合、清掃業笹本組、王子區清掃業組合、荏原清掃組合(東京)
 尚昭和四、五年以來映畫、演藝場等に於ける争議が頗る多くなつて來たが、之は此の方面への労働組合の浸潤や、映畫興業等の不況による経営困難と所謂發聲映畫の流行とに起因するものである。主なる例は次のものである。

興業映畫 花やしき合資會社、日本活動寫眞株式會社、株式會社金

乍ら参加人員の方面よりこれを見れば總數の五〇%強を占め、組合と争議の關係が漸減的傾向にありとは言へ、今尙大規模の争議に組合との關係が密接なもの、ある事を推定し得る。最後に主要労働組合の争議に對する方針及對策を一瞥して見よう。

1 日本労働組合會 同組合會議は我が國に於ける最大の労働組合聯合體であるが、争議に關しては罷業の統制を計つて争議の放任主義を諷め、持込争議に對しては原則として拒絶すべき事を決議して居る。加之平和時に於ける産業協力に意を用ふべきであるとして労働協約、勞資懇談會等を開催して、労働争議の最少化に努めて居る。尙争議を誘發せしめ易き臨時工制度の廢止、或は軍需品工場の統制、最低賃銀制の確立等に關しては各加盟組合が連絡して調査研究を行ひ、是等に就ては或は主務官廳へ陳情要請をなし、或は演說會を催して世論の喚起を促し、或は勞資の談合を進んで聞く等、平和裡にこれが準備をなし、その實現を圖つて居る。

2 全日本労働同盟 總同盟は昭和七年度大會に於て「極力罷業を避け平和的交渉に依つて解決することに努め、争議最少化の方針を執る」事を明示して此の方針を堅持して來た。十一年一月十五日舊日本労働總同盟と舊全國労働組合同盟との合同成立し全日本労働總同盟として擴大發展したが、争議に對しては如上の方針をそのまま踏襲して居る。此の事は十一月十五日關東同盟大會に於て、總同盟會長松岡駒吉氏が、「労働階級

が使命を遂行する途は、労働奉公の精神と自主的労働組合の上に、國民生活の向上と産業並に労働の協力を創造して行く事である」と述べて居る事からも断定する事が出来る。

十一年九月末迄の總同盟の關與せる争議は、前記一九三三件中七九件、四一%で前年同期より四二件の累増を見たが、之は全國同盟との合同に依つてその組織が擴大せると、其組織が低賃銀と労働條件の劣悪なる中小雜産業に多い爲であつて、特に斯く激増したのは前者による名目上の増加と見るべきであらう。

3 日本労働組合總聯合會 總聯合會は十年九月組合會議を脱退し、綱領規約等を改正して、日本主義労働組合の旗幟を鮮明にした。争議に關しても、「我が國の全産業の繁榮は、我國民全體の幸福を庶幾し得るものと確信し、産業の協力こそ労働者が報國の赤誠を披瀝し、祖國とその産業の興亡と運命を共にすべき事を痛感した。」と述べ、努めて産業協力労働融合を強調して、争議の發生を防止せんとする態度に出て居る。従つて斯如き争議方針はその關係件數の上にも現はれ、十年は僅かに三件(同盟罷業工場閉鎖)、十一年も五件(参加人員七四人)を數ふるに過ぎない。

4 日本労働組合全國評議會 以上の各労働團體に比し、日本労働組合全國評議會は、階級闘争主義に立つて左翼を標榜するだけに、争議に對しても可成り積極的方針を持して居る。而して争議に關しては次の如く報告して居る。「一九三六年は全國的に重要なストライキを一つも持たなかつたが、各地方別には紛

争議は相當數闊つてゐる。大工場に於ける首切り反對や待遇改善闘争も相當闊つたが、孤立したり壓殺されたりした。が同時に工場内の部分闘争として誇るべき指導を見せたのも少くない。」(十一年度大會報告書)、更に「關東地方評議會は、特に報告すべき本格的なストライキ闘争はなし。但し各産業別では數多くの紛議を戦つて居る。最近亦各所でストライキ突發の情勢を見たが、何分にも戒嚴令期間中のこと、一應交渉戦並に紛議の形式で解決せる所多し。」(關東地方評議會本年度報告書)即ち我が國現下の社會情勢は全評の運動に著しき制約を與へて居るのを察知出来るが、十一年九月迄に同盟罷業工場閉鎖を伴へる争議で全評の關與せるもの三六件一・九%を算し、その組織率僅少な割合に、その件數比較的に多い事は注目すべき事柄である。

5 國家主義的労働組合 國家主義労働組合は、滿洲事變以來頗にその組織を擴大し、最近に於てはその大聯合體をも結成する程に發展して來た。是等の組合は全體主義労働一體を首唱して争議の發生をも極力これを防止せんとする方針を採つて居る。従つてその争議發生數も甚だしく、十一年度に於ては一九三三件中十五件、七%を占めて居る。但し時局の影響に依り急激に勃興し來つた是等國家主義的労働組合も、我が産業經濟界が一種異常の再編成過程に向はんとする時、果して争議排撃の態度を終始持續するや否やは、頗る興味ある問題と云はねばならぬ。

(坂井隆治)

國家主義運動

概 説

昭和十一年に於ける國家主義運動は、沈衰と行詰りの中から深刻な自己批判を生み出し、全面的な陣營の再編成と戦線統一の叫びとなつて、維新政黨樹立が要望された。而して此の要求が、幾多複雑な志向と系統を有しつゝも、歩一步とその實現過程を辿つて行つた。正しく此の意味に於て昨年度は國家主義運動史の上に新機軸を劃すべき重要な意義を有する歳であつた。

素々、國家主義運動が一個の社會運動として、その存在を認識せしめたのは、滿洲事變以來の事である。滿洲事變を契機として、軍の國家革新の波に乗つて、愛國團體は一舉雜然として累増飛躍した。而して國家革新の主流としての軍部の支持者となり、又國民に對する輿論喚起者として、常に軍部の意向を全部的に尊重支持しつゝ、生成發展し來つたのである。

然るに兩三年前より、日本内外の情勢一時的小康を得ると共に、軍の革新の方途も漸次、漸進性妥協性を帯び來り、それと共に國家主義團體も何時しか、此の革新的主流から遊離せんとするに至り、益々尾大振はざるの觀を呈して來た。加之此の不

振は當然陣營内部の紛糾と分散作用を惹起し、茲に國家主義團體は非常な沈滞と試練の時期を経過した。恰も十一年二月施行された總選舉戦に於ては、愛國派は何れも落選に次ぐに落選、漸く數個の議席を獲得するの惨敗を嘗めた。實に國家主義陣營にとり甚大の打撃と反省を與へたのである。

二・二六事件は、斯かる沈滞し切つた空氣の中に勃發し、愛國革新陣營内にも一大衝動を與へ、異常な刺戟と昂奮の渦巻に投じた。乍去、此の衝動も昂奮も、事件の反動としての既成勢力の攻勢に遭逢して、全く拱手して社會情勢の推移を傍觀するの餘儀なきに至つた。更に事件後に於ける當局不斷の査察取締りは、愛國團體をして身動きならぬ破目に立ち至らしめ、事件前にも増して極度の不振を招來した。

かくして、國家主義陣營内に於ては、所謂起死回生の自己反省がなされ、鬱堆せる陣營内の矛盾と障礙に對して、深刻且つ活潑な批判と努力とが行はれて來た。それが嚮て右翼戦線統一の機運勃興を促し、更にそれは發展して維新政黨結成の工作運動となつて現はれて來たのである。此の動きは特に十一年五月、六月頃より活潑となり、年末にかけて終始続けられ、兎にも角に

も統一過程を實現しつゝ進んで来た。かゝる全面的にして有力な戦線統一、全合同運動は未だ曾つて見なかつた所で、確かに此の點に於て、十一年は、國家主義運動の歴史の上に重要な意義を有する歳であつた事を確言し得ると思ふ。以下昭和十一年に於ける該運動の概観を、順を追ふて述べるであらう。

愛國團體と總選挙戦

滿洲事變以來の國家主義運動は多分に反議會的色調を帯び、世人も國家主義運動と議會政治はやゝもすれば兩立し難き概念の如く受け取り勝ちであつた。事實愛國團體の運動方針や運動方法は、多く國民運動の形式をとり、若しくは非合法的に逸脱するものも皆無ではなかつた。而して議會そのものに對する關心は極めて稀薄であつた。然るに國家主義運動の不次第に深化すると共に、昭和九年頃よりその運動方針と方法の上にも可なり清算が行はれ、議會進出若しくは議會利用の論漸く擡頭し來り、愛國團體の分類の中に特に議會主義派の一項を擧げる向さへ生ずる様になつた。かくて議會主義は國家主義運動の有力な運動方法として採用せらるゝに至り、國民協會、愛國政治同盟、明倫會、皇道會等の著名團體は率先して議會進出或は議會政治淨化を首唱して居た。

十一年二月二十日施行せられた總選挙は、實に日本主義派にとつては最初の選挙であり、國家主義派が國民の審判の前に立

つて、その批判を受ける試金石であつた。既成政黨に對して新興勢力として如何程議會に進出し得るか、又無産派に對して如何に戦ひ得るかと云ふ事は、思想的にも社會的にも頗る興味を以て見られて居たのである。

國家主義團體は總選挙に臨み三十名に上る候補者を立てた。

明倫會六名、立憲養正會七名、其他夫々二名乃至一名の候補者を立てたが、是等の候補者の中には中立を標榜して居るものもあり、又所屬團體が二、三に亘るものもあつた。尙思想的に愛國派と看做し得べき東方會の中野正剛氏、中立の江藤源九郎氏、綾川武治氏等を加算すれば、相當の數に達したのである。

かく多數の候補者を擁せし愛國團體も總選挙の結果は、實に豫想以上の惨敗を見、前議員たる小池四郎、松谷與二郎氏等も枕を並べて一敗地にまみれた。今その選挙成績を見れば次の通りである。

愛國團體總選挙成績

選挙區名	氏名	得票數	當落	次點者得票數
立憲養正會				
長野縣第四區	田中耕	七、八七七	落	次
東京府第四區	加藤喜孝	一、二六六	落	五、六一一
群馬縣第一區	田中澤二	九、六八六	落	一〇、三五三
福岡縣第二區	本郷松春	一、二五〇	落	九、九八七
秋田縣第一區	金作之助	六、一二六	落	一一、一四四

廣島縣第三區 原利重 三、〇二九 落 一三、七八七
 長野縣第一區 犬塚外作 一、五五一 落 九、八三一
 明倫會

東京府第五區 菊池義郎 三、二五〇 落 二三、三二〇
 神奈川第二區 守田貞記 二、〇二八 落 一四、四三七
 静岡縣第一區 八木雄馬 六、七五五 落 一三、二七七
 京都府第一區 藪田九一郎 四、二四八 落 九、二七二
 山梨縣第二區 石原廣一郎 七、八五二 落 一二、六八九
 山梨縣今井新造 一〇、〇六〇 當選 (最下位)

皇道會
 福岡縣第三區 稻富稜人 八、〇七二 落 一〇、三〇〇
 山梨縣平野力三 一二、九七三 當選 (第四位)

國民協會
 北海道第四區 赤松克廣 七、九七六 落 九、一六一
 神奈川第一區 津久井龍雄 三、〇〇九 落 一三、一一四
 郷軍同志會

長野縣第三區 中原謹司 一一、〇四九 當選 (最下位)
 長野縣第四區 關重忠 四、四四〇 落 七、八七七
 新日本國民同盟

山梨縣 若尾金造(中立) 八、二六一 落 九、一四五
 大阪府第四區 手島剛毅 四、七六四 落 一九、〇二四
 愛國政治同盟
 福岡縣第四區 小池四郎 八、三〇七 落 八、三六一

勤勞日本黨

東京府第六區 松谷與二郎 七、九四〇 落 一九、九五六
 皇國農民自治聯盟

千葉縣第三區 石橋涉 四、六六〇 落 七、六六一
 護國軍
 山口縣第一區 青木作雄 一二、五六五 落 次 點
 新日本同志會
 富山縣第一區 高廣三郎 二、八五三 落 一二、二三〇
 繪興會

福岡縣第一區 中野正剛 二一、六八六 當選 最高點
 福岡縣第二區 青柳長次郎 一、三三三 落 九、九八七
 祖國會
 新潟縣第一區 北吟吉 一八、八〇五 當選 (第二位)

以上の中準民政の北吟吉、純中立の中野正剛兩氏を除けば、當選者は、皇道會の平野力三(山梨縣)、明倫會の今井新造(山梨縣)郷軍同志會の中原謹司(長野縣)の僅か三氏に過ぎない。而も當選順位は平野氏第四位他の二氏は最下位であり、次點者二名其他の得票亦決して多數なりとは云ひ難い。これを社大黨の一躍十八名を獲得し、而も殆んど最高當選者を出せるのに比較して、愛國陣營の選挙戦は實に寥々として振はず、國家主義運動の上に幾多考慮すべき問題を提示したのである。

此の不振の原因は種々あるが、第一は愛國派は歴史短かく選

舉に對する經驗乏しい事、從つて其の基礎地盤が浮動薄弱であつた事、第二は各團體雜然と群居し、其の間何等の連絡協定なく、全く小派的に行動せし事、等が擧げ得られるであらう。而も此の選舉に對する慘敗からその戰敗の原因に對する反省考慮が痛切に要求され、愛國陣營の戰線統一機運を促進せる一モンメントとなりし事は、此の選舉戦より得たる國家主義運動の貴重なる教訓であつた。

戰線統一機運の勃興とその志向

前述の如く、總選舉の慘敗に次ぐに、二・二六事件後の反動に遭逢し、愛國陣營内部に於て戰線統一熱が熾烈に燃え上つて來た。愛國團體の大同團結は以前から、機會ある毎に種々様々な形を以て工夫されたが、二・二六事件後は、戰線統一の傾向を急激に促進し、從前とは異つて起死回生の眞剣さと努力を以て企圖さるゝに至つた。

事件直後、赤松克麿、津久井龍雄、小池四郎、陶山篤太郎、宮崎龍介、松延繁次氏等の右翼運動指導者は、一既成の愛國諸團體を清算統合すると共に、國民のあらゆる階層に分散せる革新的諸勢力を集結して、速かに一個強力なる國民運動の主體を構成することと云ふ申合せをなし、維新戰線統一のために、二月會を結成した。此の二月會は、後には有名無實の存在となつたが、事件後中央に於て愛國戰線統一の必要を首唱し、その運

動に先鞭をつけたものとして一個の意義を有して居る。

更に關西に於ては、從來各地方愛國團體の連絡強化に努力し且つ各團體間の日本主義的思想の融合に盡瘁して來た八月會が三月十三日の例會に於て、全國の群小日本主義團體を解體し、可及的速かに大衆を基礎とし、愛國團體及び日本主義者を統一せる政治勢力結集のため八月會々員は、その世話役的活動をなすこととを決議した。八月會の統一促進のための活動は、關西地方に於ける全一的な成果を擧げ得なかつたが、少くとも捨石的な役割を果し、愛國戰線統一の氣運醸成のために一大作用を及ぼせる事は否み得ない。

此の戰線統一、合同促進の要望は、昨年春より夏に這入つて愈々熾んとなり、本格的となつて來た。而して國家主義陣營の分解と集合を行ひつゝ、漸次全陣野の再編成、組織の再整備と云ふコースを辿るに至つた。

乍去、此の戰線統一の流れには、始めから極めて雜多な要素があり、又其の主張意見も全體として統一されたものではなかつた。今愛國陣營を周流する戰線統一の代表的志向を抽出すれば、大體次の三點に歸納し得るであらう。即ち第一は極度の不振に陥りし國家主義運動の局面打開策として、既成愛國團體の獨善的割據性、小派的排他性に基く分散形態を一掃して是等の諸團體を糾合し、一大愛國政黨を結成する。而して從來の脆弱性を強化してその運動能力を活潑ならしめ、以て國民的信頼を

高めんとする事である。第二に從來の愛國運動行詰りの最大原因は、社會運動に必須要件たりし大衆性を有しなかつた事である。此の際大衆的な基礎確立の重要性を確認し、大衆組織を有する團體を糾合して、名實共に大衆的基礎を持つて陣營の再編成を行ひ、以て維新政黨の結成に進むべしとする志向である。第三には從前の國家主義運動は餘りにも軍部依存主義の嫌ひがあつた。此の軍部依存主義に依つて軍情勢の推移がそのまま、敏感に愛國戰線に反映し、愛國團體をして極めて浮動的なものならしめた。加之相次ぐ軍内不祥事件は軍の革新的意向を満足せしむるに足る政黨なき事に起因して居た。故に從來の軍部依存主義の誤謬を清算し、日本主義的諸勢力を自主的に再組織して軍の革新的關心を満足せしむべき維新政黨を樹立すべし、となすものである。斯くの如き種々なる志向の下に大同團結運動も、或は相互にその志向を異にし、或は其の間意思の疎通を缺き、或は互に利害感情が對立しつゝ、統一途上に於ける幾多の系統を生んで相錯綜して居た。而も斯くの如き諸潮流の對立、分解は愛國戰線に於ける全面的統一の時代的な波瀾に押し流され、辯證法的に統一への段階を徐々に歩みつゝ、昭和十一年を送つて來たのである。

戰線統一の諸運動

上述の如く戰線統一の志向は決して單一なものではなく、從つ

てその系統も諸種に分れて、具體的運動を行つて居た。昨年に於ける國家主義陣營の統一運動を、全般的に各系統に分つて鳥瞰すれば、凡そ次の如く分類出來ると思ふ。

- 1 皇國勞農協議會
- 2 愛國勞働農民同志會
- 3 愛國勞働組合全國懇話會
以上は經濟勞農團體統一機關
- 4 純正維新共同青年隊
- 5 純正日本主義青年運動全國協議會
以上は青年思想團體統一機關
- 6 維新政黨準備會
- 7 大日本青年黨
- 8 維新制度研究會
- 9 時局協議會
- 10 大和聯盟

以上は政治思想戰線統一機關

斯くの如く數々の系統を擧げ得るが、此の中でも經濟團體と政治戰線の統一運動が夫々別個に行はれて居るものではなく、又各統一機關が全く獨立せる形で運動を進めたのではない。それ等の機關は或は全く相對立して、或は互に相錯綜して、或は大小相抱合して、全體の統一へと志して居る。以下之等各團體の動靜を紹介する事にし度い。

註 右の系統の中、愛國労働組合全國懇話會の動靜に就ては別項「労働組合運動」を参照され度い。尙以上の外に全一俱樂部がある。これは愛國労働組合全國懇話會内の政治的消極派たる日本産業労働俱樂部の西山仁三郎氏、皇國農民戦線統一圏外にある日本農民組合の平野力三氏、大日本國家社會黨の石川準十郎氏等を含め、直原直四郎氏の無名士俱樂部や松本學氏の日本文化聯盟と聯繫をとつて居るが、未だその内容も目標も決定せず、その動きも積極性なくして何等表面化して居ない。従つてこれが詳細なる紹介は此處に省略する事にした。

關西に於ける戦線統一運動

關西に於て愛國團體合同運動の母胎となつて來たのは、八月會であつたが、此の合同工作は、各團體の内部事情や人的關係より、思はしく進捗を見るに至らなかつた。時恰も二・二六事件後の急激な政治情勢の變化を見るに至り、八月會の合同工作を手温しとし、局面打開の方途は、即時戦線統一を行つて一大愛國政黨の樹立あるのみとの趣旨より、大日本生産黨委員長吉田益三氏は、五月十九日藤岡文六(愛國政治同盟)、村田村治(兵庫縣愛國社)、手島剛毅(新日本國民同盟)、松浦正一氏(國民協會)等と共に合同促進懇談機關として五月俱樂部を結成した。越えて五月二十九日、五月俱樂部を中心として、全日本愛國政黨合同促進懇談會が開催され、獨自の立場を以て愛國政黨樹立に邁進するに至り、全愛國團體統一聯盟結成を決議したのである。

これに對し、八月會の中心團體たる愛國労働組合懇話會の關西側各團體、其他の労働團體は、大衆組織を持たぬ一人一黨的な政治團體を糾合し、之を母胎として新黨を樹立するは無意味なりとし、斯くの如き戦線統一は當局の壓迫加重、運動行詰りの前に自己保身、自己防衛としての大同團結論に過ぎない。眞の維新政黨の中心勢力は、組織労働團體でなければならぬ、として反對的態度に出で、茲に關西側戦線統一運動を繞つて二潮流の對立分派を生ずるに至り、かくして結局關西に於て維新政黨準備會と皇國労働協議會との二個の統一機關を結成せしめたのである。

4 維新政黨準備會 五月二十九日、五月俱樂部を中心として一大愛國政黨樹立を企圖して、全愛國團體統一聯盟が結成された。當日は大日本生産黨、愛國政治同盟、兵庫縣愛國社同盟、新日本國民同盟を始め愛國政治思想團體約四十團體參集、次の宣言、幹事を決定して統一聯盟を結成し、之を母胎とする愛國政黨樹立のために全國の愛國團體に呼びかける事となつた。當日新日本國民同盟の手島剛毅氏が、愛國労働組合懇話會を眞の日本主義に基く労働運動に非ずと極言した事は、戦線統一運動の流れを見る上に注目すべき事であつた。

全愛國團體統一聯盟宣言

皇紀二五九六年二月二十六日、所謂東京事件勃發以來、愛國運動の陣營は寂として聲なく四邊亦戰きて答ふるものなし。而も志を同じ

うして結末を異にせる血盟同志の囹圄に在る將に數句なり。時當に初夏近畿の同志相會し天業翼賛の大旗を翳して大會を舉行し左の如く宣言す。嵐の中に大命を拜受せし廣田内閣は再度に亘り時局を拾收し輒慮を安じ奉り、累積せる諸弊を革新して億兆安土の決意ありと宇内に聲明せしも、未だ何等實績の觀るべきものなきは前途誠に憂慮に堪へざるものあり。此の間に乘じ外國國際情勢は日を追ふて複雑化し、内財閥、官僚、政黨、自由主義者の聯合軍は勢力を盛り返へさんと狂奔す。皇國の爲其だ之を憂ふ。今夕茲に同志會合し愛國陣營の現状を靜かに顧みて三省す。今吾等は驟然起ちて大義の下に結合し維新勢力を集結し、更に全國に激して全國的聯合軍の結成をなすに當り、斯く躍進する我等の前には迫害あり、抑壓あり、然してそは大義に殉ずる魂であることを確信す。吾等は昭和維新の大號令を耳にする迄同憂血盟の同志と戮力し眞に救國済民の天業を翼賛する大旗を死守せんことを敢て宣言す。

益三。

全愛國團體統一聯盟は更に愛國政黨結成のために維新政黨準備會へと發展した。即ち六月二十日大阪實業會館に於て準備會の結成大會を舉行し、左記綱領、宣言を決定すると共に、常任委員として次の五氏を選任した。

維新政黨準備會綱領

一、吾等は合法的國民運動に依り國體政治に背反する金權支配を倒滅し皇道政治の確立を期す。

一、吾等は資本主義、社會民主主義、共產主義並に、ファシズムを排撃し大日本主義に依る一君萬民經濟組織の確立を期す。
一、吾等は皇道に依る國民信念の統一を激成し以て皇道の世界宣布を期す。
一、吾等は以上の三綱領を速かに實現せむことの熱意を以て結合し尊皇絶對、生命奉還の信念に基く一大維新政黨の結成を期す。

宣 言

廣田内閣成立せられて茲に半歳、その施政方針を闡するに何ら經綸の片鱗だも認め能はざるのみならず、然かもその組閣以來高調標榜し來れる庶政一新の實體は只だ一片の空文たらんとしつゝあるは洵に慨嘆に堪へず、惟ふに昭和維新の大業は一々現下特權階級偏重の傳統的社會機構を改革し以て皇道政治の確立を期するに非ずんば斷じてその目的は達成し得ざるものと云ふべし。然かるに今や豪傑に一人の有能の士あるなく加ふるに外國國際情勢は日を追ふて複雑し、内財閥、政黨、官僚等の亡國的自由主義者の一群はその陣營を醜くも死守せんと狂奔しつゝあるの現状なり。

斯くの如くんば皇國不動の國是たる大陸政策の遂行と國民生活の安定とは果して何に依據して、その成果を求めんとするや、想ひこゝに到れば暗雲臭々轉た寒心に堪えざるものあり。斯の秋に當り吾が愛國諸團體たるもの、責任や實に重、且大と云はざるを得ず。我等志を同するもの須らく己を空しうして戦線の再編成を遂げその擴大強化を圖り、苟くも我等の企圖を阻止せんとするものは何にもと雖も斷乎これを排撃し以て昭和維新の具現に勇

往邁進せんとす。
斯くして黎明、亜細亞の曉鐘は我等の手によつて清く高らかに打ち鳴らさるゝならん。我等は皇紀二千五百九十六年の今月、今日我國未嘗有の超非常時局に際し歴史的意義ある維新政黨準備會を堅く結成したる所以なり。
敢て天下に宣言す
昭和十一年六月二十日

維新政黨結成準備全國大會

役員

常任委員 手島剛毅、藤岡文六、宮本純一、村田村治、藤原敏雄
此の準備會は反八月會派を以て結集されたものであり、前記の如く、愛國労働組合全國懇話會、乃至皇國労働農協議會とは寧ろ相對立して、結成されたものである。従つてその大衆的基礎は薄弱ではあるが、生産黨關西本部、新日本國民同盟近畿地方協議會を始め愛國政治同盟、國民協會、皇道會、國體擁護聯合會等の中部、關西各支部も擧つて参加し、多くの愛國政治、思想團體を網羅して居るだけ、兎に角愛國陣營の戦線統一の要望を如實に反映し得たと云ふべきであらう。

關西皇國労働農協議會、維新政黨準備會とは別個に、労働組織の大衆的基礎の上に、維新政黨を結成せんとする八月會の意圖は、先づ愛國農民層結集のため皇國農民同盟の吉田賢一氏等に依つて、皇國農民團體の全國的統一運動として行はれた。此

の企ては、關東地方に於て六月二十八日皇國農民團體結成關東準備會となつて具體化され、次いで七月五日大阪に於て關西地方準備會を結成して、次の如き申合せをなした。

申合せ

皇國內外の非常時局に鑑み、國體的農民團體の全國的統一のために先づ我等各團體は茲に單一組織として合同し、進んで皇農團體結成關東準備會と協力して速かに全國的大集結に努め政治的に發展せしむる事。

然るに其の後關東側と關西側の間に溝渠を生じ、遂に關東側は、三六俱樂部の小林順一郎氏の率ゆる愛國労働農民同志會に加盟するに至つた。依つて關西側は、吉田氏の皇國農民同盟を中心として、新日本海員組合、總聯合大阪府聯、大日本労働協議會等、愛國労働組合懇話會關西側加盟團體と共に、關西皇國労働農協議會を結成した。協議會の結成は八月二十五日大阪中之島公會堂に於て前記各團體の代表者が參集して、農民戦線統一、人民戦線粉碎、労働戦線統一、維新政黨樹立の四件を決議し、左の宣言役員を發表した。

關西皇國労働農協議會宣言

比類なき日本國體の尊嚴に自覺せる労働者農民は、我が皇國の歴史に省みて今や未嘗有の國民精神の昂揚期に遭遇せるを機縁として、自らの負ふ歴史的使命を認識するに至れり。歴史的使命とは何ぞや、昭和御維新翼賛の使命である。資本主義の制度によつて階級分化を

遂げたる國民の二大陣營を資本主義の革新によつて一元化し、以て一大國民的更生を期するにある。今日愛國労働組合全國懇話會近畿地方委員會、皇國農民團體によつて關西皇國労働農協議會を結成せる所以のもの、また實に日本労働者、農民の歴史的自覺に基くところである。由來我が皇國は肇國の古よりやむことなき生命發展を遂げて今日に至つたものである。思ひを茲に致して皇國の現状を觀、現段階の政治的、經濟的客觀情勢を分析するとき、資本主義制度は既に全面的に體系化する政治勢力として國民の上に臨むに至つた。最早國民は個々の經濟的慾求すらも資本主義の革新といふ政治的目標に進むことなくして到達することを得ない見透しを持つに至つた。

斯くの如くして資本主義制度は階級闘争を助長し皇國々體の危險を害ふところとなつた。而して我等が皇國の現状が資本主義によつて進路を阻まれるものを自覺するとき皇國發展の生産力の中樞を形成し、幾千年來皇運扶翼の基礎努力を繼續し來つた愛國労働者農民の堪へ難きところである。斯る時歴史的使命を持つ本協議會が結成せられたのである。かくて昭和御維新翼賛の主體として來るべき維新政黨の結成を促進すべき任務をもつものである。従つて本協議會の組織成員たる労働團體、農民團體は組織の擴大強化と戦線統一を當面の任務とし、一國一黨一組合の基礎をつくり、目的を異にする既成労働團體、農民團體に對しては其の轉向、分解、併合、淨化を以て臨み、未組織労働者農民を組織化し、皇國労働者、農民の正しき思想統一を完成することによつて、亡國人民戦線を撃滅し進んで現状維持の觀念を排し、不純なる政治意識を注入することによつて常

に維新勢力を後退せしめつゝある政治ブローカー的存在を斷乎として粉碎し、強力にして純眞なる御維新の基礎工作を遂行することにより、關西皇國労働農協議會の使命に一路邁進せんことを期す。

役員

議長 赤崎寅藏、副議長 吉田賢一、同 今井武吉
書記長 大橋治房

當初企圖された戦線統一は、愛國労働組合全國懇話會の労働團體と、愛國農民團體の戦線統一體と、此の兩者を以て維新政黨の實現を圖つたのである。然るに、懇話會内に於ても産業労働俱樂部と總聯合其の他の間に政治的意見の不一致あり、且つ農民戦線の方も前述の如く關東關西の不一致に依つて不成功に終つたため、取り敢へず關西地方の労働戦線の統一を圖り、愛國労働農協議會の地方的母胎たるの意義を持たしめ、以て他の愛國團體にも戦線統一の方向に就て一個の基準を與へんとした所に協議會結成の主要目標が窺はれるのである。

青年層に於ける戦線統一運動

生命の若さはそれ自體一個の力である。青年は感激と純眞さを以て社會進化の促進力となる。右翼たると左翼たるとを問はず、社會運動に於ても青年層は常に運動促進の前衛的役割を持つ。特に國家主義運動に於て、各愛國團體の内部事情や人的關係が複雑微妙で、因縁情實の練着が運動展開の大きな障礙となつて居る時、青年層の捉はれざる運動が是等の排他派閥の空氣

統一に依る全面的力の結集が叫ばれる、これ必然の歸趨なり。小我を捨て、大同につけ、この合言葉は農村から、都會から、眞正日本人の魂から迸り出る。

日本主義政黨、農民労働者、學生諸團體が一路、大同へ！ 統一へと邁進しつゝある事は「祖國防衛」の爲め欣快に堪えない。

而も歴史が教示し、先哲が喝破せる如く、維新聖戰の第一戰に立つ者は、常に「青年」たならねばならない。

青年の結集！

全ての自由を奪はれた日本主義者の唯一の武器は即ち一點の私心なき純正青年の一大結集に俟たねばならない。

我等全國の同憂同感の士相集ひて此處に「純正日本主義青年運動全國協議會」を創設し、日本主義運動の中核として、眞に正しき青年運動の羅針盤たらしむるの自負と自責とを以て、純正青年運動の全國的統一を期し、又全國に人間陶冶の道場を設置して、同志の信念的結合、自己修練に務め、或は、一大國民運動を展開して大衆を啓發し、友誼諸勢力との緊密なる融合統一の下に、日本主義運動をして、一大劃期的飛躍に發展せしめ、以て御維新翼賛に死力を盡くさん事を期す。

全國純正日本主義青年諸公！

我等は此處に觀念的大同團結より雄飛して眞の青年的結集を謀り俱に天業恢弘の宏謀を翼賛すべき大使命遂行に挺身捧仕せんとす。

我等の微衷を了せられ絶大なる協力共戦あらん事を。

昭和十一年十月三日

一、的なるイデオロギーを與へ、その方向を決定し、躍進力を添加するものは實に純眞なる青年層の働きでなければならぬ。

青年の結集！

まことに皇國日本を救ふものは、かくして統一づけ、組織化されたる皇道國民の天業翼賛、維新奉公である。

我等はこの必要性と、その重大性を深く自覺せる全國同憂同感の士と、茲に「純正日本主義青年運動全國協議會」を創設した我等は眞によく日本主義運動の中核たるに愧ぢざるべく、正しく純なる邊養と行動とを以て、觀念的大同より血脈的融合への大飛躍を試み、俱に濃かに赤誠を波打たして、天業恢弘の宏謀奉翼の大使命に挺身奉仕せんとす。

今、輝かしき出陣の門出に當つて、敢て滿天下に宣す。

昭和十一年十一月三日

純正日本主義青年運動全國協議會

規約

第一總則

一、名稱

第一條 本協議會は純正日本主義青年運動全國協議會と稱す

二、目的

第二條 本協議會は純正日本主義青年運動の全國的統一を以て目的とす

第三條 本協議會は維新翼賛のため純正日本主義青年の積極的共同

宣言

純正日本主義青年運動全國協議會

歐洲に於ける左右兩翼の思想對立尖鋭化に起因する第二次世界大戰の危機、及び之を東洋に轉化せしめんとする老猾極る諸種の陰謀陽策と、而して東洋自體の包藏する危険性が相合して、皇國日本を繞る國際環境は、今や深刻その極に達せんとしてゐる。しかも内には、歴史の必然に逆行し、國體の眞義と國民の生活を犠牲に供しつゝ、所謂金融支配の最後の形態としての老廢矛盾機構を、官僚と金權との全き抱合をもつて、之を擁護し之を維持せんと狂奔を續けつゝあるの現状である。謂ふところの庶政一新とは幕府當局の尊皇維新詔に等しき矛盾に充てる彼等の斷末魔的呻吟の聲である。彼等は、皇國日本をしてこの脆弱なる老廢機構を内に抱いて以て未曾有の危局の前に立たしめんとしてゐる。噫かくて如何にして國命を無窮に彌榮へしめ、何處に祖業を恢弘せしむべきぞ。

二月事件以來、久しく内省と沈潜とを重ねたる我等が陣營内に、その再整備——全國的統一による全面的なる新興維新勢力の組織結集の叫ばれるは、正に歴史の必然性に基づく之が解答である。喚け！農村から、都會から澎湃として叢り起りつゝある「我執を去つて大同につけ」との絶叫を。これこそ大地を揺り動かし、全日本の鐵魂から迸り出づる天來の雄叫びである。愛國の赤誠に燃ゆる維新黨、農民層、労働運動、學生團體等々の凡ゆる分野は、この天來の聲の導きのまゝに、一路、大同へ、統一へと邁進しつゝある。而してそれら各分野の運動を綜合すべき中心運動、核心體として、これに統

運動を爲すを以て目的とす

三、構成

第四條 本協議會は純正日本主義を信奉實踐し且つ本協議會の規約に基き積極的に共同運動を行ひ得る青年團體及び個人を以て構成す

第二機關

一、本部

第五條 本協議會は特に本部を設けず役員協議に依り會務を遂行す但し當分の間連絡事務所を京都市内に置く

二、地方協議會

第六條 各地區に地方協議會を置く地方協議會の規約は各地區に於て別に之を定む

三、役員

第七條 本協議會は役員として「代議員」及び「連絡員」を置く

第八條 代議員は本協議會の機能發揮に努むるものとす

第九條 連絡員は代議員會の意見に基き各地區間の緊密なる連絡をなすものとす

四、運動方針

第十條 地方的局部運動は地區代議員の議決を以て之を行ひ連絡員は常に當該地方活動情勢を各地區連絡員に通報す

第十一條 全國的全面的運動は全連絡員の協議に基き之を決定す

五、修練機關

第十二條 各地に青年の修練道場として塾を設置し人格識見の向上

に務む

第十三條 加盟員相互の修練、人的結合を目的として各地に研究會、討論會、座談會等を常時開催す

六、機關紙

第十四條 毎月一回機關紙及報告書を發行し國民の啓蒙と同志の連絡に當り、尙隨時小冊子を發行す

第三 加盟資格

第十五條 加盟申込ありたる時は當該地區代議員の嚴選審議を経て之を決定す

第四 附 則

第十六條 本協議會の規約は大會の協賛を得るに非ざれば修正變更することを得ず

役 員

連絡員 北海道 林貞四郎、東北 入江五郎、關東 大森一聲、西

郷隆秀、工藤定雄、影山正治、東海 西村暢夫、中部 三

浦延治、北陸 太田幸一、伏木治一、近畿 中川裕、徳田

惣一郎、田島勝武、中國 横田佐輔、四國 泉田武、九州

木本榮、田中靜、四宮九州男、滿洲 橋本重雄

中央に於ける戰線統一の主要運動

中央に於て、愛國戰線統一の有力な前哨運動として擧ぐべきは、大日本青年黨の出現と愛國勞働農民同志會の擴大發展である。大日本青年黨は、十一年八月豫備役となつた橋本欣五郎大佐の率ゆる所であり、愛國勞働農民同志會は、三六俱樂部の小

あつた。然るに其の後橋本大佐を中心とする新黨樹立に就き、漸次既成の愛國團體に對して批判と清算の態度を以て臨むに至り、殆んど門戸閉鎖主義とも思はるゝ方針を以て、大日本青年黨が結成されたのである。

大日本青年黨は十月十七日早曉明治神宮に於て結黨された。結黨式は橋本大佐以下、松延繁次、今牧嘉雄、陶山篤太郎氏等の外數名の少數で舉行し、橋本氏結黨宣誓をなして式を終へた。斯くの如く、結黨當初より黨員の嚴選主義をとつた關係上、現在の黨員も未だ微々たるものである。併し此の青年黨の狙ふ所は優秀分子を未組織層より獲得し、且つ青年を通じて戰線の基礎を確立し、而して既存愛國團體の統一を圖る方針であつた、と云ふ。これが現實の運動として如何程理想通り發展するかは頗る興味のある點であつたが、當初多大の期待を以て迎へた愛國陣營の一部には、斯くの如き行き方に對しては、相當の不滿があつたと傳へられて居る。要するに大日本青年黨立黨の組織方針は、從來の國家主義統一運動の上に、新しき一生面を見出さんとする特異の意義を有するものであつた。尙同黨の宣言、主張、本守則、役員を左に掲げておく。

大日本青年黨宣言

世界は今や、唯物的自由主義制度の行詰りにより、茲に一大更新を必要とする歴史的轉換期に直面せり。然るに世界各國は、何れも舊國家生活姿態より未だ完全に更生し得ず、其實力相伯仲し巔然他に

林順一郎大佐が、これが中心となつて居る。双方共に在郷軍人を指導者として、時流に投じた運動だけに、其の動きは、頗る各方面の注目する所であつた。此の兩者の外に、維新制度研究會があるが、愛國勞働農民同志會系に屬せざる各派の聯合に依つて結成された愛國革新運動の啓蒙機關であつて、寧ろ國家主義陣營に於ける文化的思想的統一機關たるの性質を有して居る。以上の三者は何れも、その志向系統、構成内容、運動方法を異にしつゝも、最近に於ける中央の最も主要な團體として政治的に或は思想的に、愛國戰線統一の苗圃たらんとし、若しくは其の一翼としての意義を有して居る。而して前二者の協力を中心として、昨年末時局協議會なる大聯合體を結成した事は、後に述べる通りである。

4 大日本青年黨 肅軍異動に依つて豫備役編入となつた橋本欣五郎大佐は、現役當時より國家革新運動の指導者として、國家主義運動者の間にも多數の聯關を持ち、其の動きには、可なり注目と期待を持たれて居た人である。野に下るや九月一日自己將來の抱負と信念を述べ、今後の方針を明かにした挨拶状を各方面に配付して、國家革新運動に邁進する決意を宣言する所があつた。永らく混沌と不振を叩つて居た國家主義陣營内に橋本大佐の此の率直なる態度は、俄然大なる新鮮味と反響を呼び起した。愛國團體の多くの中には、陰に陽に橋本大佐の動きを通じて、戰線の統一を圖らん事を、窺かに期待せるかの觀が

光被するに足る體制を有する國家無し。

此時代に於て一步を先んじ、優秀なる國家體制を確立するものは、正に世界に光被するを得べし。

惟ふに八紘一宇の顯現を國是とする我國は、即時其本然の發揮に依り、國民の全能力を擧げ天皇に歸一し奉り、物心一如の飛躍的國家體制を確立し、光輝ある世界の道義的指導者たるを要す。此意義に於て次の新體制を提唱す。

主 張

一、精神的飛躍

我國體の尊嚴は無上絶對、普遍的眞理の顯現なることを國民に感得徹底せしむると共に、本體制を以てすれば、當然世界の道義的統一をなし得べき確信を信仰的ならしめ、且つ現唯物的自由主義機構の下に萎微しつゝある我民族の純正明朗にして不偏中庸、睿智的、武勇的、仁義的なる高級特質を進歩的形態に於て再生堅持せしむるは勿論、益々之が助長發達を策し、精神文化の中樞とす。

二、經濟的飛躍

經濟は之を營利主義の桎梏より開放し、資源、勞力及技術を價値の根源とし、國家之を統制管理す。生産に於ては勞力、資源の存する限り、調整したる國家企業を最大限に擴張し、國民生活を極度に向上せしむるを第一義とし、飛躍的増産を敢行す。勞力の能率を最大限に發揮する爲、近代科學を極度に利用す。

貨幣は資源勢力技術により生産せらるゝ、價值質量を其準備實質たらしめ、國家之を發行し、單に交易的價值を有せしむ。
貿易は國家之を管理し、原則上國家的必要範圍に制限す。

三、外政的飛躍

我版圖内に於ては緊密なる有機的體制の下に、各民族の特質を發揮せしめつゝ、制限的自治を行はしめ、全體的に民族文化の向上を圖り皇化の實體化を行ふ。

此の方式を以て逐次世界に及ぼす。

四、軍備的飛躍

本體制の實行に對し、主義を異にする諸國家妨害を爲す場合、隨時之を克服し得るの絶對的軍備を完成す。

軍備の主體は無敵空軍とし、軍の航空機たるの觀念より脱却し、國家國民の航空機たるの觀念に至らしむること、恰も古來我國民の日本刀に對する信頼と同様ならしむ。

五、政治的飛躍

政治は本國家體制の完成に全能力を集中し何等の徒勞なからしむる爲、之を完全に信奉する全版圖の同志を以て其指導に當り天皇に責を受く。

本 則

第一條 本黨は大日本青年黨と稱し本部を大日本東京に置く。

第二條 本黨は皇業恢弘により道義世界を建設するを以て目的とする

第三條 本黨の目的實現に獻身奉公する同志を以て組織す。

第四條 本黨は統領これを統轄す。

第五條 本黨は黨務執行のため別に細則を定む。

守 則

- 一、黨員は宣言、主張の實現に挺身し、他をして同化せしむべし。
- 二、黨員は忠節、禮儀、武勇、信義、質素を旨とし國民の儀表たるべし。

役 員

統領 橋本欣五郎、書記長 松延繁次、總務部長 陶山篤太郎、各部主任 調査 西本喬、庶務 藪本正義、組織 大川兼一

愛國勞働農民同志會 二月事件以來極度に去勢された國家主義運動は、漸くその更生策として戰線の統一と陣營の再組織に依る以外其の方途なきを反省自覺した。而して當面直接の問題として、既存愛國關係の戰線統一を通じて、組織の大衆化を圖らんとする方針が、愛國運動の主潮となり澎湃たる勢を以て湧き起つて來た。此の事は既に述べた通りである。

此の戰線統一、組織大衆化の機運に乗じ、最も積極的にして廣範圍な運動を展開したのが、小林順一郎大佐の率ゆる愛國勞働農民同志會であつた。

愛國勞働農民同志會(略稱愛同)は同じく小林大佐を創設者とする三六俱樂部の大衆的基礎を形成するものであるが、愛同の結成を見たのは、昭和八年十二月で、當時は埼玉縣川口市を中心とする微々たる團體であつた。これが二月事件後の情勢に乗じ愛國勞働戰線の統一を目論み、愛同を中核として在郷軍人を

も含む一大政治勢力を糾合せんとする方針から、先づ勞農戰線の統一に乗り出して來た。

愛同の此の方針を正式に表明したのが、十一年十月四日川口市で開催された愛同第一回大會であつた。當大會に於て「全國に亘る純正日本主義團體の戰線統一に關する決議」を可決して、戰線統一に對する愛同の積極的意圖を明かにし、小林大佐自ら會長の席を松本勇平少將に譲り、顧問となつて、自由に各團體糾合のための活動に備へた。爾來小林大佐の活躍目覺しく、その豊富な資金と連絡を以て資金難に悩む各團體にその觸手を伸ばし、戰線統一工作の隱然たる推進力となるに至つた。小林大佐等の此の運動が、量的發展を主として玉石混淆と思はるゝ程の大同主義に出でたことは、橋本大佐等の質的中核を重んじ潔癖と思はるゝ程の大嚴選主義に出でし事と思ひ合せて、戰線統一機運に表現された對蹠的な二方法として興味ある問題である。

愛同の構成團體は後に掲げる通りであるが、現在農民一萬八千、勞働者五千、準會員を合して三萬と公稱して居る。當初愛同の目標とした所は、皇國農民團體一體と愛國勞働組合懇話會との全的統一にあつたと云はれて居るが、これは諸種の事情から豫期の進展を見なかつた。農民側は大阪側の加盟を見るに至らず、千葉、長野等に於ける有力農民團體も参加しなかつたが、然し爾餘の皇國農民團體をその傘下に糾合し得た事は、何

と云つても一大收穫と云はねばならぬ。勞働組合懇話會は、日本勞働同盟のみ單獨参加を見、愛同亦これを優遇して居るが、其の他の組合は参加を見て居ない。懇話會の關西側は皇國勞働協議會に参加したが、關東側は産業勞働俱樂部、總聯合や或は東電愛國同盟を中心とする戰線統一促進協議會等その政治的歸趨は複雑で一定して居ない。

愛國勞働農民同志會綱領

- 一、我れ等が茲に勞働者及農民と名づくるは、知識勞働者、筋肉勞働者、農民等あらゆる勤勞者を包括す。
- 二、我れ等の思想、我れ等の動向我れ等の動意は、我が帝國の興亡安危を左右する最も力あるものなるの事實を前提とし、我れ等は之れに關する重大なる責任を自覺す。
- 三、帝國は世界に全く比類なき一君萬民の精神的大家族なり、われ等は、この建國の大精神に甦り、國內に於ける總ての物質的對立抗争を排撃し、進んで結束固き皇道日本の實現を期す。
- 四、我等は皇道日本の大義に則り、神を敬ひ、人を愛し、信義、禮節を重んじ、勤勉力行、日に進み、日に新に率先して他に比類な

き美しき社會相を現實化し、其の光をして八紘を被はしめんことを期す。

總ての利害問題は、此皇道日本の大精神を使ふものも使はるものも、相互に理解する所に、常に一致解決點あるべきことを確信す。

五、我等は、愛國の至誠を捧げて祖國日本を強化し、護國の中堅たらんことを期す。

六、我等は、我が國體と全く相容れざるマルクス主義の徹底的克服を期す。

七、我等は、非常時日本の光輝ある打開の爲に、最も力ある結束の許に、適正なる國內革新の中心勢力たらんことを期す。

本部役員

顧問 海軍少將 植松練馬、陸軍少將 林丁榮、陸軍砲兵大佐

小林順一郎

相談役 陸軍砲兵大佐 佐藤鐵馬、近藤榮藏

會長 陸軍少將 松本勇平

理事長 阿部巳與平

加盟團體

日本労働同盟、愛知皇國農民組合同盟、富山縣勤勞農民同盟、新潟皇國農民聯盟、東北皇國農民聯盟、其他三重、岐阜、山梨、群馬、埼玉、茨城、滋賀の農民組合準備會(以上合計、農民一萬八千、労働者五千、準備員を合して約三萬と公稱す)。

ハ、維新制度研究會 愛國陣營統一の聲が次第に擴大されるに

意に憲法政治即政黨政治なりと妄斷して國民を欺瞞し功利亡國的政治形態を維持すべく狂奔しつゝあるが、我が帝國憲法の精神は皇國独自の議會制度の確立とその機能の發揮を要求し、斷じて輸入的議會中心政治と相容れざるものと確信する。今や内外の時局益々急迫を告ぐる時、我等同志は茲に立つて自由主義政治形態絶滅のため一大思想運動を展開し、政黨政治家の猛省を促し、一方軍部をして皇軍の使命に鑑み舉軍一體の下庶政一新に邁進せしむべく鞭撻し、他方國民に正しき認識を與へ、純正なる國論を喚起し、以て維新運動促進に一臂の貢獻を致さんとするものである。我等は同心協力、一切の派閥感情を清算し強正なる統一力を以て飽くまで初志貫徹に直進せんことを誓ふ。

昭和十一年十二月三日

維新制度研究會

役員

委員長 松永材、常任委員 赤松克麿、木島完之

幹事 米持格夫、森本耕

尙當面の運動としては、演說會、パンフレット發行等を企圖し、自由主義政治形態否定、輸入的政黨政治絶滅、日本の議會制度確立をスローガンとして、十二月十日より十五日に亘り、東京各所に於て政黨政治撃滅演說會を開き、その第一聲を擧げた。

此の研究會は前述の如く、思想的確立啓蒙を以て主たる目的としては居るが、單なる思想團體としてよりは、躍動しつゝあ

從つて統一機運亦非常に醸成されたが、如上の諸運動の如き各各の志向を異にし或は統一方法も一定せず、加之自派陣營の強化を本位として、自己に有利に統一運動を轉回せしめんとする動き等もあつて、戦線統一の流れが諸系統に對立交錯して居た。斯の如き風潮の中にあつて、日本主義思想を純化確立し、陣營統一の思想的根柢を與へると共に、日本主義思想を方法論的に具體化して、以て戦線統一工作を側面的に推進せんとする意義の下に、維新制度研究會が結成されたのである。

該研究會は、松永材、赤松克麿、木島完之、前田虎雄、富田鎮彦、津久井龍雄、森清人氏等を發企人として創立されたもので、その發會式は十二月三日新橋東洋軒に於て舉行された。當日は日本主義研究所、國民協會、大日本生産黨、日本精神協會、惟神館、新日本國民同盟、直心道場等在京愛國團體の有志六十餘名參集して、次の決議及び役員を決定し、次いで鈴木善一、森清人、大森一聲、神田兵三、倉田百三、津久井龍雄、富田鎮彦、宮崎龍介等の諸氏交々賛成演說をなし會合を終つた。

決議

庶政一新の基本的且つ先決的内容は國體原理を明徹して自由主義政治形態を改革するにある。現在の個人主義に立脚したる明黨的政權爭奪の政治形態が我が一國一家の道義的全體主義と本質的に背馳し其の結果政治を荼毒し道義を破壊し、國運の進展に大なる障礙をなしたる事は明白である。彼等政黨政治家は憲法擁護に名を藉り故

る愛國戦線統一に對して其の運動を誘致進展せしめんとする役割を有する。從つて其の思想運動の線に沿ふて醗酵さるゝ維新統一機運の發展性に對しては、時節柄多くの期待と注目が拂はれて居るのである。

附記

愛國陣營一方の堅壁を守つて來た愛國政治同盟は、十一年十一月三十日遂に解體した。その聲明書に依れば、既存團體を解體し有志を包む困難の舊衣を脱ぎ捨てる事が戦線統一のための急務であり、退くに避難所もなき不退轉の推進力を以て新政黨結成に邁進せねばならぬ。依つて新政黨結成の機を促進せしめんとする發展的目的を以て、その組織を解體する旨の趣意を述べて居る。戦線統一に關聯して興味ある事象である。

戦線統一を繞る二潮流

愛國團體の合同統一、新政黨結成は、全陣營を一貫する普遍的要望であり乍ら、運動の實情は、上述の如く極めて錯雜多様で、其の動向は未だ豫測を許さぬものがあつた。然るに十一年十月下旬頃より國家主義陣營の上層指導者たる三六俱樂部小林順一郎、淡交會江藤源九郎、大日本青年黨橋本欣五郎、生産黨吉田益三、總聯合高山久藏、國體擁護聯合會入江種矩氏等が複雑なる戦線統一の動きを纏めて、逼迫せる社會情勢に適應すべく愛國運動の一大勢力を結集せんとして、尙かに協議を重ねて居たが、終に年も押し迫つた十二月十五日、東京に於て時局協議會なる既存團體幹部の大部分を網羅する一大連繫機關を創設

するに至つた。これは勿論合同としての性質や政黨としての内容を持つものではなく、單に各層各部門に亘る日本主義運動の協調強化を目的とする常設的連絡機關であるが、其の構成範圍の廣汎なる點に於て、兎に角國家主義戰線統一の一飛躍であり、又愛國政黨樹立への一步前進であると云はねばならぬ。

然るにこれと殆んど時を同うして、愛國労働組合全國懇話會系の青年分子や皇國労働協議會等は、時局協議會を以て「フッシ」獨裁政權の確立陰謀なりとして、合同絶對反對の立場を明かにし、時協とは對蹠的に大和聯盟なる聯合體を結成するに至つた。而も既に時協に加盟するやに思はれて居た有力幹部をもこれに糾合し、「上からのフッシ」反對「公武合體反對」「尊皇討幕」等の旗印の下に、その運動を展開し來つた事は、愛國戰線統一運動の動向を二潮流に分たんとするものとして統一運動將來の歸趨は深甚の注目を惹いて居る。

4 時局協議會 時局協議會は十二月十五日丸ノ内中央亭に於て第一回協議會を開催し、正式に成立せる旨を發表した。規約にも明示せる如く、本會は個人加盟で各人独自の立場で行動し得る自主權を尊重して居る。先に一言觸れた如く時協の中心的背景は小林大佐の三六俱樂部、愛國労働農民同志會、大日本生産黨を中心とする維新政黨準備會、橋本大佐の大日本青年黨で、一般には三六系統の政治的進出と見られて居る。尙次の成立に當つて發表された聲明書、挨拶狀、規約を見れば時協の内容は

一目瞭然として明かにされて居る。

時局協議會成立聲明書
現下の急迫せる皇國內外の情勢に對處する爲に、今回各層、各部門に於ける全日本主義運動の連絡、協調並に強化を目的として時局協議會が成立した。

本會の特異とする處は、本會は從來の革新運動首腦者のみの連絡提携に依て生れたものではなく、前述の如くに現狀打開に關心する國內各層全面に亘る有志の發意に依りて期せずして成立したるものであつて、時局打開の一大國民運動の爲め相互間の緊要なる連絡協調を目的としたる點に在る。
而して本會目的達成の爲め各會員間に於ける具體的の申合せ事項は何れ來る二十一日麹町區寶亭に於ける會員總會に於て決議される筈であるが、其根本方針に於ては、所謂日本主義運動者間に於ては事實上既に一致して居るのであつて、到底一時の糊塗的政策に依つては此難局の打開は不可能であり、時局根本の禍因に遡り、國體を明徴にし、教學、政治、經濟、外交等其他各般に亘りて其根基たる思想上の誤謬を匡し、先づ大義を明かにするといふことではなければならぬ。約言すれば本會は本會規約にもあるが如く、速に内外に對處して皇道政治を確立するが爲めの常設的打合せ會と認めらるべきものである。
従つて今後の動向としては、先づ國體の本義に悖る所謂功利主義民主主義的思想に基く諸勢力清算の目的に向て鋒を向けることとなるであらう。

因に斯の如き日本主義運動を右翼運動と呼び、其目標とする所を「フッシ」と解するが如きは、世界に比類なき國體原理に副ふたる眞に我が國獨特なる運動であることを顧みざるものであつて實に思はざるも甚だしきものである。

挨拶狀

冠省 皇國內外の情勢は誠に容易ならざるもの有之と奉存候。數年以來、憂國の諸彦が各々盡忠の至誠を以て、或は團體とし、或は組合とし、或は個人として各方面に於て、時局打開の爲に妙なからざる御努力相成居候に拘らず、大局上情勢の推移は必らずしも意の如く相成らざるもの有之、非常時は愈々深刻を加へつゝある今日の有様は寔に憂慮に堪へざる儀と奉存候、之には諸種の原因可有之と存候へ共、一には各層、各部門、各地方の御努力が其時機、其動向等に於て必らずしも相協調せずして全局に及ぼす效果十分ならざりしに由るものも妙なからざる儀と奉存候。

目下の情勢は最早斯かる有様に放置し得べき場合には無之と確信罷在り、殊に世界に比類なき一大家族國家内の國民として皇運扶翼の爲に各々私心を去り、小異を捨て、大同に就き、互に短を補ひて和樂協同し、國難打開に邁進の活模範を示すべき日本主義者相互間に於ては此際一層大義に向て連絡協同の實を擧げ候様致度と被存候。右の如き理由に基き過般來同憂の人々相集り何とかして各層、各部門、各地方の有力なる各位間に於ける相互の御連絡、御談合の機關を設けてはとの議相起り候様の次第に御座候、勿論之は單なる連絡談合の機關に有之、之に依り各團體或は各組合或は個人各位の獨自

の御行動を聊かたりとも掣肘すべき性質のものにては無之、却つて之が爲に各團體或は各組合或は個人各位の各々独自の御立場に於ける御努力が全局上、一層效果的なるを得ることを目的と致すもの以外ならず候、尙此目的達成の爲には本機關内に於て會員相互間の連絡事務に遺憾なからしむると同時に各位の御所見御交換の機會を勉めて屢々作る必要有之、之が爲に特に調査部を設けて重要問題毎に主なる各位の御集合を煩はして十分に相互啓蒙の實を擧げ、且世話人に於て時局に處すべき各位の御提示案を取纏め、議案として適時御協議を相願ひ可 possibleの範圍に於て意見の一致を求むる如く致すを實效的かと愚考致居様の次第に御座候。

勿論總て是等の方法は會員各位の御意見に依り絶えず改善の實を擧ぐべきは申す迄なき儀に有之申候。
大略右の如き意味に於て、別項記載の如き規約の許に、今回時局協議會を設くる事に相成り、下名等が全く個人の資格に於て不肖をも顧みず世話人として敢て犬馬の勞を採ることに相成申候次第に御座候、何卒本趣旨に御賛同の上奮つて御入會の榮を得度此段謹んで御案内申上候。

追て多年憂ふべき現狀打破の爲めに妙なからず御盡瘁相成居候御先輩方々中御差支なき方を本會客員として御推薦仕り、本會の目的達成の爲に御善導の榮を得度實は今日迄の處既に（イロハ順、敬稱略ス）

公爵 一條實孝、五百木良三、男爵 井田馨福、男爵 井上瀧純、堀口九萬一、大山卯二郎、渡邊滿太郎、建川美次、匠斐胤次、内

田良平、葛生能久、伯爵 柳原義光、小林省三郎、安藤紀三郎、男爵 菊池武夫、子爵 三室戸敬光
の各位は客員たることを御快諾下され候様の次第に御座候、尙其他の方々にも御願ひ致すことに相成居候、御参考迄に申添候 敬具 世話人 (イロハ順)

入江種矩、橋本欣五郎、長谷部照倍、渡邊良三、吉田益三、高山久藏、黒澤圭一郎、小林順一郎、江藤源九郎、赤崎寅藏。

時局協議會規約

第一條 時局協議會は速に皇道政治を確立し急迫せる時局に對處する爲め各層各部門に於ける全日本主義運動の連絡、協調並に強化を以て目的とす

第二條 會員は此主要目的達成の爲めに常に小異を捨て、大同に就き日本主義の美德たる和衷協同の精神を發揮するものとす

第三條 本會に世話人會を置く

第四條 世話人會の推薦に依り本會に客員を置く

第五條 世話人會は左の事務を掌る

一、調査部を設けて各種原案の作成

二、會員總會の決議を現實化せしむる爲めの一切の事務

三、各會員間の連絡

第六條 會員は本會目的達成の爲め必要なる意見を世話人に提示す各會員は全く本協議會の責任圏外に在りて各々独自の立場に於て行動し、第一條の目的達成の爲に相協力するものとす

第七條 本會々員として入會せんとするものは世話人二名以上の御

たが、次に述べる大和聯盟の結成の如き、時協今後の消長に少からざる關聯を有するものと見るべきであらう。左に第一回總會の聲明書並びに頭山氏の聲明を紹介しておく。

第一回總會の聲明

時局協議會は全國忠良の國民を動員し皇道政治の確立、純正護憲運動を以て直進し、渾然一如の日本帝國を完成し悠久なる皇基を振張し、以て國難打開に向つて邁進せんことを期するものである。これが爲め第一着手として國內充實強化の至大障礙たる個人、民主唯物、功利思想の上に立つ既成諸勢力清算の目的を最も速かに達成せんとするものである。

頭山氏の聲明

方今邦家の危急は果卵よりも甚しく、朝野官民憂懼措く能はざる所にして是れ全く我が國民が立國の本義と國體の本質とを忘却し、輔弼の重臣また猷贊其の宜しきを得ざるものありし結果に外ならず。今や憂國の諸士相謀り時局協議會を設け、國體を明徴にし、協力一致君國の爲めに報効する所あらんとす。冀くは奮勵努力あらんことを。

大和聯盟

時局協議會の設立が未だ表面化せずその準備途上にあつた頃より、既に時協の戦線統一を以て「ファッシ」政權確立の陰謀なりとして、皇國勞農協議會の「皇民戦線」紙上に「その反動性を爆撃」した事は、愛國革新陣營内に少からざる波紋ををがいて居た。それと共に皇國農民同盟吉田賢一、總

紹介を要す
第八條 本協議會成立の基礎は各會員の協心戮力の誠意に在るを以て別に細則を設けず、依つて本規定外の總ての事項は一に各會員の此誠意の結晶を背景として世話人會に於て隨時之を處理すべきものとす

十五日正式成立を發表した協議會は十二月二十一日平河町寶亭に於て第一回會員總會を開催した。當日上記世話人の外各派の加盟會員約百四十名に、客員として、一條實孝公、井田繁楠男、井上清純男、菊池武夫男、建川美次中將、小林省三郎中將等參集した。會は小林大佐の開會の辭、吉田益三氏の創立經過報告、橋本大佐の左記聲明書朗讀、頭山滿氏の聲明書代讀(葛生能久氏)等があり、續いて五百木良三氏、小林省三郎氏、建川美次氏等挨拶をなして盛會裡に終了した。

かくして協議會は愈々運動の本舞臺に乗り出す事になつたが其の顔觸れより見ても、愛國陣營未曾有の大規模な戦線統一體であつて、而も其の人物は、多く社會的に注目されて居る人達だけに、其の及ぼす反響も頗る大なるものがあつた。然し是等の各派各團體從來からの行掛りや障礙を克服して、内面的に融合統一の實を擧ぐるまでには、前途に幾多苦難の途を歩まねばならぬし、又それを新政黨結成への發展と云ふ角度から見れば尙更可なりの曲折變遷を免れざるべく、觀察されて居る。關西皇國勞農協議會の如きは、既に早く時協反對の旗幟を鮮明にし

聯合今井武吉、末中勘三郎、新海員組合松田喬平氏等は連日協議を重ねて居たが、時協成立と時を同うして十二月十五日大阪中ノ島公會堂に於て大和聯盟を結成するに至つた。結成會議には、勞働組合側から今井武吉、末中勘三郎、大橋治房、伊藤長光、山本龍助、三谷三平、坂東清三郎、樋口喜徳の諸氏、農民組合側から吉田賢一、西光萬吉、吉岡八十一、來田富、寺島宗一郎、駒井菊松の諸幹部參集して、出雲大社教訓總監千家健建氏座長の下に、吉田賢一氏經過報告をなし、左記の申合せ及び聯盟趣旨書を決定、世話人に千家尊建、吉田賢一、今井武吉の三氏これに當り、新加盟者は會員の推薦に依り世話人會で協議決定する事を申合せ、大和聯盟の結成を見たのである。

申合せ

一、廣く同志を求め、天業翼賛の政治的行動主體結成の爲め、國體の本義に基き、皇民大衆の實生活に即してその運動を展開する事
二、その必要上、事務所及び若十の世話人を置く事。

大和聯盟趣旨

皇國が當面せる深刻非常時なる時局に照應して、眞に國體本義の顯揚を必須とすること今日の如く切實なるは、まさしく史上稀に觀るところである。我等皇民は、等しく其の享けたる總てを擧げ、千歳一遇の覺悟を以て、聖事マツリコトに奉仕せねばならぬ。即ち皇國皇民皇産の理想實現の爲に、今こそその惟新なる赤子思想と奉還思

想による御維新翼賛運動を、皇民大衆の實生活に即し、大衆的規模に於て政治的に展開すべく努めねばならぬ。茲に我等は建く同愛同志の加盟協力を希み、以て聖業翼賛の微衷を致さんとするものである。

斯の如く時協と時を同うして急遽大和聯盟の結成を見た理由として、一般に次の事柄等が擧げられて居る。即ち時局協議會がファシシ的色彩を多分に持つ既成團體と大衆的基礎を持つ皇民革新團體とを合同せんとする事は、「小異」でなく「大異」であるから斷じて實現不可能であり、而も今回の合同は金融資本の至上命令に依る次期ファシシ獨裁政權への準備工作に外ならぬとして、かゝるファシシ化の陰謀に斷乎反對すると共に日本主義大衆運動の正常なる發展を計らねばならぬ、と云ふのである。勿論大和聯盟の幹部の間には、時協との公然たる對立を否定して居るし、又双方共極めて慎重に構へては居るが、此の兩者は愛國戰線統一運動の戰略論並びに方法論に於て、別個の道を辿り行く宿命にあるかの如く、一般に觀察されて居る。兎に角時協と聯盟は、全國主義戰線の複雑多端な志向と方法を漸次單數化しつつ、全陣營に於ける小黨分立の對立抗争を止揚して、愛國革新運動を繞る二潮流たらんとして居る。正しく此の事は戰線統一と陣營再編成過程に於ける一步進展である事は否み得ない。次に十二月十日大和聯盟派が「皇民戰線」紙上に「時局協議會の反動性を衝く、今次の大同合同は資本主義幕府擁護の爲

の公武合體論である」との見出しで發表した聲明書は、同聯盟の目標を指示したものであり、更に國家主義運動今後の動向を窺知する上に、少からざる示唆を含むものと思はるゝを以て、左に其の要旨を掲げて置く。

大和聯盟の反對論

……二・二六事件以後の戰線統一運動は、前期舊日本主義時代に於ける混入型と大衆型の色別と同じく、いちよるしく、統一されて行く陣營を色別した、それは何であつたか？ 單的に言へば日本型ファシシ——公武合體派と革新派——尊皇討幕派に色別せしめて行く動向であつた……

今や次期（或は次期たらず共最近）政權をして強力なるファシシ政權たらしめんが爲めに、彼ら支配階級は皇民大衆をファシシ政權下に置かんとする一切の計畫的行動をとり始めたのである。

彼等は皇道政治を口にし、皇道化を唱ふ、それによつて日本主義陣營を自己の支配下に統一せんとするのである。

それは明らかに徳川幕府のとれる公武合體と軌を一にする、果せるかな今次の大同論の據頭である。

全日本主義陣營を打つて一丸となさんとする工作は時局協議會を構成せんとする委員の中の一部の人達によつて行はれた、それは秘密裡に運ばれ、獨裁的規約を以つて大同合同を敢行しようとしてゐる。之こそ明らかに、昭和の公武合體を實踐化せんとする最初の大きな計畫である……

誤れる獨善的獨裁は、明らかに大衆運動を、大衆の意志を、所謂皇

民の意志を無視する處のものである。天下りの統一によつて總てを處理して行こうとする事は、大衆運動家の承認し得ない處である。明らかに成立過程を見ても大衆運動を無視してゐるが、時局協議會の人的構成要素を見ても、それが如何に「大衆運動の危機」であるか、わかるのである。常任理事、理事（役員として獨裁權限を附與せられてゐる）の人々は全體舊型の日本主義者であり、或は世に兎角の評ある人達が混じてゐるのが見えるのである。

かゝる人的構成要素をみただけでも「大衆運動の危機」が叫ばれる事勿論であり、眞實の皇民意識の上に立ち、絶對性の把握の上に立つて行動し得るものでない事がわかるのである。左に役員並に委員として選定せられんとしてゐる者の顔ぶれを擧げてみよう……

斯くの如く、茲に擧げられた人達は、日本主義のピンからキリ迄である。

この尨大なる時局協議會の結成の歴史的意圖は何處にあつたか？ 勿論それは、ファシシ政權樹立の準備であり、公武合體の漸進的實踐化であるのだ……

結 語

實に十一年度に於ける國家主義運動は、總選舉に次ぐに二月事件の勃發を契機として、澎湃たる戰線統一、維新政黨結成の機運を勃興せしめた。而して幾多複雑なる系統と形態をとり乍らも陣營再編成の一途を辿つて行つた。未だ分散的危機を孕みつつも、將にその工作は全的統一への第一階梯を登り始めたの

である。それは正しく劃期的意義を有するものと云はねばならぬ。さり乍ら此の戰線統一工作の展開も、未だ機械的外面的形態を整へる事に急にして、内面的思想的に純一無雜の根柢ある統一へ向へるや否やは疑問と云はざるを得ない。實に此の故に個人と團體を貫く内面的融合純化を促進し、戰線全野に亘つて、一個潑刺たる生命と結びを與へる事は、將來更に時の力に俟つ所多きにせよ、結局此の事が、國家主義運動今後の運命を賭する重要な試金石となるであらう。

加之、表面小波さわめく我が國社會の暗流には、今や時勢轉換の急潮矢の如きものがある。對外的には日支、日露外交の失敗、日獨、日伊協定の成立等、夫等の影響より來る國際關係の緊迫あり、更に對内的には行政機構、議會制度改革等の政治的難關や或は戰時經濟編成への進行と大衆課税國民生活不安増大等の經濟的矛盾の激化あり、客觀的情勢は、國家革新運動發展の上に幾多の條件を賦與して居る。愛國革新運動が一個の新興勢力として、我が國民の期待と信頼を擔ひ得るや否やは、愛國陣營の反省と努力と自肅に俟つ所洵に大なるものがあると思はねばならぬ。

(坂井隆治)

協同組合運動

産業組合の現勢

國際間に於て、而して又國內に於て各部門に亘つて矛盾が展開し、循環して、昭和十一年を終る。

協同組合、特に我國産業組合の運動に於ても、亦幾多の問題を迎へ送つて所謂産業組合五箇年計畫の第四年目を完了した。

而も統制的傾向は準戰時體制下に於て産業組合の部門に對しても相當鮮明に現れ、本來の方向から益々離反し政府の行政機關としての役割を漸次明確にしつゝあるかの如くに見える。

十一年末に於ける産業組合の状態は、組合數に於ては前年の一五、〇二八に四三二前々年より六四四を加へて一五、四五九組合、これを組織別に見れば次の通りである。

昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
有限責任	一三、九六六	八、三三三	五、九七三	四、四九九
無限責任	九六〇	一、一八三	九七二	九三四
保証責任	三九四	五、一〇六	七、八七二	九、五九五
				二、四六四

備考 昭和七年の法律改正に依り一般組合は昭和十二年九月末日迄に從來有限責任であつたものは特種組合を除き無限又は保証に組

織變更をせねばならなくなつたので、昭和八年以後は保証責任組合の増加と有限責任組合の減少とを來してゐる。

組合數を種類別に見ると、信用、販賣、購買、利用等主として農村に於て組織を持つ組合と、市街地の信用、購買(消費組合)の各組合に分たれる。

事業別組合數累年比較(兼管包含)

年次	信用組合	販賣組合	購買組合	利用組合	市街地信用組合	市街地購買組合	農業倉庫
昭和七年	一三、三二一	九、三〇六	二、〇四三	六、一八四	三、九七	二、〇〇	二、九六六
同 八年	一三、五二一	一〇、三五四	二、六八一	七、六九七	三、三三	二、〇六	三、三三三
同 九年	一三、六六六	二、一三〇	二、一〇八	八、七九三	三、七	二、三三	三、六六六
同 十年	一三、九三二	二、九〇五	二、五八八	九、九七三	三、七	二、〇八	四、三三三
同 十一年	一三、四三三	三、八四六	二、三九九	一、三九九	三、六四	二、三三	四、六六五
昭和十一年に於ける總組合數に對する割合	八六・二	七九・三	八三・八	六六・四	一・八	一・三	二八・六

是等組合に組織される組合員總數は六、一四八、〇〇〇人、一今試みに擴充五箇年計畫の過程に於ける量的發達の状態を見れば、次の通りである。

組合數

昭和七年末	一四、四二四	一四、五二〇	一四、三五二	B/A
同 八年末	一五、一三五	一五、一一八	一四、六五一	一〇・一・五
同 九年末	一六、〇六四	一五、六五八	一四、八一五	九八・〇
同 十年末	一六、四二九	一五、九三二	一五、〇二八	九三・五
同 十一年末			一五、四五九	九四・一

組合員數

昭和七年末	五、〇七一	五、三四五	四、九七九	B/A
同 八年末	五、八九五	六、〇九七	五、五〇五	一〇三・三
同 九年末	六、九六四	七、一九七	五、八三四	九三・四
同 十年末	七、五三二	七、七七〇	六、一四八	八三・六
同 十一年末			六、二四〇	八二・〇

五箇年計畫の最大の中心的目标は「全農家の獲得」を目指しての組合員數の増加であるが、右表によればその計畫は年と共に實現望み薄の状態になりつゝある。斯かる計畫の齟齬は一體どこから來るのか。それは貧農の大量的加入が産業組合内部に基本的なアンダゴンストップな半封建的土地所有對半農的耕作の矛盾を持ち込まずに置かないと言ふことに對し、早くも危

惧を持ち始めた官僚や、産組指導者の一部に於ける貧農参加に對する警戒、その拒否とまでは行かないとしても少くともその進展に對する多少の苦心(註)によるものがあること、或は又貧農集團化に對し殆ど禁止の態度を持つて望んでゐるかの如く思はれる地方のあること等が、相當大きな原因を爲してゐると思はれる。

今試みに産業組合の職業別構成に就て見れば、組合員數約六百十五萬人の七〇%は農業者(註二)であり、その組織率即ち全國市町村數に對する組合數の割合は十一年末に於て一三四・九%、五箇年計畫實施前の昭和七年末の一三二・九%に比較し一二%の増加、其組合員數十一年末五、七九五、一三九人、全國總戶數一二、九二四、三三二に對する割合は四四・八%、農業組合員數四、〇六〇、四七八人の農家戶數五、六一〇、六〇七戸に對する割合は七二・四%、而してこれを種類別に見れば、信用、販賣、購買、利用の四種經營組合がその中の六三・六%を占めてゐる。而も是等の組合は自作農以上を階級構成の大衆的基礎として、それに地主の参加をその指導的構成成分とするところのものとなり終つてゐる(註三)。

註一 立田信夫著、日本産業組合論三二六頁、三三八頁参照。
 註二 産業組合年鑑昭和十二年版一一三頁参照。
 註三 産業組合中央會刊行、産業組合の社會的經濟的地位に關する調査(昭、九、一二)参照。

次に全國單位産業組合の資本（運轉資金）構成に就て見れば次の通りである（調査が全組合に亘つて行はれてゐないから正確な数字ではない）。

産業組合運轉資金調（實數）

年次	調査組合数	拂込済出資金	諸積立金	借入金	貯金	合計
昭和七年	一三、〇六	七、五五	一、四一	二、七六	一、〇六	一、七〇
同八年	一三、四六	七、九一	一、三三	二、九三	一、〇六	一、八四
同九年	一三、六六	八、五七	一、三三	三、〇七	一、〇六	一、九七
同十年	一三、八六	九、九六	一、四六	三、二五	一、〇六	二、〇四
同十一年	一四、三三	一〇、八三	一、五三	三、四八	一、〇六	二、一五

備考「産業組合年鑑」並に「産業組合現況」により作成。
（千位以下四捨五入して表出）

右百分比

年次	拂込済出資金	諸積立金	借入金	貯金	合計
昭和七年	一四	七	一七	六二	一〇〇
同八年	一三	七	一六	六四	一〇〇
同九年	一三	七	一五	六五	一〇〇
同十年	一三	七	一三	六七	一〇〇
同十一年	一三	七	一三	六七	一〇〇

斯くの如く運轉資金はその百分比に於て拂込済出資金並に借入金の減少と、貯金の著しい増加とがあるが、絶対額に於ては漸次増加して居る。然し之を擴充五箇年計畫案と對比して見れば

ば次の通りで、第二年度（昭和九年）以降成績は漸次低下してゐる。

運轉資金總額

年次	運轉資金總額	定計畫(A)	總額(B)
昭和七年	一、七〇	一、七〇	一、七〇
同八年	一、八四	一、八四	一、八四
同九年	一、九二	一、九二	一、九二
同十年	二、〇四	二、〇四	二、〇四
同十一年	二、一五	二、一五	二、一五

是等産業組合の量と質との跛行的状態克服の爲め、産業組合の指導者は「組合が協力一致して努力すること」と更に「不振組合に對し内容の整備をなすこと」を以て最大急務として、これが實現を希求してゐるのであるが、然し現在の産業組合内部に於ては、斯かる強力な協力一致を不可能とする多くの事情が覆在してゐて、これが組合の發展強化を根本的に阻止し停滞せしめてゐることを明確に認識し、その是正の根本方策が樹立されるに非ずば、組合運動の將來の發展は望まれぬものと見て差支へないやうに思はれる。

産業組合法による市街地購買組合の概況

尙事業別組合に就て記述すべきであるが、本稿の目的とするところと離れる爲め省略する。唯市街地購買組合に對しては、

同十一年末 二八七 二二二 九 一〇 七三・八

備考 産業組合中央會刊行市街地購買組合調査による。

右表に據つて明らかなる如く數年來産業組合總数の二割に足らず、數的に見ても「五箇年間に新に百三十八の市街地購買組合を設立するものとす」といふ産業組合擴充五箇年計畫進展の跡は全く現れてゐない。否九年まで若干なり増加しつつ、あつた傾向が、十年には下降さへしてゐる。然らば組合の事業状況はどうか。組合の内容的検討を容易ならしめる爲め、昭和十一年末現在までの一組合平均概況の累年比較を掲げる。

一組合平均概況累年比較

年次	調査組合数	組合員数	一組合當組合員数	一組合當出資總額	一組合當拂込済出資額	一組合當諸積立金	一組合當賣上總額	一組合當箇月利用高	一組合當剩餘金	一組合當借入金
昭和七年	一八五	一八、〇二四	一、〇七	一七、六〇三	一三、一三五	六、五九〇	一〇〇、〇六四	八、二二	三、三五	八、九六六
同八年	一七七	一八、〇三二	一、〇二	一八、〇一一	一四、八五三	七、五三六	一三〇、九六八	九、二五	二、七五四	一三、六三三
同九年	一九〇	二二、〇九二	一、一六	一九、四七三	一三、二〇三	八、二八八	一三五、五九三	一〇、二二	二、五九六	一三、〇四三
同十年	一七六	二二、九九四	一、二九	一七、〇五八	一三、二九八	九、二五三	一六九、一一二	一一、三〇	三、六七六	一三、三三三
同十一年	一八四	二二、九六三	一、二四	一七、六四三	一三、八二二	一〇、〇七七	一七八、四三三	一一、四五	四、三二〇	一三、〇九九

備考 産業組合中央會昭和十二年十一月刊行「第九回市街地購買組合調査」より引用、算出作成

先づ組合員數に就て見れば、極く少數ながらも上昇傾向を續けつゝあり、運轉資金たる拂込済出資額、諸積立金、借入金の合計（七年二八、七三三圓、八年三五、〇二二圓、九年三二、五三五圓

十年三四、八八〇圓、十一年三五、九九七圓）も弱勢ながら増加し、剩餘金も亦漸増しつつある。斯かる條件の下に於て一組合員當平均一箇月利用高を見れば、之も亦利用程度に於ては頗る低い

階級的な自主的消費組合と對照し、又階級的消費組合の地位を明瞭ならしめる意味に於て、一應取扱つて置かねばならない。先づその組合數に就て最近年の状態を見れば次の通である。

市街地購買組合數

年次	豫定組合總數(A)	購買組合實數(B)	同上設立	同上解散	B/A
昭和七年末	一	二〇〇	二八	三	1%
同八年末	一九六	二〇五	一一	三	一〇四・五
同九年末	二三一	二一三	一〇	四	九二・二
昭和十年末	二六七	二〇八	一九	一三	七七・八

用組合と六月、次で愛愛消費組合が北豊島協同購買組合と七月夫々合同を完了、その他労友社(市電新宿車庫を中心とする労働者の組合)並に共愛消費購買組合(總同盟系の組合)と我等の家(成城)ベスタ消費組合(共に小市民の組合)の四組合が合同運動を進めつつあり、又關東消費組合聯盟の加盟組合たる東京第一合同消費組合及び購買組合共働社の合同交渉が進められつつあつて、組合單一化の理想が著々實現されつつある(註)。

註 東京第一合同消費組合と購買組合共働社の合同は後述するが、昭和十二年六月末實現するに至つた。

或は又物價の騰勢に抗し消費大衆の利益を擁護し、消費組合運動の堅實な進展を期せんとする共同購入と、この運動の上に立つた組織の整備、經營の強化が叫ばれ、此の方法が各地の組合の間に實行されてゐる。

以上は労働者の自主的消費組合運動に對する一般的概況であるが、之を例年の如く労働者の職場を中心とする組合と地域組合とに分ち、夫々に就て若干の觀察をして見ようと思ふ。尤も調査はその方法と手段に於て不完全なものであるから正確な觀察が下されようとは所期されぬが、可及的多方面から蒐集した資料によつて整理統合した積りであり、従つて大體の傾向は窺知し得られるものと信じてゐる。

先づ組合數並に組合員數に就て見れば下の通りである。

組合數	二九組合(註)	一六組合	四五組合
組合員數	一四、九三〇人	二、七六三人	一七、六九三人

註 労働時報(昭和十二年七月二十八日發行)所載の「昭和十一年中に於ける労働組合運動の概況」によれば、十一年末現在に於ける労働組合經營の消費組合を数字的に見れば組合數四八、組合員數二二、二九一人……とあるが、此の数字の中には消費組合としては不完全な團體をも算入してあると思はれる。

右の如く組合數四五、組合員數一七、六九三人といふ僅かな數となるが、然し右の數字は茲數年に亘る不況に解散せる組合の相當あることも一つの原因として考へられるが、更に重大な而して労働者の消費組合運動に於ては面白からぬ事實であるが労働者消費組合が、例へば職場組合に於てはそれが地域組合へと轉換して行く過程に於て、往々階級性を喪失する傾向——例へば俸給生活者或は中小商工業者の如き獨立生産者等が徐々に参加し行くが如き傾向——があること、又地域組合に於ても右と同様の傾向があることである。この所謂市民組合化の傾向は地域組合に於て特に著しく、所謂階級的な組織としては一種の變形的なものである。斯うしたことは労働者消費組合の數的減少を來しつゝある主要な原因の一つである。然し乍ら我々は労働者消費組合がすべて市民組合化したことに依つて、その階級性を喪失してしまふものとは考へない。市民組合化したもの或

又組合を組合員數別に分類して見ると、次の通りである。

職場組合	二九	四〇	六一	二二	三〇	一一
地域組合	一六	一五	四六	〇〇	〇〇	〇〇
計	四五	五五	一〇八	二二	三〇	一一

二百人乃至五百人の組合が壓倒的に多く、ついで百一人乃至二百人が之に續くが、此の割合は一般市街地購買組合の場合と概ね一致してゐる。而して労働者の消費組合は、現在のところ組合員百人から五百人の間に集中してゐることが右表によつて見られるのであるが、此のことは我國に於ける大規模經營の工場鑛山等に於て會社經營廢賣所、共済組合、御用消費組合等が設けられて居り、是等のものが労働者層を吸集して、自主的な労働者の消費組合の發達を阻止し來つてゐることの一證左となるであらう。

次に右四五組合を、その賣上額に就き職場組合と地域組合とに分ち觀察して見れば次の通りとなる。

全總	關係	關係	關係	關係	關係	合計	一組合
一箇年賣上額	九七、四六六、〇二、二七七、九〇〇、〇六六、五五二、七三、三四八	九三、五七〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	平均

は又其の出發點から既に市民組合として認められてゐるものにも、組合の指導が意識的に階級的な態度を以て貫かれてゐる組合は相當多數ある。それ故斯くの如き組合は嚴格な意味に於ては労働者の消費組合運動の一部署を守るものと見て差支ないのであるが、本調査に於ては煩雜を避ける爲め右の如き組合は便宜上除外してゐる。従つて是等の組合を前記の組合數に算入すれば、組合數の總計は倍加或は三倍加するかも知れないと思ふ。更に消費組合としては、その資金の購出方法、物品の配給方法、被配給者の權利或は義務等に於て不完全ながら、消費組合の名稱をつけ或は購買店と稱して經營されてゐるものが、労働組合關係のものに於ては實に多數あり、又一般地域的なものとしても相當あるし、又消費組合の準備會程度の如きものも多數ある。故に是等のものを右の内に加算すれば、組合數は當然二百以上に上るものと推定される。

東神	靜大	青兵	廣福	秋北	海愛	岡
京奈	川奈	岡阪	森庫	島岡	田道	知山
計	二一	四一	三一	一五	三三	一一

一箇月賣上高 八、六三二 一〇、〇二二 五、九〇八 八、九〇四 一八、六三三 六、四〇〇
 一組合員一箇月平均利用高 一三、七六六 一三、九三三 九、一〇〇 一一、三三三 一一、七七七
 地域組合(一六組合)

一箇年賣上總額 二九二、八九〇圓 一八、九三〇圓 一組合平均
 一箇月賣上高 二四、一〇七圓 一、五〇六圓
 一組合員一箇月平均利用高 八圓八錢

職場組合と地域組合との合計は

一箇年賣上總額 二、九〇六、一三八圓
 一箇月賣上高 二一〇、七三〇圓
 一組合平均は 五六、二四五圓
 一箇年賣上總額 三、九五三圓
 一箇月賣上高 一〇四三〇圓
 一組合員一箇月平均利用高

右の如く一組合員當り一箇月平均利用高は十圓三十錢と云ふ事になり、一般市街地購買組合に於ける場合と比較して利用高の若干低いことを知るであらう(一般市街地購買組合の数字に就ては、別項「産業組合法による市街地購買組合の概況」を参照されたい)。今組合を一組合員當り一箇月平均利用高に従つて分類して見ると、下表の如く十圓乃至十五圓が最も多く、之に續いて五圓乃至十圓となつて居り、全體から見ると五圓乃至十五圓のものが五割五分を占めてゐる。尙職場單位の組合が地域組合と較べて若

干利用額の高いことは、注目すべきことである。

利用額別組合數

職場組合	三	以下	五圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	不明
地域組合	三	三	七	八	五	一	一
計	六	一二	一三	七	六	一	一

單獨組合

労働組合を組織單位とする消費組合

一 全日本労働總同盟關係の消費組合 全日本労働總同盟は十一月一月全國創立大會によつて成立したが、これによつて従來の日本労働總同盟關係消費組合一五組合と全國労働組合同盟關係の四組合計一九組合となるのであるが、十一年中前者の關係組合に於て一組合が、後者に於て二組合が解散し、十一年末現在に於ては一六組合、尙嚴格にその組織經營方法から押して行くと後者の關係に於て一組合を減じ、結局一五組合といふ事になる。而して是等解散組合に就てその原因を探究して見れば、或る組合は個人商店化して來たことが不況に際して經營難打開の方法に窮したこと、又或る組合は地域組合として無謀にも掛賣政策を採つてゐた爲め、固定未收の累増に破滅の端を發してゐるやうである。尙從來職場組合として設立も恐らく關係組合中最

全日本労働總同盟關係消費組合 (昭和十一年度末現在)

組合名	所在地	創立	組合員數	出資口數	出資金額	拂込濟出資金	諸積立金	賣上總額	一箇月平均賣上高	一組合員一箇月平均利用高	同年度の	剩餘金	同年度の	關係労働組合
千代田消費組合	東京	昭七	二七	三二	三、〇一〇、〇〇〇	一、五三三、〇〇〇	六、九一九	一六、〇〇〇、〇〇〇	三三三、三三三	六、一五	四、五〇	二、九二六	三、〇三三	東京革工香燭支部
共愛消費購買組合	東京	大二	一八〇	三六	三、七三〇、〇〇〇	二、五九〇、〇〇〇	七、五〇〇	二六、八三七、〇〇〇	三、三三、四一一	二、四三	一、二八三	九、八三三	二、五〇〇	東京鐵工大崎支部
櫻田從業員消費組合	同	昭六	二〇四	二〇	七、七七一、〇〇〇	二、七三三、〇〇〇	〇	五、八〇三、九四四	七、七三、六三三	二、三〇	二、四〇五	三、七六四	一、〇九五	東京鐵工砂町二丁目支部
川崎中央消費購買組合	同	大五	三九三	六〇	六、〇三〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	七、七六〇	六、〇一〇、〇〇〇	五、五五、〇〇〇	一、〇五〇	一、五九九	三、二二五	四、〇三七	セメント労働組合
製鋼購買組合	同	昭二	八八一	一、九四	九、四四〇、〇〇〇	一、七三六、四四四	二、四六六	二、八五〇、〇〇〇	二、五七、八四四	二、四〇八	二、三、五九	三、〇七四	二、一九三	製鋼労働川崎支部
染色消費購買組合	同	昭〇	一一〇	一六	一、六〇〇、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	〇	一、〇六六、七七七	一、四三、二二五	一一二	一、一〇四	二、〇四三	〇	染色労働組合
岳南消費組合	同	昭七	四七五	一、〇四	九、四九五、〇〇〇	二、四九六、七一	一、六四一	五、〇三九、九四四	一、八七、四三三	九、五五六	九、三〇二	五、七七一	一、九六三	紡織沼津支部
栗本共榮社	同	昭三	六六七	六六	六、六七〇、〇〇〇	七、五〇一、〇〇〇	一	三、四九九、九四四	一、八七、四三三	六、二七七	七、二五二	四、五七二	三、三三三	大阪金屬
大阪運輸交通労働消費組合	同	昭七	七三五	七三	七、五〇〇、〇〇〇	七、二五〇、〇〇〇	二、五〇三、八	一、六四三、一九	九八〇、一八	一、三三	一、三三三	九四、二八	二、〇八八	大阪運輸交通労働
共榮社	同	昭七	三八	六三	六、三三〇、〇〇〇	九、七三三、三六六	六、〇〇〇	四、〇三二、六六	三、七、六三三	一、六七	一、七九三	四、四七二	二、四〇九	尼崎金屬
製鋼兵庫購買組合	同	昭三	一三四	一六	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	五、九三〇、七	三、三三八、四三三	六、四八六	一九五	二、〇四八	七、八四三	五、〇〇〇	製鋼労働兵庫支部
因島消費購買組合	同	昭三	八〇〇	九三	九、三二九、八〇〇	二、八〇二、〇八一	八、三三〇、五〇	八、一七六、九六六	八、四、四二二	八、五三	七、七三三	七、八四三	二、四四二	因島労働
愛社	同	昭三	六三六	一、一七	一、三三〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇	七、五三三	九、三二六、八六六	二、六、〇七三	二、六一	二、五五七	三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	製鋼労働小倉支部
製鋼小倉購買組合	同	昭三	二四〇	五〇	三、八〇〇、〇〇〇	二、八九〇、〇〇〇	二、四一四	五、〇〇九、〇九四	八、八、九三三	二、〇、六	一、九四三	九、六、五〇二	二、〇〇〇	製鋼労働小倉支部
白木購買組合	同	昭四	一九八	二八	二、八二〇、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇	二、〇、〇〇〇	三、三、二七〇	一、八、五、五九	九、三七	一〇、八五	二、四、一八	四、九、四九	セメント門司支部
秋田製材購買組合	同	昭九	六、〇八七	一〇	六、八八七、三三四	七、六、五五三	三、四、四一六	九、七三、五五五	二、一、六、五二	二、二、二	一、七、四〇五	三、八、一、七〇〇	一、八、五、八〇	秋田製材労働
計			五、二二二	一、八三	三、〇〇〇、〇〇〇	六、八、七〇〇	九、一、四七二	四、七、〇〇〇	七、五、五、四一	一、三、七六	一、四、〇、五七	一、七、四〇五	一、八、五、八〇	
右同			一、一五	五、二二二	七、〇、六、四九二	一、〇、三、七、七二	二、三、九、四四〇	六、四、八、六、四〇	一、三、七六	一、四、〇、五七	一、七、四〇五	一、八、五、八〇		
一組合平均			一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	

備考 全昭和十二年大會報告書によれば右一五組合の外に日石消費組合(神奈川縣、石油労働日石支部)が數へられてゐる。右報告書によれば日石消費組合の員數四六八人、口數五二〇口、拂込濟出資金二六〇圓、積立金六〇圓、一箇月平均賣上高二一〇圓、一組合員一箇月平均利用高四圓五十七錢とある。△印は産業組合法による認可組合。表出の数字は各組合の昭和十一年度末現在のものであり、一箇年間の成績を示すものである。但し、染色購買消費組合は本組合の報告に従ひ七箇月間の数字を示す。共愛消費購買組合の剩餘金(〇)は欠損。

古のものであり、内容も充實し、産業組合法による認可を受けてゐた共愛消費購買組合が、地域的に進出し來つた爲め經營費が増加し、更に又回収困難な未收金が堆積して、遂に欠損を生むに至つた事は、労働者消費組合の運動の上に多くの示唆を與へるものである。前頁表は關係消費組合の十一年中の成績である。前表に依つて、所在地を地方別に見れば、東京三、神奈川三、静岡一、大阪二、兵庫二、廣島一、福岡二、秋田一で、四割が京濱地帯にあるといふことになる。次に業態別には機械器具の六、化學の三、染織の五、運輸の一、雜の一となり、これを職場を中心とするものと地域的のものに分つて見れば、共愛、川崎中央、染色、秋田製材が地域組合であり、他は全部工場單位の組合となる。

尙右の外労働組合の事業部として經營される所謂廉賣店或は取引所の如きものがある。淺野造船消費組合(神奈川、三三名)、綿友支部消費組合(大阪、五七名(註)、關西紡織産業労働組合錦友支部消費組合(大阪、五三六名)、北榮社(大阪、五五〇名)、旭消費組合(高知)、關東釀造市川第一支部(千葉)及び埼玉労働南埼玉第二支部(埼玉)の購買部等がそれである。

一般消費組合と同様、労働者消費組合に於ても組合員の教育と組織擴大の努力は、經營を通じ、文書を通じ、會合、戸別訪問等によつて絶えず或は周期的に行はれてゐるが、現在の如く消費組合の自主性の完全に去勢された御用消費組合、購買會、共済

日本労働俱樂部關係消費組合

組合名	所在地	創立	組合員数	出資口数	出資金額	拂込済出資金	諸積立金	賣上總額	一箇月平均賣上高	一組合員一箇月平均利用高	剩餘金	借入金	關係労働組合並右組合員数	關係職場
△東京石川島自強購買組合	東京	昭三	二、五七〇	四、八三三	四三、八三〇・〇〇	四三、八三〇・〇〇	二九、四七三・五〇	三三、八三三・六六	一三、四三三・八三	一三、四三三・八三	一、三三三・二二	〇	〇	石川島造船所
日本勇信購買組合	同	昭七	二、九〇〇	三、八九九	五、四七〇・〇〇	五、四七〇・〇〇	七、〇七三・〇〇	三、四八八・〇八	一一・八八	五二・五七	〇	〇	日本勇信労働日本鐵會社	
自揚組合	同	昭七	二、六二一	二、〇〇〇	二、三三三・九九	二、三三三・九九	九、五〇〇・〇〇	二、六六八・八一	一〇・九二	〇・三二	〇	〇	日本鐵會社	
△芝浦河港購買組合	同	昭五	二、七八	二、八三三	二、八三三・〇〇	二、八三三・〇〇	七、〇〇〇・〇〇	三、七九四・六七	一三、六四二・〇一	〇	〇	〇	東京市河港製鐵所	
△購買組合自榮社	同	昭三	四、一〇〇	九、九〇	九、九〇〇・〇〇	八、〇八八・〇〇	〇	七、六三三・八八	六、三三三・〇七	一、五五五・〇〇	五、〇〇〇・二八	三、四三三・九三	〇	興進労働組合
合計(十年度)			三、七五六	六、三六八	六三、四〇三・九九	六三、四〇三・九九	三、八九四・五七	四一、〇二二・五五	一三、〇二二・四五	一三、〇二二・四五	一、三三三・二二	〇	〇	〇
一組合(十年度)			七、五二	一、二七三	一、二七三・〇〇	一、二七三・〇〇	六、三七八・九二	一、〇二二・五五	一、〇二二・五五	一、〇二二・五五	〇・三三三・二二	〇	〇	〇
平均(十年度)			七、三三	一、一八六	一、一八六・〇〇	一、一八六・〇〇	四、八八五・一〇	一、〇二二・五五	一、〇二二・五五	一、〇二二・五五	〇・三三三・二二	〇	〇	〇

備考 各組合に就て右側の數字は十年度左側の數字は十年度を示す。△印は産業組合法による認可組合。労働組合の組合員数は十一年十月現在調査ましいことであり、具體化の早からんことを期待する。尙總同盟加盟組合たる日本縫工組合に於ては、昭和二年以來生産組合「産業購買消費組合」を組織し、洋服類の自己生産を行つてゐる。その成績は下の通りである。

年次	組合員数	出資口数	拂込済出資金	積立金	一箇年生平均生産高	一箇月平均生産高
昭和十年	一八	一五五	三、一〇〇・〇〇	九六〇・〇〇	八、九四五・九〇	七四五・九二
同十一年	一四二	一五五	三、一〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、六〇〇・六〇	八〇〇・〇五

會等の如き施設が有力な堡壘となつて是等自主的消費組合運動を阻止し防遏してゐる時代に於ては甚しい困難が伴ふものである(註) 而も十一年の如き労働組合の戦線が整備の途上にあつた時に於ては、その困難は一層倍加されるのである。また十一年の如く物價の動搖絶え間なく、労働者階級の生活を間斷なく脅かしつゝ、あつた時に於ては、消費組合の活動は數倍の困難が伴ふのであつて前述の如く總同盟關係の消費組合に於ては、江北消費組合(東京、組合員四九名)、全國労働組合關係に於ては、南消費組合(大阪、組合員三〇〇名)、南恩加島支部購買組合(大阪、組合員五一〇名)が解散し、基礎強固なるべき共愛消費組合が欠損を生じたといふ現象を呈するに至つたのである。

註 労働時報昭和十二年九月號一九頁参照。各組合の事業成績は前表表示の通りであるが、前年と對比し組合員の増加にも拘らず一組合員一箇月平均利用高は絶對的に減少してゐる。物價騰貴による購買力の減退の事實を物語るものである。尙全日本労働總同盟關東同盟の第十四回大會(十一月十五日)に於ける報告書に依れば、「購買組合事業」の項に於て「本財團は一日も早く是等諸組合(筆者註、關東同盟關係の消費組合)の統一的共同仕入を完成せん事を期しつゝ、あるも、本財團の實力と建物の現狀は不幸にして多量の貨物の取扱に不適當で、之は一に財力の充實に俟つ外なき次第である」とあるが、關東同盟關係の消費組合に對してでも共同仕入の實現される事は

備考 全昭和十二年大會報告書に據る。

二 日本産業労働備部關係の消費組合 十一年中に於ては組合の新設解散等はないが、各組合共經營第一主義を以て堅實な活動を續け、前年に比較して一組合員當り利用高も増加し、又剰餘金に於ても遙に十年を凌ぐ數字を擧げてゐる。十一年度末の事業成績は前頁表の通りである。

三 東京交通労働組合關係の消費組合 關東消費組合聯盟は昭和五年四月の東京市電爭議を契機として、東京市電氣局共済組合に對する市電従業員の不満を取り上げ、市電従業員の間自主的消費組合の組織を指導し、同年中に北郊消費組合外三組合の創立を見たが、爾來東京交通労働組合は右關東消費組合聯盟の支援を得て消費組合運動に乗り出し、市電各營業所を中心に消費組合の組織に努めてゐる。

十一年の東京交通労働組合大會に於て「從來の購買組合は組合員の要求に適したものでない。我々は自主的な消費組合の設立を希望する」として「消費組合設置促進の件」を議題として審議してゐるが、東京交通労働組合の組合員の意味する「從來の購買組合」とは東京市電氣局共済組合のことであつて、此の組合員たる市電従業員（或は労働組合員）達の間には此の共済組合の組合に對し尠からぬ不満を抱いてゐるものが多く、出來得べくば此の共済組合を労働者の管理に移し、自主的な組織に改組されることを希望してゐるのである。従つて右の議題の内容も結

局市電共済組合の管理權の獲得といふ意味を多分に持つてゐる事になるのである。斯うした要求は、例へば十一年設立された東交北部消費組合の運動方針書（註）に於ても明に示されてゐる。

十一年東京交通労働組合關係の消費組合として設立されたものは東交巢鴨支部を中心に結成を見た右の東交北部消費組合が唯一のものであつて、此の組合設立に役立つた直接の原因となつた事は、十年末の賃上闘争に際しての家族團結の積極的活動と相俟つて起つた労働組合員家族の消費組合に對する關心の増大に在る。尙右の外千住、新谷、三輪の各東交支部を中心に東京市電従業員購買會（利用者八二人）、或は又關消聯の年末闘争カンパに参加して市電各職場に亘る市電全職場共同購入準備會が組織される等、東京交通労働組合の十一年中に於ける消費組合に對する活動には相當積極的なところが多分に窺知できるのである。

東交關係消費組合（十一年末現在）

組合名	創立	組合員數	出資金額	賣上總額	一組合員一箇月平均利用高	備考
城南消費組合	昭五	二八六	一〇、六〇〇	一、五〇三	一、五〇三	一、東交廣尾支部中心 一、原價販賣會（費制） 關消聯加盟

自主的組織に移行せられる事は、當局の共済組合事業部の拋棄を招來し、管理權獲得への唯一の近道である」とある。

四 其他の労働組合關係の消費組合 前にも述べた如く十一年も亦十年に引續き労働者消費組合苦難の年であり、従て自主的消費組合の發展成長は到底期待し得べくもなく、労働者の消費組合として比較的完全な經營状態を續けてゐたものは前述の如き労働組合關係のものに止まり、其他は二、三の組合を除き睡眠乃至解消状態に陥つてゐるものがあると云つたやうな状況である。

東交北部消費組合 昭二 三六三 七〇〇 一九、三〇〇 四、四三三 一、東交巢鴨支部 關消聯加盟

註 東交北部消費組合創立總會（昭和十一年十一月二十三日）に於ける「運動方針書」の内に、共済組合管理權の獲得と題し「……共済組合の管理權獲得闘争は今日まで主張し來つた管理權獲得といふ漠然たる要求や、抽象的な管理權獲得のスローガンに依つては斷じて共済組合の管理權獲得は出來ない。共済組合に變るべき労働者の自主的組織を造り、共済組合の事業を吾々の組織の中に吸収する爲の闘争即ち消費組合の組織が絶対に必要である。全職場に消費組合の設立發展がなされ、共済組合事業が労働者の

組合名	所在地	創立	組合員數	出資金額	賣上總額	一組合員一箇月利用高	剩餘金	關係労働組合
小倉運送労働消費組合	福岡	昭九	一〇五	一、七二五	三、三三九	一六、九三	三七九	小倉運送労働組合
札幌消費組合	北海道	昭七	一三	一、七二五	三、三三九	一六、九三	三七九	札幌労働者組合と連絡あり
陶友消費組合	愛知	昭九	四三	三、五〇〇	五、〇〇〇	八、五〇	一	名古屋製陶労働組合
瑞穂購買利用組合	東京	昭四	一九三	一	二六、八〇四	二、一六	一	逓信従業員會同盟品川支部
岡山消費組合	岡山	昭八	四〇	三〇〇	三、〇〇〇	四、七六	一	全評岡山地方労働者組合 個人商店と化しつゝあり
△吳信用購買組合	廣島	大二三	四、〇〇二	四、四九〇	一、〇〇一、六六二	三〇、八三	九、五二	吳海工會と連絡
瀧野消費組合	兵庫	昭六	四三	五、三七七	二、七〇〇	五、三三	一	播州化學産業労働組合と連絡
計	七組合		四、四六六	五〇、三三二	一、〇六八、五三五	一一、三三	九、九七〇	
一、組合平均			六三四	一、〇六三	一七八、〇八六	二、一三三	四、九六五	

備考 △印は産業組合法による認可組合

労働組合の購買部といつたやうな程度のものには次の如きものがある。

名称	所在地	創立者	利用者数	売上総額	剰余金	備考
名古屋屋上會購	愛知	大正一〇〇〇	一五〇〇〇	八〇〇	官業労働同盟	
全評關東化學勞	東京	昭六	二四〇	一、九五〇	一六〇	標記組合
一支部消費組合	同	昭三	五〇〇	一四八、九四七	三九八	東横目蒲電鐵從業員會
清和購買部奥澤	同	昭三	五〇〇	一四八、九四七	三九八	東横目蒲電鐵從業員會
東京乘合現業員	同	昭四	八八	八、〇〇〇	三七	標記組合
會品川經濟部	同	昭四	八八	八、〇〇〇	三七	標記組合
全日本労働總	同	昭六	四九〇	四〇〇	一	標記組合
同大森地方	同	昭六	四九〇	四〇〇	一	標記組合
同品購買部	同	昭六	四九〇	四〇〇	一	標記組合
運大從業員會聯	同	昭九	一五〇	五〇〇	一	標記組合
盟信森會日用品	東京	昭九	一五〇	五〇〇	一	標記組合
購買部	東京	昭九	一五〇	五〇〇	一	標記組合

地域的労働者消費組合(十一年度末現在)

組合名	所在地	創立	員組合	売上総額	剰余金	一組員一箇月利用高	備考
△向島共働社	東京	大二三	二一八	七、〇〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	三、七五	大部分労働者
△蒲田共働社	同	昭三	二八四	二五、二六・六五	七六・八五	七〇・八	右同
東京第一合同消費組合	同	昭七	三七〇	二五、〇〇〇・〇〇	五〇・〇〇	五・八	一、關消聯に加盟
金杉消費組合	同	昭七	一九二	二六、八四・六八	二七・二二	一・七五	二、職場労働者七〇%
南千住消費組合	同	昭五	一四	三、三五・〇〇	一六・〇〇	一・八五	二、獨立生産者五五%
							二、一般労働者

郵船購買部 川 大〇三、〇〇〇 一六三、四九 一 標記組合

日本製鐵富士 同 昭六 三七 四八、〇〇〇 一 標記組合

工愛會購買部 同 昭三、三、三八 二四、四八七 六五 浦賀船渠工愛會

地域的労働者消費組合

職場を異にする労働者の地域的結束は、労働組合の組織される場合と同様消費組合の組織に於ても頗る困難なことである。にも拘らず地域組合の發展は根本的に重要性を持つものである。故に地域的労働者消費組合は、職場單位の消費組合の設立される割合に較べその組織率が遙に低い。斯うした理由もあり、又現在の客觀的な社會情勢から見ても種々の制約が與へられ、十一年も亦地域組合の擴張發展を見ずして終つた。否寧ろ解散した組合が若干ある。

組合名	所在地	創立	員組合	売上総額	剰余金	一組員一箇月利用高	備考
城北消費組合	同	昭四	六〇	八、四〇〇・〇〇	〇	二・六六	一、右同
松山消費組合	同	昭九	六九	六、五八・五五	二七・元	七・六六	二、會費制
城西購買組合	同	昭八	一〇七	一九、三〇〇・〇〇	一、一五	一・五〇〇	一、右同
△共働社	同	大二〇	二八五	九、一五七・〇〇	二五・〇〇	二・六六	一、右同
多摩川消費組合	神奈川	昭六	一八〇	一六、三三六・二二	不	七・五六	二、労働者六〇%
消費組合勞友社	東京	大二四	二〇四	二五、三九・六三	不	一〇・三三	一、右同
青森家庭消費組合	青森	昭七	五二	七、二〇〇・〇〇	一、〇七〇・〇〇	二・七五	組合員の九割は市電新宿車庫従業員
日新消費組合	廣島	昭三	六七	一、四八〇・八三	七〇・五七	一・八四	一般労働者
阪神消費組合	兵庫	昭六	四五〇	四六、三〇〇・〇〇	三六四・〇〇	八・五八	朝鮮人
西脇鮮人消費組合	同	昭九	五三	三、〇〇〇・〇〇	八〇〇・〇〇	八・五八	右同
大阪消費組合	同	昭九	三三〇	三、〇〇〇・〇〇	三三〇・四六	一〇・九三	右同
合	大阪	一六組	二、七六三	二九、八九〇・三五	二、五四六・一九	八・八三	一般労働者
一組合平均			一七三	一、八三〇・五七一	一八一・八七		

備考 一、△印は産業組合法による認可組合

二、大阪市所在の大同消費組合、神戸市所在の神戸朝鮮人消費組合は十一年中に解散、大阪消費組合、同東部出張所は十二年一月解散

三、東京第一合同消費組合と購買組合共働社は十二年六月二十日合同完了。共働社と呼稱。

四、十一年二月北海道空知郡瀧川町の勤勞市民層を中心に中央空知消費組合準備會が結成されたが、損失を招き九月以降休止状態。

聯合機關

階級的消費組合の聯合機關としては僅かに關東消費組合聯盟(略稱關消聯)があるばかり、嘗ての消費組合聯合會は既に解散し

てなく、日本消費組合聯盟は解消状態にあつて、現在殆ど有名無實の存在となつてゐる。

然し關消聯も亦前年に引續き財政的に困窮してゐた。而してこれが打開再建の活動は十一年十月の第十六回大會に於て決議